

ServerView Suite ServerView Operations Manager V5.0

Server Management:

製品名称の表記

本書では、本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Standard Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Premium	Windows Server 2008	Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation Microsoft® Windows® Web Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64 または Windows Server 2003 R2	

製品名称	本文中の表記	
Red Hat Enterprise Linux 5	Red Hat Linux	Linux
	RHEL5	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4)	RHEL4	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4)		
SUSE Linux Enterprise Server 11	SuSE Linux	
	SuSE Linux SLES11 または SLES11	
SUSE Linux Enterprise Server 10	SuSE Linux SLES10 または SLES10	
VMware ESX 4	ESX4	VMware
VMware ESX 3.5	ESX3.5	

著作権および商標

Copyright © 2010 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

BrightStor、ARCserve は、CA, Inc の登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware, Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

目次

1	はじめに	9
1.1	本マニュアルの対象者と目的	10
1.2	ハードウェア / ソフトウェア要件	10
1.3	旧版からの変更点	11
1.4	本書の表記	13
1.5	ServerView Suite のマニュアル	14
2	特徴	15
2.1	ユーザおよびセキュリティコンセプト	15
2.2	修復機能	18
2.3	Prefailure Detection and Analysis (PDA)	18
2.4	監視機能	20
2.5	VMware ESX Server のサポート	21
2.6	アクセス制限により保護される機能	23
2.7	ServerView Operations Manager の統合オプション	25
2.8	ServerView Operations Manager への統合オプション	26
3	ServerView Operations Manager での統合	27
3.1	ServerView Installation Manager	27
3.2	ServerView Deployment Manager	28
3.3	ServerView Virtual-IO Manager	29
4	ServerView Operations Manager の使用	31
4.1	ServerView Operations Manager の起動	32
4.2	ServerView Operations Manager のスタートページ	34
4.3	ServerView Operations Manager のメインウィンドウ	37

4.4	ServerView Operations Manager の終了	40
4.5	プロパティウィンドウ (BladeFrame は未サポート)	41
4.6	サーバのプロパティウィンドウ内のボタン	44
4.7	サーバのプロパティウィンドウ内のタブ	45
4.8	メニュー (BladeFrame は未サポート)	50
4.8.1	メニューバーのメニュー	51
4.8.2	サーバリストウィンドウのコンテキストメニュー	57
4.8.3	ServerView ウィンドウのメニュー	58
4.8.4	BladeFrame Server View ウィンドウのメニュー (BladeFrame は未サポート)	62
4.8.5	BladeFrame <server> Details View ウィンドウのメニュー (BladeFrame は未サポート)	63
4.8.6	BladeFrame Virtual Blade Details View ウィンドウのメニュー (BladeFrame は未サポート)	64
4.8.7	SV Storage ウィンドウのメニュー	64
4.9	アイコン	66
4.9.1	サーバリストウィンドウのアイコン	66
4.9.2	ServerView [サーバ名] ウィンドウのアイコン	73
4.9.3	デバイスビューウィンドウのアイコン	74
4.9.4	バスとアダプタウィンドウのアイコン	74
4.9.5	アラームモニタウィンドウのアイコン	75
4.9.6	クラスタステータスのアイコン	76
4.9.7	その他のアイコン	80
5	サーバリストの管理	83

5.1	ServerView データベース	83
5.2	サーバリスト	85
5.2.1	サーバリストのブレードサーバ	88
5.2.2	サーバリストの BladeFrame (BladeFrame は未サポート)	89
5.2.3	サーバリストの仮想サーバ	91
5.2.3.1	サーバリストの VMware	92
5.2.3.2	サーバリストの Xen / Citrix XenServer サーバ	94
5.2.3.3	サーバリストの Hyper-V サーバ	96
5.2.4	サーバリストの PRIMEPOWER システム	103
5.2.5	サーバリストのストレージサブシステム	104
5.2.6	サーバリストの Baseboard Management Controller (BMC)	108

5.3	サーバ/サーバブレードが管理できない (BladeFrame は未サポート)	110
5.4	サーバが管理できない/ マネージメントコントローラアイコン	111
5.5	オブジェクトの定義と追加	112
5.5.1	サーバブラウザ画面でのオブジェクトの追加	112
5.5.1.1	タブでのオブジェクトの定義	113
5.5.1.2	ブラウザでのオブジェクトの定義	115
5.5.1.3	サーバリストへのオブジェクトの追加	120
5.5.1.4	サーバリストへの TCP/IP デバイスの追加	120
5.5.2	アーカイブデータのインポートによるオブジェクトの追加	121
5.5.3	csv ファイルのインポートによるオブジェクトの追加	122
5.5.4	コマンドによるサーバのインポート	123
5.6	ユーザ固有のサーバグループの作成	124
5.7	オブジェクトの削除	124
5.7.1	ネットワーク、サブネット、ドメインの削除	124
5.7.2	サーバリストからのオブジェクトの削除	124
5.7.3	コマンドによるサーバリストからのオブジェクトの削除	125
5.8	サーバリストのクラスタ	126
5.9	サーバリストのチェック	127
5.10	サーバのアラームの抑止	128
5.11	サーバリストを使用したアーカイブデータの記録	128
5.12	サーバに対する新規アップデートジョブの作成	129
5.13	サーバリストのエクスポート	131
5.14	サーバリスト設定の定義	132
6	サーバデータの詳細確認	133
6.1	システムステータス	137
6.1.1	環境	138
6.1.1.1	ファン	138
6.1.1.2	温度	140
6.1.2	外部記憶装置	141
6.1.3	電源	144
6.1.3.1	UPS マネージャ	147
6.1.3.2	APC UPS	148
6.1.4	ベースボード	149

6.1.4.1	CPU	149
6.1.4.2	メモリモジュール	149
6.1.4.3	電圧	150
6.1.4.4	BIOS セルフテスト	150
6.1.4.5	バスとアダプタ	150
6.1.4.6	Trusted Platform Module	150
6.1.5	パフォーマンス	151
6.1.5.1	プロセッサ	158
6.1.5.2	メモリ	160
6.1.5.3	ネットワーク	161
6.1.5.4	ストレージ	161
6.1.6	ネットワークインターフェース	162
6.2	システム	164
6.3	メンテナンス	165
6.3.1	バッテリー情報	165
6.3.2	システムイベントログ	165
6.3.3	サーバプロパティ	166
6.3.4	ASR&R	169
6.3.5	起動オプション	171
6.3.6	リモートマネジメント	171
6.3.6.1	リモートマネジメント (RSB, BMC)	172
6.3.6.2	リモートマネジメント (iRMC)	173
6.3.7	診断情報収集 (PrimeCollect)	174
6.3.8	オンライン診断	174
6.3.9	CSS	175
6.4	仮想マシン	177
6.4.1	物理マシン情報	177
6.4.2	仮想マシン	177
6.4.3	エラー発生時の仮想サーバの退避	179
6.5	監視不可状態のサーバ (マネジメントコントローラアイコンあり)	184
6.6	BMC / iRMC 搭載で監視不可状態のサーバ	186
7	ブレードサーバデータの詳細確認	187
7.1	ブレードリスト	191
7.2	ブレードサーバステータス	193
7.2.1	環境	193

7.2.1.1	ファン	193
7.2.1.2	温度	194
7.2.2	電源	195
7.3	システム	197
7.4	メンテナンス	197
8	ブレードフレームデータの詳細確認	199
8.1	Configuration	200
8.2	Components	203
8.3	ブレードフレーム<サーバ>詳細画面	204
8.4	ブレードフレーム処理サーバ詳細画面	206
8.5	ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面	207
9	ストレージのデータの詳細確認	209
9.1	コンフィグレーション	213
9.2	RAID コントローラ	213
9.3	エンクロージャ	214
9.4	ストレージプール	214
9.5	ストレージ GUI	214
10	BMC/iRMC データの詳細確認	215
11	パワーモニタ	217
11.1	パワーモニタの起動	218
11.2	サーバタブ	220
11.3	データタブ	224
11.3.1	データタブの単一のサーバまたはサーバブレード	230
11.3.2	データタブの複数のサーバ	231

12	電源制御	233
13	サーバのリモート設定	237
14	Advanced Video Redirection の起動	241
15	ユーザ / パスワード一覧の作成	243
16	通信経路	245
17	WMI	247
17.1	WMI アーキテクチャ	248
17.1.1	WMI ユーザ	249
17.1.2	WMI インフラストラクチャ	249
17.1.3	マネージ オブジェクト	250
17.1.4	WMI セキュリティ	250
17.2	ServerView での WMI サポート	251
17.2.1	システム要件	251
17.2.2	WMI プロバイダとしての ServerView エージェント	252
17.2.3	ServerView クラス	252
17.2.3.1	FSCSV_ASR	255
17.2.3.2	FSCSV_ASRSetting (関連付けクラス)	257
17.2.3.3	FSCSV_AssociatedCooling (関連付けクラス)	258
17.2.3.4	FSCSV_AssociatedSensor (関連付けクラス)	259
17.2.3.5	FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor (関連付けクラス)	260
17.2.3.6	FSCSV_Chassis	261
17.2.3.7	FSCSV_ComputerSystem	262
17.2.3.8	FSCSV_FailReaction	263
17.2.3.9	FSCSV_FailSetting (関連付けクラス)	265
17.2.3.10	FSCSV_Fan	266
17.2.3.11	FSCSV_FRU	267
17.2.3.12	FSCSV_FRUPhysicalElements (関連付けクラス)	268
17.2.3.13	FSCSV_ManagementController	269

17.2.3.14	FSCSV_OperatingSchedule	270
17.2.3.15	FSCSV_OperatingScheduleSetting（関連付けクラス）	271
17.2.3.16	FSCSV_PowerOnOffInformation	272
17.2.3.17	FSCSV_PowerOnOffStatistics（関連付けクラス）	275
17.2.3.18	FSCSV_PowerSupply	276
17.2.3.19	FSCSV_SystemEnclosure	277
17.2.3.20	FSCSV_Tachometer	279
17.2.3.21	FSCSV_TemperatureSensor	280
17.2.3.22	FSCSV_VoltageSensor	281
17.2.3.23	FSCSV_Watchdog	282
17.3	WMI スクリプト	283
17.3.1	WMI スクリプトの構造	283
17.3.2	WMI スクリプトによる例	284
17.4	WMI CIM Studio（例）	285
18	トラブルシューティング	287

19	富士通テクノロジー・ソリューションズ エンドユーザーソフトウェア使用許諾契約書	299
-----------	--	------------

図	307
--------------------	------------

表	311
--------------------	------------

索引	315
---------------------	------------

1 はじめに

ServerView Suite では、サーバ管理ソフトウェア **ServerView Operations Manager** を業界標準サーバの集中管理のために使用できます。**ServerView Operations Manager** は **Web** ベースのソフトウェアで、監視対象の **PRIMERGY** サーバのデータがイントラネットやインターネットからアクセスできるようになります。イントラネットやインターネットにアクセス可能で、現行の **Web** ブラウザがインストールされたコンピュータから、監視対象サーバのデータを見ることができます。

ServerView はハードディスクドライブ、換気ファン、電源、温度などの重要なサーバ機能をチェックします。これらのパラメータが指定された値を超えた場合や、エラー発生時には、メッセージが出力され、必要であれば対応策が実施されます。

大規模なネットワークのオペレータにとって、**ServerView** を使用したサーバ管理には次のような利点があります。

- 高信頼サーバによる生産性の向上
- データ処理インフラの自動監視機能によるコストの削減
- **ServerView Operations Manager** は変化する状況に問題なく対応できるため、柔軟なシステム拡張
- シンプルなエラー分析によるダウンタイムの短縮
- エラー発生時の応答時間の短縮
- ネットワークコンポーネントやリソースの有効活用による総運用コスト（総所有コスト）の削減
- わかりやすいデータ表示、高機能なユーザインタフェース、支援的ヘルプシステム

ServerView の構想における重要な一面に、ハードウェア機能と **ServerView** ソフトウェア間の相互作用があります。システムボード、**ASR&R** (**Automatic Server Reconfiguration and Restart**: 自動再構築 & 再起動)、**ServerView** に組み込まれた **PDA** 技術 (**Prefailure Detection and Analysis**: 予防保守機能) は、各システムコンポーネントの動作に関するデータを互いに交換できます。例えば、エラーが発生した場合、ハードウェアモジュールを非活性化することにより、サーバは機能している状態に戻ります。

ServerView ソフトウェアは、「**ServerView Operations Manager**」と「**ServerView** エージェント」という 2 つのパートから構成されており、「**ServerView Operations Manager**」は管理サーバにインストールし、「**ServerView** エージェント」は監視対象サーバで使用して **ServerView Operations Manager** と情報を交換します。

1.1 本マニュアルの対象者と目的

本マニュアルの対象読者は、ハードウェアとソフトウェアの基本的な知識を有する、システム、ネットワーク管理者、サービス技術者です。本書では、サーバ監視の基礎についての簡単な概要と、**ServerView Operations Manager** のユーザインタフェースについて説明します。別章では、WMI (Windows Management Instrumentation) を利用したサーバ管理を紹介します。

1.2 ハードウェア / ソフトウェア要件

ServerView のハードウェアとソフトウェアの要件に関する最新情報は、「**ServerView Operations Manager Installation Guide**」、**ServerView** プログラムグループから開く情報ファイル、**ServerView** の製品仕様書に記載されています。

1.3 旧版からの変更点

本版のマニュアルは **ServerView Operations Manager V5.00** に適用され、オンラインマニュアル『**ServerView Suite, ServerView Operations Manager V4.92.12**』（2010 年 6 月版）の更新版です。

ServerView Operations Manager V5.00 が提供する新機能は次のとおりです。

- このバージョンでは、**ServerView Operations Manager** は **Web** サーバとして **JBoss** を使用します。**JBoss Web** サーバは、**ServerView Operations Manager** ソフトウェアをインストールすると、自動的にインストールされます。

Microsoft Web サーバ（**MS Internet Information Server**）と **ServerView Web** サーバ（**Apache for Windows** ベース）、および **Apache**（**Windows** and **Linux Web** サーバ）は、このバージョンではサポートされません。

- **JBoss** は、新しいユーザおよびセキュリティコンセプトを **ServerView Suite** に提供します。
 - 通信は、（ポート 3170 との）**SSL 保護（Secure Socket Layer）** 接続を介してのみ行われます。
 - セキュア接続の場合は、証明書が必要です。この証明書はインストール時に生成され、セルフサインされます。
 - **ServerView Operations Manager** を起動するための **Web** アドレスは、完全修飾名（システム名・ドメイン名）で指定する必要があります。
 - 起動時に、**Central Authentication Service** のログインウィンドウが開きます。このウィンドウを使用して **ServerView Operations Manager** にログインする必要があります。
 - **OpenDS** でインストールした後に **ServerView Operations Manager** を操作するには、異なる役割を持つ 3 つのデフォルトのユーザー名を使用できます。事前定義された役割 **Administrator** には「**administrator**」、事前定義された役割 **Operator** には「**operator**」、事前定義された役割 **Monitor** には「**monitor**」を使用します。

15 ページの「ユーザおよびセキュリティコンセプト」の項には、**ServerView Suite** の新しいユーザおよびセキュリティコンセプトの概略が紹介されています。

32 ページの「**ServerView Operations Manager** の起動」の項と 34 ページの「**ServerView Operations Manager** のスタートページ」の項は、上記の変更点を反映するように更新されています。

- 割り当てられたユーザ名を使用して **ServerView Operations Manager** にログインすると、ロール（さらに厳密に言えば、ロールに付随する権限）に応じて、すべての機能または一部の機能を使用できます。使用が許可されていない機能は無効（グレー表示）になります。このマニュアルでは、読者が管理者であるという想定の下に、すべての機能およびスクリーンショットを記載しています。該当の注記が [50 ページの「メニュー \(BladeFrame は未サポート\)」の項](#)に追加されました。

新しいセキュリティおよびユーザコンセプトのために、タイトルバーが変更されています。現在、タイトルバーには、ログインに使用するユーザ名と、必要に応じてログイン/ログアウトに使用できるボタンが表示されます ([37 ページの「ServerView Operations Manager のメインウィンドウ」の項](#)を参照)。

- V5.00 では、**ServerView Operations Manager** は、エラー発生時の **VMware** システム上の仮想サーバの退避をサポートします。 [179 ページの「エラー発生時の仮想サーバの退避」の項](#)を参照してください。
- **Microsoft Windows Server 2008 R2 (x64)** を扱うための固有の指示が追加されました。 [96 ページの「サーバリストの Hyper-V サーバ」の項](#)を参照してください。
- V5.00 では、アップデートマネージャを起動せずに個々のサーバに対して新規アップデートジョブを作成できます。 [129 ページの「サーバに対する新規アップデートジョブの作成」の項](#)を参照してください。
- 古いパフォーマンス値を削除できます。これには、保存されたパフォーマンス値が削除されるまでの時間間隔を **VMEManager.xml** ファイルで定義します。この期間は、値が保存されている期間を分単位で指定します。この期間を超過すると、該当パフォーマンス値は削除されます。 [151 ページの「パフォーマンス」の項](#)を参照してください。
- 通常、パフォーマンス監視はスレッシユールドマネージャ および基本設定ウィザードを使用して無効にできます。それに応じて [151 ページの「パフォーマンス」の項](#)が更新されました。
- 「シングルシステムビュー」の「メンテナンス」→「起動オプション/ASR&R」は、現在、出力のみの情報です。このバージョンでは、このビューでいかなる設定もできません ([171 ページの「起動オプション」の項](#)または [169 ページの「ASR&R」の項](#)を参照)。
- 仮想システムに関して、説明が改訂および更新されました。

1.4 本書の表記

本マニュアルでは次の表記が使用されます。




	注意 この記号は、人的傷害、データ消失、機材破損の危険性を示しています。
	この記号は、重要な情報やヒントを強調しています。
	この記号は、操作を続行するために行わなければならない手順を示しています。
<i>斜体</i>	コマンド、ファイル名、およびパス名は <i>斜体</i> で表記されています。
固定フォント	システム出力は、固定フォントで表記されています。
太字の固定フォント	キーボードから入力する必要があるコマンドは、太字の固定フォントで表記されています。
<abc>	山カッコは実数値に置き換えられる変数を囲っています。
[Key symbols]	<p>キーは、キーボード上の該当するキーを表しています。また大文字を入力する必要がある場合は、シフトキーも表示されています。</p> <p>例：大文字 A の場合、[SHIFT] - [A]</p> <p>2つのキーを同時に押す必要がある場合は、それぞれのキー記号の間にハイフンが表示されています。</p>

表 1: 本書の表記

マニュアル内の本文や項を参照する場合は、章や項の見出しを参照先として示し、その章や項が始まるページを記載しています。

画面出力

画面出力は、使用するシステムによってある程度異なります。そのため、お使いのシステムで表示される出力は、本マニュアルの記載と若干異なる可能性があります。また、利用できるメニュー項目もシステムによって異なる場合があります。

1.5 ServerView Suite のマニュアル

ServerView Suite のマニュアルは、各サーバシステムに付属の ServerView Suite DVD 2 に収録されています。

また、インターネットからも無料でダウンロードできます。オンラインドキュメントは、<http://manuals.ts.fujitsu.com> にアクセスし、「Industry standard servers」リンクをクリックすると入手できます。

2 特徴

ServerView Operations Manager は、サーバ監視や迅速なエラー修正のための機能、ボードの故障を早期に認識するための寿命監視、エラーメッセージの送信を確認するための多くのオプションを備えたアラーム管理システムを提供します。アーカイブ機能によりサーバのシステムや運用データを確認し、保管できます。

ServerView Operations Manager は、ストレージ拡張ユニット、APC および富士通が提供する無停電電源装置をサポートします。

ServerView Operations Manager は、ロールベースのユーザおよびセキュリティコンセプトを提供します。このコンセプトは、**ServerView Operations Manager** の機能へのアクセスを制御します。

ServerView Operations Manager で使用できる機能の概要は、以下に 記載されています。

2.1 ユーザおよびセキュリティコンセプト

ServerView Operations Manager は、シングルサインオン (SSO) などの認証メカニズムと、さまざまな **ServerView** のコンポーネントの全機能の認証から成るユーザおよびセキュリティコンセプトを提供します。

ユーザおよびセキュリティコンセプトの主要な要素には、次のものがあります。

- 認証
- 中央認証
- シングルサインオン

認証

ServerView Operations Manager の機能へのアクセスは、ユーザ ID で保護されています。したがって、機能を使用するには、まずログインする必要があります。

事前定義されているユーザ名を使用してログインします。サーバ管理内のユーザの担当ジョブに応じて、管理者は、各ユーザの作業に必要な **ServerView Operations Manager** の機能にのみアクセスできるユーザ名をユーザに割り当てます。

標準インストールでは、**ServerView Operations Manager** は 3 つのユーザ名を提供し、それぞれのユーザ名には、事前に定義されたロールが割り当てられます。これらのロールは、異なる権限のタスク指向のバンドリングによって定義されます。

図 1 は、事前定義されているロール「Administrator」、「Operator」、「Monitor」を持つロールベースのユーザ管理の概念を説明しています。

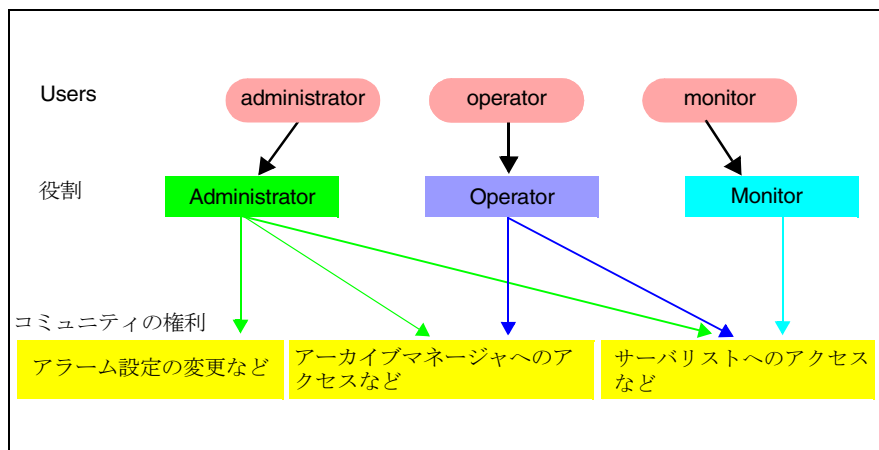


図 1: 役割ベースのユーザ権限の割り当て例

- 「Monitor」ロール（ユーザ名「monitor」、デフォルトパスワード「admin」）は、読み取りアクセス（設定データやサーバステータスの表示など）に必要です。
- 「Operator」ロール（ユーザ名「operator」、デフォルトパスワード「admin」）は、読み書きアクセスに必要です。たとえば、オペレータは、定義されているしきい値を使用して管理対象ノードを監視するのに スレッシュホールドマネージャ を使用できます。
- 「Administrator」ロール（ユーザ名「administrator」、デフォルトパスワード「admin」）は、全機能を使用するために必要です。

中央認証

ユーザ名が同じさまざまな中央管理用サーバ上で **ServerView Operations Manager** を使用できるようにする（したがって、複数の異なるユーザ名を覚えておく必要がない）ために、**ServerView Operations Manager** は、ディレクトリサービスを介して中央認証を提供します。ディレクトリサービスは、認証に必要なすべてのデータを提供します。

ServerView Operations Manager ソフトウェアのインストール時に、ディレクトリサービス **OpenDS** もインストールするかどうかを選択できます。この場合、インストールが正常に終了した後、事前定義された **3** つの標準ユーザ名が自動的に使用可能になります。既存のディレクトリサービスの使用を選択した場合は、それに応じて **ServerView Operations Manager** のユーザ管理を統合する必要があります。

シングルサインオン (SSO)

ログイン手順は、シングルサインオンメカニズムに基づいています。つまり、**ServerView Operations Manager** に一度認証されると、ログインを再度要求されることなく他のコンポーネントを起動できます（ログインは **24** 時間有効です）。ログインデータは、その都度、内部的に確認されます。

SSO メカニズムでは、**Central Authentication Service (CAS)** が、認証作業を引き受けます。**CAS** は、**ServerView Operations Manager** ソフトウェアとともにインストールされます。



ユーザおよびセキュリティコンセプトの詳細は、『**User management in ServerView**』マニュアルを参照してください。

2.2 修復機能

ASR&R (Automatic Server Reconfiguration and Restart 自動サーバ再構成、再起動) により、サーバを監視したり、エラー発生時のサーバの対処について設定できます。これにより適切にシャットダウンしたり、故障部分を自動的に無効にして再起動したりできます。

管理対象サーバの ASR&R プロパティは 1 つのシステムビューで表示されます (169 ページの「ASR&R」の項を参照)。

2.3 Prefailure Detection and Analysis (PDA)

PDA 機能 (Prefailure Detection and Analysis - 故障に至る前の検出と分析) はエラーの早期発見に利用できます。PDA 機能により、一定のサーバコンポーネントにおいてエラーの早期発見が可能になります。

次のコンポーネントが監視されます。

- ファン
- CMOS バッテリ
- S.M.A.R.T. 標準をサポートする SCSI や RAID コントローラ上のハードディスクドライブ
- メモリモジュール
- CPU (Central Processing Unit)

PDA はコンポーネントの特定のプロパティやアクティビティを定期的に確認します。エラーが示された場合、例えば定義されたしきい値を超過した場合などは、アラーム管理により、すぐに管理者に通知されます。これにより、完全に異常が発生する前に、コンポーネントを個別に交換できます。

S.M.A.R.T. 標準

S.M.A.R.T. (Self Monitoring and Reporting Technology) により、ハードディスクエラーを早期に検出できます。これは S.M.A.R.T. アルゴリズムにより実現されます。このアルゴリズムはディスクパラメータを監視し、故障予測を検出し、SCSI コントローラやホストに通知します。

S.M.A.R.T. の概念はパラメータ値を基にして、「予測できるエラー」のみを検出します。例えば、突然の停電や機械的な故障などにより不意に起こるエラーは、この方法では予測できません。

S.M.A.R.T. はすべての SCSI ドライブがサポートし、また多くの IDE ドライブでも利用可能です。

エラーの早期警告の効果は、主にアルゴリズムの性能と、管理されているパラメータの数によります。これらはベンダ固有であり、ハードディスクのタイプにより異なる可能性があります。

ServerView Operations Manager は SCSI と RAID コントローラ上の S.M.A.R.T. に準拠したハードディスクドライブをサポートします。

S.M.A.R.T. が予兆エラーを通知すると、トラップがトリガとなり、S.M.A.R.T. エラーのドライブが赤紫で表示されます。



デフォルトの設定は「無効」です。ServerView エージェントのセットアップで、S.M.A.R.T. 機能を「有効」にするかどうかの質問があります。

2.4 監視機能

監視機能を使用してハードウェアのインベントリを作成し、各システムパラメータを永続的に監視できます。これにより、次のことが可能になります。

- インストールされたハードウェアのインベントリを作成する
- サーバの運用時間カウンタを含む、ハードウェアコンポーネントをすべて監視する
- サーバモジュールの異常が発生する前に適切な通知を行う、寿命監視を実装する
- 電源モジュールの異常を即座に認識する
- バスシステム、プロセッサ、メインメモリ、ハードディスクドライブ (RAID ドライブを含む)、ネットワークコントローラ、その他の組み込みコントローラに対する詳細情報を取得する
- 長期監視のために取得した情報 (パフォーマンス分析、エラー頻度) を記録する
- **SNMP** 対応の **APC** からの無停電電源や **PRIMERGY** ストレージサブシステムを監視する

2.5 VMware ESX Server のサポート

VMware® ESX Server® により、単一のコンピュータ上（例：PRIMERGY RX600 S4 サーバ上）で、異なる OS が動作する仮想サーバを複数使用できます。VMware ESX Server はシステムハードウェア上で直接動作し、複数の OS の容易な実装、管理、遠隔制御のための安全で一貫したプラットフォームを提供します。

VMware ESX Server では次のことが可能です。

- 単一の、拡張可能なシステム上の、各仮想サーバの OS で動作するアプリケーションを実行する
- サーバをあらゆる場所から遠隔制御し、サーバ保守を簡潔にする
- プロセッサ、メモリ、ネットワーク、ハードディスクリソースのサービスレベルを、拡張リソース管理機能を介して維持する
- 全般的な監視と管理はスクリプトによって制御する

例： RX600 S4

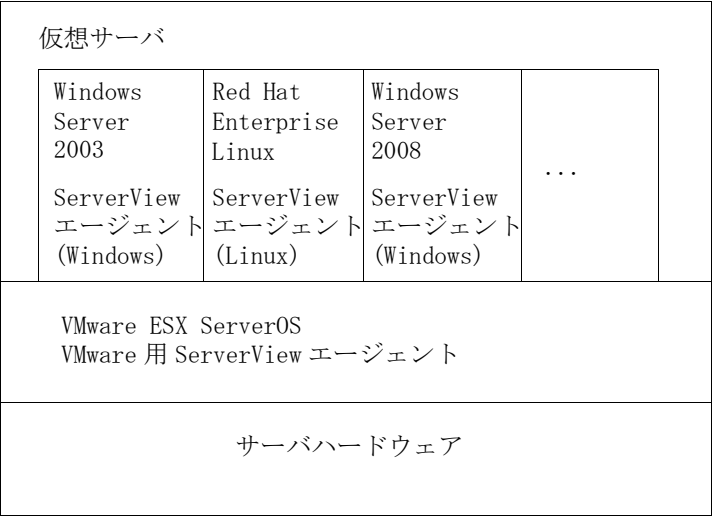


図 2: 仮想サーバ (例：RX600 S4)

OS 固有の **ServerView** エージェントが仮想サーバにインストールできます。しかし、この仮想サーバからはハードウェアにアクセスできません。仮想サーバはそれぞれ完全に隔離され、他の仮想サーバのリソースにはアクセスできません。

VMware ESX は、ゲストの OS とサーバのハードウェア間にあるもう 1 つのレベルです。また、VMware 用 **ServerView** エージェントがインストールすることが可能です。これにより、VMware ESX がサーバハードウェアにアクセスし、**ServerView** がハードウェアを監視します。

VMware は仮想サーバ上で次の OS をサポートします。

- Windows Server 2003 および Windows Server 2008
- Red Hat Enterprise Linux 4 および Red Hat Enterprise Linux 5
- SuSE Linux Enterprise Server 9 および SuSE Linux Enterprise Server 10

VMware 用 **ServerView** エージェントのインストールについての情報は、VMware ESX の「**ServerView Operations Manager インストールガイド**」をご覧ください。



ESXi 3.5 Update 4 以降、および **ESXi 4.1** 以降のバージョンの場合、**VMWare** は無償版 **ESXi** への書き込みアクセスができません。

「仮想マシンの開始 / 停止する」ことおよび「保守モードに入る」ことは、**VMWare** では書き込み操作とみなされ、無償版では行うことができません。

これらの操作を **ESXi** サーバで行うには、ライセンス（無償ライセンスではありません）を取得するか、以前のアップデートに戻します。サーバソフトウェア（**ESXi** など）がライセンスを要求する場合は、**ESXi 3.5 Update 4** 以降の無償版での読み取り専用アクセスのみの代わりに、フル機能を許可する必要があります。

詳細は、以下のリンクを参照してください。

<http://communities.vmware.com/thread/203414>

<http://communities.vmware.com/thread/202310?start=0&tstart=0>

<http://vmetc.com/2009/03/31/esxi-u4-ends-free-version-read-and-write-access-from-the-rcli/>

2.6 アクセス制限により保護される機能

ServerView Operations Manager は、監視対象サーバで情報を要求したり、次のような操作を行う際、ユーザ ID での認証が必要な場合があります。

- 特定のオブジェクトをサーバリストへ追加する。
- 電源管理のため、管理サーバから個々のサーバとサーバグループの電源を投入および切断する。
- スレッシュホールドマネージャに対してしきい値の設定を変更する。



これらの機能を実行するために必要な権限をもつ適切なユーザとパスワードの組み合わせを、監視対象オブジェクトに格納する必要があります。

次の表に、有効なユーザ / パスワードの組み合わせを **ServerView Operations Manager** のユーザ / パスワードのリストに入力する必要があるオブジェクトを示します。

機能	オブジェクト	権限
オブジェクトをサーバリストへ追加する	BMC	読み取り権限
	VMware サーバ	読み取り権限
	Xen サーバ / Citric Xen サーバ	読み取り権限権限
	Hyper-V サーバ	管理者権限
	ETERNUS DX60/DX80	標準権限または管理者権限
電源管理	BMC 搭載の PRIMERGY サーバ	管理者権限
	VMware server	管理者権限
	Xen server / Citric Xen server	管理者権限
	Hyper-V server	管理者権限
スレッシュホールドマネージャ	すべての監視対象サーバ	有効なユーザ ID

ユーザ / パスワードの一覧は、次の機能を使って作成します。

- 基本設定ウィザード（「アクセス制御」ステップ）または
- **ServerView Operations Manager**（「管理者」メニュー、「ユーザ / パスワード」項目）。

作成方法は、「[15 ユーザ / パスワード一覧の作成](#)」の章（[243 ページ](#)）をご覧ください。

2.7 ServerView Operations Manager の統合オプション

標準プロトコルや標準インタフェースを使用することにより、Operations Manager は他の管理システムに容易に統合可能です。Operations Manager 統合モジュールによって接続されている管理コンソール上で、PRIMERGY のステータスに関する詳細が出力できます。これにより、PRIMERGY を、集中エンタープライズ管理コンソール (Single Point of Administration) で管理できます。ネットワーク管理、アプリケーション管理、ソフトウェア配布などの他の管理機能も、PRIMERGY では使用できます。

次の管理システムに対して統合モジュールが利用できます。

- IBM Tivoli TME 10™ Framework TE/C
- IBM Tivoli NetView
- HP OpenView Network Node Manager
- HP Operations Manager
- Microsoft MOM および SCOM 2007
- Microsoft SMS および SCCM 2007
- Nagios および BMC Patrol (未サポート)
- PRIMEPOWER ServerView Suite (未サポート)

ServerView Suite DVD 1 で提供されている統合モジュールもあります (例 : Microsoft SMS、MOM)。これは Operations Manager ソフトウェアのインストール時に管理コンソール上に自動的にインストールされます。このインストールは適切な管理ソフトウェアがすでにシステム上にインストールされている場合に可能です。

他の統合モジュール (例 : HP Operations Manager、IBM Tivoli TME NetView) も ServerView Integration CD で利用可能です。

統合モジュールについての詳細はそれぞれの統合マニュアルや「ServerView Integration データシート」をご覧ください。

2.8 ServerView Operations Manager への統合オプション

ServerView Operations Manager が提供する統合オプションとは別に、ServerView Operations Manager 内で外部アプリケーションを統合することも可能です。これにより、アプリケーションを ServerView Operations Manager の GUI から直接呼び出すことができます。アプリケーションには次のものがあります。

- ServerView Deployment Manager
- ServerView Virtual-IO Manager

統合可能なオプションについては、「[3 ServerView Operations Manager での統合](#)」の章（[27 ページ](#)）をご覧ください。

3 ServerView Operations Manager での統合

ServerView Installation Manager や Deployment Manager、または ServerView Virtual-IO Manager を管理サーバにインストールすると、外部アプリケーションのように ServerView Operations Manager に統合されます。

3.1 ServerView Installation Manager

ServerView Installation Manager（以降、「Installation Manager」と呼びます）は ServerView Operations Manager に統合されています。ServerView Operations Manager は起動時に、Installation Manager が管理サーバコンにインストールされているかどうかを検出します。インストールされている場合は、ServerView Operations Manager メインウィンドウの「デプロイメント」メニューに「Installation Manager」項目が表示されます。これにより、Installation Manager を起動できます。

Installation Manager は PRIMERGY ServerView Suite の一部として提供されます。PRIMERGY ServerView Suite 内での Installation Manager は、OS やその他ユーザ管理プログラムおよびサーバ管理ソフトウェアを構成しインストールするコンポーネントに相当します。Installation Manager を使うと、すでにインストールされているシステム上のシステム設定に対して、引き続き調整を行うことが可能です。

対象システムの OS のインストールは、次のように起動できます。

- 対象システムの DVD ドライブを使ってローカルで起動
- デプロイメントサーバから PXE ブートを使ってリモートで起動

インストールの準備では、Installation Manager ウィザードの一連の構成メニューに従って、システム構成とそれに続く OS の自動インストールに必要なパラメータを設定します。これらパラメータをコンフィグレーションファイルに保存して、同じハードウェアアーキテクチャを搭載したサーバを追加インストールするために使用できます。



Installation Manager の詳しい説明は「Installation Manager user guide」をご覧ください。

3.2 ServerView Deployment Manager

ServerView Deployment Manager（以降、「Deployment Manager」と呼びます）は ServerView Operations Manager に統合されています。ServerView Operations Manager は、起動時に Deployment Manager が管理サーバ／パソコンにインストールされているかどうかを検出します。インストールされている場合は、ServerView Operations Manager メインウィンドウに「デプロイメント」メニューが表示されます。このメニューには「Deployment Manager」項目があり、これにより Deployment Manager を起動することが可能です。

Deployment Manager は、複数のサーバにすばやく確実にインストールするためのツールです。ネットワーク経由ですべての処理が完了します。



Deployment Manager の詳細は「Deployment Manager user guide」をご覧ください。

3.3 ServerView Virtual-IO Manager

ServerView Virtual-IO Manager（以降、「Virtual-IO Manager」と呼びます）は ServerView Operations Manager に統合されています。ServerView Operations Manager は、起動時に Virtual-IO Manager が管理サーバにインストールされているかどうかを検出します。インストールされている場合は、ServerView Operations Manager メインウィンドウの「管理者」メニューに「Virtual-IO Manager」項目が表示されます。これにより Virtual-IO Manager を起動することが可能です。

ServerView Operations Manager の拡張機能として、VIOM により管理サーバから多数の BX600/BX900 ブレードサーバを一元管理できます。この機能には、ブレードサーバの Intelligent Blade Panel の設定と管理、サーバブレード特有の I/O パラメータ（MAC アドレス、WWN 数、ブートパラメータを含む I/O 接続）の仮想化と、ハードウェアに依存しないサーバプロファイルへの保存が含まれます。



Virtual-IO Manager の詳細は「Virtual-IO Manager user guide」をご覧ください。

4 ServerView Operations Manager の使用

ServerView Operations Manager には使いやすい GUI があり、操作が非常に簡単です。すべての機能はプルダウンメニューから利用できます。メニューやウィンドウの操作は GUI の標準に基づいているため、ここでは詳しい説明は省きます。

次の事項を説明します。

- ServerView Operations Manager の起動方法 (32 ページの「[ServerView Operations Manager の起動](#)」の項をご覧ください)
- ServerView Operations Manager のスタートページ (34 ページの「[ServerView Operations Manager のスタートページ](#)」の項をご覧ください)
- メニュー構成の概要 (50 ページの「[メニュー \(BladeFrame は未サポート\)](#)」の項をご覧ください)
- アイコンとその意味 (66 ページの「[アイコン](#)」の項をご覧ください)

ServerView Operations Manager は総合的なヘルプシステムも提供しています。

4.1 ServerView Operations Manager の起動

ServerView Operations Manager が Windows ベースの管理用サーバにインストールされている場合、次のいずれかの方法で ServerView Operations Manager を起動します。

- 管理用サーバで Windows のスタートメニューから直接起動する
- 任意の標準的な PC、いわゆる管理コンソールからイントラネットやインターネットでアクセスし、Web ブラウザで起動する

Windows ベースの管理用サーバ上では、次のように ServerView Operations Manager を起動します。

- ▶ 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView Suite」→「Operations Manager」→「Operations Manager」を選択します。

管理コンソールから、Windows ベースの管理用サーバにインストールされた ServerView Operations Manager を次のように起動できます。

- ▶ 適合する Web ブラウザを使用して、次の Web アドレスを入力します。

https://< システム名 >.< ドメイン名 >:3170/sv_www.html

Linux ベースの管理用サーバでは、次のように ServerView Operations Manager を起動します。

- ▶ 適合する Web ブラウザを使用して、次の Web アドレスを入力します。

https://< システム名 >.< ドメイン名 >:3170/sv_www.html

通信は、SSL セキュア（Secure Socket Layer）接続を介して行われます。

起動時に、Central Authentication Service のログインウィンドウが表示されます。



- Web ブラウザに Internet Explorer を使用する場合、Web ブラウザ起動後、次の操作を行って Web サイトを追加してください。
 1. 「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。
 2. 「セキュリティ」タブをクリックし、「イントラネット」または「信頼済みサイト」を選択します。
 3. 「サイト」をクリックし、SVOM をインストールしたサーバの URL を追加します。

- Web ブラウザに **Mozilla** または **Netscape** を使用する場合、Web ブラウザ起動後、次の操作を行い、ポップアップウィンドウの抑止の解除を行ってください。
 1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
 2. カテゴリから「プライバシーとセキュリティ」配下の「ポップアップ ウィンドウ」を選択します。
 3. 「要求していないポップアップ ウィンドウを抑止」のチェックを外します。



図 3: Central Authentication Service のログインウィンドウ

このウィンドウで、**Operations Manager** の使用権限を付与されている ID のユーザ名とパスワードを入力します。

デフォルトでは、異なるロールを持つ次の 3 つのユーザ名があります。

- 管理者権限 「**administrator**」
パスワード : **admin**
- オペレータ権限 「**operator**」
パスワード : **admin**
- 監視者権限 「**monitor**」
パスワード : **admin**

ロールベースのユーザ管理についての詳細は、『**User management in ServerView**』を参照してください。

4.2 ServerView Operations Manager のスタートページ

ServerView Operations Manager を起動すると、次のスタートページが表示されます。



© Fujitsu Technology Solutions 2009 - 2010. All rights reserved.

図 4: スタートページ



ロール（さらに厳密に言えば、ロールに割り当てられている権限）に応じて、ServerView Operations Manager のすべての機能または一部の機能を使用できます。使用が許可されていない権限は無効（グレー表示）になります。

各自のロールで使用できる機能の概要については、『User management in ServerView』マニュアルを参照してください。

インストール後に初めて ServerView Operations Manager を管理者として起動すると、基本設定ウィザードが自動的に起動します。このウィザードに従って、ServerView Operations Manager を使用するための初期設定を行います。

- 必要な要件を満たしているかどうかを確認します。
- サーバブラウザを設定します ([112 ページの「オブジェクトの定義と追加」の項](#)をご覧ください)。
- 監視対象サーバのユーザ / パスワードの一覧を作成します ([「15 ユーザ / パスワード一覧の作成」の章 \(243 ページ\)](#) をご覧ください)。
- イベント管理の基本設定を行います (ServerView イベントマネージャのマニュアルをご覧ください)。この設定を行うには、管理用サーバに ServerView イベントマネージャがインストールされている必要があります。
- アップデート管理の基本設定を行います (ServerView アップデートマネージャのマニュアルをご覧ください)。この設定を行うには、管理用サーバに ServerView アップデートマネージャ がインストールされている必要があります。
- パフォーマンスおよびしきい値管理を開始および停止します (ServerView スレッシュホールドマネージャ のマニュアルをご覧ください)。

次回以降、ServerView Operations Manager の起動時に基本設定ウィザードを表示しないようにするには、基本設定ウィザードのスタート画面に表示される「次回起動時にこのウィザードを自動的に表示しない」にチェックを付けます。後でこのウィザードを表示したいときは、ServerView Operations Manager の管理者設定メニューからいつでも表示できます。詳細については、基本設定ウィザードのマニュアルをご覧ください。

ServerView Operations Manager の「サーバリスト」メインウィンドウを開くには、「サーバリスト」の下にあるサーバリストリンクをクリックします。



Operations Manager の起動時に Java からのセキュリティ警告が表示されたら、「いいえ」をクリックして無視できます。今後このようなメッセージが表示されないようにする方法は、『ServerView Operations Manager Installation Guide for Windows』に記載してあります。

4 ServerView Operations Manager の使用

スタートページを使用して、**ServerView Operations Manager** の各コンポーネントを起動できます。

ServerView Operations Manager の「サーバリスト」メインウィンドウを開くには、「サーバリスト」の下にある「サーバリスト」リンクをクリックします。

インストール時に、別のセキュリティ機構（暗号化とユーザ認証）を選択することもできます。暗号化を使用したい場合は、「オプション **SSL** 接続を行う」を有効にします。

使用する **Web** サーバの機能である暗号化（**SSL**）とユーザ名 / パスワードの機構について、詳しくは、**ServerView Operations Manager** インストールマニュアルをご覧ください。

4.3 ServerView Operations Manager のメインウィンドウ

起動画面から ServerList を起動すると、ServerView Operations Manager のメインウィンドウには ServerView サーバリストが表示されます。

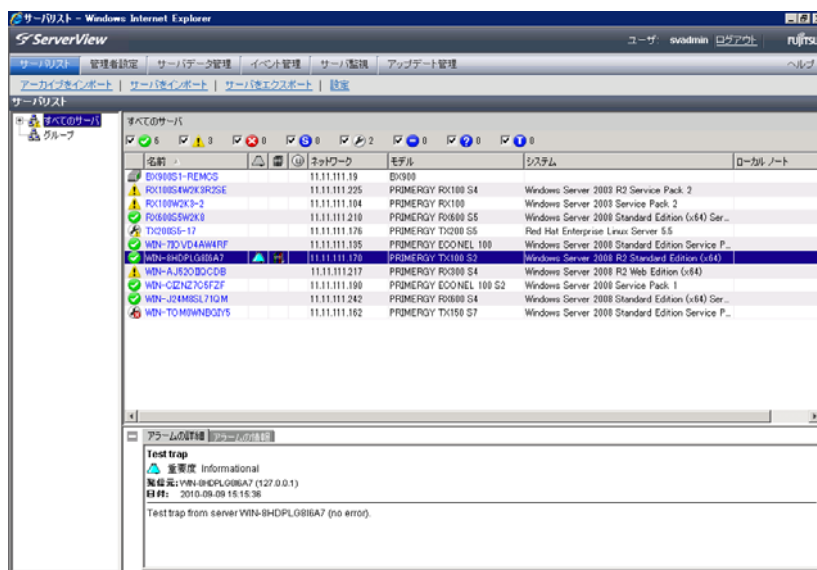


図 5: ServerView Operations Manager のメインウィンドウ

ServerView Operations Manager のメインウィンドウには、構成済みのサーバとユーザ定義グループすべての概要が表示されます。このウィンドウが実質的にすべての管理者管理機能の出発点になります。

ServerView Operations Manager のメインウィンドウは、サーバリストとイベント管理のコンポーネントであるアラームモニタとを結び付けます。選択した機能により、一覧セクションにはサーバやアラームエントリが一覧表示されます。

また、すべてのサーバとサーバグループが一覧表示されるナビゲーションセクション、アラームの詳しい内容が表示される情報セクションもあります。ServerView Operations Manager メインウィンドウのメニュー項目（「サーバリスト」または「イベント管理」→「アラームモニタ」）により機能を選択します。

ServerView Operations Manager のメインウィンドウは 4 つのセクションに分かれています。

- **タイトルバー**：ログインすると、ログイン時に使用したユーザ名がタイトルバーに表示されます。また、「ログアウト」リンクも表示されます。これをクリックすると、ログアウトできます。

ログインしていないときは、「ログイン」リンクがタイトルバーに表示されます。これをクリックすると、再度ログインできます。

- **タイトルバー下のメニューバー**を使用して、次の **ServerView Operations Manager** の機能の間を移動できます。
 - サーバリスト
 - 管理者設定
 - サーバデータ管理
 - イベント管理
 - サーバ監視
 - アップデート管理

メニューによって異なるメニュー項目が、メニューバーの下のに表示されます。

メニューバーのメニューについて、詳しくは、[51 ページの「メニューバーのメニュー」の項](#)をご覧ください。

- 左側のセクションにはファイルツリー構造にサーバとサーバグループが表示されます。ここで右側のセクションの表示を選択します。
- ウィンドウの右上のセクションには、監視対象のサーバの一覧が表示されます（メニュー項目「サーバリスト」）。

右側セクションのステータスバーにあるアイコンは、特定の状態にあるサーバの数を示します。これらのアイコンを使用し、サーバリスト内の表示を制御できます。これには、サーバリストに表示したいサーバの状態をクリックします（例：管理できないサーバのみ）。

設定されたサーバすべてがこのステータスバー下のサーバリストに出力されます。これには次の情報が含まれます。

- ステータスアイコンとシステムの名前
- サーバの状態 / イベントに関する情報を示す各アイコン
- サーバの IP アドレス
- サーバの機種とインストールされた OS
- 各サーバについてのユーザ定義のコメント（「ローカルノート」の下）

サーバリストのヘッダ行の適切な列をクリックすることで、サーバリストの情報を並べ替えることができます。選択した列によって、エントリは文字列、数値、またはアイコンで並べ替えられます。

アイコンについて、詳しくは、[66 ページの「サーバリストウィンドウのアイコン」の項](#)をご覧ください。

「サーバリスト」ウィンドウ内のカラムの幅と順序は、個別に定義できません。「...」という文字は、テキストがカラム内に収まりきれていないことを示しています。

「サーバリスト」ウィンドウは、サーバリスト編集のためのコンテキストメニューを提供します。ここでは、次のようなことが実行できます。

- 新しいサーバを定義し、サーバリストに追加する
- サーバをユーザ定義のサーバグループにコピーする
- サーバリストからサーバを削除する
- 特定の **ServerView** 機能にすばやくアクセスする（例：アーカイブデータの追加またはサーバアラームの無視）

コンテキストメニューについて、詳しくは、[57 ページの「サーバリストウィンドウのコンテキストメニュー」の項](#)をご覧ください。

アラームアイコン（アラームベル）をクリックするか、「イベント管理」→「アラームモニタ」を選択してアラームモニタ機能を選択する場合、選択されたサーバやサーバグループのアラームリストがこのセクションに表示されます。アラームリストについて詳しくは、イベントマネージャのマニュアルをご覧ください。

- ウィンドウの右下のセクションには、サーバリストで選択されたサーバからのアラームに関する情報を表示できます。サーバリストでは **2 つのタブ** に情報が表示されます。

- 「アラームの詳細」タブ

サーバリストで選択されたアラームの簡単な説明が表示されます。

- 「アラームの情報」タブ

MIB に格納されるようなアラームの詳しい内容が表示されます。最も重要度の高い最新のアラームが表示されます。また、サーバに対する他のアラーム情報もアラームモニタで見ることができます。これらのアラームは、日付が古い場合や、重要度が低い場合もあります。

アラームアイコン（アラームベル）、または「イベント管理」→「アラームモニタ」の順にクリックしてアラームモニタに切り替えると、このセクションには、選択したサーバまたはサーバグループのアラームリストが表示されます。アラームリストの詳細は、イベントマネージャをご覧ください。

この表示領域は必要に応じて開いたり閉じたりできます。

4.4 ServerView Operations Manager の終了

ServerView Operations Manager は、タイトルバーの「ログアウト」リンクを使用して終了します。

- ▶ 「ログアウト」リンクをクリックします。ログアウトプロセスに関する情報が表示されているウィンドウが開きます。
- ▶ 「OK」をクリックして、このウィンドウを確定します。自身のユーザ名で開かれている **ServerView Suite** のウィンドウがすべて閉じられます。

再度ログインする場合は、タイトルバーの「ログイン」リンクをクリックできます。



- 自身のユーザ名で開かれている **ServerView Suite** のウィンドウがすべて閉じられたことを、ログアウト後に必ず確認してください。
- セキュリティ上の理由から、**Web** ブラウザも閉じる必要があります。

4.5 プロパティウィンドウ (BladeFrame は未サポート)

ServerView Operations Manager には、次の種類のプロパティウィンドウがあり、これによりオブジェクトのパラメータを設定できます (サーバ、ブレードサーバ、RSB、グループパラメータなど)。

- 新しいシステム (サーバ、クラスタ、ブレードサーバなど) を定義したい場合は、「サーバブラウザ」プロパティウィンドウを使用します。
- 既知のシステムのパラメータを表示、編集したい場合は、「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウを使用します。
- システム監視を担当しているサーバエージェントのパラメータを表示、編集したい場合は、「ASR プロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウを使用します。

これらのウィンドウには複数のタブがあり、それぞれのタブに表示、設定されるパラメータがあります。41 ページの「[プロパティウィンドウ \(BladeFrame は未サポート\)](#)」の項をご覧ください。プロパティウィンドウにはいろいろなボタンがあります。これらのボタンの目的については、44 ページの「[サーバのプロパティウィンドウ内のボタン](#)」の項をご覧ください。

プロパティウィンドウについては、以下で詳しく説明します。

「サーバブラウザ」プロパティウィンドウ

「サーバブラウザ」プロパティウィンドウは次のいずれかの方法で開くことができます。

- メニューから「管理者設定」→「サーバブラウザ」を選択します。
- サーバリストのコンテキストメニューで「新しいサーバ」を選択します。

プロパティウィンドウでは新しいサーバを定義して、サーバリストに追加できます。タブを使用して、新規サーバのパラメータを定義できます。完了したら、「適用」をクリックします。

「サーバのプロパティ」プロパティウィンドウ

サーバ、サーバブレード、**BladeFrame** システム、クラスタに対する「サーバのプロパティ」プロパティウィンドウは次の方法で開きます。

- ▶ サーバリストで、1 台または複数のサーバ、サーバブレード、**BladeFrame** システム、クラスタを選択、またはグループを 1 つ選択します。次にコンテキストメニューから「サーバのプロパティ」を選択します。

ブレードサーバに対する「サーバのプロパティ」プロパティウィンドウは次の方法で開きます。

- ▶ サーバリストからブレードサーバを 1 台選択し、コンテキストメニューから「サーバのプロパティ」を選択します。

「サーバリスト」ウィンドウの左側のセクション（ファイルツリー）でブレードサーバを選択した場合は、このブレードサーバに搭載されたすべてのサーバブレードが「サーバのプロパティ」プロパティウィンドウに表示されます。「サーバリスト」ウィンドウの右にある一覧でブレードサーバを選択した場合は、ブレードサーバのみが表示されます。

サーバリストでの選択の状態により、サーバリスト内のすべてのサーバ（「すべてのサーバ」を選択した場合）、または選択したサーバグループ内のサーバが「サーバのプロパティ」プロパティウィンドウの右側のカラムに表示されます。一覧の先頭のサーバがデフォルトで選択状態になります。このサーバの値が各タブに表示されます。

プロパティウィンドウの右下には「すべて選択」ボタンがあります。「すべて選択」を選択すると、一覧表示されたサーバがすべて強調表示されます。そして、「すべて選択」ボタンの名前が「すべて非選択」ボタンに変わります。これをクリックすると強調表示されたサーバの選択をすべて解除できます。「すべて選択」ボタンは「サーバのアドレス」タブ、「リモートサービスボード (RSB)」タブ、および「BMC」タブでは無効です。これらのタブは、個々のサーバごとに定義する必要があるためです。

タブには、右側のカラムで強調表示されているサーバに対する値が表示されます。

「サーバのプロパティ」プロパティウィンドウのタブ内の値を自由に変更し、その値を適用するサーバを選択できます。値を保存するには「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、選択されたサーバへのログインを試みます。パスワードを入力せずに設定を行えるようにサーバが設定されている場合や、「ログイン」タブにサーバの正しいパスワードをすでに保存していて、ログインが正常に行われた場合は、値が設定されます。サーバでログインを正常に

行えなかった場合は、「ログイン」ダイアログボックスが表示され、値を設定できます。値の設定中にエラーが発生した場合は、メッセージウィンドウが表示されます。

4.6 サーバのプロパティウィンドウ内のボタン

OK ボタン

「OK」 ボタンをクリックすると、現在タブに表示されている値がすべて選択サーバに対して適用されます。ダイアログボックスは閉じます。

適用ボタン

「適用」 ボタンをクリックすると、その時点でタブに表示されている値がすべての選択サーバに対して適用されます。ダイアログボックスは開いたままで、さらに設定を行えます。

閉じるボタン

このボタンをクリックすると、ダイアログボックスが閉じてサーバの設定は変更されません。

リセットボタン

「リセット」 ボタンをクリックすると、行った変更が取り消され、設定は「適用」 ボタンを押す前の状態に戻ります。

すべて選択ボタン

すべてのサーバを選択したい場合にこのボタンをクリックします。「適用」 ボタンをクリックしたときにすべてのサーバが選択されている場合は、その時点でプロパティウィンドウに表示されている値がすべてのサーバに対して適用されます。

すべてのサーバを選択すると、このボタンの名前は「すべて非選択」に変わります。このボタンをクリックすると、すべてのサーバの選択を解除できます。この状態で「適用」 ボタンをクリックすると、「サーバが選択されていません」というエラーメッセージが出力されます。サーバの値は変更されません。

ヘルプボタン

現在表示されているタブの使用方法についての情報が表示されます。

4.7 サーバのプロパティウィンドウ内のタブ

タブでは、サーバに対して値を設定できます。同時に複数のタブは編集できません。

現在のページの値を変更し、「適用」をクリックせずに別のページに移動しようとする、値を適用するかどうかを聞かれます。

「閉じる」ボタンをクリックすると、プロパティウィンドウは閉じます。変更を行っても、「適用」をクリックしてこれらを確定しない場合、値は適用されません。変更は破棄されます。

以下に、各プロパティウィンドウでどのタブが利用できるかの概要を示します。

プロパティウィンドウ	タブ
サーバブラウザ	サーバのアドレス、ネットワーク /SNMP、リモートサービスボード (RSB)、ローカルノート
サーバのプロパティ <サーバ名>	サーバのアドレス、ネットワーク /SNMP、ローカルノート、ログイン、リモートサービスボード (RSB)、BMC BMC/iRMC の場合： サーバのアドレス、ネットワーク /SNMP、ローカルノート TCP/IP デバイスの場合： サーバーアドレス、ネットワーク /SNMP、ローカルノート、TCP アプリケーション

表 2: プロパティウィンドウとタブ

BMC タブ

このタブでは、**BMC** の **IP** アドレスを入力、変更できます。「**IP** アドレス」リストから選択して、**IP V4** アドレスまたは **IP V6** アドレスのどちらを入力したいかを指定します。

「接続テスト」ボタンを使用し、**In-band** 接続（プライマリアドレス）と **Out-of-band** 接続（セカンダリアドレス）を介したサーバへの接続をテストすることができます。



サーバブレードの場合、「接続テスト」ダイアログの **In-band** 接続を介してサーバブレードとの接続をテストし、**Out-of-band** 接続を介してブレードサーバとの接続をテストします。

ブレードサーバと **BladeFrame** システムの場合、「接続テスト」ダイアログでは **In-band** 接続のみをテストできます。**Out-of-band** 接続をテストしようとする、「**Out-of-band** 接続は有効ではありません」というエラーメッセージが表示されます。

BladeFrame で **In-band** 接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」で常にタイムアウトが発生します。

「クリア」ボタンを使用すると、エントリを削除できます。

ローカルノートタブ

このタブではローカルノートを入力できます。ローカルノートがサーバリストに追加され、リスト内でサーバをより早く特定するのに役立ちます。

このタブは「サーバブラウザ」プロパティウィンドウと「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウにあります。

ログインタブ

このタブでは、設定リクエストをサーバに送信する場合に使用する「ユーザー名」と「パスワード」を定義できます。またパスワードを設定の変更のたびに問い合わせるか、プログラム起動後の最初の修正時にのみ行うかも指定します。

このタブは「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウにあります。

ネットワーク /SNMP タブ

このタブでは、サーバのネットワーク操作に対するパラメータを設定できます。

次のパラメータが定義できます。

「接続ポート」、「コミュニティ名」、「ポーリング間隔 (秒)」、「タイムアウト (秒)」、「接続状態変更トラップ」

このタブは「サーバブラウザ」プロパティウィンドウと「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウにあります。

このタブは「サーバブラウザ」プロパティウィンドウと「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウにあります。

重要

- コミュニティ名には半角英数字を使用してください。特殊記号 (" # & ~ | \ + * ? / : など) は使用できません。
- 「接続状態変更後のトラップを受信する」が有効の場合、監視するサーバの状態が変化すると、次のようなトラップが送信されます。
 - サーバ監視可のとき

「Server changed state」 (The server <サーバ名> has changed its state to snmpOK)
 - サーバ監視不可のとき

「Server changed state」 (The server <サーバ名> has changed its state to notmanageable)
- ネットワークやサーバの負荷が高い場合は、「ポーリング間隔」、および「タイムアウト」を変更することで改善できます。

リモートサービスボード (RSB) タブ

RSB がインストールされていると、このタブにセカンダリチャネルのサーバ名、コミュニティ、IP アドレスが表示されます。「接続テスト」ボタンをクリックすると、RSB への接続をテストできます。



RSB S2 ではテストトラップはサポートされていません。

プライマリチャネルを介してサーバに接続できない場合、セカンダリチャネルのサーバ名と IP アドレスを入力できます。サーバに再び接続できるようになると、自動的に再度プライマリチャネルを使用します。

「設定」をクリックすると、Web ブラウザが起動し、RSB を設定できます。

このタブは「サーバブラウザ」プロパティウィンドウと「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウにあります。

サーバのアドレス タブ (サーバブラウザ プロパティウィンドウでの操作)

このタブでは、サーバの IP アドレスを検索したり、または IP アドレスからサーバを検索したりできます。

「IP アドレス」リストから、IP V4 アドレスと IP V6 アドレスのどちらでサーバを検索したいかを指定します。IP アドレスフィールドに IP アドレスを入力するか、テキストフィールドに文字列で入力できます。「文字列へ」ボタンと「IP へ」ボタンを使用すると、入力したものを文字列や IP アドレスに変換できます。

IP V6 アドレスでは、「検索」ボタンを使用して他のエントリを検索することはできません。

検索を開始するには、「検索」ボタンを使用します。In-band 接続 (プライマリアドレス) と Out-of-band 接続 (セカンダリアドレス) を介してサーバへの接続をテストするには、「テスト」ボタンを使用します。



ブレードサーバと BladeFrame システムの場合、接続テストダイアログでは In-band 接続のみをテストできます。Out-of-band 接続をテストしようとする、「Out-of-band 接続は有効ではありません」というエラーメッセージが表示されます。

BladeFrame で In-band 接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウのテストトラップで常にタイムアウトが発生します。

サーバのアドレス タブ (サーバのプロパティ <サーバ名> プロパティウィンドウでの操作)

このタブではサーバの IP アドレスを入力できます。「アドレス」リストから選択して、IP V4 アドレスと IP V6 アドレスのどちらを入力したいかを指定します。

「接続テスト」ボタンを使用し、**In-band** 接続（プライマリアドレス）または **Out-of-band** 接続（セカンダリアドレス）を介したサーバへの接続をテストすることができます。



サーバブレードの場合、「接続テスト」ダイアログの **In-band** 接続を介してサーバブレードとの接続をテストし、**Out-of-band** 接続を介してブレードサーバとの接続をテストします。

ブレードサーバと **BladeFrame** システムの場合、「接続テスト」ダイアログでは **In-band** 接続のみをテストできます。**Out-of-band** 接続をテストしようとする、「**Out-of-band** 接続は有効ではありません」というエラーメッセージが表示されます。

BladeFrame で **In-band** 接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」で常にタイムアウトが発生します。

TCP アプリケーションタブ

このタブでは、TCP/IP デバイスの Web アプリケーション（URL）と TCP/IP デバイスの ID 番号を指定できます。

このタブは「サーバのプロパティ <サーバ名>」プロパティウィンドウにあります。

4.8 メニュー（BladeFrame は未サポート）

次のセクションでは、Operations Manager で利用できるメニューを説明します。

- メニューバーのメニュー
- 「サーバリスト」ウィンドウのコンテキストメニュー
- 「ServerView [サーバ名]」ウィンドウのメニュー
- 「BladeFrame ServerView [サーバ名]」ウィンドウのメニュー
- 「BladeFrame <server> Details View」ウィンドウのメニュー
- 「BladeFrame Virtual Blade Details View」ウィンドウのメニュー
- 「SV Storage」ウィンドウのメニュー

メニュー項目の目的と機能について、詳しくは、ヘルプをご覧ください。

使用できる機能は、ServerView Operations Manager へのログインに使用するユーザ名によって異なります。デフォルトでは、異なるロールを持つ次の 3 つのユーザ名があります。

- 管理者権限 「administrator」
- オペレータ権限 「operator」
- 監視者権限 「monitor」

ロール（さらに厳密に言えば、ロールに割り当てられている権限）に応じて、ServerView Operations Manager のすべての機能または一部の機能を使用できます。管理者はすべての機能を使用できますが、監督者が使用できる機能は最少です。

ロールが原因で使用できない機能は無効（グレー表示）になります。読者が管理者であるという想定で、下記にすべての機能を説明します。



- メニュー項目の意味と機能の詳細は、ヘルプテキストで参照できません。
- ロールベースのユーザ管理についての詳細は、『User management in ServerView』を参照してください。

4.8.1 メニューバーのメニュー

サーバリスト

「サーバリスト」ウィンドウでは、サーバリスト下でサーバリスト管理のための次のメニュー項目が利用できます。

メニュー	説明
「アーカイブをインポート」	アーカイブデータをインポートします。
「サーバをインポート」	CSV ファイルを使ってサーバをインポートします。
「サーバをエクスポート」	サーバリストをエクスポートします。
「設定」	サーバリストの自動更新を有効にし、希望の更新間隔を設定します。 Advanced Video Redirection (AVR) を起動するには、 Java アプレット を設定します。

表 3: サーバリストメニューのメニュー項目

管理者設定

メニュー	説明
「サーバブラウザ」	「サーバブラウザ」プロパティウィンドウを開きます。このウィンドウは、新しいサーバを定義し、サーバリストに追加します。
「サーバの設定」	ServerView Configuration Manager を起動します。監視対象のサーバに対してシステム依存の設定を定義できます。
「仮想 IO マネージャ」	管理用サーバに ServerView Virtual-IO Manager ソフトウェアがインストールされている場合、これを起動します。 Virtual-IO Manager により、特別な接続モジュール (Intelligent Blade Panel (IBP) や I/O パラメータの仮想化 など) を介した接続パスを設定できます。 Virtual-IO Manager について、詳しくは、 Virtual-IO Manager のマニュアルをご覧ください。

表 4: 管理者メニューのメニュー項目

4 ServerView Operations Manager の使用

メニュー	説明
「ユーザ / パスワード」	ユーザ / パスワードの一覧を作成します。
「単位設定」	測定単位 (温度単位) を設定します。
「基本設定ウィザード」	ServerView Operations Manager の運用の基本設定を行う基本設定ウィザードを起動します。 基本設定ウィザードについて、詳しくは、基本設定ウィザードのマニュアルをご覧ください。

表 4: 管理者メニューのメニュー項目

サーバデータ管理

メニュー	説明
「アーカイブマネージャ」	アーカイブマネージャを起動します。アーカイブマネージャにより、1 台または複数のサーバに対するアーカイブジョブを作成し、アーカイブデータを作成、比較します。 アーカイブマネージャについて、詳しくは、アーカイブマネージャのマニュアルをご覧ください。
「インベントリマネージャ」	インベントリマネージャを起動します。インベントリマネージャにより、複数のサーバに対するインベントリデータを Excel、Access、SQL データベースにエクスポートします。 インベントリマネージャについて、詳しくは、インベントリマネージャのマニュアルをご覧ください。

表 5: サーバデータ管理メニューのメニュー項目

デプロイメント

メニュー	説明
「Deployment Manager」	Deployment Manager ソフトウェアが管理用サーバにインストールされている場合、これを起動します。 Deployment Manager により、時刻を指定した、複数の PRIMERGY の自動インストールが行えます。 Deployment Manager について、詳しくは、Deployment Manager のマニュアルをご覧ください。
「Installation Manager」	管理用サーバに Installation Manager ソフトウェアがインストールされている場合、これを起動します。 Installation Manager によりサーバをセットアップし OS ソフトウェアと管理ソフトウェアをインストールできます。 Installation Manager について、詳しくは、Installation Manager のマニュアルをご覧ください。

表 6: デプロイメントメニューのメニュー項目

「デプロイメント」メニューは Deployment Manager または Installation Manager が管理用サーバにインストールされている場合のみ利用できます。

イベント管理

「イベント管理」メニューを使用してイベント管理コンポーネントを起動します。

メニュー	説明
「アラームモニタ」	受信したすべてのトラップを表示するアラームモニタを起動します。アラームモニタでは、フィルタを通して表示を制御したり、利用可能なアラームを管理したりできます。
「アラーム設定」	アラーム設定コンポーネントを起動します。受信するアラームメッセージの処理を設定できます。
「スレッシュホールドマネージャ」	スレッシュホールドマネージャを起動します。監視対象のサーバの監視に対して、しきい値に基づいた設定を行います。詳しくは、スレッシュホールドマネージャのマニュアルをご覧ください。

表 7: イベント管理メニューのメニュー項目

メニュー	説明
「MIB インテグレータ」	MIB インテグレータを起動します。外部からの MIB ファイルをイベント管理に統合できます。MIB インテグレータについて、詳しくは、イベント管理のマニュアルをご覧ください。

表 7: イベント管理メニューのメニュー項目

イベント管理について、詳しくは、イベント管理のマニュアルをご覧ください。

サーバ監視

メニュー	説明
「パフォーマンスマネージャ」	パフォーマンスマネージャを起動します。特定のサーバに対して各種サーバパラメータの長期的な観察を行います。パフォーマンスマネージャについて、詳しくは、パフォーマンスマネージャのマニュアルをご覧ください。
「パワーモニタ」	パワーモニタを起動します。サーバやサーバブレードの電力消費の値を管理、表示できます。

表 8: サーバ監視メニューのメニュー項目

アップデート管理

メニュー	説明
「アップデートマネージャ」	<p>アップデートマネージャを起動します。ファームウェア、BIOS、ドライバ、ServerView エージェント、ServerView アップデートエージェントを、ネットワークを経由して更新できます。</p> <p>このメニュー項目は ServerView アップデートマネージャが管理用サーバにインストールされている場合のみ利用できます。</p> <p>アップデートマネージャについて、詳しくは、ServerView Update Management のマニュアルをご覧ください。</p>
「リポジトリマネージャ」	<p>リポジトリマネージャを起動します。アップデートリポジトリを管理できます。</p> <p>このメニュー項目は ServerView アップデートマネージャが管理用サーバにインストールされている場合のみ利用できます。</p> <p>リポジトリマネージャについて、詳しくは、ServerView Update Management のマニュアルをご覧ください。</p>
「ダウンロードマネージャ」	<p>ダウンロードマネージャを起動します。低レベルのソフトウェアコンポーネント（BIOS、ファームウェアなど）の情報や更新ファイルを富士通 Web サーバから自動的にダウンロードします。</p> <p>ダウンロードマネージャについて、詳しくは、ServerView Update Management のマニュアルをご覧ください。</p>
「設定」	<p>アップデート管理に対する全般的なパラメータを設定するダイアログを起動します。</p> <p>このメニュー項目は ServerView アップデートマネージャが管理用サーバにインストールされている場合のみ利用できます。</p> <p>詳しくは、ServerView Update Management のマニュアルをご覧ください。</p>

表 9: アップデート管理メニューのメニュー項目

ヘルプ

「ヘルプ」のメニュー項目はウィンドウによって異なります。次の表では利用可能なメニュー項目をすべてあげます。

メニュー	説明
目次	ヘルプの目次を呼び出します。
< ウィンドウ名 > のヘルプ	ウィンドウに対応するヘルプ。
「この画面のヘルプ」	ウィンドウで選択された機能に対応するヘルプ。
「リンク」	ServerView Suite と PRIMERGY の詳しい情報。
「バージョン情報」	ServerView Operations Manager のインストールバージョンを表示します。

表 10: ヘルプメニューのメニュー項目

4.8.2 サーバリストウィンドウのコンテキストメニュー

「サーバリスト」ウィンドウは、サーバリストを編集するためのコンテキストメニューを提供します。利用可能な機能は、選択していた機能により異なります。以下に利用可能なメニュー項目を示します。

メニュー	説明
「サーバ画面を開く」	「ServerView [サーバ名]」ウィンドウを開き、サーバデータを表示させます。
「新しいサーバ」	サーバリストに新規サーバを追加します。
「新しいグループ」	新規サーバグループを作成します。
「グループへコピー」	サーバリストで選択されたサーバをサーバグループにコピー、または選択されたサーバグループを他のグループにコピーします。
「グループへ移動」	選択したサーバグループを別のグループに移動します。
「リネーム」	選択したサーバグループの名前を変更します。
削除	選択したサーバまたはサーバグループを削除します。
「サーバのプロパティ」	サーバパラメータを定義する「サーバのプロパティ < サーバ名 >」プロパティウィンドウを開きます。
「電源制御」	リモート電源制御管理を起動します。 BMC が搭載されたサーバ、 VMware がインストールされたサーバブレードとサーバ、 Xen / Citrix XenServer 、または Hyper-V に対して利用できます。
「ビデオリダイレクションの開始」	選択したサーバに対して Advanced Video Redirection (AVR) を起動します。 AVR とシングルサインオンをサポートする iRMC が搭載されたサーバに対して利用できます。
「接続テスト」	「接続テスト」ダイアログ（サーバ接続のテスト）を呼び出します。
「すべてアップデート」	サーバに対して新しいアップデートジョブを作成します。 このメニュー項目は、アップデートステータスが許可されていて（警告、重大）、アップデートタイプがサポートされている場合のみ、使用できます。
「サーバの再検出」	選択したサーバのステータス、または選択したサーバグループのステータスを再検出します。

表 11: サーバリストウィンドウのコンテキストメニューのメニュー項目

メニュー	説明
「すべてのサーバの再検出」	すべてのサーバのステータスを再検出します。
「DB からリフレッシュ」	サーバのステータスを Web サーバ上のデータベースに基づいて更新します。
「アラームを受領」	選択したサーバに対するアラームアイコンをサーバリストから削除します。このメニュー項目は少なくとも 1 つの選択されたサーバからアラームを受信した場合のみ利用できます。
「すべてのアラームを受領」	すべてのサーバに対するアラームアイコンをサーバリストから削除します。このメニュー項目は少なくとも 1 つのサーバからアラームを受信した場合のみ利用できます。
「ミュートモード有効」	選択サーバのアラームメッセージを抑止します。
「ミュートモード無効」	選択サーバのアラームメッセージの抑止を無効に設定します。
「アーカイブの削除」	アーカイブデータを削除します。 このメニュー項目はアーカイブデータがサーバに対して存在する場合のみ利用できます。
「今すぐアーカイブを取得」	選択したサーバ、または選択したサーバグループの管理可能なサーバを今すぐにアーカイブします。

表 11: サーバリストウィンドウのコンテキストメニューのメニュー項目

4.8.3 ServerView ウィンドウのメニュー

「ServerView」ウィンドウで利用可能なメニューとメニュー項目について説明します。選択したオブジェクトにより、使用できるメニューが異なります。

ブレードリストメニュー

「ブレードリスト」は、ブレードサーバに属するすべてのブレード（サーバブレード、マネジメントブレード、スイッチブレードなど）を一覧表示します。「選択されたブレードの詳細」で、この表で選択したブレードの詳しい情報を表示します。

このメニュー項目はブレードサーバが選択されている場合のみ利用できます。

システムステータス メニューまたは ブレードサーバステータス メニュー

メニュー	説明
「環境」	サーバ内の温度とファンステータスについての情報。
「外部記憶装置」	コントローラの情報。 「ServerView RAID System」メニュー項目を使用すると、ServerView RAID Manager を起動できます。
「電源制御」	電源の設定とステータスに関する情報。
「ベースボード」	プロセッサ、メモリモジュール、システムボードの電圧、バスシステム、BIOS セルフテストの結果に関する情報。
「パフォーマンス」	監視対象サーバのさまざまなコンポーネント（プロセッサ、メモリ、ネットワーク、ストレージ）の容量および利用状況に関するパフォーマンス情報の詳細。
「ネットワークインターフェイス」	ネットワーク構成についての情報を表示するタブ（「詳細」、「Mac 統計情報」）を提供します。

表 12: システムステータス メニューまたは ブレードサーバステータス メニュー

システムメニュー

メニュー	説明
「システム情報」	システム情報。
「エージェント情報」	SNMP エージェントの情報。
「オペレーティングシステム」	OS の情報。
「プロセス」	プロセスの情報。
「ファイルシステム」	ファイルシステムの情報。
「パーティション」	サーバのパーティションの情報。
「リソース」	ハードウェアコンポーネントによるオペレーションリソース（「IRQ」、「I/O-Port」、「DMA」、「メモリ」）の使用に関する情報を表示するタブを提供します。

表 13: システムメニューのメニュー項目

メンテナンスメニュー

メニュー	説明
「バッテリー情報」	搭載されたバッテリーの情報。
「システムイベントログ」	エラーとイベントログエントリに関する情報。
「サーバプロパティ」	サーバ設定を表示するためのタブ「サーバのアドレス」、「ネットワーク /SNMP」、「ローカルノート」、「ログイン」、「リモートサービスボード (RSB)」、「BMC」を提供します。
「ASR&R」	ASR サポートのタブ（「ファン」、「温度センサ」、「再起動設定」、「電源 On/Off」、「ウォッチドッグ設定」）を提供します。
「起動オプション」	定義済みのブートオプションに関する情報。
「リモートマネジメント」	このメニューは「リモートマネジメント」ビューを提供します。管理されたノードのインストール済みハードウェアにより、関連するリモートマネジメントコンポーネントを、対応するボタン（例：「RSB Manager」、「RSB Telnet」、「BMC Power Management」、「iRMC Telnet」、「iRMC SSH」、「iRMC Web」）から起動できます。 リモートマネジメントコンポーネントについて、詳しくは、リモートマネジメントのマニュアルをご覧ください。 アーカイブデータで作業している場合、「リモートマネジメント」ビューには「Offline Agent Information」のみが表示されます。
「診断情報収集」 (PrimeCollect)	PRIMERGY のインストール済みハードウェアとソフトウェアに関する情報の収集と保存。 このメニューは、Windows 用 ServerView エージェント V4.60.01 が PrimeCollect コンポーネントと共に監視対象サーバにインストールされている場合のみ利用できます。
「オンライン診断」	診断テスト用のタブ（「既存のテスト」、「カスタムテスト」、「ステータス結果」）を提供します。 このメニューは、Windows 用 ServerView エージェント V4.40 以降が監視対象サーバにインストールされている場合のみ利用できます。

表 14: メンテナンスメニューのメニュー項目

メニュー	説明
「CSS」	CSS コンポーネントに関する情報。
「ブレードサーバービュー」	ブレードサーバの「ブレードサーバービュー」を起動します（サーバブレードでのみ表示）。
「マネジメントブレード設定」	新しいウィンドウで管理ブレード設定の Web インタフェースを起動します（サーバブレードでのみ表示）。

表 14: メンテナンスメニューのメニュー項目

仮想マシンメニュー

メニュー	説明
「物理マシン情報」	仮想ホストに関する情報。
「仮想マシン情報」	バーチャルマシンとその起動 / 休止方法に関する情報。

表 15: Virtualization メニューのメニュー項目

このメニューはサーバリストで仮想サーバを選択している場合のみ有効です。

4.8.4 BladeFrame Server View ウィンドウのメニュー
(BladeFrame は未サポート)

Configuration メニュー

メニュー	説明
「Frame Status」	BladeFrame の設定と、各ブレード（コントロールブレード、スイッチブレード、プロセッシングブレード）のステータス
「pServer Status」	定義済み処理サーバすべての概要。
「vBlade Status」	BladeFrame の設定済み vBlades すべての概要。
「Egenera PAN Manager」	PAN Manager の Web インタフェースを起動します。

表 16: Configuration メニューのメニュー項目

Components メニュー

メニュー	説明
「Devices」	BladeFrame フレームのハードウェアコンポーネント（Redundant Ethernet モジュール、CD-ROM とハードディスク）に関するステータス情報。
「Power Input Modules」	BladeFrame BF400 専用。電源モジュールに関する情報。

表 17: Components メニューのメニュー項目

4.8.5 BladeFrame <server> Details View ウィンドウのメニュー (BladeFrame は未サポート)

Configuration メニュー

メニュー	説明
「Blade Details」	BladeFrame と選択されたブレードに関する一般情報。
「vBlades」	このメニュー項目は pBlade の情報を表示中の場合のみ利用できます。pBlade の設定済み vBlades すべての概要。
「pServer Pager」	pBlade のみ。プロセッシングサーバの情報。

表 18: Configuration メニューのメニュー項目

Components メニュー

メニュー	説明
「CPU Statistics」	関連コントロールブレードの CPU ごとの CPU 統計。
「Disk Information」	選択したコントロールブレードで使用中のハードディスクに関する簡単な情報。
「Partitions」	選択したコントロールブレードのハードディスクの使用状況とパーティションについての詳しい情報。

表 19: Components メニューのメニュー項目



「Components」メニューはコントロールブレードでのみ利用できません。

4.8.6 BladeFrame Virtual Blade Details View ウィンドウ
のメニュー（BladeFrame は未サポート）

Configuration メニュー

メニュー	説明
「vBlade Details」	関連する vBlade に関する詳しい情報。
「pServer Page」	pServer に関する詳しい情報。

表 20: Configuration メニューのメニュー項目

4.8.7 SV Storage ウィンドウのメニュー

コンフィグレーションメニュー

メニュー	説明
「ステータス」	ストレージサブシステムの全般的な情報とステータス。
「システム情報」	ストレージサブシステムのシステム情報。

表 21: Configuration メニューのメニュー項目

RAID コントローラ - <controller_name> メニュー

「RAID コントローラ」メニューには存在するすべての RAID コントローラに
対して次の項目が表示されます。

メニュー	説明
「概要」	関連する RAID コントローラの全般的な情報。
「ポート一覧」	選択した RAID コントローラのポートに関する情報。

表 22: RAID Controller メニューのメニュー項目

エンクロージャ メニュー

「エンクロージャ」メニューには選択したストレージサブシステムに対して次の項目が表示されます。

メニュー	説明
「概要」	ストレージサブシステムの筐体に関する情報。
「物理ディスク」	物理ハードディスクの情報。
「環境」	関連するストレージサブシステムの電源、ファン、その他の情報。

表 23: Enclosure メニューのメニュー項目

ストレージプール メニュー

メニュー	説明
「概要」	ストレージプールの情報。
「ストレージボリューム」	ストレージボリュームの情報。
「ホストマッピング」	論理ストレージボリュームへのサーバの割り当てに関する情報。

表 24: Storage Pools メニューのメニュー項目

システムステータス メニュー

システム メニュー

4.9 アイコン

アイコンを見ると、1 つまたは複数のオブジェクトのステータスやステータス変更が一目でわかります。

4.9.1 サーバリストウィンドウのアイコン

次の表で、「サーバリスト」ウィンドウのアイコンとその意味を示します。

	すべてのコンポーネントは正常です。
	1 つまたは複数のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	1 つまたは複数のコンポーネントにエラーがあります。
	管理不可。コンポーネントのステータスが判定できません。
	コンポーネントが利用できません。
	サーバが応答しませんがリモートマネジメントコントローラで管理可能です。
	ネットワークでサーバに接続できません。
	調査処理中のステータスです。
	TCP/IP プロトコルによるサーバ通信が可能です。
	標準 SNMP エージェントは正常です。標準 SNMP エージェントのみが応答し、ServerView SNMP エージェントが（たとえば、サーバリスト内のストレージサブシステムに対して）応答していません
	サーバは利用できませんが、利用できるアーカイブデータがあります。

表 25: サーバリストウィンドウのアイコン






	ブレードサーバのすべてのコンポーネントは正常です。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）が悪化しています。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）でエラーが発生しています。
	ブレードサーバが応答せず、管理不可能です。
	ブレードサーバにアクセスできません。

表 26: サーバリストウィンドウのブレードサーバアイコン






	BladeFrame のステータスは正常です。
	BladeFrame のステータスが悪化しています。
	BladeFrame のステータスでエラーが発生しています。
	PAN Manager からの応答がありません。
	PAN Manager にアクセスできません。

表 27: サーバリストウィンドウの BladeFrame アイコン



BladeFrame のステータスは発生するイベントにより決まります。確認されていないイベントがある場合は、そのイベントの重要度に従って黄色または赤のアイコンが表示されます。

各種イベントについて、詳しくは、Egenera PAN Manager オンラインヘルプをご覧ください。

※ BladeFrame は未サポートです。






	すべてのクラスタは正常です。
	クラスタのステータスが悪化しています。
	クラスタのステータスでエラーが発生しています。
	クラスタエージェントからの応答がありません。
	クラスタにアクセスできません。

表 28: サーバリストウィンドウのクラスタアイコン




	ESX サーバへの接続は正常で、管理可能なすべての VM のステータスは正常です。
	ESX サーバへの接続は正常ですが、管理可能な少なくとも 1 つの VM のステータスが悪化しています。
	ESX サーバへの接続は正常ですが、管理可能な少なくとも 1 つの VM のステータスでエラーが発生しています。
	Management Controller Mode: ESXi なしサーバのみ。ESX サーバへの接続は正常ですが、管理可能なすべての VM は「Management Controller Mode」です。
	ESX サーバへの接続が正常でないか、またはユーザ / パスワードの一覧で有効なユーザ / パスワードの組み合わせがありません。
	ネットワークで VMware サーバに接続できません。

表 29: サーバリストウィンドウの VMware ESX サーバアイコン

	Xen / Citrix XenServer サーバへの接続は正常で、管理可能なすべての VM のステータスは正常です。
	Xen / Citrix XenServer サーバへの接続は正常で、管理可能な少なくとも 1 つの VM のステータスが悪化しています。
	Xen / Citrix XenServer サーバへの接続は正常で、管理可能な少なくとも 1 つの VM のステータスでエラーが発生しています。
	Management Controller Mode: Xen / Citrix XenServer サーバへの接続は正常ですが、管理可能なすべての VM は「Management Controller Mode」です。
	Xen / Citrix XenServer サーバへの接続が正常でないか、またはユーザ / パスワードの一覧で有効なユーザ / パスワードの組み合わせがありません。
	ネットワークで Xen / Citrix XenServer サーバに接続できません。

表 30: サーバリストウィンドウの Xen / Citrix XenServer サーバアイコン







	Hyper-V サーバへの接続は正常で、管理可能なすべての VM のステータスは正常です。
	Hyper-V サーバへの接続は正常で、管理可能な少なくとも 1 つの VM のステータスが悪化しています。
	Hyper-V サーバへの接続は正常で、管理可能な少なくとも 1 つの VM のステータスでエラーが発生しています。
	Management Controller Mode: Hyper-V サーバへの接続は正常ですが、管理可能なすべての VM は「Management Controller Mode」です。
	Hyper-V サーバへの接続が正常でないか、またはユーザ / パスワードの一覧で有効なユーザ / パスワードの組み合わせがありません。
	ネットワークで Hyper-V サーバに接続できません。

表 31: サーバリストウィンドウの Hyper-V サーバアイコン






	BMC/iRMC への接続は正常です。
	BMC/iRMC への接続は正常です。Global Error LED が点灯しています。
	BMC/iRMC への接続は正常です。Global Error LED が点滅しています。
	BMC/iRMC への接続が失敗したか、または有効なユーザ名 / パスワードの組み合わせがないためログインできません。
	不明 : BMC/iRMC にネットワークを介してアクセスできません。

表 32: サーバリストウィンドウの BMC/iRMC アイコン






	ストレージサブシステムのすべてのコンポーネントは正常です。
	1 つまたは複数のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	1 つまたは複数のコンポーネントのステータスでエラーが発生しています。
	SNMP エージェントが応答していません。
	ストレージサブシステムに SNMP を介して接続できません。

表 33: サーバリストウィンドウのストレージサブシステムアイコン

サーバリストのステータスバーのアイコン

サーバリストのステータスバーにあるアイコンから、サーバリスト内のいくつかのオブジェクトがどのステータスにあるかがわかります。

これらのアイコンにより、サーバリスト表示を制御できます。サーバリストのどのエントリが特定のステータスにあるのかを見るには、そのステータスに対応するアイコンをクリックします。









	すべてのコンポーネントは正常です。
	1つまたは複数のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	1つまたは複数のコンポーネントにエラーがあります。
	管理不可。コンポーネントのステータスが判定できません。
	コンポーネントが利用できません。
	サーバが応答しませんがリモートマネジメントコントローラで管理可能です。
	ネットワークでサーバに接続できません。
	TCP/IP プロトコルによるサーバ通信が可能です。

表 34: サーバリストのステータスバーのアイコン

サーバリストヘッダのアイコン

サーバリストには、アラームレベル、アーカイブデータ、更新ステータスの状態を示すアイコンが表示されます。これらのアイコンはサーバリストのヘッダにそれぞれ割り当てられています。アイコンをクリックすると、情報を並べ替えることができます。

	アラームレベルを示します（ヘッダアイコン）。
	アラームを受信しました。アラームレベル：危険
	アラームを受信しました。アラームレベル：重度
	アラームを受信しました。アラームレベル：軽度
	アラームを受信しました。アラームレベル：情報
	アラームを受信しました。アラームレベル：不明
	アラーム設定のフィルタ規則に従い、このサーバに着信したアラームは無視されます。
	アーカイブデータを示します（ヘッダアイコン）。
	アーカイブデータが利用できます。
	アーカイブデータを作成中です。
	アップデートステータスを示します（ヘッダアイコン）。
	アップデートの必要はありません。
	アップデートを推奨します。
	至急アップデートが必要です。

表 35: サーバリストヘッダのアイコン

4.9.2 ServerView [サーバ名] ウィンドウのアイコン

次の表は、「ServerView [サーバ名]」ウィンドウのアイコンとその意味を示します

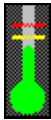



	温度（緑：正常、青：センサの故障、黄色：警告、赤：シャットダウン温度に到達、灰色：不明）
	ファン（緑：正常、赤：故障、黄色：危険、灰色：測定不可）
	識別灯 - 識別灯が点灯している状態です。
	識別灯 - 識別灯が点灯していない状態です。

表 36: ServerView [サーバ名] ウィンドウのアイコン

4.9.3 デバイスビューウィンドウのアイコン

次の表は、「デバイスビュー」ウィンドウのアイコンとその意味を示します。

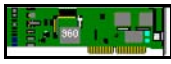
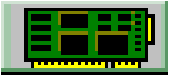

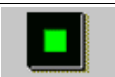
	RAID コントローラ
	ホスト
	ディスク
	プロセッサ
OTHER	その他

表 37: デバイスビューウィンドウのアイコン

4.9.4 バスとアダプタウィンドウのアイコン

次の表は、「バスとアダプタ」ウィンドウのアイコンとその意味を示します。




	ツリー構造配下が開かれた状態です。
	ツリー構造配下が閉じられた状態です。
	ツリー構造配下の最下層です。これ以上の選択はできません。

表 38: バスとアダプタのアイコン

4.9.5 アラームモニタウィンドウのアイコン

次の表は、「アラームモニタ」ウィンドウのアイコンとその意味を示します。

	赤のアラーム：危険
	橙色のアラーム：重度
	黄色のアラーム：軽度
	青のアラーム：情報
	灰色のアラーム：不明
	ユーザのエントリによりアラームは確定済みです。
	このアラームにより、他の実行可能なプログラムが起動されました。
	このアラームに対してブロードキャストメッセージが送信されました。
	このアラームに対してメールが送信されました。
	このアラームにより、ポケットベル呼び出しが起動されました (未サポート)。
	このアラームは、管理サーバに送信されます。
	このアラームは、ローカルシステムのイベントログに送信されます。
	緑：ポケベル確認済み
	黄色：ポケベル完了済み
	赤：ポケベルあり（まだアクティブ）

表 39: アラームモニタウィンドウのアイコン







	白：呼び出し中のエラー（ステータス不明）
	緑：転送確認済み
	黄色：転送完了済み
	赤：転送あり（まだアクティブ）
	白：転送中のエラー（ステータスは不明）
	イベント一覧上部の項目ごとにフィルタをかけることができます。

表 39: アラームモニタウィンドウのアイコン

4.9.6 クラスタステータスのアイコン

次の表は、クラスタオブジェクトを表すアイコンとその意味を示します。







	クラスタステータスアイコン
	クラスタサーバノードのステータスアイコン
	クラスタグループのステータスアイコン
	クラスタリソースのステータスアイコン
	クラスタネットワークのステータスアイコン
	クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコン

表 40: クラスタオブジェクト

サーバノードステータス

次の表では、クラスタサーバノードを表すアイコンとその意味を示します。







	ノードの状態が判断できないか、またはどの状態にも相当しません。
	サーバノードは作動中です。
	サーバノードは停止中です。
	サーバノードは現在どのグループサービスも提供していません。
	サーバノードは現在クラスタサービスを開始中ですが、まだ利用できません。
	サーバノードは利用できません。

表 41: クラスタサーバノードのステータスアイコン

グループステータス

次の表は、クラスタグループを表すアイコンとその意味を示します。







	グループの状態が判断できない、あるいはどの状態にも相当しません。
	グループはオンラインです。
	グループはオフラインです。
	グループは一部オンラインです。
	グループで異常が発生しています。
	グループは利用できません。

表 42: クラスタグループのステータスアイコン

リソースステータス

次の表は、クラスタリソースのアイコンとその意味を示します。











	リソースの状態が判断できない、あるいはどの状態にも相当しません。
	リソースが利用できます。
	リソースは現在利用できません。
	リソースで異常が発生しています。
	リソースはもうすぐ利用できます。
	リソースはもうすぐ利用できなくなります。
	リソースのステータスが判断できず、現在利用できません。
	リソースは利用できません。
	リソースは継承されました。
	リソースは現在初期化中です。

表 43: クラスタリソースのステータスアイコン

ネットワークステータス

次の表は、クラスタネットワークのアイコンとその意味を示します。






	ネットワークの状態が判断できない、あるいはどの状態にも相当しません。
	ネットワークインタフェースは動作中です。
	ネットワークはシャットダウンされました。
	クラスタ内の 1 つ以上のノードが互いに通信できません。
	ネットワークが利用できません。

表 44: クラスタネットワークのステータスアイコン

ネットワークインタフェースステータス

次の表は、クラスタネットワークインタフェースのアイコンとその意味を示します。






	ネットワークインタフェースの状態が判断できない、あるいはどの状態にも相当しません。
	ネットワークインタフェースは作動中です。
	ネットワークインタフェースは作動不可です。
	ネットワークインタフェースはどのノードからもアクセスできません。
	ネットワークインタフェースは利用できません。

表 45: クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコン

4.9.7 その他のアイコン

次の表は、複数のウィンドウに表示されるアイコンを示します。

	CD（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	通信デバイス（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	CPU（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	ジュークボックス、自動 CD チェンジャー（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	MO デバイス（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	プリンタ（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	スキャナ（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	テープドライブデバイス（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	WORM Write Once Read Many（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
	ハードディスク（赤：故障、緑：正常）
	未知のデバイス（赤：危険、緑：オンライン、黄色：待機中、青：不明）
 	「環境」または「電源」メニューの Windows デフォルト設定

表 46: その他のアイコン





	<p>ネットワークカード ネットワークに関連するウィンドウすべて： ネットワークインタフェース、トークンリング統計情報、MAC 統計情報、FDDI MAC 統計情報</p>
	<p>ハードディスク 外部記憶装置に関連するウィンドウすべて： 外部記憶装置、デバイスビュー、パーティションビュー、 ロジカルビュー Mylex Disk Array ウィンドウ： デバイスビュー、アダプタビュー、物理デバイスビュー、 システムボード</p>
	<p>システム情報（OS、その他のシステム）</p>
	<p>システムボード [<server name>]</p>

表 46: その他のアイコン

5 サーバリストの管理

この章では、サーバリストの管理方法を説明します。以下の項目を説明します。

- **Operations Manager** の内部データ保管 (**ServerView** データベース) の動作
- サーバリストでの各オブジェクトの表示
- サーバリストへの新しいオブジェクトの入力
- ユーザ固有のサーバグループの作成
- サーバリストからのオブジェクトの削除
- サーバリストのチェック
- サーバリストを使用したアーカイブデータの作成

5.1 ServerView データベース

内部データ保管には **SQL** データベースを使用します。このデータベースは、**Operations Manager** ソフトウェアの実行に必要です。

必要に応じて、**SQL** データベースに対して次のことを行えます。

- 独自の **SQL** クエリを作成する
- データベースのバックアップを作成する

Windows 上の ServerView データベース

Windows では、**MSDE 2000**、**SQL Server 2000**、または **SQL Server 2005** インスタンスが必要です。**Operations Manager** には、**MSDE 2000** と **SQL Server 2005 Express** が標準で添付されています。**Operations Manager** ソフトウェアのインストール時に、インストールされている OS (**Windows Server 2003** または **Windows Server 2008**) に応じて適切な **SQL** データベースをインストールできます。

さらに、**Operations Manager** では、リモートでインストールした **SQL** サーバインスタンスを使用して **ServerView** データベースをインストールできます。

Linux 上の **ServerView** データベース

Linux では、データベース管理システムとして PostgreSQL を使用します。

インストールするソフトウェアは、PostgreSQL データベース管理システム *SMAWPLUS* を搭載しています。この PostgreSQL は、Operations Manager ソフトウェアのインストール時に自動的にインストールされます。すでに PostgreSQL データベース管理システムがインストールされている場合、動作に影響はありません。

Operations Manager バージョン 4.80 以降 では、リモートでインストールした SQL サーバインスタンスを使って **ServerView** データベースをインストールできます。

ServerView データベースに関連するマニュアル

データベースのインストールと管理について、詳しくは、「Operations Manager Installation Guides for Windows and Linux」をご覧ください。

5.2 サーバリスト

サーバリスト画面は、ServerView Operations Manager のメイン画面です。設定されているすべてのサーバの概要がこの画面に表示され、すべての管理作業をここから開始します。

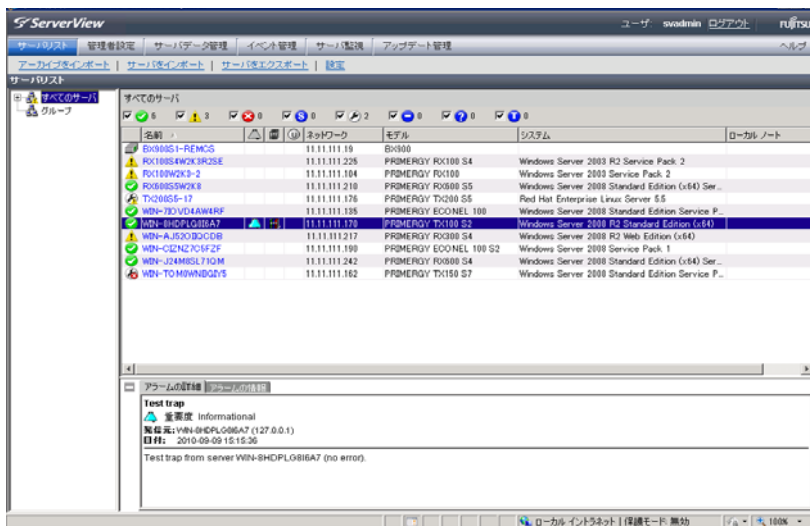


図 6: サーバリスト

必要に応じて、サーバリストに存在するサーバのうち、例えば管理できないサーバなどの一部のサーバだけを表示することもできます。これには、サーバリスト上部のバーで必要なステータス（ステータスアイコン）をクリックします。

サーバのステータスが「管理不可能」の場合は、設定を参照したり再設定したりできます。これには、コンテキストメニューで「サーバを開く」を選択します。これにより、「確認」ダイアログボックスが開きます。

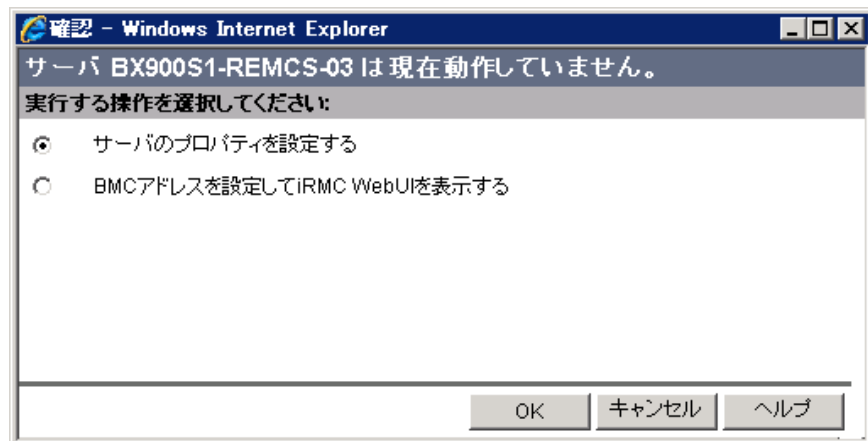


図 7: 管理不可能サーバの確認画面

次の項目の確認、設定ができます。

サーバのプロパティを設定する

「サーバのプロパティ」画面が開き、サーバのパラメータ（IP アドレス、コミュニティ、BMC アドレスなど）を参照して変更できます。

BMC アドレスを設定して iRMC WebUI を表示する

BMC アドレスを入力する画面を開き、iRMC/iRMCS2 Web インタフェースを起動します。このオプションは、サーバに BMC はあるが、ServerView サーバリストには入力されていない場合に便利です。

アーカイブデータを表示する

サーバのシステムデータのアーカイブを表示します。このオプションは、アーカイブデータが存在する場合のみ有効です。

SNMP エージェントのステータスが「OK」の場合、または BMC/iRMC アドレスが既知の場合は、次のダイアログボックスが開きます。



図 8: 管理不可能サーバの確認画面

以下のオプションを使用できます。

Single System View を開始する

サーバに関する一定の情報を表示します。

サーバのプロパティを設定する

「サーバのプロパティ」画面が開き、サーバのパラメータ（IP アドレス、コミュニティ、BMC アドレスなど）を参照して変更できます。

iRMC Telnet

Remote Manager の「RemoteManagement」画面を開き、iRMC/iRMC S2 を使用して管理しているサーバへの非セキュア Telnet 接続を設定できます。

iRMC SSH

Remote Manager の「RemoteManagement」画面を開き、iRMC/iRMC S2 を使用して管理しているサーバへのセキュア SSH 接続を設定できます。

iRMC Web

iRMC/iRMCS2 Web インタフェースを起動します。

ビデオリダイレクション

新規ブラウザウィンドウで Advanced Video Redirection (AVR) を起動します。AVR は監視対象サーバのグラフィック出力を管理用サーバ/パソコンの画面へリダイレクトします。また、管理用サーバ/パソコンのキーボードおよびマウスからの入力を監視対象サーバへ割り当てます。管理可能なサーバでは、「ServerView [server_name]」ウィンドウのメ

ニュー「メンテナンス」→「リモートマネジメント」を選択して AVR を起動できます (173 ページの「リモートマネジメント (iRMC)」の項をご覧ください)。

5.2.1 サーバリストのブレードサーバ

ブレードサーバは、サーバリスト内の特別なグループとして「すべてのサーバ」ビューに表示されます。

このグループをクリックすると、関連付けられているサーバブレードが表示されます。他のすべてのブレード (スイッチブレード、マネジメントブレードなど) は「ServerView [ブレードサーバ名]」画面だけに表示されます。「7 ブレードサーバデータの詳細確認」の章 (187 ページ) をご覧ください。

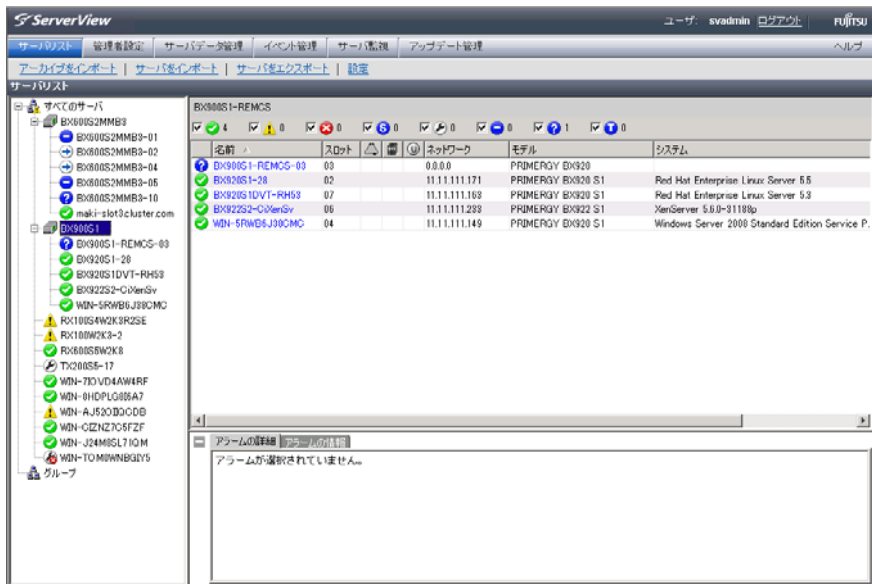


図 9: ブレードサーバがあるサーバリスト

サーバリストには、S31 MIB がサポートする、またはアーカイブデータが存在するサーバブレードが表示されます。さらに、サーバリストには、ServerView エージェントがインストールされている場合、ブレード ID とサーバブレードの状態が表示されます。ServerView エージェントが動作していないサーバブレードは「管理不可能」と認識されます。

5.2.2 サーバリストの BladeFrame (BladeFrame は未サポート)

BladeFrame システムは、サーバリストに PRIMERGY サーバのように表示されます。

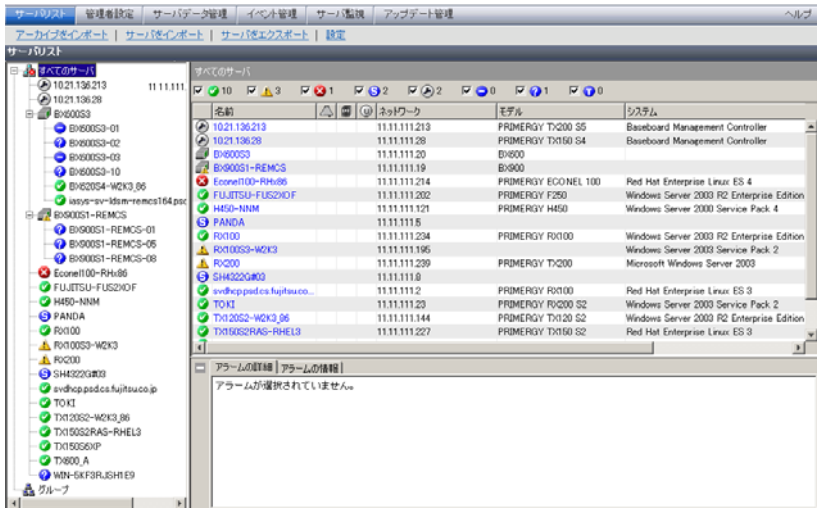


図 10: サーバリストの BladeFrame

サーバリストに、BladeFrame システムが表示されます。クリックすると、「BladeFrame Server View」という名前の別のウィンドウが開きます。このウィンドウには、関連コンポーネントの詳細が表示されます（「[8 ブレードフレームデータの詳細確認](#)」の章（199 ページ）を参照）。

要件

BladeFrame システムを表示するには、PAN Manager で以下の設定を行う必要があります。

1. SNMP エージェントの有効化

PAN Manager で、PAN コンポーネントである PAN、BladeFrame、および LPAN の SNMP エージェントを有効化できます。

各エージェントは、そのドメインで制御しているオブジェクトに関する情報だけを保有しています。

LPAN ドメインは、自身に割り当てられているリソースと pServer のみ認識します。

BladeFrame エージェントは、ハードウェアは認識しますが、pServer は認識しません。

BladeFrame に関するすべての情報を保有しているのは、PAN エージェントだけです。この PAN エージェントに対して IP アドレスを入力する必要があります。関連する BladeFrame システムの PAM Manager の IP アドレスを入力することには意味があります。

「Scope」フィールドで、「Monitor」または「Monitor and Control」を選択して、エージェントを有効にします。

2. SNMP Manager の設定

すべての BladeFrame システムに対して、外部管理者として ServerView 管理ステーションの IP アドレスを入力する必要があります。さらに、トラップポート番号「162」、コミュニティストリング（デフォルト：

「public」）、管理ステーションのトラップバージョン「SNMP v1」を入力する必要があります。



PAN Manager が BladeFrame システムの管理に使用され、制御ブレード (cBlades) 上で動作します。設定には、PAN Manager の GUI または CLI を使用できます。「Configuration」→「Egenera PAN Manager」のように選択して、「BladeFrame Server View」画面の ServerView Operations Manager から PAN Manager の Web インタフェースを呼び出すことができます。

PAN Manager について、詳しくは、BladeFrame システムの関連するマニュアルをご覧ください。

5.2.3 サーバリストの仮想サーバ

サーバリストには、仮想サーバは特別なグループとして表示されます。このグループのノードには、**Virtual Machine Monitor (VMM)** または **Hypervisor** のステータスが表示されます。このグループは、物理サーバ（ホスト）と、**OS**（ゲストシステム）に関連付けられているすべての仮想サーバで構成されています。ホストは常に最初に表示され、物理サーバのステータスを示します。現在サポートされている仮想サーバは、**Hyper-V** サーバ、**Xen/Citrix XenServer** サーバ、**VMware** サーバです。

仮想システムへのアクセスには、この仮想サーバに対して有効なユーザ / パスワードの組み合わせを、**ServerView Operations Manager** のユーザ / パスワードのリストに入力する必要があります。この組み合わせが存在する場合は、この仮想サーバをサーバリストに追加すると同時に、**ServerView** がそのゲストシステムを自動的に認識します。

ほとんどの仮想システムは、ゲストシステムの IP アドレスを提供しません。**Citrix XenServer** システムと **VMware** システムだけが、この情報を提供できます。ただし、これには、**Citrix XenServer** システムの場合は **Citrix XenServer** ツールが、そして **VMware** システムの場合は **VMware** ツールがゲストシステムにインストールされている必要があります。しかし、IP アドレスは通常提供されないため、仮想ゲストシステムはサーバリストに追加して初めて管理できます。最善の方法はサーバブラウザで行うことです（[112 ページの「サーバブラウザ画面でのオブジェクトの追加」の項](#)をご覧ください）。サーバブラウザでは、仮想サーバは、**PRIMERGY HYPER-V**、**PRIMERGY XEN VM**、**PRIMERGY VIRTUAL MACHINE** などのサーバの種類（機種）で識別できます。そして、**Universally Unique Identifier (UUID)** を比較することで、仮想サーバが仮想システムグループに追加されます。**UUID**（**Hyper-V** サーバの場合は **BIOS ID**）は、仮想システムと **ServerView** エージェントによって提供されます。

5.2.3.1 サーバリストの VMware

VMware ESXi V 3.5 では、VMware サーバは、サーバリストの「すべてのサーバ」の下に特別なグループとして表示されます。

このグループをクリックすると、VMware サーバおよび、関連付けられている仮想サーバ (virtual machines - VM) が右側に表示されます。

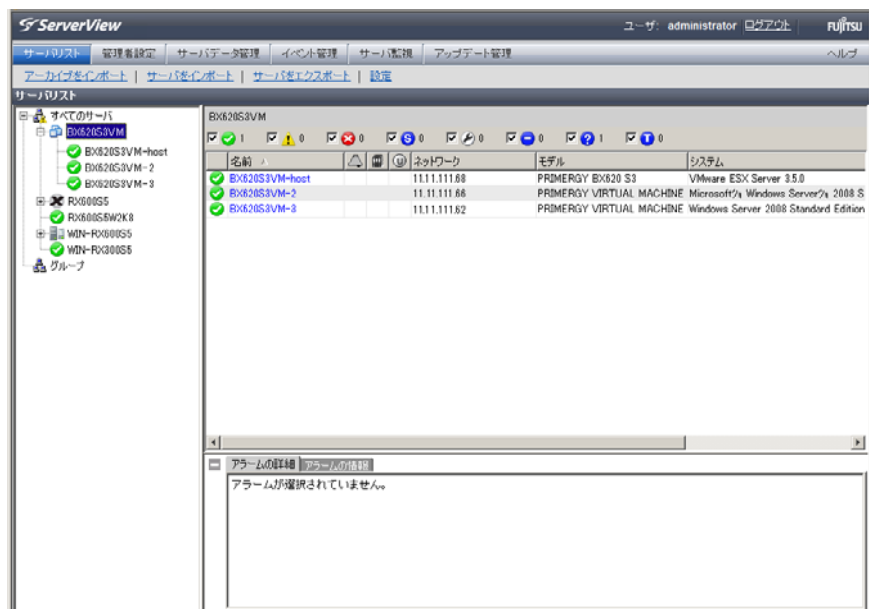


図 11: サーバリストの VMware ESX Server V3.0



要件

- VMware ツールを仮想サーバにインストールして、IP アドレスと Universally Unique Identifier (UUID) を呼び出せるようにする必要があります。詳しくは、関連する VMware のマニュアルをご覧ください。
- サーバリストに VMware ESX サーバを表示するには、ServerView Operations Manager のユーザ / パスワードのリストに、有効なユーザ / パスワードの組み合わせが存在している必要があります。サーバリストに表示するためには、ユーザ ID に読み取り専用アクセスが必要ですが、電源管理を行う場合にはユーザが管理者権限を持っている必要があります。

- VMware ESX サーバは、VMware ESX Server V3.5.0 以上では特別なグループとしてのみ表示されます。

バージョン 3.5 以上の VMware ESXi

VMware ESXi ホストサーバは、ネットワークアドレス、機種、OS 情報によって識別されます。関連付けられている仮想サーバは、サーバリストの ESXi ホストサーバの下の名前列に、現在の VMware 名とともに表示されます。

VMware ESXi ホストは、SNMP ではアクセスできませんが、CIM プロバイダでアクセスできます。サーバリストには、ESXi サーバのホストノードの CIM プロバイダステータスが表示されます。VMware ESXi ノードをクリックすると、CIM プロバイダの単一システムが開きます。CIM プロバイダにアクセスできない場合は、「Management Controller Mode」ステータス、または「Not Manageable」ステータスが表示されます。

有効な IP アドレスと有効なユーザ/パスワードが iRMC に対して設定されている場合は、「Management Controller Mode」ステータスが有効です（手動設定については、iRMC ドキュメントを参照）。

その場合は、iRMC の Web インターフェースを開くことができます。



ESXi 3.5 Update 4 以降、および ESXi 4.1 以降のバージョンの場合、VMware は無償版 ESXi への書き込みアクセスができません。

「仮想マシンの開始/停止する」ことおよび「保守モードに入る」ことは、VMware では書き込み操作とみなされ、無償版では行うことができません。

これらの操作を ESXi サーバで行うには、ライセンス（無償ライセンスではありません）を取得するか、以前のアップデートに戻します。サーバソフトウェア（ESXi など）がライセンスを要求する場合は、ESXi 3.5 Update 4 以降の無償版での読み取り専用アクセスのみの代わりに、フル機能を許可する必要があります。

詳細は、以下のリンクを参照してください。

<http://communities.vmware.com/thread/203414>

<http://communities.vmware.com/thread/202310?start=0&tstart=0>

<http://vmetc.com/2009/03/31/esxi-u4-ends-free-version-read-and-write-access-from-the-rcli/>

5.2.3.2 サーバリストの Xen / Citrix XenServer サーバ

Linux システム上の Xen V3.0.4 および Citrix XenServer V5.5、Xen/ Citrix XenServer は、サーバリストの「すべてのサーバ」に特別なグループとして表示されます。

このグループをクリックすると、Linux サーバと、関連付けられている仮想サーバ (PRIMERGY XEN VM) が右側に表示されます。

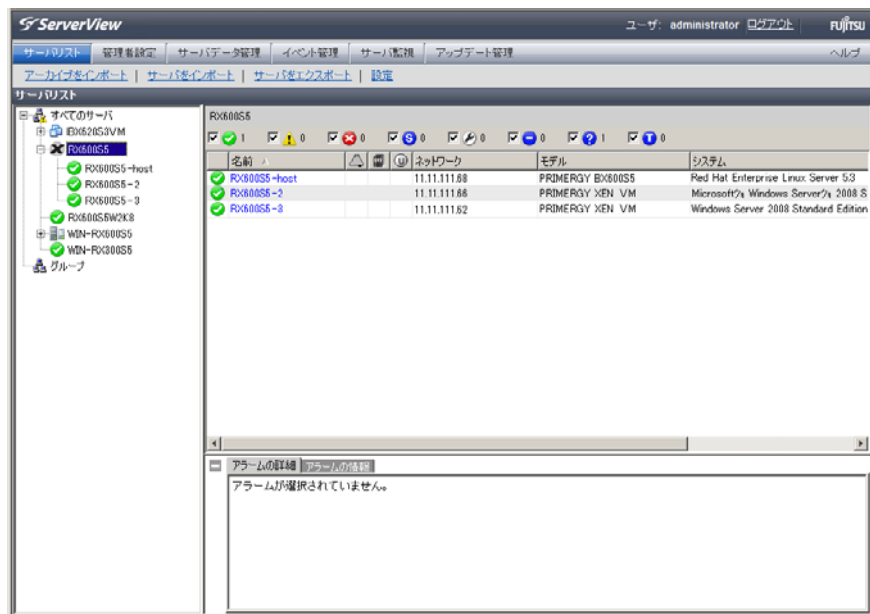


図 12: サーバリストの Xen/Citrix XenServer サーバ

Linux サーバエントリでは、ServerView エージェント、ハードウェア、OS のステータスが表示されます。上記の例では、Xen サーバ RX600S5 が、Xen hypervisor Red Hat Enterprise Linux Server 5.3 で動作している PRIMERGY BX600 S5 です。そのステータスは「OK」です。仮想サーバは、サーバリストの「名前」列に、現在の Xen 名とともに表示されます。

ServerView エージェントがインストールされている場合は、サーバリストに仮想サーバと Linux サーバのステータスが表示されます。サーバリストでエントリをクリックすると、「ServerView[サーバ名]」画面でさらにサーバのデータを読み出すことができます。

ServerView が動作していない仮想サーバは「管理不可能」と識別されます。



要件

- サーバリストに **Xen** サーバ、または **Citrix XenServer** を表示するには、**ServerView Operations Manager** のユーザ / パスワードのリストに、有効なユーザ / パスワードの組み合わせ（パスワードで保護されている場合）が存在している必要があります。サーバリストに表示するには、ユーザ ID に読み取り専用アクセスが必要ですが、電源管理を行う場合にはユーザが管理者権限を持っている必要があります。
- **Xen** は **Xen Server version 3.1** 以上のみサポートされています。保証と機能には制限があります。
- **Xen** サーバに有効なポート番号を使用可能にする必要があります。**ServerView Operation Manager** の現在のバージョンのみが、ポート **9363** をサポートしています。**Citrix XenServer** は、ポート **80** でアクセスされます。

Citrix XenServer サーバは、**Citrix XenServer** ツールがゲストシステムにインストールされている場合のみ、仮想サーバの **IP** アドレスを提供します。このツールがインストールされていない場合は、仮想サーバの **IP** アドレスを提供しません。

仮想サーバをサーバリストの他のサーバに自動的に割り当てることができない場合は、仮想サーバは **IP** アドレスなしで表示されます。この場合、**ServerView** エージェントにアクセスすることはできません。しかし、サーバリストにあるサーバを仮想サーバに割り当てることのできる場合は、そのサーバは **Xen / Citrix XenServer** サーバグループに自動的に再度割り当てられます。

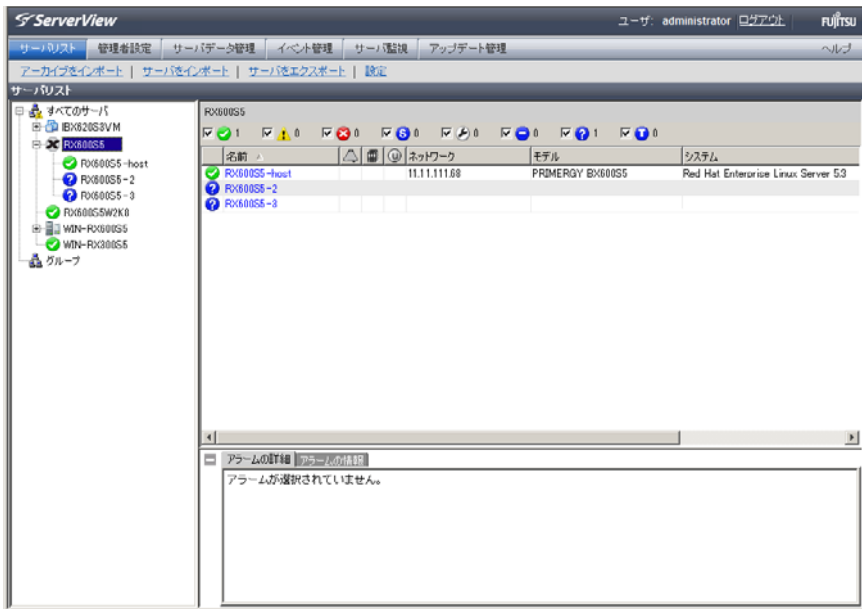


図 13: IP アドレスがない仮想サーバ

5.2.3.3 サーバリストの Hyper-V サーバ

Microsoft 製品 Hyper-V は、Microsoft Windows Server 2008 (x64) および Microsoft Windows Server 2008 R2 (x64) にインストールして、設定、アクティブ化できます。Microsoft Windows 2008 Hyper-V と Hyper-V Server 2008 が、サーバリストの「すべてのサーバ」に特別なグループとして表示されます。

このグループをクリックすると、Hyper-V ホストと、関連付けられている仮想サーバが右側に表示されます。

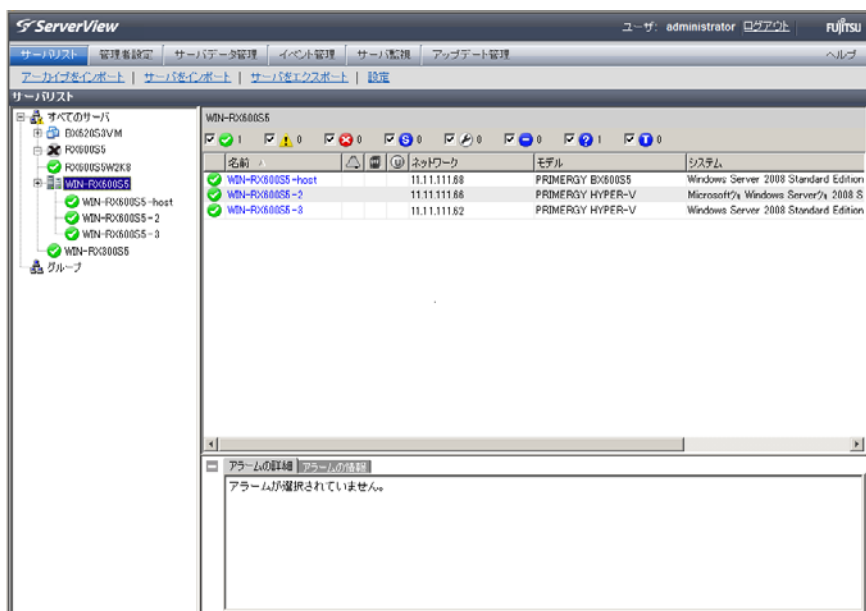


図 14: サーバリストの Hyper-V サーバ

Hyper-V サーバエントリに、ServerView エージェント、ハードウェア、OS のステータスが表示されます。上記の例では、Hyper-V サーバ RX100S52 が、OS Windows Server 2008 Enterprise Edition (x64) で動作している PRIMERGY RX100 S5 です。そのステータスは「OK」です。仮想サーバは、サーバリストの名前列に、現在の Hyper-V 名で表示されます。

ServerView エージェントが、1 つまたは関連するすべての（仮想）サーバにインストールされている場合は、サーバリストに仮想サーバと Hyper-V ホストのステータスが表示されます。サーバリストでエントリをクリックすると、「ServerView[サーバ名]」画面でさらにサーバのデータを問い合わせることができます。

ServerView が動作していない仮想サーバは「管理不可能」と識別されます。

要件

「接続テスト」ボタンを使用して、**In-band** 接続（プライマリアドレス）と **Out-of-band** 接続（セカンダリアドレス）を介したサーバへの接続をテストするには、次の要件を満たす必要があります。

1. Windows Remote Manager を正しく設定する必要があります。

これには、Windows システムで認証方法「**Basic**」を有効にし、値「**Negotiate/Kerberos**」を無効にする必要があります（Microsoft）。



「**Negotiate**」と「**Kerberos**」は Windows 固有の認証方式で、Linux ではサポートされていません。このため、**ServerView Operations Manager** は Windows と Linux の両方でこの 2 つの認証方式をサポートしていません。

Windows Remote Manager の設定は、Microsoft コマンドラインで *winrm* コマンドを使用して、またはローカル グループ ポリシー エディタ *gpedit.msc* を使用して行うことができます。

● コマンドラインでの設定

コマンドラインで、次のコマンドを入力します。

– *winrm* コマンドのテスト：

```
winrm get winrm/config
```

– 設定ファイル *config* のヘルプを表示：

```
winrm help config
```

– Windows Remote Manager Web サービスの開始：

```
winrm quickconfig
```

```
winrm create winrm/config/listener?Address=
IP:....+Transport=HTTP
```

– 認証方法「**Basic**」の有効化と、Windows Remote Manager Web サービスの値「**Negotiate/Kerberos**」の無効化：

```
winrm set winrm/config/service/auth @{Basic=
"true";Kerberos="false";Negotiate="false"}
```

```
winrm set winrm/config/service @{AllowUnencrypted=
"true"}
```

● ローカルグループポリシーエディタ *gpedit.msc* による設定

gpedit.msc を呼び出して、次のエントリを選択します。

「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」→「**Windows** コンポーネント」→「**Windows** リモート管理 (WinRM)」→「WinRM サービス」

次に、関連するプロパティを入力します。

2. 仮想サーバのリスト表示、および電源管理を行うためには、**ServerView Operations Manager** のユーザ/パスワードリストに、完全な管理者権限を持ったユーザ/パスワードの組み合わせが存在する必要があります。

WMI との接続の場合は、**Windows** ファイアウォールで **Windows Management Instrumentation (WMI)** をアクティブ化する必要があります。

Microsoft Windows Server 2008 R2 (x64) についての特記事項

Hyper-V サーバを Windows Server 2008 R2 (x64) に認識させるには、アクセス制限に関する Windows Registry のエントリを変更する必要があります。これを行うには、Administrators グループのメンバーである必要があります。次の手順に従います。

- ▶ 管理者としてログオンします。
- ▶ レジストリエディタ「regedit」を起動します。

さまざまなキーを持つウィンドウが開きます。

- ▶ キー HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6} に移動します。
- ▶ 右クリックして、このキーを選択します。
- ▶ コンテキストメニューで、「アクセス許可」を選択します。

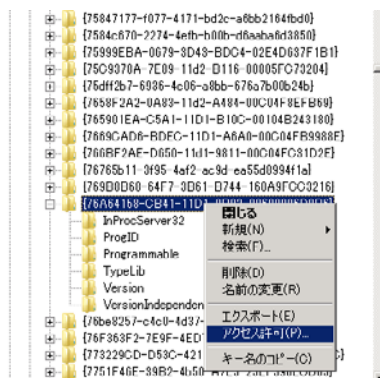


図 15: レジストリエディタ regedit

「セキュリティ」ウィンドウが開きます。

- ▶ 「詳細設定」ボタンをクリックします。

「セキュリティの詳細設定」ウィンドウが開きます。

- ▶ 「所有者タブ」を選択します。表示されている現在の所有者は、「TrustedInstaller」です。

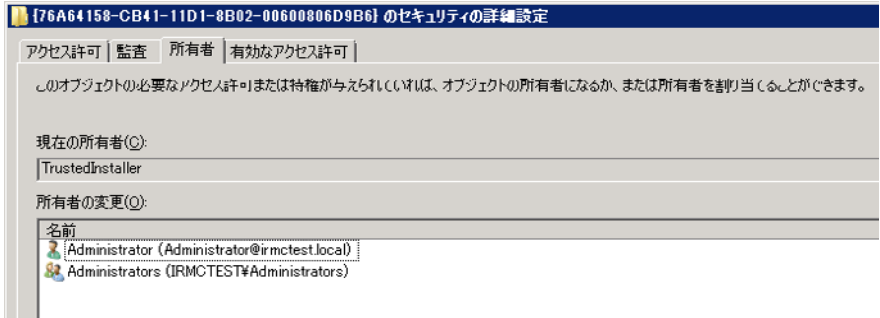


図 16: セキュリティの詳細設定 - 現在の所有者 TrustedInstaller

- ▶ 「所有者の変更」リストで、「Administrators」を選択します
- ▶ 「適用」をクリックして、新しい設定を保存します。これで、「現在の所有者」は「Administrators」に設定されます。

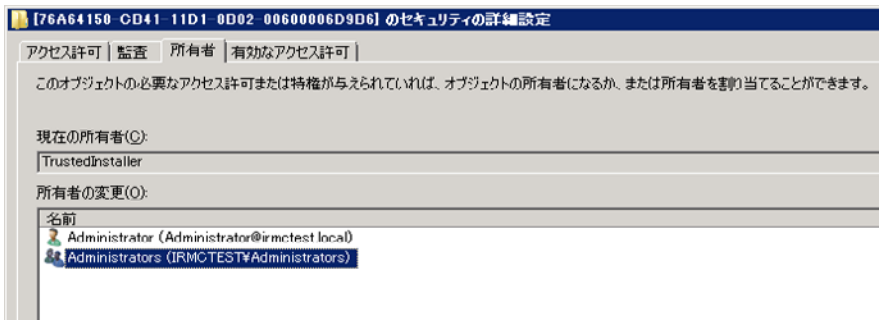


図 17: セキュリティの詳細設定 - 現在の所有者 Administrators

- ▶ 「OK」をクリックして、新しい設定を確定します。
- ▶ 「OK」をクリックして、すべてのダイアログボックスを閉じます。
- ▶ 上記のキーを再び選択して、コンテキストメニューから「アクセス許可」を再度選択します。アクセス制限の変更が有効になります。
- ▶ 「グループ名またはユーザ名」リストで「Administrators」を選択します。

- ▶ 「フル コントロール」チェックボックスを選択して、「Administrators」グループにフルアクセスを付与します。

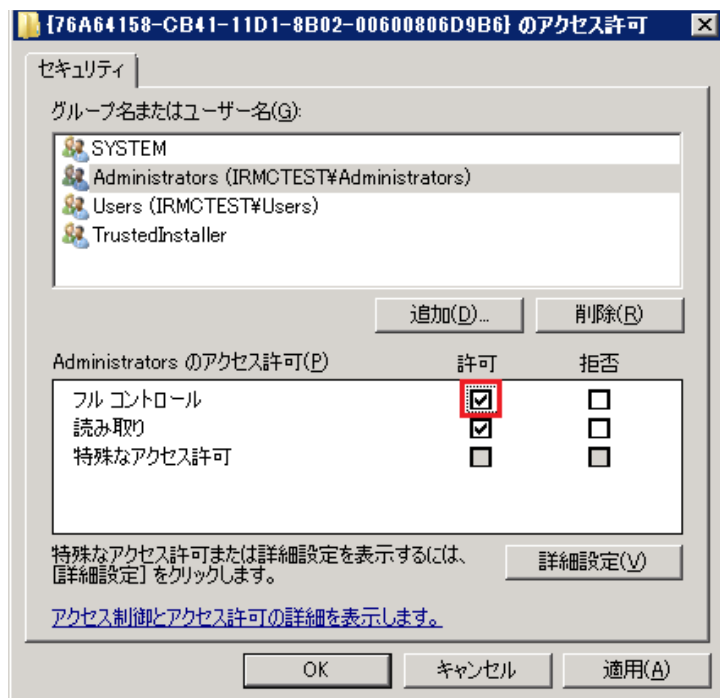


図 18: アクセス許可ウィンドウ

- ▶ 「OK」をクリックして選択を確定し、ウィンドウを閉じます。

設定は完了です。

- ▶ 「regedit」を閉じます。

Hyper-V サーバは、仮想サーバの IP アドレスを提供しません。仮想サーバをサーバリストの他のサーバに自動的に割り当てることができない場合は、仮想サーバは IP アドレスなしで表示されます。この場合、ServerView エージェントにアクセスすることはできません。しかし、サーバリストにあるサーバを仮想サーバに割り当てることができる場合は、そのサーバは Hyper-V サーバのグループに自動的に再度割り当てられます。Hyper-V Server (「biosID」) と ServerView エージェントによって提供された UUID を照合することで割り当てが実行されます。

5.2.4 サーバリストの PRIMEPOWER システム

PRIMEPOWER システムは、サーバリストで PRIMERGY のように表示されます。

サーバリストで PRIMEPOWER システムをクリックすると、PRIMEPOWER ServerView Suite の Web インタフェースが起動します。

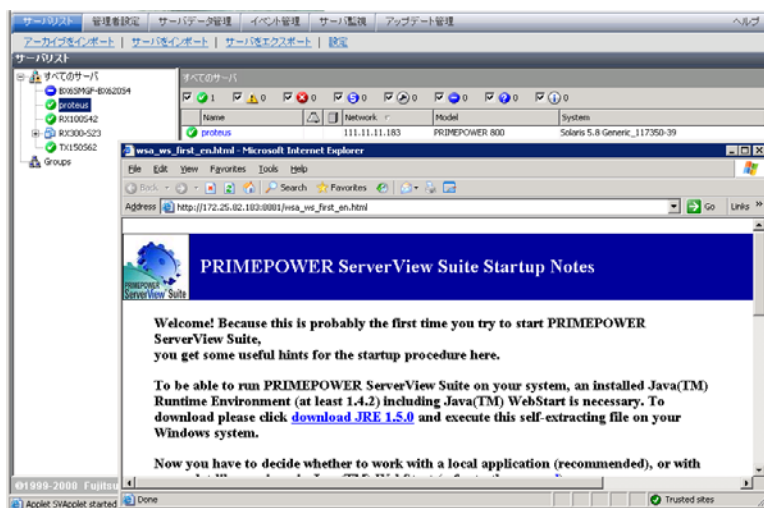


図 19: サーバリストの PRIMEPOWER システム

PRIMEPOWER ServerView Suite について、詳しくは、「PRIMEPOWER ServerView Suite - System Administration within a Domain」マニュアルをご覧ください。

5.2.5 サーバリストのストレージサブシステム

ストレージサブシステムは、ストレージサブシステムアイコンでサーバリストに表示されます。

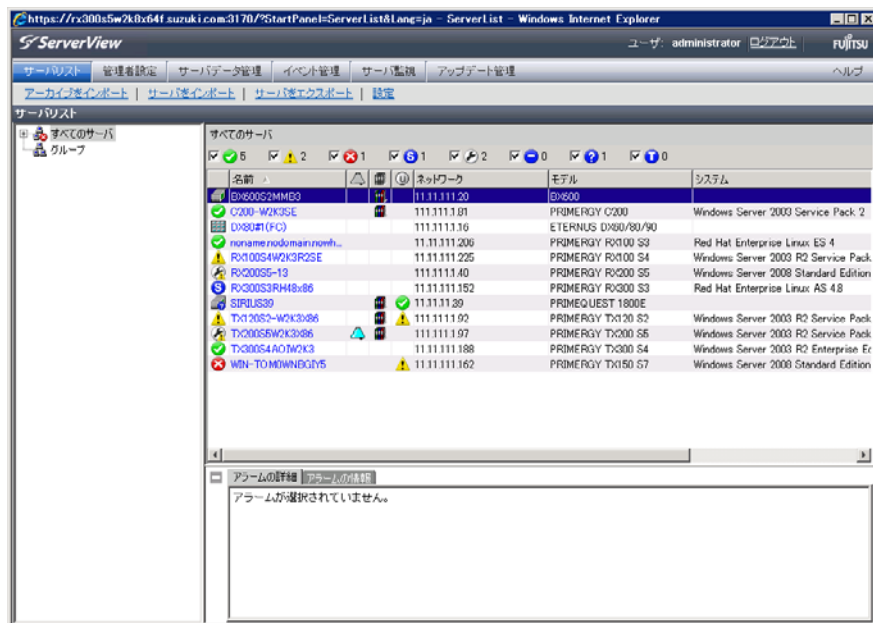


図 20: サーバリストのストレージサブシステム

以下のストレージサブシステムを識別します。

- 次のストレージサブシステムに対して、ServerView Operations Manager の「SV - Storage」画面に詳細が表示されます。
 - FibreCAT CX
 - FibreCAT SX
 - ETERNUS DX60/80/90
 - ETERNUS DX400/8000 ファミリー



FibreCAT CX ストレージサブシステムは、EMC² 社の CLARiiON CX に該当しますが、このマニュアルでは、便宜上、FibreCAT CX のみを使用しています。

- ストレージサブシステムの Web インタフェースを介して、次のストレージサブシステムに関する詳細が表示されます。
 - FibreCAT TX
 - CentricStor FS
 - ETERNUS 400/8000
 - NetApp

FibreCAT SX 60/80/88/100、FibreCAT SX80 iSCSI、FibreCAT CX モデル、ETERNUS DX60/80/90/400/8000

これらの FibreCAT と ETERNUS ストレージサブシステムでは、ServerView Storage Manager (StorMan) ソフトウェアによって必要な情報が提供され、ServerView Operations Manager 内に表示されます。

サーバリストでこの機種のストレージサブシステムをクリックすると、このストレージサブシステムに関する情報が「SV - Storage」画面に表示されます（「9 ストレージのデータの詳細確認」の章（209 ページ）をご覧ください）。

ストレージサブシステムを ServerView Operations Manager で管理するには、以下の要件が満たされている必要があります。

- ServerView Storage Manager (StorMan) が、ServerView Operations Manager と同じ管理用サーバ/パソコン上にインストールされている必要があります。
- ServerView Storage Manager (StorMan) サービス「StorMan Service」（Windows）、「bzw.storman」（Linux）を起動する必要があります。
- SMI-S（Storage Management Initiative Specification）プロバイダをインストールする必要があります。

FibreCAT SX60/80/88/100 モデルと ETERNUS DX60/DX80/DX90 には、SMI-S プロバイダが付属しています。この場合、特にインストールは必要ありません。

FibreCAT CX モデルと ETERNUS DX400/DX8000 の機種には SMI-S プロバイダが搭載されていません。これらの機種では、CIMServer/SMI-S プロバイダ V4.1 をインストールしてください。ServerView Storage Manager (StorMan) には EMC SMI-S プロバイダは付属していません。

ソフトウェア要件については、StorMan のマニュアルをご覧ください。



バージョン 4.0.1 現在の EMC CIMServer/SMI-S プロバイダに対してユーザ名が必要です。このユーザ名はストレージサブシステム設定時に設定してください（次をご覧ください）。

- ストレージサブシステムを正しく設定する必要があります。

FibreCAT SX60/80/88/100 モデルと ETERNUS DX60/DX80/DX9 では、オブジェクトをサーバリストに追加すると自動的に設定が行われます（「[5 サーバリストの管理](#)」の章（[112 ページ](#)）をご覧ください）。



ETERNUS DX60/DX80/DX9 SMI-S 機能には、有効なユーザ / パスワードの組み合わせが必要です。ETERNUS DX60/DX80 ストレージサブシステムを **ServerView** サーバリストに追加する前に、この組み合わせをユーザ / パスワード一覧に格納する必要があります（「[15 ユーザ / パスワード一覧の作成](#)」の章（[243 ページ](#)）をご覧ください）。

設定に問題がある場合は、次の **ServerView Storage Manager (StorMan)** の設定コマンドを実行してください。

```
storcfg cimom -add -ip <IP address of the storage system> -cimuser <user> -  
cimpwd <password>
```

ユーザ / パスワードを変更した場合は、次の **StorMan** 設定コマンドを実行してください。

```
storcfg cimom -mod -ip <ip-address of the storage system> -newuser <user> -  
newpwd <password>
```

- FibreCAT CX の機種では、SMI-S プロバイダをインストールした後で手動で設定を行う必要があります。**ServerView Storage Manager (StorMan)** の次の設定コマンドが必要です。

```
storcfg cimom -add -ip <IP アドレス>
```

IP アドレスを、SMI-S プロバイダがインストールされているサーバの IP アドレスに置き換えます。

バージョン 4.0.1 現在の EMC CIMServer/SMI-S プロバイダに対してユーザ名が必要です。このユーザ名はストレージサブシステム構成時に設定してください。

```
storcfg cimom -add -ip <IP address of the server with the installed SMI-S provider> -  
cimuser <user> -cimpwd <password>
```

ユーザ / パスワードを変更した場合、次の **StorMan** 設定コマンドを実行してください。

```
storcfg cimom -mod -ip <IP address of the server with the installed SMI-S provider> -  
newuser <user> -newpwd <password>
```



ソフトウェア要件

次の表は、個々のストレージサブシステムがサポートされている StorMan バージョンを示しています。

ストレージサブシステム	StorMan バージョン
FibreCAT CX3-10 Combo	バージョン 1.4
FibreCAT CX3-20 Combo	バージョン 1.4
FibreCAT CX3-40 Combo	バージョン 1.4
FibreCAT SX80 iSCSI	バージョン 2.0
FibreCAT SX 100	バージョン 2.0
ETERNUS DX60/DX80/DX90	バージョン 2.1
ETERNUS DX400/DX8000	バージョン 2.1.05

表 47: ソフトウェア要件



追加ドキュメント

FibreCAT ストレージサブシステムについては、「Monitoring FibreCAT CX systems with ServerView Operations Manager」および「Monitoring FibreCAT SX systems with ServerView Operations Manager」のマニュアルをご覧ください。

ETERNUS DX60/DX800 ストレージサブシステムについては、マニュアルをご覧ください。

ServerView Storage Manager (StorMan) について、詳しくは、「ServerView Storage Manager (StorMan)」マニュアル、または提供されている Readme ファイルをご覧ください。

FibreCAT TX、CentricStor FS、NetApp

サーバリストにあるストレージサブシステムをクリックすると、Web インタフェースが開きます。

5.2.6 サーバリストの Baseboard Management Controller (BMC)

BMC (Baseboard Management Controller) は、特別なアイコンでサーバリストに表示されます。サーバリストに表示できるのは、Fujitsu 製の BMC だけです。

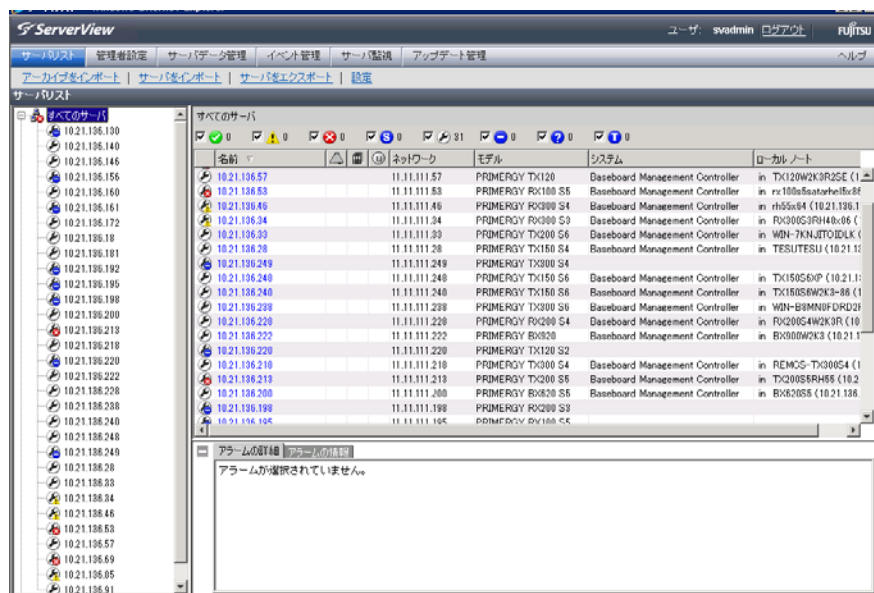


図 21: サーバリストの BMC

BMC エントリは、グローバルエラー LED のステータスを表示します。この LED のステータスは、グループのステータス（ファイルツリーの左側）や、サーバリスト上部の全体のステータスの概要では考慮されません。



要件

サーバリストに BMC を表示するには、ServerView Operations Manager のユーザ / パスワードのリストに、有効なユーザ / パスワードの組み合わせが存在する必要があります。

BMC エントリは、以下の場合にリストから自動的に削除されます。

- 新しいサーバをサーバリストに追加し、**ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、サーバリスト内の同じ **UUID** で **BMC** を識別する場合。
- **BMC** をサーバリストに追加し、**ServerView Services** サービス (Windows) または **SV Services** サービス (Linux) が、**UUID** でサーバリスト内にある関連付けられているサーバでステータスが「管理可能」であるものを識別する場合。
- **BMC** をサーバリストに追加し、**UUID** が同じだがステータスが「管理不可能」であるサーバがサーバリストにある場合。これはサーバの **IP** アドレスが無効であると考えられます。この場合、**ServerView** は、**ServerView** エージェントがサーバで動作しているかどうかをチェックします。動作している場合は、**ServerView** は、**ServerView** エージェントへの接続が **BMC** のシステム **IP** アドレスを使用して **SNMP** 経由で確立できるかどうかをチェックします。これが可能な場合は、サーバの **IP** アドレスは変更され、**BMC** はサーバリストから削除されます。
- **BMC** の **IP** アドレスが変更され、新しい **IP** アドレスとともに **BMC** をサーバリストに追加した場合。

→ 「MMB 設定」

5.3 サーバ / サーバブレードが管理できない (BladeFrame は未サポート)

サーバリストでサーバやサーバブレードに「管理不可能」アイコンが表示されている場合は、**ServerView** エージェントが応答していません。この場合は、サーバと管理者設定をチェックします。

例えば、PRIMERGY の場合は、次の手順を実行します。

- ▶ サーバの BIOS (「**Server**」メニュー) の「**Server Management**」パラメータが「**Enabled**」に設定されていることを確認する。
- ▶ すべてのデバイスで、BIOS の ASR&R 機能 (「**Server**」メニュー) が有効になっていることを確認する。
- ▶ すべてのサーバにエージェントがインストールされており、すべてのデバイスで **SNMP** サービスが有効になっていることを確認する。

ブレードサーバが管理できない場合は、**Telnet** や **Web** インタフェース (「**Server View**」→「**RemoteView Management Blade**」) で設定を確認できます。

サーバリストで **BladeFrame** が「管理不可能」とマークされている場合には、**BladeFrame** の **SNMP** エージェントは応答しません。この場合は、**BladeFrame** の **PAM Manager** で **BladeFrame** の設定を確認してください。「**Configuration**」→「**Egenera PAN Manager**」のように選択して、「**BladeFrame Server View**」画面の **ServerView Operations Manager** から **PAN Manager** の **Web** インタフェースを呼び出すことができます。

設定について詳しくは、[89 ページの「サーバリストの BladeFrame \(BladeFrame は未サポート\)」](#)の項をご覧ください。


5.4 サーバが管理できない / マネージメントコントローラアイコン

ServerView Operations Manager は、サーバに関する情報を次のような 2 つの別々の方法で受け取ります。

- サーバが動作している場合は、プライマリチャネル経由で受け取る。
- サーバが動作していない場合は、セカンダリチャネル経由で受け取る。ただし、セカンダリチャネルでは限られた情報しか提供されない。

プライマリチャネルは OS も使用している LAN 接続で、セカンダリチャネルはマネージメントコントローラ（RSB、BMC、iRMC）が使用している LAN 接続です。

ServerView Operations Manager は、IP アドレスに基づいて、情報を提供しているチャネルがどれかを認識します。

サーバにアクセスできない（管理不可能）場合、ServerView Operations Manager は、マネージメントコントローラにアクセスできるかどうかを確認します。マネージメントコントローラがセカンダリチャネル経由で応答した場合は、アイコンがサーバリストに表示されます。

応答せず、マネージメントコントローラアイコンで識別されるサーバについて詳しくは、[186 ページの「BMC / iRMC 搭載で監視不可状態のサーバ」の項](#)をご覧ください。

5.5 オブジェクトの定義と追加

新しいオブジェクトを定義してサーバリストに追加するには、以下のような方法があります。

- 「サーバブラウザ」画面で行う方法（[112 ページ](#)をご覧ください）
- アーカイブからインポートする方法（[121 ページ](#)をご覧ください）
- CSV ファイルをインポートする方法（[122 ページ](#)をご覧ください）

5.5.1 サーバブラウザ画面でのオブジェクトの追加

サーバブラウザプロパティ画面を使用して、新しいオブジェクト（サーバ、ブレードサーバ、クラスタ、Xen サーバなど）を定義し、サーバリストに追加できます。サーバブラウザ画面を開くには、「管理者設定」→「サーバブラウザ」のように選択します。

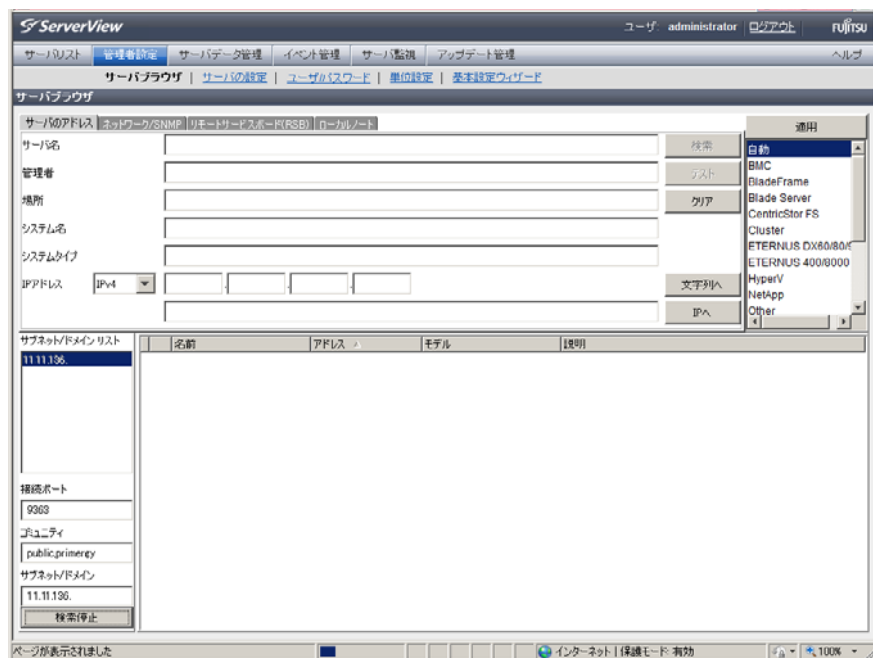


図 22: サーバブラウザの例

画面最上部に、選択したオブジェクトのタブと情報が表示されています。

画面最下部で、提供されているブラウザを使用して、選択したネットワーク内のオブジェクトを検索できます。

「サーバのアドレス」タブで対応する名前とアドレスを指定するか、ブラウザで 1 つ以上のオブジェクトを選択して、新しいオブジェクトを定義できます。

5.5.1.1 タブでのオブジェクトの定義

サーバのアドレス タブで、サーバのサーバ名と IP アドレスを入力します。サーバ名または IP アドレスだけを入力して、「検索」ボタンを使用して詳細な内容を検索し（存在する場合）、入力することもできます。

「IP アドレス」選択リストで、IP V4 アドレスまたは IP V6 アドレスを持ったサーバを検索するかどうかを指定できます。IP V6 アドレスの場合は、「検索」ボタンを使用して詳しい情報を検索することはできません。

IP アドレスフィールドに IP アドレスを入力することも、その下のテキストボックスに文字列を入力することもできます。「文字列へ」ボタンをクリックすると、IP アドレスフィールドに入力した IP アドレスが文字列に変換されます。「IP へ」ボタンをクリックすると、文字列として入力した IP アドレスが、対応する IP アドレスフィールドに自動的に挿入されます。

「サーバのプロパティ」画面のサーバのアドレスタブで、サーバの IP アドレスを変更できます（[49 ページの "サーバのアドレス タブ \(サーバのプロパティ <サーバ名> プロパティウィンドウでの操作\) "](#)をご覧ください）。

「テスト」ボタンを使用して、サーバへの接続をテストできます。「クリア」ボタンを使用して、タブの既存のエントリを削除できます。

画面右上部の選択リストで「自動」オプションを選択した場合は、選択したオブジェクトはブラウザによって自動的に決定されたサーバ機種にそれぞれ割り当てられます。サーバのアドレス タブのサーバリストに新しいエントリ（Xen サーバなど）がある場合は、目的のサーバのサーバ名と IP アドレスを必ず指定する必要があることに注意してください。



- **ServerView Services** サービス (Windows) または **SV Services** サービス (Linux) が、有効なユーザ / パスワードの組み合わせに基づいて VMware サーバへの接続を確立できる場合には、ServerView は Hyper-V サーバ、Xen/Citrix XenServer サーバ、VMware サーバも識別します。これには、**ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、ServerView Operations Manager で作成した有効なユーザ / パスワードの組み合わせに基づいて検索します。

- **ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、有効なユーザ/パスワードの組み合わせに基づいて BMC への接続を確立できる場合には、**ServerView** は BMC だけを識別します。これには、**ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、**ServerView Operations Manager** で作成したユーザ/パスワードリストを検索します ([「15 ユーザ/パスワード一覧の作成」の章 \(243 ページ\)](#) をご覧ください)。

i

ストレージサブシステムは以下のように認識されます。

ストレージサブシステム	認識されたサーバ機種
CentricStor FS	CentricStor FS
ETERNUS DX60/80/90	ETERNUS DX60/80/90
ETERNUS 400/8000	ETERNUS 400/8000
NetApp	NetApp
FibreCATSX60/SX80/SX88/100	Storage
Fibre-CAT SX80 iSCSI	Storage
FibreCAT CX models	Storage
FibreCAT TX	Storage
All others	Other

表 48: ストレージサブシステムのサーバ機種

サーバ機種（サーバ、ブレードサーバ、クラスタ、PRIMEPOWER、ストレージなど）を自分で定義することもできます。プリンタのような TCP/IP デバイスには、「Other」を選択します。

「適用」ボタンをクリックすると、表示されている値が適用されます。

5.5.1.2 ブラウザでのオブジェクトの定義

ブラウザには以下の 2 つの部分があります。

- 画面の左側に、検索操作を開始する役割を果たすネットワークエンティティが表示されます。
- 画面の右側に、選択したネットワークエンティティのオブジェクトが表示されます。2 つのステータスアイコンのプレフィックスが付いたサーバ名、ネットワークアドレス、機種名、説明が出力されます。ネットワークアドレス、機種名、説明は、**ServerView Operations Manager** がそれらを識別できる場合にのみ出力されます。



BMC にサーバ名が割り当てられていない場合は、IP アドレスが表示されます。

画面左下のエリアには、以下を入力します。

1. オブジェクトを検索するサブネットまたはドメイン。



ドメインを検索できるのは **Windows** だけです。**Linux** では検索できるのはサブネットだけです。



ドメインを検索する場合は、以下に注意してください。

- ドメインの検索には時間がかかる場合があります。検索に必要な時間は毎回異なる場合があります。
- 検索結果のリストは、**Windows Application Programming Interface (WinAPI)** によって異なる場合があります。

2. 使用するコミュニティ。これは、管理しているサーバで **SNMP** 設定を行っている際に指定したコミュニティです。



複数のコミュニティを指定する場合は、連続したコミュニティをカンマで区切って指定します。コミュニティの文字列にカンマが含まれている場合は、そのカンマの前にバックスラッシュを挿入する必要があります（例：**commwith\,string**）。指定したコミュニティの数が多いと検索処理が遅くなることに注意してください。同様に、不正なコミュニティでアクセスしようとすると「**Authentication failure**」アラームが発生する場合があります。

デフォルトでは、自分自身のサブネットとコミュニティ「**public**」が入力されます。

検索の開始

検索を開始するには、「検索開始」ボタンをクリックします。検索中に、「検索停止」ボタンを使用して検索処理を中止することもできます。検索が終了すると、見つかったオブジェクトが IP アドレスの昇順で表示されます。名前の前にあるアイコンがオブジェクト型を表しています。最初の列のアイコンは、サーバリスト内に既存のオブジェクトを表しています。




- **ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、有効なユーザ / パスワードの組み合わせに基づいて **VMware** サーバへの接続を確立できる場合には、**ServerView** は **VMware ESX** サーバ **V3.0** を識別します。これには、**ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、**ServerView Operations Manager** で作成したユーザ / パスワードリストを検索します ([「15 ユーザ / パスワード一覧の作成」の章 \(243 ページ\)](#) をご覧ください)。
- **ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、有効なユーザ / パスワードの組み合わせに基づいて **BMC** への接続を確立できる場合には、**ServerView** は **BMC** だけを識別します。これには、**ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、**ServerView Operations Manager** で作成したユーザ / パスワードリストを検索します ([「15 ユーザ / パスワード一覧の作成」の章 \(243 ページ\)](#) をご覧ください)。
- ブラウザには、リストにある **Fujitsu** 製の **BMC** だけが表示されます。**BMC** の前の最初の列のアイコンは、**BMC** または関連付けられているサーバがサーバリストに入力済みであることを表しています。
- ブラウザは **Xen/Citrix XenServer** サーバを認識し、2 番目の列に  アイコンでマークします。関連する仮想サーバは、「**PRIMERGY Xen VM**」と表示されます

Xen/Citrix XenServer サーバは、関連付けられている仮想サーバに対して IP アドレスを提供しません。しかし、仮想サーバのエージェントステータスを確認するためには IP アドレスが必要です。IP アドレスは、次の方法で仮想サーバに割り当てることができます。



- 「PRIMERGY XEN VM」というマークが付いているシステムをサーバリストに挿入できます。これで、**ServerView Operations Manager** は、UUID または MAC アドレスに基づいて Xen/Citrix グループにサーバを自動的に割り当てることができます。したがって、グループ内の仮想サーバは IP アドレスを取得し、サーバステータスを判別できます。
- 「**Server Properties**」ウィンドウを使用して、後で IP アドレスを定義できます。
- **ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、有効なユーザ / パスワードの組み合わせに基づいて Hyper-V サーバへの接続を確立できる場合には、**ServerView** は Hyper-V サーバを識別します。これには、**ServerView Services** サービス (Windows)、または **SV Services** サービス (Linux) が、**ServerView Operations Manager** で作成したユーザ / パスワードリストを検索します ([「15 ユーザ / パスワード一覧の作成」の章 \(243 ページ\)](#) をご覧ください)。

ブラウザは Hyper-V サーバを認識すると、2 番目の列に  アイコンでマークします。関連付けられている仮想サーバには、「PRIMERGY Hyper-V」というマークが付けられます。

Hyper-V サーバは、関連付けられている仮想サーバに対して IP アドレスを提供しません。しかし、仮想サーバのエージェントステータスを確認するためには IP アドレスが必要です。IP アドレスは、次の方法で仮想サーバに割り当てることができます。

- 「**Server Properties**」ウィンドウを使用して、後で IP アドレスを定義できます。
- 「PRIMERGY HYPER-V VM」というマークが付いているシステムをサーバリストに挿入できます。これで、**ServerView Operations Manager** は、UUID または MAC アドレスに基づいて Hyper-V グループにサーバを自動的に割り当てることができます。したがって、グループ内の仮想サーバは IP アドレスを取得し、サーバステータスを判別できます。

検索に成功したネットワークインスタンスが、配置されたオブジェクトのリスト横の小さな画面に表示されます。

サーバ機種の割り当て

画面右上部の選択リストで「自動」オプションを選択した場合は、選択したオブジェクトはブラウザによって自動的に決定されたサーバ機種にそれぞれ割り当てられます。

i

ストレージサブシステムは以下のように認識されます。

ストレージサブシステム	認識されたサーバ機種
CentricStor FS	CentricStor FS
ETERNUS DX60/DX80/DX90	ETERNUS DX60/80/90
ETERNUS DX400/DX8000	ETERNUS 400/8000
ETERNUS TAPE LIBRARY	ETERNUS LT
NetApp	NetApp
FibreCATSX60/SX80/SX88/100	Storage
Fibre-CAT SX80 iSCSI	Storage
FibreCAT CX models	Storage
FibreCAT TX	Storage
All others	Other

表 49: ストレージサブシステムのサーバ機種

サーバ機種（サーバ、ブレードサーバ、クラスタ、PRIMEPOWER、ストレージなど）を自分で定義することもできます。プリンタのような TCP/IP デバイスには、「Other」を選択します。

「適用」ボタンをクリックした場合は、表示されている値が選択したすべてのサーバに適用されます。

検索エラーの考えられる原因

環境によっては、ブラウザ操作時にエラーが発生する場合があります。これには、以下のような原因が考えられます。

- **ServerView Operations Manager** が認識できるのは、起動中のコンピュータだけです。
- ネットワーク情報の中には、**Microsoft Windows Network** を検索している際にときどき認識されないものがあります。これは、**Microsoft Windows** がネットワーク情報を取得するために使用する方法（ブロードキャスト法など）によって異なります。

- セキュリティ措置のため、サブシステムにアクセスできない場合があります。サブシステムサーバにアクセスできないことが原因で、サブシステムを利用できない場合があります。その場合には、制限時間が経過した際に検索操作が終了します。これには数分かかる場合があります。
- これ以外のネットワークシステムも、同様の原因で利用できない場合があります。
- サーバの IP アドレスが既知であっても「不明」と識別された場合は、サーバが起動していないか、ネットワークエラーが発生している可能性があります。
- コンピュータ名の IP アドレス解決に時間がかかる場合は、ログインしたコンピュータで **WINS** または **DNS** が正しく設定されていない可能性があります。プライマリまたはセカンダリ **WINS** サーバのアドレス、または **DNS** サーバのアドレスが無効である可能性があります。**WINS** プロトコルが正しく起動していない場合には、IP アドレス解決は、時間のかかるブロードキャスト名クエリの手順を使用して行われます。ネットワーク設定の **TCP/IP** パラメータを使用して、**WINS** や **DNS** を設定できます。
- IP アドレスが見つからない場合、以下のような原因が考えられます。
 - **TCP/IP** がリモートコンピュータにインストールされていない。
 - ログインしているコンピュータで **WINS** が有効になっていない。
 - **LAN** 内に、**WINS** サーバ、**DNS** 情報、**LMHOSTS** ファイルがない。
 - **WINS** データベースが更新されていない。
 - **WINS**、**DNS**、**LMHOSTS** ファイルによってアドレス解決が不可能な場合には、ブロードキャストでのクエリが実行されます。このクエリはネットワークの接続形態やパフォーマンス上の問題で失敗する場合があります。サブシステム内のルータがブロードキャストでのクエリを転送しない場合などが考えられます。
- 仮想システムが認識されない場合は、ユーザ / パスワードの組み合わせが間違っているか、仮想システムを認識および照会するために **ServerView** が必要とする条件の一部を仮想システムが持っていないことが考えられます。

5.5.1.3 サーバリストへのオブジェクトの追加

- ▶ 「サーバブラウザ」画面で、追加するオブジェクトを選択します。
 - 「サーバのアドレス」タブでオブジェクトを定義するか、
 - ブラウザで1つ以上のオブジェクトを選択します。
- ▶ 「適用」ボタンをクリックします。

設定したオブジェクトの名前とネットワークアドレスは一意である必要があります。設定済みのオブジェクトと同じ名前やネットワークアドレスを持ったオブジェクトを作成しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

クラスタ内に手動でオブジェクトを作成することはできません。すべてのサーバノードはクラスタに自動的に追加され、関連付けられているサーバオブジェクトが自動的に生成されます。サーバオブジェクトが「すべてのサーバ」グループ内で定義済みの場合は、クラスタに自動的に追加されます。

5.5.1.4 サーバリストへの TCP/IP デバイスの追加

ServerView Operations Manager は、プリンタのような TCP/IP デバイスもサポートしています。それらのデバイスを管理することはできませんが、「ping」ポーリングには応答します。次の手順を実行して、これらのデバイスをサーバリストに追加します。

- ▶ メニューから「管理者設定」→「サーバブラウザ」を選択して、「サーバブラウザ」画面を開きます。
- ▶ デバイスの IP アドレスを入力して、デバイスの種類で「Other」を選択します。
- ▶ 「適用」ボタンをクリックして確定します。

そのデバイスのアイコンがサーバリストに表示されます。

アプリケーションの定義

これらの TCP/IP デバイスに対して Web アプリケーションを定義できます。

- ▶ コンテキストメニューで、そのデバイスの「サーバのプロパティ」画面を開きます。
- ▶ Web アプリケーションの URL を「TCP アプリケーション」タブの「Web Application (URL) to be started for this machine」に入力します。

サーバリストにあるそのデバイスをクリックすると、アプリケーションが起動します。

5.5.2 アーカイブデータのインポートによるオブジェクトの追加

サーバのアーカイブデータをインポートすることによって、新しいサーバをサーバリストに追加することもできます。これには、次の手順を実行します。

- ▶ 「サーバリスト」メニューを選択し、「アーカイブをインポート」を選択します。
- ▶ 「アーカイブをインポート」画面で、インポートするアーカイブを選択し、「インポート」をクリックします。
- ▶ 表示内容を確認し、「OK」をクリックします。
選択したアーカイブのサーバが、サーバリストに追加されます。



ブレードサーバのアーカイブデータをインポートする際には、まずブレードサーバのアーカイブをインポートし、次に個々のサーバブレードのアーカイブをインポートする必要があります。

BladeFrame でのインポートの手順は通常のサーバと同じです
(**BladeFrame** は未サポート)。

5.5.3 csv ファイルのインポートによるオブジェクトの追加

オブジェクトに対して **csv** ファイルを作成してサーバリストにインポートすることで、オブジェクトをサーバリストに追加できます。この手順は、サーバの一覧をサーバリストに追加するのに特に適しています。

インベントリマネージャでサーバリストをエクスポートして、**csv** ファイルを作成することができます（データのエクスポート：SV ServerList、フォーマットのエクスポート：CSV、セパレータはタブ、デリミタは引用符）。

（[131 ページの「サーバリストのエクスポート」の項](#)をご覧ください。）

または、**ServerView** とは別に、スクリプトを使用して行うこともできます。

ファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

- ▶ 「サーバリスト」画面で、「サーバリスト」メニューを開き、「サーバをインポート」を選択します。
- ▶ 「サーバをインポート」画面で、関連する **csv** ファイルを選択し、「インポート」ボタンをクリックします。
- ▶ 表示される質問を確認し、「OK」をクリックします。

この場合、**csv** ファイルのオブジェクトがサーバリストに追加されます。サーバがまだサーバリストにない場合は、自動的に追加されます。サーバがすでにサーバリストにある場合は、サーバリストの詳しい情報（サーバ名、IP アドレス、コミュニティなど）が、**csv** ファイルの内容に上書きされます。



csv ファイルには、サーバ名、IP アドレス、SNMP コミュニティ、タイムアウトの各列が必要です。

5.5.4 コマンドによるサーバのインポート

SVImportServerList コマンドを使用して、サーバをサーバリストに追加できます。

このスクリプトは、**Windows** では次のディレクトリに置かれています。

「<Installation_directory>」 → 「ServerView Services」 → 「scripts」 → 「ServerView」 → 「common」

このスクリプトは、**Linux** では次のディレクトリに置かれています。

/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/common

構文

SVImportServerList <file>

パラメータ

file

インポートするサーバデータを含むファイルの名前。ファイルには、次の情報が含まれている必要があります: 名前、IP アドレス、コミュニティ名、タイムアウト値。

例:

```
"DALLAS", "172.25.88.134", "public1", 5
"RX200A1", "172.25.90.15", "public", 5
"RX330S12", "172.25.90.75", "public", 5
"TX300S42", "172.25.92.139", "public", 5
```

5.6 ユーザ固有のサーバグループの作成

アプリケーション固有の基準（事業形態、会社組織、複数のオフィスへの配置など）でサーバをグループ化することもできます。これには、該当のグループを設定し、サーバをこれらのグループに個別に割り当てます。

新しいグループを定義するには、「サーバリスト」画面のファイルツリーの左にある「グループ」を選択し、コンテキスト画面で「新しいグループ」を選択します。

「新しいグループ」画面で、新しいグループの名前とファイルツリー内の位置を入力します。「グループへコピー」メニュー項目を使用して、新しいサーバをグループに追加できます。

5.7 オブジェクトの削除

5.7.1 ネットワーク、サブネット、ドメインの削除

サーバブラウザでネットワーク、サブネット、ドメインを削除するには、以下の手順を実行します。

- ▶ メニューから「管理者設定」→「サーバブラウザ」を選択して、「サーバブラウザ」画面を開きます。
- ▶ 「サブネット / ドメインリスト」で、関連するサブネットまたはドメインを選択します。
- ▶ コンテキストメニューで「削除」を選択します。

選択したサブネットまたはドメインはサーバブラウザから削除されます。



サーバブラウザの項目を削除してもサーバリストに影響はありません。

5.7.2 サーバリストからのオブジェクトの削除

サーバリストからオブジェクトを削除するには、以下の手順を実行します。

- ▶ 「サーバリスト」画面で、削除するオブジェクト / グループを選択します。
- ▶ コンテキストメニューで「削除」を選択します。

削除するオブジェクトに関連するアーカイブデータが存在する場合には、該当のアーカイブも削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5.7.3 コマンドによるサーバリストからのオブジェクトの削除

SVDeleteServer コマンドを使用して、サーバをサーバリストから削除できます。

このスクリプトは、**Windows** では次のディレクトリに置かれています。

「<Installation_directory>」 → 「ServerView Services」 → 「scripts」 → 「ServerView」 → 「common」

このスクリプトは、**Linux** では次のディレクトリに置かれています。

/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/common

構文

```
SVDeleteServer [-f <file>][[<server_name>][<server_name>...][*]
```

パラメータ

-f file

削除するサーバの名前を含むファイルの名前。

server_name

削除するサーバの名前。複数のサーバ名を指定するには、空白で区切ります。

*

サーバリストからすべてのサーバを削除します。

5.8 サーバリストのクラスタ

クラスタを識別する方法は2つあります。

- ブラウザが検出したオブジェクトはクラスタの可能性あります。これは、関連付けられている IP アドレスを使用して MIB クラスタエージェントをチェックすることで判定できます。
- オブジェクトはクラスタノードである可能性があります。これは、MIB インベントリエージェントをチェックすることで判定できます。サーバブラウザは、クラスタエージェントに対してクラスタ名を問い合わせます。このクラスタ名が存在しない場合には、関連付けられているクラスタアイコンとともにエントリをブラウザに追加します。

サーバリスト内に、クラスタが特別なグループとして表示されます。クラスタには、多くの制約があります。クラスタ内のサーバは、クラスタ管理によって定義され決まったグループを形成します。サーバをクラスタに追加することも、削除することもできません。このため、「新規」オプション、および「削除」オプション、移動オプション、また編集オプションのほとんどが無効になっています。

クラスタ自体、クラスタノード、クラスタグループ、クラスタリソース、クラスタネットワークには、異なったステータスになっている場合があります。ステータスは、画面右側のステータス列のアイコンによって表示されます。

[76 ページの「クラスタステータスのアイコン」の項](#)をご覧ください。

クラスタ設定の定義と表示

サーバリストでクラスタを選択し、次にコンテキストメニューで「サーバのプロパティ」を選択すると、「サーバのプロパティ」画面が表示されます。

タブの説明については [45 ページの「サーバのプロパティウィンドウ内のタブ」の項](#) をご覧ください。ボタンの意味については [44 ページの「サーバのプロパティウィンドウ内のボタン」の項](#) をご覧ください。

5.9 サーバリストのチェック

サーバリストを設定すると、自動的に監視がアクティブになります。オブジェクトをクリックすると、システム全体とサブシステムのステータス（大容量記憶装置、システムボード、電源、ファン、温度センサ、OS など）を参照できます。

問題が発生した場合には、サーバリストをチェックする必要があります。

- ▶ サーバ名と IP アドレスが正しく入力されていることを確認します。
- ▶ コンテキストメニューからアクセスする「接続テスト」画面で、サーバが所定のタイムアウト期間内に応答することを確認します。3つのテストが実行されます。
 1. ネットワーク接続（「Check TCP/IP」）。ping ユーティリティで実行します。
 2. SNMP 全般の接続（「Check SNMP」）。標準 SNMP エージェントがサーバにインストールされているかどうか、SNMP がインストールされ有効になっているかどうかを問い合わせます。
 3. Fujitsu SNMP 接続（「Check Node Type」）。Fujitsu SNMP エージェントがサーバにインストールされているかどうかを問い合わせます。インストールされている場合は、サーバの機種とステータスが判定されます。
 4. テストトラップ（「Check SNMP Trap」）。このサーバのトラップを受信できるかどうかをチェックします。



RSB S2 では、テストトラップはサポートされていません。

- ▶ 各サーバでこれらの手順を繰り返します。



Linux の場合、ローカルホスト（127.0.0.1/localhost）に対して接続テストを実施すると、テストトラップがタイムアウトになります。システムは、ServerView コンソールの要求先であるローカルホストの IP アドレスからの応答を待ち合わせますが、受信されたトラップへの実際の応答は、SNMP マスタエージェントで指定されているサーバの実際の IP アドレスからあるため、タイムアウトが発生します。タイムアウトは発生しますが、監視は問題なく行えます。

5.10 サーバのアラームの抑止

コンテキストメニューを使って、サーバリストにあるアラームの抑止を有効または無効に設定できます。

- ▶ サーバリストでサーバを右クリックします。
- ▶ 表示されたコンテキストメニューから「ミュートモード有効」または「ミュートモード無効」を選択します。

アラーム無視のアイコンは設定に応じて表示または非表示になります。

i 同様に、サーバグループのアラームの無視も設定できます。ただし、サーバリストにはサーバグループのアイコンは表示されません。サーバグループのアラーム設定の状態は、イベントマネージャのアラーム設定経由でのみ確認できます。

イベントマネージャでのアラームの設定に関する詳細は、「PRIMERGY ServerView Suite ServerView Event Manager」のマニュアルをご覧ください。

5.11 サーバリストを使用したアーカイブデータの記録

アーカイブマネージャを開始しないで、個々のサーバやサーバグループのアーカイブデータを記録できます。「サーバリスト」画面で該当するサーバやグループを選択し、コンテキストメニューから「今すぐアーカイブを取得」を選択してアーカイブ作成を開始します。サーバグループを選択すると、サーバごとにアーカイブが作成されます。

5.12 サーバに対する新規アップデートジョブの作成

アップデートマネージャを起動せずに、個々のサーバに対して新規のアップデートジョブを作成できます。この機能は、アップデートステータスが許可され（警告、重大）、アップデートタイプがサポートされている場合のみ使用できます。

次の手順に従います。

- ▶ 「サーバリスト」ウィンドウで、サーバリストから目的のサーバを選択します。
- ▶ コンテキストメニューから「すべてアップデート」を選択します。「ジョブ作成ウィザード」ウィンドウが開きます。このウィザードを使用して、新しいアップデートジョブを作成できます。ウィザードは複数のダイアログボックスで構成され、個々のステップを段階的に説明します。すべての必要なステップは、左側にツリー構造で表示されます。「戻る」ボタンと「次へ」ボタンをクリックすると、各画面へ段階的に移動します。
- ▶ 「ログオン」ダイアログを選択します。「ログオン」はウィザードの最初のステップです。ここで、ユーザ認証が必要なすべてのサーバにログオンします。
- ▶ 「バージョンの変更」ダイアログを選択します。「バージョンの変更」はウィザードの 2 番目のステップです。「バージョンの変更」を選択すると、「アップデート詳細」ダイアログボックスが開き、別のバージョンを新しいバージョンとして選択できます。
- ▶ 「ジョブ名の入力」ダイアログを選択します。「ジョブ名の入力」はウィザードの 3 番目のステップです。ここでは、ジョブに名前を割り当てます。
- ▶ 「TFTP の入力」ダイアログを選択します。「TFTP の入力」はウィザードの 4 番目のステップです。このステップは、アップデートが TFTP サーバを使用して実行される場合にのみ表示されます（マネジメントブレードの場合など）。
- ▶ 「ジョブのスケジュール」ダイアログを選択します。「ジョブのスケジュール」はウィザードの最後のステップです。ここで、ジョブを実行する時刻を指定します。

- ▶ エントリを確定するには、「終了」をクリックします。設定はデータベースに格納されます。「キャンセル」をクリックすると、変更を保存せずにウィザードが終了します。



「ジョブ作成ウィザード」の詳細は、『**ServerView Update Management**』マニュアルの「ユーザインターフェース」の章を参照してください。

5.13 サーバリストのエクスポート

正常なサーバリストを **csv** ファイルにエクスポートできます。

- ▶ 「サーバリスト」メニューで、「サーバをエクスポート」を選択します。
- ▶ これにより、格納したデータを参照して編集したり、ファイルに直接保存したりできます。

サーバのインポート機能を使用して、エクスポートしたサーバリストを既存のサーバリストにインポートできます。サーバリストのインポート方法については、[122 ページの「csv ファイルのインポートによるオブジェクトの追加」の項](#)をご覧ください。



- サーバリストのエクスポートが実行されない場合は、**Web** ブラウザの設定を確認してください。

例

Internet Explorer の場合：

- 「ツール」→「インターネット オプション」の順に選択します。
 - 「セキュリティ」タブをクリックします。
 - 「レベルのカスタマイズ」をクリックします。
 - 「ダウンロード」セクションの「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を「有効にする」に設定します。
- 他のサーバからエクスポートされたファイルをインポートできます。ASCII 以外の特殊文字がファイルに含まれていて、サーバを Linux 管理用サーバにインポートする場合は、Windows (Internet Explorer) を使用して Linux の **ServerView Operations Manager** にアクセスする方法でインポートすることをお勧めします。

データベースまたは OS が異なる場合でも、**ServerView Operations Manager** のバージョンが同じであれば、インポートは使用できます。ただし、ファイルを Linux にインポートする場合は、Windows (Internet Explorer) を使用して Linux の **ServerView Operations Manager** にアクセスし、インポートする必要があります。

5.14 サーバリスト設定の定義

サーバリストの更新設定の定義にはオプションがあります。自動更新を有効または無効にしたり、アップデートの間隔を指定したりできます。以下の手順を実行します。

- ▶ 「サーバリスト」画面で、「サーバリスト」メニューを開き、「設定」を選択します。「設定」画面が開きます。
- ▶ 設定画面で、「更新設定」オプションをクリックし、サーバリストの自動更新を有効にします。
- ▶ 設定画面の「毎秒」に、リストの自動更新の間隔を入力します。
- ▶ 「OK」をクリックして、入力値を確定します。「キャンセル」をクリックすると、変更を適用せずに画面が閉じます。

デフォルトでは、5 秒ごとに自動更新する設定になっています。

「サーバリスト」ウィンドウが開いたままの状態の間、定義された設定が有効です。

6 サーバデータの詳細確認

サーバリストに表示されている次のサーバについて、サーバデータの詳細を確認できます。

- ステータスが「OK」で、管理可能なサーバ
- アーカイブデータが存在するサーバ
- ステータスが「管理不可能」で、リモートマネジメントコントローラアイコンが表示されているサーバ（[184 ページの「監視不可状態のサーバ（マネジメントコントローラアイコンあり）」](#)の項をご覧ください。）
- ステータスが「管理不可能」で、BMC または iRMC が存在するサーバ（[186 ページの「BMC / iRMC 搭載で監視不可状態のサーバ」](#)の項をご覧ください。）

サーバリストでサーバ名をクリックするか、エントリを選択してコンテキストメニューから「サーバ画面を開く」を選択すると、「ServerView [サーバ名]」画面が表示され、選択したサーバの詳細情報を確認できます。

「ServerView [サーバ名]」画面を表示するには、さらに 2 つの方法があります。

- 監視対象サーバの Web アドレスを直接入力して、監視対象サーバの「ServerView [サーバ名]」画面を表示できます。
これを行うには、以下の Web アドレスを入力します。

`https://<サーバ名>.<ドメイン名>:3170/ServerView/svagent.htm`

監視対象サーバの「ServerView [サーバ名]」画面が表示されます。

ServerView Operations Manager が ServerView Web サーバにインストールされている場合は、「svagent.htm」を指定する必要はありません。

- 監視対象サーバの「ServerView [サーバ名]」画面は、ServerView イベントマネージャのアラームモニタから表示することもできます。アラームリストの「サーバ」の欄にあるサーバ名をクリックします。



図 23: ServerView [サーバ名] 画面

「ServerView [サーバ名]」画面では、選択したサーバの詳細情報を確認できます。確認できる情報は、システムに関するデータ、ハードディスク、ドライブ、ファイルシステム、インストールされたネットワークボード、拡張ボード、エラーバッファの内容などです。

「ServerView [サーバ名]」画面は複数の領域に分割されており、そのうちのいくつかは必要に応じて開いたり閉じたりできます。

画面左上に、機種名と機種の写真が表示されます。この部分は、必要に応じて開いたり閉じたりできます。

画面左下の「ステータス表示／設定」は、詳細情報の表示や操作を行うためのメニューです。メニューを選択することで、画面右下の表示を制御できます。このメニューの概要については、[58 ページの「ServerView ウィンドウのメニュー」](#)の項をご覧ください。次節以降で、各メニューについて簡単に説明します。詳しい説明については、ヘルプをご覧ください。

「ステータス表示／設定」内の表示は、必要に応じて開いたり閉じたりできます。

右側ペインのヘッダには、以下の情報やボタンが表示されます。

- ステータスアイコン

選択したサーバデータ（現在のデータやアーカイブデータ）に応じて、サーバの状態（ステータス）を表します。

- アラーム重要度アイコン（アラームメッセージがある場合）
複数のアラームメッセージがある場合は、最も重大なアラームの重要度アイコンが表示されます。
- アーカイブアイコン（サーバのアーカイブデータがある場合）
- 「表示データ」選択リスト

サーバの現在のデータ（オンライン：＜日付、時間＞）、またはアーカイブデータ（アーカイブ：＜日付、時間＞）のどちらを表示するかを選択します。サーバが利用できない場合でも、アーカイブデータにはアクセスできます。これが、問題の原因の解明に役に立つ場合があります。

ヘッダの左側のステータスアイコンは、ここでの指定に従って、オンラインまたはアーカイブデータのいずれかのサーバのステータスを表します。

- 「更新」ボタン

サーバのオンラインデータが表示されている場合は、選択したサーバや表示中のページのステータスを更新できます。サーバのアーカイブデータが表示されている場合は、この機能は無効です。

- サーバのオンラインデータが表示されている場合は「アーカイブ取得」ボタンが、アーカイブデータが表示されている場合は「アーカイブ出力」ボタンが表示されます。

- － サーバのオンラインデータが表示されている場合は、「アーカイブ取得」ボタンを使用して、サーバの現在のデータのアーカイブファイルを作成できます。「アーカイブ取得」ボタンをクリックすると、アーカイブ作成が開始されます。

アーカイブマネージャでアーカイブされているデータの状況を確認できます。詳しくは、アーカイブマネージャのマニュアルをご覧ください。

- － サーバのアーカイブデータが表示されている場合は、「アーカイブ出力」ボタンを使用して、現在のアーカイブデータを新しいブラウザ画面にエクスポートできます。その後、ブラウザの「名前を付けて保存」コマンドを使用して、データをブラウザ画面から保存できます。

- 識別灯 LED アイコン（サーバが識別灯 LED をサポートしている場合）
識別灯 LED アイコンは、サーバの識別灯機能のステータスを表します。
次のステータスがあります。



	識別灯が点灯している状態です。
	識別灯が点灯していない状態です。

表 50: 識別灯 LED 表示

サーバのアーカイブデータが表示されている場合は、識別灯 LED アイコンは常に灰色になっています。

- 「識別灯」 ボタン（サーバが識別灯 LED をサポートしている場合）
サーバが識別灯 LED をサポートしている場合、「ServerView」画面右上に「識別灯」ボタンが表示されます。「識別灯」ボタンを使って識別灯 LED を点灯させることで、サーバ室でサーバを識別できるようになります。

LED を操作する際、システムは、サーバに対してこの SET 操作が許可されているかどうか、ユーザ名とパスワードが設定されているかどうかを確認します。確認できた場合、ユーザ名とパスワードが検証されます。認証に失敗した場合は、ログインダイアログが開き、正しい ID を確認するメッセージが表示されます。

サーバのアーカイブデータが表示されている場合は、この機能は無効です。
- 「キャビネット詳細」の右側のボタン
「キャビネット詳細」の右側のボタンをクリックすると、キャビネットの機種、識別番号、ドアまたは筐体ステータス（開閉情報）を確認できます。この表示は、必要に応じて開いたり閉じたりできます。

6.1 システムステータス

「システムステータス」には、次のメニュー項目があります。

- 「環境」
 - － 「ファン」
 - － 「温度」
- 外部記憶装置
 - － 「RAID 構成」
- 「電源」
- 「ベースボード」
 - － 「CPU」
 - － 「メモリモジュール」
 - － 「電圧」
 - － 「BIOS セルフテスト」
- 「パフォーマンス」
 - － 「プロセッサ」
 - － 「メモリ」
 - － 「ネットワーク」
 - － 「ストレージ」
- 「ネットワークインターフェース」


「システムステータス」ビューには、メニュー項目の簡単な説明が表示されます。

また、ステータスアイコンも表示され、コンポーネントが正しく動作しているかどうかを確認できます。確認したいメニュー項目を選択すると、対応するコンポーネントの詳細情報を確認できます。


6.1.1 環境

「環境」をクリックすると、サーバのファン、温度センサ、接続されたストレージサブシステムの概要を確認できます。ファンや温度センサの詳細は、「ファン」メニュー項目や、「温度」メニュー項目から参照できます。

ドアや筐体のステータスなどの、サーバの全般的な情報も確認できます。

 サーバの機種によっては、ドアやケースの開閉情報を確認できない場合があります。

ケーブルで接続された 2 つのシステムから構成されているシステムの場合、2 番目のシステムは、1 番目のシステムの右側、「Ext. Cab」の下に表示されます。

 T850 PCI Extension Box が存在する場合は、「Ext. Cab」の下に表示されます。

6.1.1.1 ファン

「ファン」をクリックすると「ファン」ビューに切り替わり、サーバ内にあるすべてのファンが図と一覧表で表示されます。

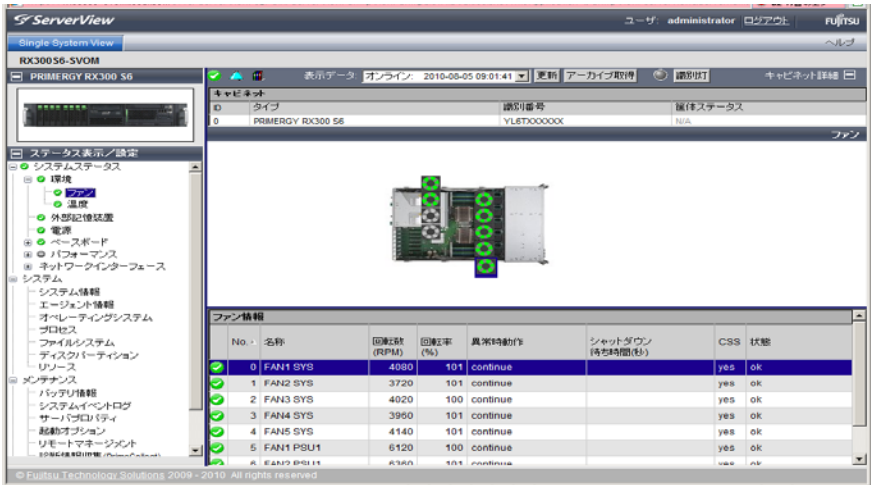



図 24: ファンビュー

 ファンは、図内のファンアイコンと一覧表で表示されます。

ファンアイコンは、以下を表します。

- 筐体内のファンの位置（図のファンアイコンの位置によって示されます。）
- ファンの状態（図表内のファンアイコンの色によって次のように示されます。）

色	意味
緑	OK
黄	警告
赤	異常
灰色	計測不可

図および表でファンアイコンを選択することで、個別のファンを選択できます。選択したファンおよび表のエントリは、背景が青色になります。

冗長ファンの図は重なって表示されます。2つの図が両方とも緑で表示される場合は、そのファンは冗長です。

- i**

- ファンを交換した場合、経年劣化の進行を交換時点からカウントし直すように、ファンを再設定する必要があります。V3.0以降のWindows用ServerViewエージェントがサーバにインストールされている場合は、「スタート」→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Suite」→「Agents」→「Maintenance Tools」を利用することにより設定が可能です。
 - 回転率はファン回転数テストが行われるまで変化しません。
 - ファン回転数テストは、サーバ起動時、およびリモートマネジメントコントローラで設定された時刻に行われます。

6.1.1.2 温度

「温度」をクリックすると、「温度」ビューに切り替わり、サーバのすべての温度センサが表に一覧表示されます。

表示される情報は次のとおりです。

- 温度センサの状態（ステータスアイコンによって示されます。）
- 温度センサの名称
- 現在の温度
- 温度センサのしきい値

各温度センサアイコンの色は、温度センサの状態を示します。

色	意味
緑色	OK
黄色	重大
赤色	シャットダウン温度に達した
灰色	計測不可
青色	温度センサが不良

- ステータスの判定には、サーバ（ハードウェア）が保持している基本しきい値が使用されます。
パフォーマンスマネージャで設定したしきい値とは無関係です
- **PRIMERGY ECONEL100 S2** の場合、**CPU** の温度センサに関する表示は常に次のようになります
- 基本しきい値：表示されません。
- 現在の温度の値：**n.a.**（not available）

なお、センサ自体のステータスについては、上記の表により判別可能です。

6.1.2 外部記憶装置

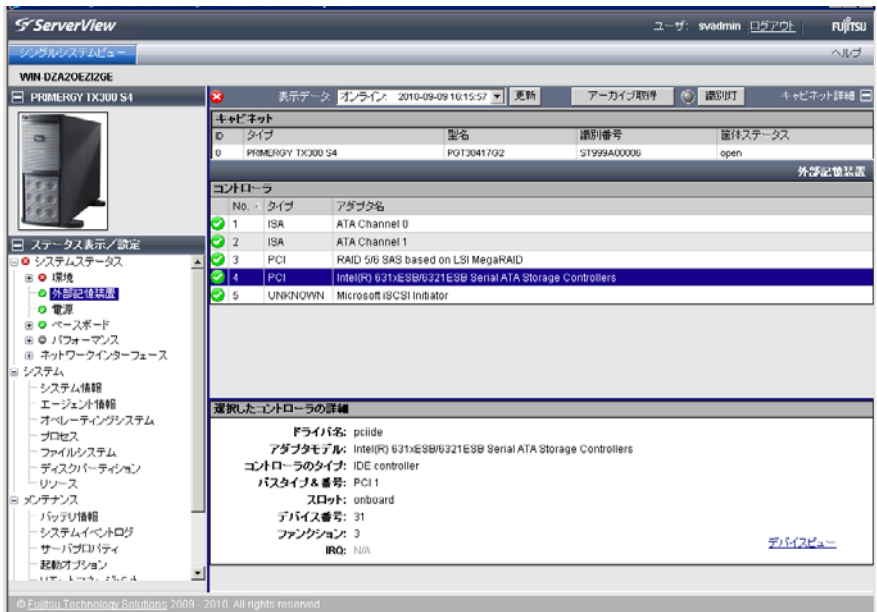


図 25: 外部記憶装置ビュー

「外部記憶装置」をクリックすると、コントローラの全般的な情報を確認できます。

「コントローラ」の下に、コントローラに関する最も重要な次のデータが表示されます。

ステータス、No.、タイプ (EISA、PCI、ISA)、アダプタ名

「選択したコントローラの詳細」の下に、コントローラリストで選択しているコントローラの詳細情報が表示されます。

「選択したコントローラの詳細」では、コントローラリストで選択したコントローラの機種に応じて、「デバイスビュー」リンク、または「Raid 構成」リンクが利用できます。

デバイスビュー

「選択したコントローラの詳細」で「デバイスビュー」をクリックすると、次の情報を確認できます。

接続されたデバイスの一覧

コントローラに接続されているデバイスについて最も重要なデータが接続されたデバイスの一覧に表示されます、表示される内容は次のとおりです。

番号、ステータス、S.M.A.R.T.、タイプ（詳細は HD-MIB を参照）、S.M.A.R.T. ステータス、名前

このリストで選択できるのは、1 つのデバイスだけです。

選択したデバイスの詳細

接続されたデバイスの一覧で選択したデバイスの詳細情報が表示されます。表示される内容は次のとおりです。

容量、SCSI チャンネル、SCSI ターゲット Id、SCSI-LUN、セクタ、シリンダ、ブロックサイズ、セクタサイズ、およびステータス表示があるデバイスタイプのアイコン。

選択したデバイスの S.M.A.R.T.

S.M.A.R.T. (Self Monitoring and Reporting Technology) プロシージャによって提供される情報が表示されます。S.M.A.R.T. は、ハードディスク障害を早期に発見するために使用する技術 (PDA = Prefailure Detection and Analysis) です。SCSI ハードディスクと ATA ハードディスクがサポートされます。



S.M.A.R.T. は、Windows と、V5.44 B 時点の Reliant UNIX で利用可能です。

RAID コントローラを選択し、コントローラビューで「デバイスビュー」をクリックした場合、次の追加情報が表示されます。

選択されたコントローラの詳細

リンクをクリックすると「ServerView RAID アダプタビュー」が開き、ハードウェア、キャッシュ、PCI の位置、および PCI デバイスの詳細が表示されます。

論理ドライブ

「論理ドライブ」には、コントローラのパーティションに関する最も重要な詳細が表示されます。「No.」、「名前、状態」および「RAID レベル」です。このリストでは、ドライブは 1 つずつのみ選択できます。

選択された論理ドライブの詳細

リストで選択したドライブの詳細が表示されます。確認できる詳細は、「ストライプサイズ」、「物理サイズ」、「初期化ステータス」、「論理サイズ」および「OS デバイス名」です。

キャッシュ情報

「キャッシュ情報」では、キャッシュの詳細が表示されます。「書き込みモード」、「キャッシュモード」、「読み取りモード」および「ディスクキャッシュモード」です。

物理デバイス

「物理デバイス」では、選択したコントローラに接続されている SCSI デバイスが表示されます。リンクは「ServerView RAID 物理デバイスビュー」を開きます。ここにはデバイス（名前、種類およびファームウェアのバージョンを含みます）と該当ハードディスク（状態と記憶容量を含みます）の詳細が表示されます。

RAID 構成

管理対象のサーバに **ServerView RAID Manager** がインストールされている場合は、「システムステータス」→「外部記憶装置」→「RAID 構成」から RAID 構成を起動できます。**ServerView RAID Manager** は、標準管理と、**PRIMERGY** のハードディスクの管理を行います。

RAID Manager についての詳細は、**ServerView RAID Manager** のマニュアルをご覧ください。

6.1.3 電源

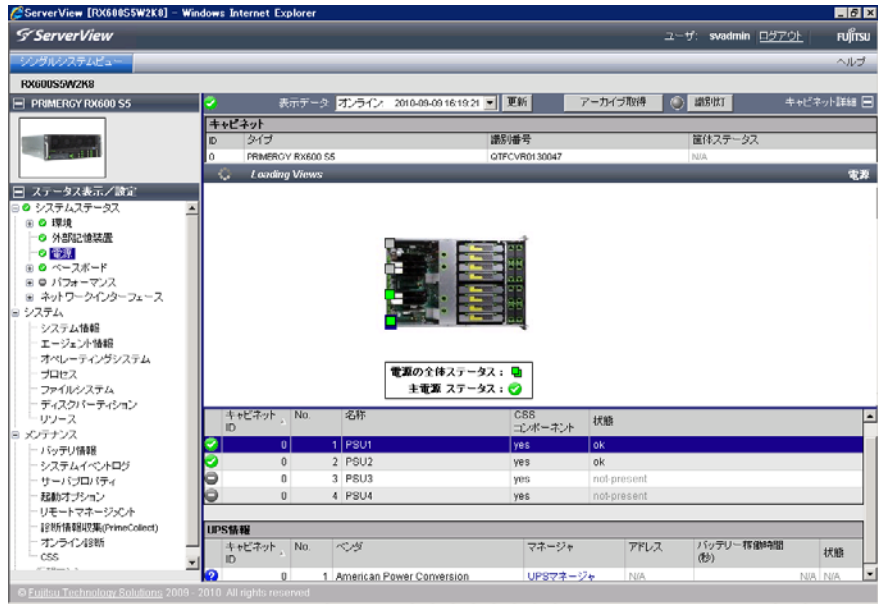


図 26: 電源ビュー

「電源」ビューはサーバとストレージサブシステムの電源の設定および状態に関する情報を表示します。

電源はサーバやストレージサブシステムの図上で四角形で表されます。四角形は次を示します。

- 筐体内の電源の位置（四角形の位置によって示されます。）
- 電源の状態（四角形の色によって次のように示されます。）

色	意味
緑	電源は正常に動作しています。
赤	電源が故障しています。
灰色	エージェントが応答していません。



電源の全体ステータスは、サーバやストレージサブシステム内の電源の全体状態を表示します。四角形の色の意味は次のとおりです。

色	意味
緑	電源は正常です。
赤	電源が遮断されました。
黄	電源に問題があります。

冗長電源は四角形が **2** つ重なったアイコンで表示されます。**2** つの四角形が緑で表示される場合は、その電源は冗長です。

図の四角形および表のエントリを選択することで個々の電源を選択できます。選択した電源または該当するエントリは、背景が青色になります。

主電源ステータスは、次のアイコンを使って主電源の状態を表示します。

アイコン	意味
	サーバまたはストレージサブシステムは正常に動作しています。
	サーバまたはストレージサブシステムにエラーがあります。

2 つのシステムをケーブルで接続してシステムを構成している場合、**2** 番目のシステムは **1** 番目のシステムの右側の「Ext. Cab」に表示されます。

システムが **Web** インタフェースを使ったストレージサブシステムで独自の IP アドレスを持っている場合（例：FibreCat、CentricStor FS、NetApp）、「電源」ビューには「設定」ボタンも表示されます。このボタンにより、ストレージサブシステムの **Web** インタフェースを起動できます。

「電源情報」表は最も重要な電源のデータを表示します。**1** つ目のカラムには電源の状態を示すアイコンが表示されます。表には次のカラムも表示されます。

- キャビネット ID
ユニット / キャビネット番号
- No.
電源番号

- 名称
電源の説明（例：PSU）
- CSS コンポーネント
このカラムは個々のコンポーネントが **CSS 機能（Customer Self-Service）** をサポートしているかどうかを示します。
- 状態
電源の状態

「UPS 情報」表には電源の情報が表示されます。この表は、UPS（無停電電源装置）デバイスが適宜に設定されている場合のみ表示されます。1 つ目のカラムには電源の状態を示すアイコンが表示されます。表には次のカラムも表示されます。

- No.
UPS デバイス番号
- ベンダ
製造者名（例：APC）
- マネージャ
「Manager」カラムでは、「UPS マネージャ」のリンクで UPS マネージャを起動できます。
- アドレス
「アドレス」カラムには UPS エージェントがインストールされているサーバの IP アドレスが表示されます。または Web カードを搭載した UPS が独自の Web サーバを持っている場合は、UPS 自身の IP アドレスが表示されます。エージェントのインストール中に設定したサーバの IP アドレス、および、UPS の設定中に設定した UPS の IP アドレスが表示されます。
- バッテリー稼動時間（秒）
現時点までに使用したバッテリー時間の合計が秒で表示されます。
- State
電源の状態

6.1.3.1 UPS マネージャ

UPS の詳細を取得するには、「UPS 情報」表の「UPS マネージャの起動」ボタンで UPS マネージャを起動します。設定によって、ServerView Operations Manager から、対応する UPS マネージャソフトウェア、または Web カードの Web インタフェースが起動します。

- UPS の IP アドレスがサーバの IP アドレスと同じ場合、または UPS マネージャソフトウェアが UPS 製造元と機種に登録されている場合は、該当する UPS マネージャソフトウェアが起動します。
- IP アドレスがサーバの IP アドレスと異なり、UPS マネージャソフトウェアが UPS 製造元と機種に登録されていない場合は、Web カードの Web インタフェースが起動します。

UPS の IP アドレスがサーバの IP アドレスと異なり、UPS マネージャソフトウェアが UPS 製造元と機種（APC、UPS など）に登録されている場合は、該当する UPS マネージャソフトウェアが起動します。

APC UPS を Web カードの Web インタフェースで管理して、UPS マネージャソフトウェアをインストールする場合は、UPS 機種に「APC WEB UPS」を指定する必要があります。

シリアル接続の UPS では、「UPS マネージャの起動」が表示されるのは、UPS マネージャアプリケーションが表示されている UPS に対して設定されている場合、または Web UPS が検出される場合（サーバと UPS の IP アドレスが異なっていて、UPS マネージャソフトウェアが見つからない場合）のみです。次の条件が満たされている必要があります。

- UPS をサーバに対して設定する必要があります（「ServerView Operations Manager インストールガイド」の、OS に対応する管理対象のサーバへのインストールに関する部分をご覧ください）。
- UPS マネージャソフトウェア（APC PowerChute Business Edition、Generex UPS Masterguard Software など）を、ServerView 管理ステーションにインストールする必要があります。

6.1.3.2 APC UPS

ServerView Operations Manager は、次の APC 製無停電電源装置（UPS）をサポートしています。

- サーバにシリアル接続され、該当する SNMP エージェントが管理対象のサーバにある UPS
- Web カードと専用 Web サーバがあり、該当する SNMP エージェントが UPS 自体にある UPS

シリアル接続の APC 製 UPS

シリアル接続の APC 製 UPS は、APC アプリケーション「PowerChute Business Edition」を使用して監視できます。

「UPS Information」表の「UPS マネージャの起動」で UPS マネージャを有効にすると、選択した UPS の Web ページが表示されます。UPS が接続されているサーバの IP アドレス、または UPS がネットワークで利用可能な場合は UPS 自体の IP アドレスが「電源」ビューの「アドレス」フィールドに表示されます。

APC アプリケーションを起動する前に、APC の CD を使用して、管理対象のサーバに PowerChute Business Edition をインストールする必要があります。Web サーバは、サーバの PowerChute Business エージェントとともに動作します。

Web カード付き APC 製 UPS

Web カードと専用 Web サーバを搭載した APC 製 UPS を選択した場合は、「電源」ビューの「UPS マネージャの起動」をクリックすると、Web カードの Web インタフェース、または APC の UPS マネージャアプリケーションが起動します。

- IP アドレスがサーバの IP アドレスと異なり、UPS マネージャソフトウェアが UPS 製造元と機種に登録されていない場合は、Web カードの Web インタフェースがブラウザで自動的に起動します。
- UPS の IP アドレスがサーバの IP アドレスと異なり、UPS マネージャソフトウェアが UPS 製造元と機種に登録されている場合は、APC の UPS マネージャソフトウェアが自動的に起動します。



UPS マネージャソフトウェアがインストールされているサーバで、Web カードの Web インタフェースを使って APC UPS を管理したい場合は、UPS 機種に「APC WEB UPS」を指定する必要があります。

APC の Web カードの Web インタフェース

UPS Web インタフェースについての詳細は、APC のマニュアル「Network management card - user's guide」をご覧ください。

6.1.4 ベースボード

「ベースボード」ビューで、次のコンポーネントとそのステータスの概要を確認できます。

- 「CPU」- 物理 CPU および論理 CPU のステータスと量
- 「メモリ」- メモリモジュールのステータスと利用可能なメモリ容量
- 「電圧」- 電圧のステータス
- 「バスとアダプタ」- サポートしているバスの種類などの、バスシステムのステータス
- 「BIOS セルフテスト」- BIOS セルフテストのステータス
- 「Trusted Platform Module (TPM)」- Trusted Platform Module のステータス

「ベースボード」ビューまたは「ベースボード」メニューのメニュー項目の「ステータス」リンクをクリックすると、詳細情報を確認できます。「バスとアダプタ」メニュー項目は、「ベースボード」ビューからも利用できます。

メニュー項目について、説明します。

6.1.4.1 CPU

「システムステータス」→「ベースボード」→「CPU」を選択すると、プロセッサの詳細を表示できます。すべての CPU とステータスが表示されます。

6.1.4.2 メモリモジュール

「システムステータス」→「ベースボード」→「メモリモジュール」を選択すると、すべてのメモリモジュールと、「名称」、「モジュールステータス」、「サイズ (MB)」、「承認」、「タイプ」が表示されます。



メモリモジュールを交換した場合は、エラーカウンタを 0 にリセットする必要があります。V3.0 以降の Windows 用 ServerView エージェントがサーバにインストールされている場合は、「スタート」→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Suite」→「Agents」→「Maintenance Tools」を利用することにより設定が可能です。

6.1.4.3 電圧

「システムステータス」→「ベースボード」→「電圧」を選択すると、サーバのメインボードの電圧の詳細を表示できます。

6.1.4.4 BIOS セルフテスト

「システムステータス」→「ベースボード」→「BIOS セルフテスト」を選択すると、BIOS セルフテストの結果を表示できます。

ステータスに「異常」アイコンが表示されている場合、[リセット]をクリックすることで「正常」アイコンに戻すことができます。

「異常」の詳細情報は「[6.3.2 システムイベントログ](#)」画面で確認してください。



「リセット」をクリックして「正常」アイコンに戻った状態で、**ServerView** エージェントを再インストールすると、再び「異常」アイコンになる場合があります（同時にトラップが発生する場合があります）。この場合「正常」アイコンに戻すには、再度「リセット」をクリックしてください。

6.1.4.5 バスとアダプタ

「システムステータス」→「ベースボード」→「バスとアダプタ」を選択すると、EISA や PCI などの既存のバスシステムの詳細を表示して、接続するコントローラやその機能などを確認できます。

6.1.4.6 Trusted Platform Module

「システムステータス」→「ベースボード」→「TPM」を選択すると、Trusted Platform Module の詳細情報とステータスを表示できます。

6.1.5 パフォーマンス

「パフォーマンス」メニュー項目をクリックすると、管理対象のサーバの複数のコンポーネントのパフォーマンスと稼動状況の概要を確認できます。これにより、特定のサーバコンポーネントのパフォーマンスのボトルネックを特定し、必要に応じて他のプロセッサを追加したり、より高速なネットワークボードをインストールするなどの手段で、パフォーマンスの向上を図れます。必要なデータは、スレッシュホールドマネージャによって供給されます。スレッシュホールドマネージャには、管理対象のサーバの複数のパフォーマンスパラメータのしきい値が定義され格納されています。ログデータに基づき、コンポーネントの現在の稼動状況、または長期間の稼動状況のグラフを表示できます。

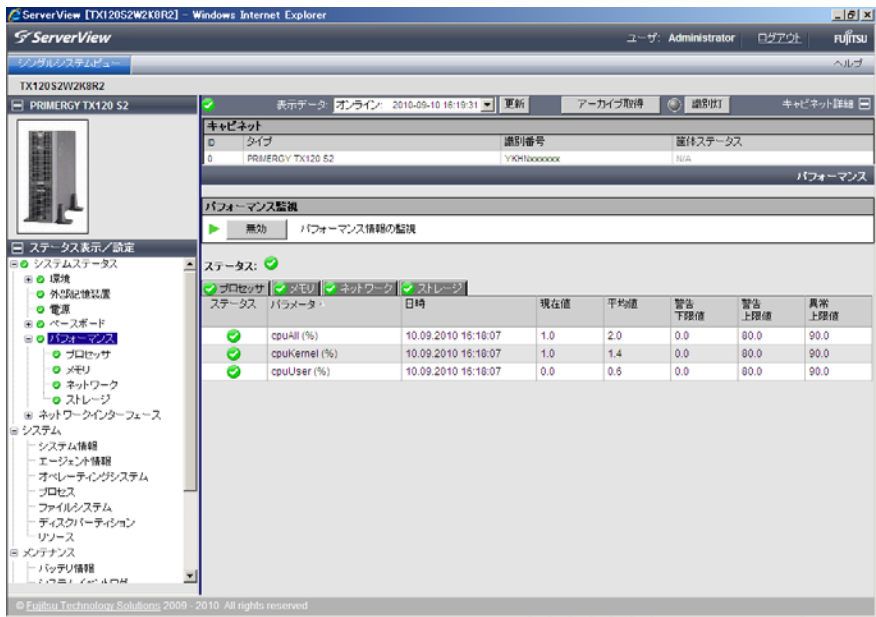



図 27: パフォーマンス

「パフォーマンス」メニュー項目を選択すると、「パフォーマンス」ビューが表示され、特定のサーバコンポーネントのステータスと現在の稼動状況の概要が表示されます。

右側のウィンドウペイン上部の「パフォーマンス監視」ヘッダーの真下にあるボタンを使用して、パフォーマンスの監視を有効または無効にできます。パフォーマンスの監視を有効にすると、▶ アイコンが左側に表示されます。

その右側にある「無効」ボタンをクリックすると、このサーバのパフォーマンス監視が無効になります。このボタンは、パフォーマンス監視が全体にわたって有効になっている場合のみ有効です（基本設定ウィザード：「しきい値管理」ステップまたは、しきい値管理：「設定」タブ）。

パフォーマンス監視を無効にすると、左側に  アイコンが表示されます。その右側にある「有効」ボタンをクリックすると、このサーバのパフォーマンス監視が有効になります。このボタンは、パフォーマンス監視が全体にわたって有効になっている場合のみ有効です（基本設定ウィザード：「しきい値管理」ステップまたは、しきい値管理：「設定」タブ）。

複数のパフォーマンスパラメータの測定値が、次のタブに表示されます。

- － 「プロセッサ」タブ
物理 CPU や論理 CPU の稼動ステータスを表すデータを確認できます。
- － 「メモリ」タブ
メインメモリのステータスと稼動状況を表すデータを確認できます。
- － 「ネットワーク」タブ
ネットワークのステータスとネットワーク転送量の使用率を表すデータを確認できます。
- － 「ストレージ」タブ
大容量記憶装置のステータスと稼動状況を表すデータを確認できます。

タブをクリックすると、それぞれ上記の内容について、サーバコンポーネントの現在の稼動状況を表示するビューに切り替わります。







4 つのタブの構造は同じです。各タブにはリスト形式で表示される一覧があり、それぞれ 8 つの項目があります。各項目には、スレッシュホールドマネージャによって確認されたデータが記載され、検出された値や格納されたしきい値が一覧表示されています。スレッシュホールドマネージャがパフォーマンスパラメータの値を確認できない場合は、N/A または「？」が表示されます。

「パフォーマンス」ビューでは、複数のステータスアイコンによって次のステータスが示されます。

- － タブの上部のステータスアイコンは、選択したサーバコンポーネントの一般的なステータスを表しています。表示されるアイコン種別は、スレッシュホールドマネージャによるすべてのパフォーマンスパラメータの評価によって決まります。
- － タブ部分に表示されるステータスアイコンは、そのタブシートに関するスレッシュホールドマネージャの監視ステータスを表しています。

- 各タブのステータス列に表示されるステータスアイコンは、該当するパフォーマンスパラメータのステータスを表しています。

次のアイコンが表示されます。

	測定値は通常の値の範囲内。
	測定値は危険しきい値を超えている。
	測定値は警告しきい値を超えているか下回っている。
	値は計測不可。
	しきい値の準備中です。
	エージェントへ未接続状態です。

一覧の各ヘッダをクリックすると、情報の表示方法（列のソートや順番など）を個別に変更できます。

一覧には次の項目があります。

- ステータス
「ステータス」に表示されるステータスアイコンは、該当するパフォーマンスパラメータのステータスを表しています。
- パラメータ
スレッシュホールドマネージャによって定義されたしきい値に基づいて監視されているパラメータのセットが表示されます。パラメータはサーバの機種によって異なるので、各サーバにすべてのパラメータが表示されるわけではありません。また、パラメータが仮想化ソフトウェア（VMware、Hyper-V、Xen / Citrix XenServer）でサポートされていない場合は、値が返ってこない場合もあります。



Windows Server 2008 R2 (x64) で認識される Hyper-V サーバの場合は、アクセス制限に関する Windows レジストリ内のエントリを変更する必要があります。[96 ページの「サーバリストの Hyper-V サーバ」の項](#)を参照してください。

「プロセッサ」では、次のパラメータが監視されています。

パラメータ	意味
cpuAll (%)	すべての物理プロセッサの使用率
cpuKernel (%)	カーネルモードでのすべての物理プロセッサの使用率
cpuUser (%)	ユーザモードでのすべての物理プロセッサの使用率
cpuVM (%)	仮想マシンによる物理プロセッサの使用率
cpuMax (%)	選択した時間間隔でのプロセッサの最大使用率 (%)
cpuMin (%)	選択した時間間隔でのプロセッサの最小使用率 (%)
cpuH (%)	ホストに基づいた仮想マシンの CPU 使用率
cpuV (%)	割り当てられているリソースに基づいた仮想マシンの CPU 使用率

「メモリ」では、次のパラメータが監視されています。

パラメータ	意味
memory (%)	使用中のメモリ
capacityReserved (%)	仮想マシンに予約されているメモリ容量
memoryVM (%)	利用可能なメモリ容量のうち、アクティブに使用されているメモリ容量

「ネットワーク」では、次のパラメータが監視されています。

パラメータ	意味
networkReceive (kB/sec)	ネットワークの受信転送量
networkTransmit (kB/sec)	ネットワークの送信転送量
networkTotal (kB/sec)	ネットワークの送受信転送量

「ストレージ」では、次のパラメータが監視されています。

パラメータ	意味
storageRead (kB/sec)	大容量記憶装置の読取速度
storageWrite (kB/sec)	大容量記憶装置の書込速度
storageTotal (kB/sec)	大容量記憶装置の読取／書込速度
storageUsage (%)	ファイルシステムの使用量

- － 日時
最後に測定した値の日時を表示します。
- － 現在値
現在のパフォーマンスの測定値です。しきい値を超えているかどうかにかかわらず表示されます。値は、パラメータの種類に応じて % や kB/sec で表示されます。利用可能な値がない場合は、N/A と表示されます。
- － 平均値
選択した時間間隔でのパフォーマンスの平均値です。しきい値を超えているかどうかにかかわらず表示されます。値は、パラメータの種類に応じて % や kB/sec で表示されます。利用可能な値がない場合は、N/A と表示されます。「平均値」は、しきい値情報のデータに基づいて定義されています。

－ 警告下限値

該当するパラメータに対して、スレッシュホールドマネージャで定義したしきい値の下限に到達していない場合（使用率が低いなど）、スレッシュホールドマネージャは警告メッセージを表示します。値は、パラメータの種類に応じて % や **kB/sec** で表示されます。利用可能な値がない場合は、**N/A** と表示されます。

－ 警告上限値

該当するパラメータに対して、スレッシュホールドマネージャで定義したしきい値を超過している場合、スレッシュホールドマネージャは警告メッセージを表示します。値は、パラメータの種類に応じて % や **kB/sec** で表示されます。利用可能な値がない場合は、**N/A** と表示されます。

－ 異常上限値

該当するパラメータに対して、スレッシュホールドマネージャで定義した上限しきい値を超過している場合、スレッシュホールドマネージャは危険レベルのメッセージを表示します。値は、パラメータの種類に応じて % や **kB/sec** で表示されます。利用可能な値がない場合は、**N/A** と表示されず。

「画面左側の構造ツリーで パフォーマンス」メニュー配下のメニュー項目「プロセッサ」、「メモリ」、「ネットワーク」、「ストレージ」をクリックすると、コンポーネントの現在の値や、長期間にわたるサーバコンポーネントの使用率が、グラフ内のフォームに表示されます。

メニュー項目について、以下に簡単に説明します



古いパフォーマンス値の削除

VMEManager.xml ファイルで、保存されているパフォーマンス値を削除するまでの期間を定義できます。この期間は、値が保存されている期間を分単位で指定します。この期間が経過すると、該当のパフォーマンス値は削除されます

デフォルトでは、パフォーマンス値は以下の期間の満了時に削除されます。

- － 毎分生成されるパフォーマンス値は、**2 週間**後に削除されます。
- － 毎時生成されるパフォーマンス値は、**2 年**後に削除されます。
- － 毎日生成されるパフォーマンス値は、**10 年**後に削除されます。

デフォルトの期間は、自身の要件に従って変更できます。次の手順に従います。

1. *VMEManager.xml* ファイルを開きます。このファイルは以下のディレクトリにあります。

Windows の場合：

C:\Programs\Fujitsu\ServerView Suite\ServerView Services\scripts\ServerView\vmeManager\conf

Linux の場合：

/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/vmeManager/conf

2. セクションを検索します。

```
<!-- performance data cleaning interval -->
<minutesStorageTime>20160</minutesStorageTime>
<hourStorageTime>1054080</hourStorageTime>
<dayStorageTime>5270400</dayStorageTime>
```

3. 自身の要件に従って設定を変更します。
4. ファイルを保存します。

6.1.5.1 プロセッサ

「システムステータス」→「パフォーマンス」→「プロセッサ」を選択すると、プロセッサの詳細を表示できます。すべてのCPU、そのステータス、使用率が表示されます。現在の使用率と長期間の使用率の両方が表示されます。

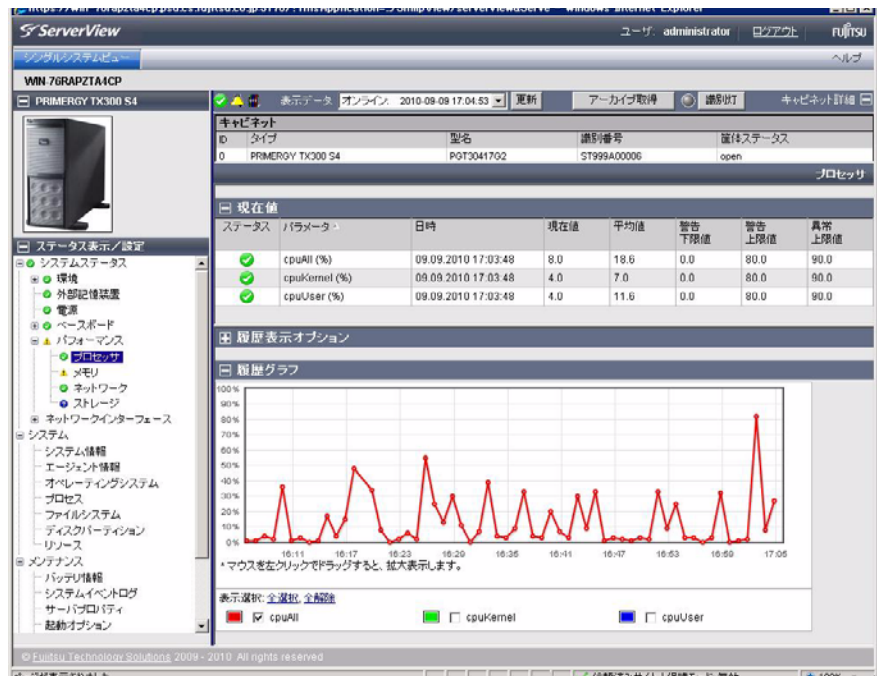


図 28: パフォーマンス - プロセッサビュー

画面の右側ペインの構造

画面の右側ペインは 3 つの項目に分かれていて、各項目の最上部には項目名が表示されています。項目名の左側のボタンをクリックすることで、各項目の表示／非表示の切り替えができます。

一番上の「現在値」には、プロセッサのコンポーネントの現在値が表示されます。この部分のレイアウトと情報は、「プロセッサ」タブの表示と同じです。

中央の「履歴表示オプション」では、下部の「履歴グラフ」に表示する期間を定義します。この期間にログに記録されたパフォーマンス値が、「履歴グラフ」に表示されます。次の期間を指定できます。

- － 時間間隔
- － 開始時刻と終了時刻の指定による期間

時間間隔を有効にするには、「最近」オプションをクリックして、プルダウンメニューから時間間隔を選択します。次のいずれかの値を選択します。

- 1 時間
 - デフォルト
 - 直近の 1 時間の測定値
- 12 時間
 - 直近の 12 時間の測定値
- 1 日
 - 直近の 24 時間の測定値
- 1 週間
 - 直近の 1 週間の測定値
- 2 週間
 - 直近の 2 週間の測定値
- 1 か月
 - 直近の 1 か月の測定値
- 1 年
 - 直近の 12 か月の測定値

値を測定する間隔は、スレッシュホールドマネージャで設定します。

期間を特定して設定するには、「開始/終了」オプションをクリックして日時を指定します。開始日と終了日を指定するには、日付フィールドの横にあるカレンダーアイコンをクリックし、表示された画面で日付を設定します。開始時間と終了時間を設定するには、時間フィールドの右にある矢印アイコンをクリックします。「適用」ボタンをクリックすると、設定が適用されます。

一番下の「履歴グラフ」では、「履歴表示オプション」で選択した期間のパフォーマンス値がグラフで表示されます。グラフ内でクリックして、マウスの左ボタンを押しながら右または左に移動させると、画面に表示するグラフの領域を拡大／縮小できます。これは、特に長いグラフや圧縮されたグラフを確認する際に便利です。右クリックで元の大きさに戻ります。

コンポーネントに対して記録された複数のパラメータの値がグラフ内に同時に表示されます。この場合、数字が重なりあってグラフがわかりにくい場合があります。グラフの下に「表示選択」ボックスでパラメータを選択／選択解除することで、同時に確認するグラフの数を設定できます。

グラフの上でマウスポインタを動かすと、ツールチップが表示され、情報パラメータ、日付、% 値または kBytes/sec 値を確認できます。

6.1.5.2 メモリ

「システムステータス」→「パフォーマンス」→「メモリ」を選択すると、メインメモリのステータスと使用率を表すパフォーマンスパラメータのデータが表示されます。

ログデータに基づき、コンポーネントの現在の稼動状況、または長期間の稼動状況のグラフを表示できます。グラフに表示する期間は指定できます。デフォルトでは、直近の 1 時間の値が表示されます。

右側の「メモリ」ビューの構造と表示方法は、「プロセッサ」ビューと同じです。レイアウトと設定オプションについての詳細は、[158 ページ](#)の「プロセッサ」ビューをご覧ください。

6.1.5.3 ネットワーク

「システムステータス」→「パフォーマンス」→「ネットワーク」を選択すると、ネットワークのステータスとネットワーク転送量の使用率を表すパフォーマンスパラメータのデータが表示されます。

ログデータに基づき、コンポーネントの現在の稼動状況、または長期間の稼動状況のグラフを表示できます。グラフに表示する期間は指定できます。デフォルトでは、直近の **1 時間** の値が表示されます。

右側の「ネットワーク」ビューの構造と表示方法は、「プロセッサ」ビューと同じです。レイアウトと設定オプションについての詳細は、[158 ページ](#)の「プロセッサ」ビューをご覧ください。

6.1.5.4 ストレージ

「システムステータス」→「パフォーマンス」→「ストレージ」を選択すると、大容量記憶装置のステータスと使用率を表すパフォーマンスパラメータのデータが表示されます。

ログデータに基づき、コンポーネントの現在の稼動状況、または長期間の稼動状況のグラフを表示できます。グラフに表示する期間は指定できます。デフォルトでは、直近の **1 時間** の値が表示されます。

右側の「ストレージ」ビューの構造と表示方法は、「プロセッサ」ビューと同じです。レイアウトと設定オプションについての詳細は、[158 ページ](#)の「プロセッサ」ビューをご覧ください。

6.1.6 ネットワークインターフェース

「ネットワークインターフェース」では、選択したサーバのネットワークボードに関する全般的な情報を確認できます。

一覧の「説明」欄、または「ネットワークインターフェース」メニューでネットワークコンポーネント名をクリックすると、選択したコンポーネントの詳細情報が表示されます。

選択したネットワークコンポーネントのビューの「詳細」タブで、選択したコンポーネントの詳細情報を確認できます。

MAC 統計が利用できる場合は、「MAC 統計情報」タブも表示されます。

LAN チーミング

選択したネットワークコンポーネント（Broadcom または Intel）が LAN チームに割り当てられている場合は、「LAN チーミング」エントリが表示されます。



LAN チーミングが設定されていない、または選択したネットワークコンポーネントがチームに属していない場合は、このリンクは存在しません。

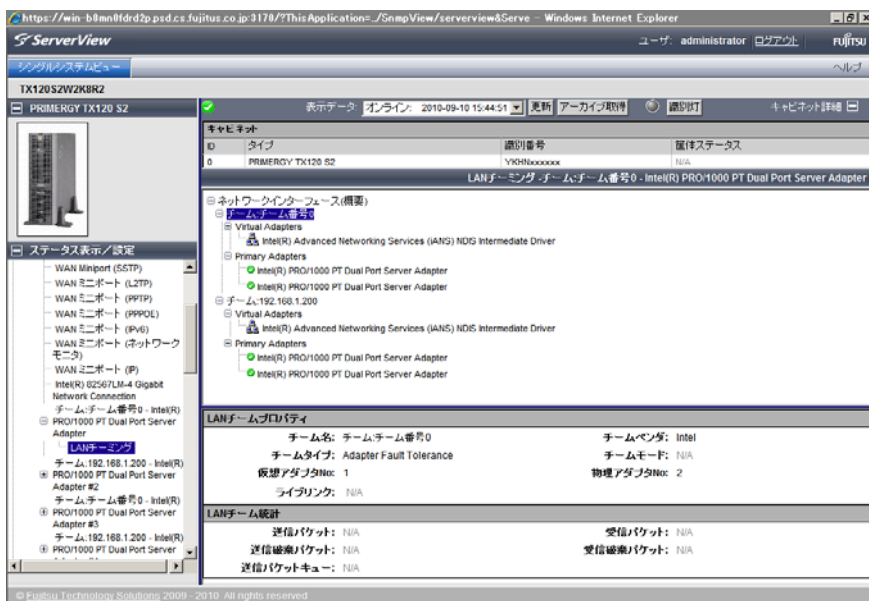


図 29: LAN チームングビュー

LAN チームの詳細情報が表示されます。「ネットワークインタフェース (概要)」の下に、設定した LAN チームとそのコンポーネントの概要が表示されます。

「LAN チームプロパティ」の下に、LAN チームのプロパティが表示されます。

「LAN チーム統計」の下に、利用可能な統計量が表示されます。

6.2 システム

「システム」メニュー配下の項目では、選択したサーバに関する次の情報を確認できます。

- システム情報
システム名、サーバ機種、**UUID**、ファームウェアのバージョン、インストールされている **OS**、プロセッサの種類、資産タグなどのシステム情報。
- エージェント情報
インベントリ **MIB** のバージョン、エージェントのバージョン、設定した **SNMP** エージェントの構成リスト。
- オペレーティングシステム
インストールされている **OS** の情報。
- プロセス
実行中のプロセスの情報。
- ファイルシステム
ファイルシステムに関する、種類、サイズ、空き容量などの情報。
- ディスクパーティション
ディスクパーティションに関する、ステータス、種類、名前、サイズなどの情報。
- リソース
ハードウェアコンポーネントの動作中のリソースの使用率に関する情報。「IRQ」タブ、「I/O ポート」タブ、「DMA」タブ、「メモリ」タブで表示されます。

6.3 メンテナンス

6.3.1 バッテリー情報

「バッテリー情報」で、インストールされているバッテリーの寿命に関する情報を確認できます。



CMOS バッテリーを交換した場合は、カウンタ（電源オンの合計時間、電源オフの合計時間、電源投入の合計回数）をリセットする必要があります。V3.0 以降の Windows 用 ServerView エージェントがサーバにインストールされている場合は、「スタート」→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Suite」→「Agents」→「Maintenance Tools」を利用することにより設定が可能です。

6.3.2 システムイベントログ

「システムイベントログ」に、システムイベントログ（SEL）のエントリが表示されます。画面上部のチェックボックスで、表示するメッセージを選択できます。

- － 警告レベルのイベント
- － 重度レベルのイベント
- － 軽度レベルのイベント
- － 情報レベルのイベント
- － 上記 4 つの重要度の任意の組み合わせ

表示するメッセージに対して、タイムゾーンを指定することもできます（「GMT」、または「ローカル」）。

「日付／時間」の部分をクリックすることで、日付や時間でイベントをソートできます。デフォルトでは、表の先頭のエントリには最新のメッセージ、末尾のエントリには最も古いメッセージが表示されます。「日付／時間」の部分をクリックすると、ソートの順番を逆にすることができます。

ServerView エージェントによって、エラーの詳細情報、原因、修復方法についての情報が追加される場合は、各イベントの先頭のボックスに表示されます。情報を表示するには、そのボックスをクリックします。

リストには「No.」の項目が表示され、エージェントがイベントメッセージを送信した順にイベント番号が付けられます。デフォルトでは、イベントメッセージは降順で表示されます。

この項目のヘッダーをクリックして、項目に沿ってリストをソートすることができます。ヘッダーを再びクリックすると、エントリの順番は逆になります。

6.3.3 サーバプロパティ

「サーバプロパティ」メニューを選択すると、右側に「サーバプロパティ」ビューが表示されます。

このビューには 6 つのタブがあり、サーバの設定に関する項目を確認、または設定できます。

サーバのアドレスタブ

サーバの IP アドレスを入力できます。「アドレスリスト」から選択して、IP V4 アドレスと IP V6 アドレスのどちらを入力したいかを指定します。

「接続テスト」ボタンを使用し、**In-band** 接続（プライマリアドレス）と **Out-of-band** 接続（セカンダリアドレス）を介してサーバへの接続をテストします。



サーバブレードの場合、「接続テスト」ダイアログの **In-band** 接続を介してサーバブレード接続をテストし、**Out-of-band** 接続を介してブレードサーバへの接続をテストします。

ブレードサーバと **BladeFrame** システムの場合、「接続テスト」ダイアログでは **In-band** 接続のみをテストできます。**Out-of-band** 接続をテストしようとする、「**Out-of-band** 接続は有効ではありません」というエラーメッセージが表示されます。

BladeFrame で **In-band** 接続をテストしようとする、「接続テスト」画面で常にテストトラップがタイムアウトになります。

※ **BladeFrame** は未サポートです。

ネットワーク /SNMP タブ

サーバのネットワーク操作に関するパラメータを設定できます。

次のパラメータが定義できます。

接続ポート、コミュニティ名、ポーリング間隔（秒）、タイムアウト（秒）、接続状態変更トラップ

ローカルノートタブ

ローカルノートを入力できます。入力した内容はサーバリストに追加され、リスト内でサーバを識別するのに役立ちます。

ログインタブ

サーバに設定要求を送信する際に使用する「ユーザ名」と「パスワード」を定義できます。またパスワードを設定の変更のたびに問い合わせるか、プログラム起動後の最初の設定変更時にのみ行うかも指定できます。

「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。ただし、**SVOM** をいったん終了するとこの情報は失われます。

リモートサービスボード (RSB) タブ

RSB がインストールされていると、このタブにセカンダリチャネルのサーバ名、コミュニティ、**IP** アドレスが表示されます。「接続テスト」ボタンをクリックすると、**RSB** への接続をテストできます。



RSB S2 ではテストトラップはサポートされていません。

プライマリチャネルを介してサーバに接続できない場合、ここに表示されるセカンダリチャネルのサーバ名と **IP** アドレスを入力できます。サーバに再び接続できるようになると、自動的に再度プライマリチャネルを使用します。

「設定」をクリックすると、**Web** ブラウザが起動し、**RSB** を設定できます。

BMC タブ

BMC の IP アドレスを入力、変更できます。「IP アドレス」リストから選択して、IP V4 アドレスと IP V6 アドレスのどちらを入力したいかを指定します。

「接続テスト」ボタンを使用し、**In-band** 接続（プライマリアドレス）と **Out-of-band** 接続（セカンダリアドレス）を介してサーバへの接続をテストします。



サーバブレードの場合、「接続テスト」ダイアログの **In-band** 接続を介してサーバブレード接続をテストし、**Out-of-band** 接続を介してブレードサーバへの接続をテストします。

ブレードサーバと **BladeFrame** システムの場合、「接続テスト」ダイアログでは **In-band** 接続のみをテストできます。**Out-of-band** 接続をテストしようとする、「**Out-of-band** 接続は有効ではありません」というエラーメッセージが表示されます。

BladeFrame で **In-band** 接続をテストしようとする、「接続テスト」画面で常にテストトラップがタイムアウトになります。

※ **BladeFrame** は未サポートです。

「クリア」ボタンを使用すると、エントリを削除できます。

6.3.4 ASR&R

「ASR&R プロパティ」ビューには、システムを監視するエージェントに関する値が表示されます。ファン制御、温度センサ制御、ウォッチドッグ制御、電源オン/オフ制御などが表示され、この領域でエラーが発生した場合のシステムの動作も表示されます。

「システム設定」を使用して、これらのプロパティの設定を変更できます。



- すべての **ASR** 設定がすべてのサーバでサポートされているわけではありません。サーバを選択したときに、フィールドに **N/A** と表示された場合、そのパラメータはサポートされていません。
- このビューは自動更新されません。

ファンタブ

このタブには、サーバに設定されているファンの一覧が表示されます。「異常時動作」および「シャットダウン待ち時間 (秒)」カラムには、ファンが故障した場合のシステムの動作が表示されます。

温度センサタブ

このタブには、停電後の動作、自動電源投入までの待ち時間、および有効なリブート試行の指定回数/デフォルト回数が表示されます。また、タブには、定義されているリブート試行回数を越えたときの動作も表示されます。

再起動設定タブ

このタブには、停電後の動作、自動電源投入までの待ち時間、および有効なリブート試行の指定回数/デフォルト回数が表示されます。また、タブには、定義されているリブート試行回数を越えたときの動作も表示されます。

電源 ON/OFF タブ

このタブには、定義されたサーバの電源オン/オフの時刻のスケジュールが表示されます。

ウォッチドッグ設定タブ

このタブには、このサーバで設定されているウォッチドッグとその動作が表示されます。

タイプ

ウォッチドッグのタイプ

－ 「ソフトウェア」

ソフトウェアウォッチドッグは、サーバ制御エージェントに定期的にリロードされるタイマです。システムがクラッシュしてエージェントが動作を停止した場合（通常はソフトウェアの問題が原因）、このウォッチドッグの動作が表示されます。この自動メカニズムを使用して、サーバのハングアップ状況を解決できます。

－ 「Boot」

ブートウォッチドッグは、サーバ制御エージェントに一度起動されるタイマです。システムがクラッシュしてエージェントが動作を停止した場合（通常はソフトウェアの問題が原因）、このウォッチドッグの動作が表示されます。この自動メカニズムを使用して、サーバのハングアップ状況を解決できます。

有効

ウォッチドッグが現在実行中かどうかを示します。

管理可能

サーバが現在管理可能であるかどうかを示します。

異常時動作

ウォッチドッグタイムアウトになると動作がトリガされます。

Timeout

定義された時間間隔

6.3.5 起動オプション

「起動オプション」メニュー項目をクリックすると、「起動オプション」が表示されます。このビューには、起動ステータスと、直近の起動またはシャットダウンの理由の詳細が表示されます。

「再起動オプション」で、通常の起動を行うかどうか（「標準の起動」）、また、次回起動時に診断システムを開始するかどうか（「診断システムの起動」）を確認します。

「シャットダウン待ち時間」で、システムのシャットダウンまでの待機時間を確認できます。

電源投入要因／電源切断要因は、サーバ本体が保持している要因が表示されます。機種によって要因が保持されない場合には「Unknown」となります。

6.3.6 リモートマネジメント

「System LAN」で、ネットワーク設定に関する情報（アドレスの種類、IP アドレス、MAC アドレス）が表示されます。

「Baseboard Management Controller」に、コントローラに関する情報が表示されます。管理対象のサーバのリモートマネジメントコントローラの種類によって、画面の表示内容が異なります。

- RemoteView Service Board (RSB) や Baseboard Management Controller (BMC) があるサーバの場合は、[172 ページの「リモートマネジメント \(RSB, BMC\)」](#)の項の「リモートマネジメント」ビューの説明をご覧ください
- リモートマネジメントコントローラ (iRMC) があるサーバの場合は、[173 ページの「リモートマネジメント \(iRMC\)」](#)の項の「リモートマネジメント」ビューの説明をご覧ください。

6.3.6.1 リモートマネジメント (RSB, BMC)

このビューには次のボタンがあります。

- 「RSB Manager」(RSB 専用)
管理対象のサーバに **RSB** が組み込まれている場合は、RSB の Web インタフェースを起動します。
- 「RSB Telnet」(RSB 専用)
管理対象のサーバに **RSB** が組み込まれている場合は、ServerView リモートマネジメントのフロントエンドを起動します。
- 「BMC Telnet」(BMC 専用)
管理対象のサーバに **BMC** が組み込まれている場合は、BMC から ServerView リモートマネジメントのフロントエンドを起動します
- 「BMC 電源制御」(BMC 専用)
管理対象のサーバに **BMC** が組み込まれている場合は、BMC を使用して電源制御を行うことができます。

ServerView リモートマネジメントフロントエンドと RSB の Web インタフェースについての詳細は、リモートマネジメントのマニュアルをご覧ください。

6.3.6.2 リモートマネジメント (iRMC)

このビューには次のボタンがあります。

- 「iRMC Telnet」
iRMC に Telnet 接続を行って、ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動します。
- 「iRMC SSH」
iRMC に SSH セキュア Telnet 接続を行って、ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動します
- 「iRMC 電源制御」(iRMC 専用)
iRMC を使用して電源制御を行うことができます。
- 「iRMC Web」
iRMC の Web インタフェースを起動します。このボタンは、サーバがサポートしている場合だけ利用できます。
- 「ビデオリダイレクション」
新規ブラウザウィンドウで Advanced Video Redirection (AVR) を起動します。AVR は監視対象サーバ/パソコンのキーボードおよびマウスからの入力を監視対象サーバへ割り当てます。AVR はサーバリストのコンテキストメニューからも起動できます (85 ページの「サーバリスト」の項をご覧ください)。

ServerView リモートマネジメントフロントエンドについての詳細は、リモートマネジメントのマニュアルをご覧ください。

6.3.7 診断情報収集 (PrimeCollect)

「診断情報収集 (PrimeCollect)」は、ハードウェアとソフトウェアに関する情報を収集して格納します。

データを収集するには、「診断情報収集」ボタンをクリックします。結果のデータを格納するには、表示されたリンクをクリックします。

詳しくは、**ServerView Prime-Collect** のマニュアルをご覧ください。

6.3.8 オンライン診断

オンライン診断を使用すると、管理中のサーバに対してリモートのワークステーションから各ハードウェアのテストを実行できます。

- メモリのテスト
- CPU の負荷テスト
- ハードディスクのテスト
- 光学ドライブのテスト

これを行うために、次のような複数のタブを使用できます。

- 「規定のテスト」タブ
あらかじめ設定した手順に従って、一連のテストを実行します。
- 「カスタムテスト」タブ
設定可能なすべてのテストパラメータを個別に設定できます。個々のテストの実行スケジュールも定義できます。
- 「ステータス / 結果」タブ
テストのステータス情報を取得し、テストの実行を制御します。テスト中にログに記録されたメッセージやアラートも一覧表示されます。

オンライン診断についての詳細は、「**ServerView Operations Manager オンライン診断**」のマニュアルをご覧ください。

6.3.9 CSS

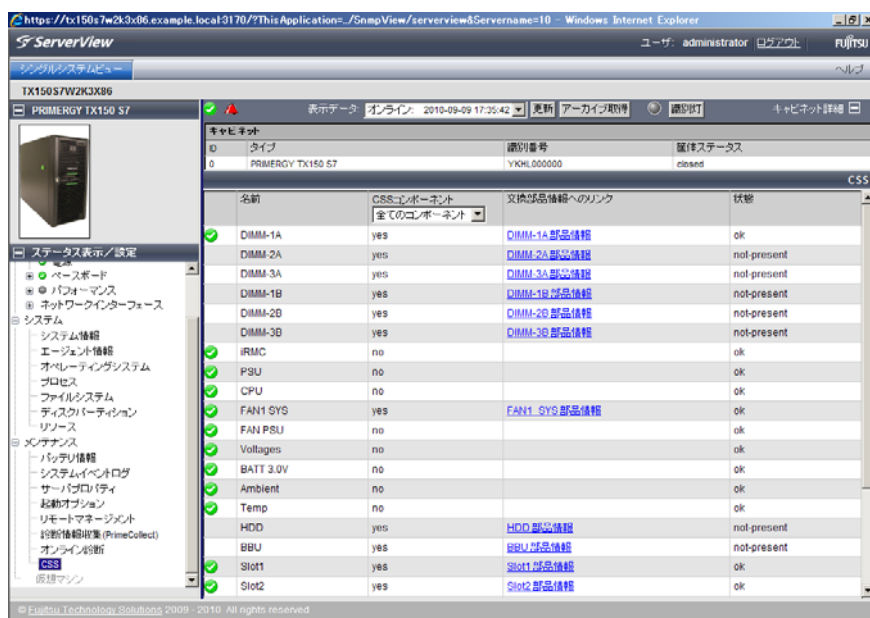


図 30: CSS ビュー

「CSS」では、管理対象のサーバの Customer Self-Service (CSS) コンポーネントの概要を確認できます。

このメニューは、管理中のサーバに V4.52 以降の ServerView エージェントがインストールされている場合だけ表示されます。

CSS コンポーネントは、自分で交換できるサーバコンポーネントです。次のような CSS コンポーネントがあります。

- ホットプラグ対応ハードディスクドライブ
- ホットプラグ対応電源ユニット
- メインメモリ
- システムファン
- 拡張カード

コンポーネントごとに、次の情報が表示されます。

- コンポーネントの状態
- コンポーネントの名前
- コンポーネントの種類（CSS コンポーネントまたは非 CSS コンポーネント）
- **Illustrated Spares** カタログへのリンク（該当するカタログがある場合）

新しい PRIMERGY（TX 150 S6、RX300 S4、RX200 S4 など）では、表内のエントリの後ろにあるリンクをクリックすると関連する **Illustrated Spares** カタログを直接表示でき、故障した **CSS** コンポーネントの交換品を注文できます。サーバに関連するページが見つからない場合は、**Illustrated Spares** カタログの概要ページが表示されます。

CSS コンポーネントが見つからない場合は、該当のエラーメッセージが表示されます。

CSS コンポーネント欄の選択ボックスを使って、表示内容をフィルタリングできます。必要に応じて、すべてのコンポーネント、**CSS** コンポーネント、非 **CSS** コンポーネントを表示できます。

6.4 仮想マシン

「仮想マシン」メニューは、サーバリストで仮想化ソフトウェアがあるサーバを選択している場合だけ有効です。

このメニューには、次のメニュー項目があります。

- 物理マシン情報
- 仮想マシン情報

これらのメニュー項目については、「Virtualization OverView」も併せてご覧ください。

6.4.1 物理マシン情報

「物理マシン情報」メニューでは、仮想化ホストの次のような詳細情報を確認できます。

- ステータス
- サーバ識別データ
- ハードウェアのデータ
- 仮想化ソフトウェア
- OS の情報

6.4.2 仮想マシン

「仮想マシン情報」メニューでは、仮想マシンの詳細を確認できます。すべての仮想マシンが、画面左側のツリー構造に一覧表示されています。右側には、サーバリストで選択した仮想化ホストのすべての仮想マシンが一覧表示されています。表には次の項目があります。

チェックボックス

チェックボックスをクリックして、仮想マシンを選択します。

ステータス

仮想マシンのステータス。

名前

仮想マシンの名前。

電源ステータス

仮想マシンの電源の状態。

ネットワーク

仮想マシンのネットワーク名。

OS

インストールされている OS。

OS 説明

インストールされている OS の説明。

一覧またはツリー構造内の仮想マシン名をクリックすると、その仮想マシンの詳細が記載された個別のビューが表示されます。

「仮想マシン」ビューで、仮想マシンを有効／無効にすることもできます。

- ▶ 関連する仮想マシンを選択するには、仮想マシン名のボックスをクリックします。
- ▶ 次に、目的に応じて次のいずれかのボタンをクリックします。

起動

仮想マシンを有効にします。

停止

仮想マシンを無効にします。

サスペンド

仮想マシンを一時停止します。

レジューム

一時停止した仮想マシンの動作を再開します。

各ボタンは、仮想マシンの状態に従って有効／無効になります。

6.4.3 エラー発生時の仮想サーバの退避

サーバーの監視およびアラーム管理のための **ServerView Operations Manager** の機能を使用すると、エラー発生時に **VMware** システム上の仮想サーバを退避できます。したがって、いつ起こるかわからないシステムエラーやシステムオーバーロードの発生に予防処置を講じることができます。影響を受けるシステムの仮想サーバを他システムに退避すると、動作中に影響を受けないシステムが発生します。実際のサーバが故障しているにもかかわらず、ユーザは動作しているシステムにアクセスできます。したがって、起こりうるダウンタイムを排除できます。

仮想サーバを退避するための機能は、スクリプトに依存します。退避をトリガーするイベントは、「イベント管理」の「アラーム設定」コンポーネントを使用してユーザが定義します。これらの事前定義イベントのいずれかが発生すると、たとえば **PDA** が起動して、以前に定義された応答チェーンを開始します。仮想マシンはエラー発生時に退避されます。管理者は、アラーム管理からの電子メールによって、常に最新の状態に保持されます。

要件

障害発生時に仮想サーバを退避できるようにするには、以下の要件を満たす必要があります。

- ServerView Operations Manager と Event Management が、Windows ベースの管理用サーバにインストールされ、設定されている。
- Windows PowerShell がインストールされている。

Windows Server Manager の「機能」オプションを使用して、Windows Server 2008 に Windows PowerShell 1.0 をインストールできます (『ServerView Operations Manager - Windows でのインストール』マニュアルを参照)。

- VMware vSphere PowerCLI がインストールされている。

VMware vSphere PowerCLI は、VMware のダウンロードエリアからダウンロードできます。インストールはインタラクティブインストールです。

VMware vSphere PowerCLI のダウンロードが完了したら、インストールする必要があります。次の手順に従います。

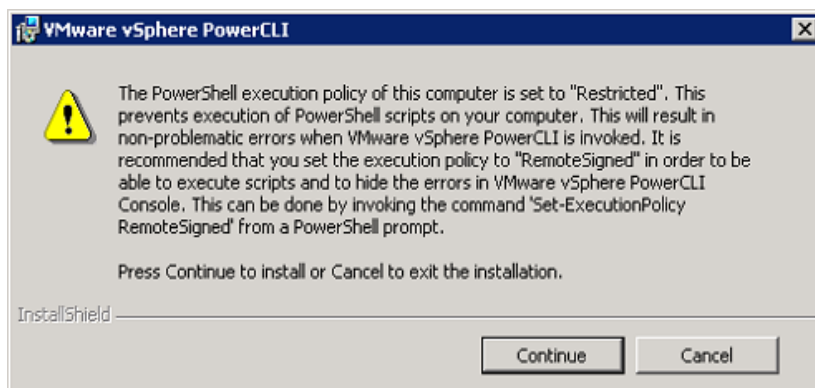


図 31: VMware vSphere PowerCLI

- ▶ 「Continue」をクリックします。
- ▶ PowerShell の入力プロンプトを開きます (右マウスボタン)。
- ▶ 「R」 (RunOnce を意味する) を入力します。
- ▶ 「Set-ExecutionPolicy Remote-Signed」を入力します。

- PDA スクリプト「**evacuate.ps1**」を目的のターゲットディレクトリ（たとえば **C:\FTS\scripting**）にコピーします。

ServerView Operations Manager V5.0 の場合、PDA スクリプト *evacuate.ps1* は以下の場所にあります。

C:\Programme\Fujitsu\ServerView Suite\svom\bin\ServerView\common

- PDA スクリプト *evacuate.ps1* の以下の変数をカスタマイズします。

```
$LOGDIR = "c:\tmp\evacuate"           # Log directory
$LOGFILE = $LOGDIR + "\\evacuate.log"  # Log filename
$DEBUG = $false                       # Verbose Logging
$VISERVER = "192.168.1.40"            # vCenter Server
$ADMIN = "Administrator"              # vCenter account
$PW = "password"                      # vCenter password
```

- 仮想サーバの退避をトリガーするアラームを指定します。これには、「イベント管理」の「アラーム設定」コンポーネントを使用して、通常のアラーム処理どおりに「アラームルール」、「フィルタルール」、「一般設定」を定義する必要があります。

アラーム処理の設定の詳細は、『**ServerView Event Manager**』マニュアルの「アラーム設定」の章を参照してください。
特殊な機能のみを以下で説明します。

退避をトリガーするアラームを定義する際に、任意のアラームを選択できますが（「アラームルール」→「アラームの割り当て」）、潜在的なサーバ故障を示すアラーム、またはエラーの種類「重大」または「重要度高」に属するアラームだけを選択した方が賢明です。システム障害をトリガーする可能性のあるアラームは、次のとおりです。

アラーム ID	コンポーネント	説明	エラーの種類
673	CPU	CPU エラーが差し迫っている	重要度高
2081	CPU	CPU エラーが差し迫っている	重要度高
668	RAM	メモリモジュールのエラーが予想される	重要度高
2068	RAM	メモリモジュールの故障が差し迫っている	重要度高
2013	ファン	ファンが危険である	重要度高
678	バッテリー	バッテリーの故障が差し迫っている	重要度高
2054	バッテリー	バッテリーの故障が差し迫っている	重要度高
10264	ハードドライブ	ハードディスクが直ちに故障する可能性がある	重要度低

表 51: 重大なイベント

ダイアログボックス「アラームルール」→「アクションの割り当て」で、実行可能なプログラムが起動されるアラーム（「プログラム実行」）によってトリガーされるアクションを定義する**必要があります**。「プログラム実行」を選択した場合は、「新規プログラム実行の設定」ウィンドウが開きます。このウィンドウでの「プログラム実行設定」タブで、**説明フィールド**に実行設定の（説明的な）名前を指定して、「コマンド」フィールドに以下のステートメントを入力する必要があります。

```
C:\WINDOWS\system32\windowpowershell\v1.0\powershell.exe -  
psc "D:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\vsphere  
PowerCLI\vim.psc1" -c ".\"D:\FTS\Scripting\evacuate.ps1\"  
\"$_SRV\" \"$_TRP\" \"$_TYP\" \"$_IPA\" \"$_CTY\"  
\"$_SEV\" \"$_TIM\" \"$_IDN\" "
```

次に、「コマンド」を置くワークディレクトリの名前を「ワークディレクトリ」フィールドに入力します。

設定が完了したら、設定をアクティブ化（「有効」）します。

6.5 監視不可状態のサーバ（マネジメントコントローラアイコンあり）

リモートマネジメントコントローラアイコンが表示されている、かつ、監視ができない状態のサーバをクリックすると、「ServerView [サーバ名]」画面の「リモートマネジメント」ビューが表示されます。

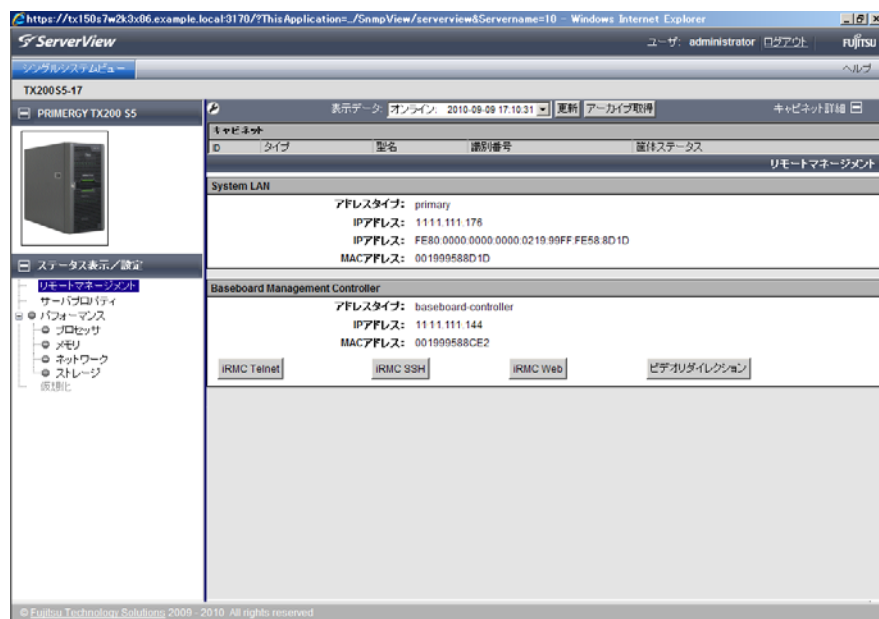


図 32: ServerView [サーバ名] 画面のリモートマネジメントビュー

この場合は、「ステータス表示/設定」にいくつかのメニュー項目が表示されます。

管理対象サーバのオンラインデータ、またはアーカイブデータ（利用可能な場合）のどちらを表示するか選択できます。

「リモートマネジメント」ビューでは、次のオプションが利用できます。

- 「RSB Manager」ボタンを使用して、RSB の Web インタフェースを起動します。
- 「RSB Telnet」ボタンを使用して、ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動します。
- 「BMC Telnet」ボタンを使用して、BMC から ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動します。
- 「BMC 電源制御」ボタンを使用して、BMC から電源制御を行います。
- 「iRMC Telnet」ボタンを使用して、iRMC に Telnet 接続を行い、ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動します。
- 「iRMC SSH」ボタンを使用して、iRMC に SSH セキュア Telnet 接続を行い、ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動します。
- 「iRMC 電源制御」ボタンを使用して、iRMC から電源制御を行います。
- 「iRMC Web」ボタンを使用して、iRMC の Web インタフェースを起動します。
- 「ビデオリダイレクション」
新規ブラウザウィンドウで **Advanced Video Redirection (AVR)** を起動します。AVR は監視対象サーバのグラフィック出力を管理用サーバ/パソコンの画面へリダイレクトします。また、管理用サーバ/パソコンのキーボードおよびマウスからの入力を監視対象サーバへ割り当てます。サーバリストのコンテキストメニューからも AVR を起動できます (85 ページの「サーバリスト」の項をご覧ください)。

RSB の Web インタフェースと ServerView リモートマネジメントフロントエンドについての詳細は、リモートマネジメントのマニュアルをご覧ください。

6.6 BMC / iRMC 搭載で監視不可状態のサーバ

BMC または iRMC が搭載されているサーバのステータスが「管理不可能」である場合は、サーバリストより該当するサーバをクリックすると、以下の「確認」画面が表示されます。

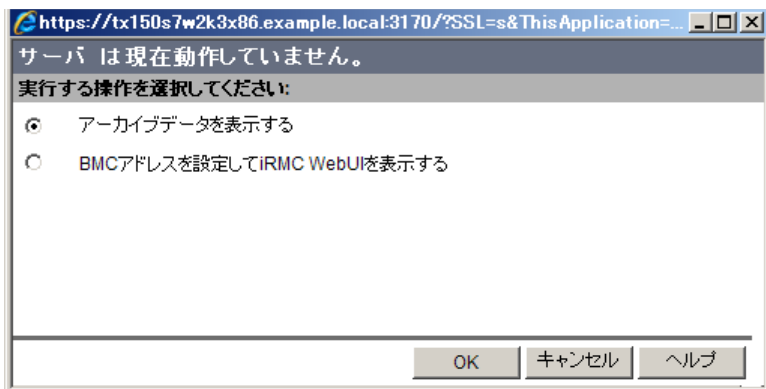


図 33: 確認画面 - iRMC の場合

次の 6 つのオプションがあります。

- 「アーカイブデータを表示する」を選択すると、アーカイブデータにアクセスできます。
- 「サーバのプロパティを設定する」を選択すると、サーバのプロパティ画面が表示されます。
- 「iRMC Telnet」を選択すると、iRMC から ServerView リモートマネジメントフロントエンド (Telnet) を起動できます。
- 「iRMC SSH」を選択すると、iRMC から ServerView リモートマネジメントフロントエンド (SSH) を起動できます。
- 「iRMC 電源制御」を選択すると、iRMC から ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動できます。コマンドで iRMC から電源制御を行うことができます。
- 「iRMC Web」を選択すると、iRMC の Web インタフェースが起動できます。
- 「BMC 電源制御」を選択すると、BMC から ServerView リモートマネジメントフロントエンドを起動できます。コマンドで BMC から電源制御を行うことができます (iRMC 搭載装置では表示されません)。

ServerView リモートマネジメントフロントエンドについての詳細は、リモートマネジメントのマニュアルをご覧ください。

7 ブレードサーバデータの詳細確認

「サーバリスト」画面でブレードサーバをクリックすると、「ServerView [ブレードサーバ名]」画面が開きます。まず、「ブレードリスト」ビューが表示されます。このビューでは、ブレードサーバにあるすべてのブレード (例: サーバブレード、スイッチブレード、マネージメントブレード) とその状態が表示されます。



図 34: ServerView [ブレードサーバ名]

「ServerView [ブレードサーバ名]」画面は複数のフレームから構成されており、いくつかのフレームは必要に応じて開閉することができます。

画面左上部のフレームには、ブレード機種名および画像イメージ（2枚）が表示されます。このフレームは、必要に応じて開閉できます。ブレードサーバの画像イメージ（フロントビュー/リアビュー）は、現在ブレードサーバ内に実装されているブレードの構成が動的に反映されます。また、この画像イメージにおいて、装着されている各ブレードを選択することができます。選択されたブレードは、「ブレードリスト」の一覧にて強調表示されます。

画面左下部の「ステータス表示／設定」は、詳細情報の表示や操作を行うためのメニューです。このメニューを選択して、画面右下部のフレームの表示を制御できます。次では、各メニューについて簡単に説明します。詳しい説明については、ヘルプをご覧ください。

「ステータス表示／設定」内のフレームは、必要に応じて開閉できます。

右フレーム上部のヘッダには、以下が表示されます。

- ステータスアイコン

ステータスアイコンは、選択されているデータ（現在のデータまたはアーカイブデータ）に応じて、ブレードサーバの状態を表示します。

- アラーム重要度アイコン（アラームメッセージがある場合）ブレードサーバに対するアラームメッセージが複数ある場合は、最も重大なアラームの重要度アイコンが表示されます。
- アーカイブアイコン（ブレードサーバのアーカイブがある場合）
- 「表示データ」選択リスト

「表示データ」選択リストで、ブレードサーバの現在のデータ（オンライン:<日付、時間>）、またはアーカイブデータ（アーカイブ:<日付、時間>）のどちらにアクセスするかを選択します。ブレードサーバが利用できない場合でも、アーカイブデータにアクセスできます。アーカイブデータにより、問題の原因解明に役立つ情報を得られる場合があります。

ヘッダ左部のステータスアイコンは、ここで選択したデータに応じてブレードサーバの状態を表示します。

- 「更新」ボタン

「更新」ボタンを使用すると、ブレードサーバのオンラインデータが表示されている場合は、選択したブレードサーバのステータスや表示中のページを更新できます。ブレードサーバのアーカイブデータを選択した場合は、この機能は無効です。

- ブレードサーバのオンラインデータが表示されている場合は、「アーカイブ取得」ボタンが、アーカイブデータが表示されている場合は「アーカイブ出力」ボタンが二者択一的に表示されます。
 - － ブレードサーバのオンラインデータが表示されている場合は、「アーカイブ取得」ボタンを使用して、ブレードサーバのアーカイブファイルを取得できます。「アーカイブ取得」ボタンをクリックすると、アーカイブ取得が開始されます。
アーカイブマネージャでアーカイブ取得の進行状況を確認できます。
詳しくは、アーカイブマネージャのマニュアルをご覧ください。
 - － ブレードサーバのアーカイブデータが表示されている場合は、「アーカイブ出力」ボタンを使用して、現在のアーカイブデータを新しいブラウザ画面にエクスポートできます。その後、ブラウザの「名前を付けて保存」を使用して、データをブラウザ画面から保存できます。
- LED アイコン（サーバが識別灯 LED をサポートしている場合）

LED アイコンは、ブレードサーバの識別灯機能の状態を表します。次のステータスがあります。




	識別灯 LED が有効
	識別灯 LED が無効
	点滅中 LED アイコンはシステムの問題を表します。この場合、「識別灯」ボタンは使用できません。

表 52: 識別灯 LED 表示

ブレードサーバのアーカイブデータを選択した場合、識別灯 LED アイコンは常に灰色です。

- 「識別灯」ボタン（ブレードサーバが識別灯 LED をサポートしている場合）

ブレードサーバが識別灯 LED をサポートしている場合、「ServerView」画面右上に「識別灯」ボタンが表示されます。「識別灯」ボタンで、識別灯 LED を有効にするとサーバールームでブレードサーバを識別できます。

識別灯を有効 / 無効にする場合、システムは、ブレードサーバに対してこの SET 操作が許可されているかどうか、ユーザ名とパスワードが設定されているかどうかを確認します。確認された場合、ユーザ名とパスワードが検証されます。認証に失敗した場合は、ログインダイアログが開き、正しい ID を確認するメッセージが表示されます。

ブレードサーバのアーカイブデータを選択した場合、この機能は無効です。

- キャビネット詳細

「キャビネット詳細」右側のボックスをクリックすると、型名、識別番号、筐体ステータス（開閉状態）を確認できます。
このフレームは、必要に応じて開閉できます。

7.1 ブレードリスト

「ステータス表示／設定」のメニュー項目「ブレードリスト」を選択すると、「ブレードリスト」ビューのヘッダ下に表が表示されます。この表には、ブレードサーバ内に実装されているすべてのブレード（例：サーバブレード、スイッチブレード、マネージメントブレード）とその状態が一覧で表示されます。各ブレードの状態はマネージメントブレードにより判定されます。

「ブレードリスト」の各種ブレードタイプは以下のアイコンで表示されます。







	マネージメントブレード（マスタ）
	マネージメントブレード（スレーブ）
	スイッチブレード（マスタ）
	スイッチブレード（スレーブ）
	ファイバーチャネルパススルーブレード
	LAN パススルーブレード
	KVM ブレード
	ファイバーチャネル スwitchブレード
	ストレージブレード
	サーバブレード

表 53: ブレードタイプ

表の上で任意のブレードを選択すると、ブレードサーバの画像イメージ（フロントビュー／リアビュー）上でも同様にそのブレードが選択されます。逆にブレードサーバの画像イメージ上で任意のブレードを選択すると、表の上でも選択されます。

ブレードタイプ（例：サーバブレード、スイッチブレード、マネージメントブレード）によっては、「名前」カラム内の名前がリンクになっています。

- スイッチブレードまたはマネージメントブレードでは、このリンクにより各ブレードの設定画面が表示されます。

マネージメントブレードの設定方法は「RemoteView Management Blade」マニュアルを、スイッチブレードの設定方法は「LAN Switch Blade」マニュアルをご覧ください。どちらのマニュアルも ServerView Suite DVD 2 内に格納されています。

- サーバブレードでは、リンクから「ServerView [サーバ名]」画面を開きます。

選択したブレードの詳細

表の下にある「選択されたブレードの詳細」には、表で選択したブレードの詳細な情報が表示されます。

サーバブレードとスイッチブレードでは、右下に「識別灯」ボタンも表示されます。このボタンは、そのブレードに対する識別灯機能を有効 / 無効にします。ボタンの横にあるステータスアイコンは、次の 2 つの状態を表します。

	点滅中 識別灯 LED が有効
	識別灯 LED が無効

表 54: サーバブレードまたはスイッチブレードの識別灯表示

7.2 ブレードサーバステータス

「ブレードサーバステータス」メニューでは、次のメニューとメニュー項目が提供されています。

- 「環境」メニューと、そのメニュー項目
 - － ファン
 - － 温度
- 電源

「ブレードサーバステータス」ビューには、メニュー項目の簡単な説明が表示されます。

また、ステータスアイコンも表示され、コンポーネントが正常に動作しているかどうかを確認できます。確認したいメニュー項目を選択すると、コンポーネントの詳しい情報を確認できます。

7.2.1 環境

「環境」メニュー項目は、ファンと温度センサの概要を提供します。詳細情報は、それぞれ「ファン」メニュー項目と「温度」メニュー項目で確認できます。

7.2.1.1 ファン

「ファン」を選択すると「ブレードサーバのファン」ビューに切り替わり、ブレードサーバ内にあるすべてのファンが図と表に表示されます。



ファンは、図と表にファンアイコンとして表示されます。

ファンアイコンは、以下を示します。

- － 筐体内のファンの位置（図中のファンアイコンの位置によって示されます）。

－ ファンの状態（ファンアイコンの色によって、次のように表示されます）。

色	意味
緑	OK
黄	警告
赤	異常
灰色	計測不可

図および表でファンアイコンを選択することで、個別のファンを選択できます。選択したファンや該当する表のエントリは、背景が青色になります。

7.2.1.2 温度

「温度」をクリックすると、「温度」ビューに切り替わり、ブレードサーバ内にあるすべての温度センサが一覧表示されます。

表には、次の情報が表示されます。

- － 温度センサの状態（ステータスアイコンによって表示されます）
- － 温度センサの名称
- － 現在の温度
- － 温度センサのしきい値

先頭列の温度センサアイコンの色は、温度センサの状態を示します。

色	意味
緑色	OK
黄色	警告レベルに達した
赤色	シャットダウン温度に達した
灰色	計測不可
青色	温度センサが不良

7.2.2 電源

電源は、ブレードサーバの電源の情報を提供します。



図 35: 電源ビュー

電源はブレードサーバの図上の四角形で表されます。四角形は次を示します。



- 筐体内の電源の位置（四角形的位置によって示されます）。
- 電源の状態（四角形の色によって次のように示されます）。

色	意味
緑	電源は正常に動作しています。
赤	電源が故障しています。
灰色	エージェントが応答していません。

電源の全体ステータスは、ブレードサーバ内の電源の全体的な状態を表示します。四角形の色の意味は次のとおりです。

色	意味
緑	電源は正常です。
赤	電源が遮断されました。
黄	電源に問題があります。

主電源ステータスは、次のアイコンを使って主電源の状態を表示します。

アイコン	意味
	サーバまたはストレージサブシステムは正常に動作しています。
	サーバまたはストレージサブシステムにエラーがあります。

「電源情報」の表では最も重要な電源のデータを表示します。

「UPS 情報」の表では電源の情報を表示します。この表は、UPS（無停電電源装置）デバイスが適宜に設定されている場合のみ表示されます。

「UPS 情報」の表の「マネージャ」カラムでは、「UPS マネージャの起動」エントリで UPS マネージャを起動できます。「アドレス」カラムには UPS エージェントの IP アドレスが表示されます。これは、RemoteView 管理ブレード経由で設定した UPS エージェントの IP アドレスです。

電源ビューについて、詳しくは、[144 ページの「電源」の項](#)をご覧ください。

7.3 システム

「システム」にはメニュー項目「システム情報」があります。これは、システム名、サーバ機種、UUID、ファームウェアのバージョン、インストールされている OS、プロセッサの種類、資産タグなどの詳細情報を提供します。

7.4 メンテナンス

「メンテナンス」には、次のメニュー項目があります。

- システムイベントログ
システムイベントログ (SEL) のエントリを確認できます。詳しくは、[165 ページの「システムイベントログ」の項](#)をご覧ください。
- サーバプロパティ
さまざまな **ServerView** 設定の確認、変更ができます。詳しくは、[166 ページの「サーバプロパティ」の項](#)をご覧ください。
- リモートマネジメント Telnet
ブレードサーバ上の **RSB Telnet** を起動できます。
- MMB SSH
BX900 では、「MMB SSH」を使って SSH 接続経由で、サーバの **iRMC Remote Manager** インタフェースを表示できます（詳細は、「**PRIMERGY ServerView Suite. iRMC S2**」マニュアルをご覧ください）。
- マネジメントブレード設定
新しいウィンドウ内でマネジメントブレード設定ツールを起動できます。

ブレードサーバのアーカイブデータが表示されている場合は、「メンテナンス」のメニュー項目は無効になっています。

8 ブレードフレームデータの詳細確認

i 本機能は未サポートです。ご使用になれません。

「サーバリスト」画面でブレードフレームシステムをクリックすると、「BladeFrame Server View [ブレードフレーム名]」画面が表示され、ブレードフレームシステムの情報を確認できます。

BF400S2

BF400

Displayed Data: Online Data Refresh Cabinet Details

Cabinet Details

PAN Name: egenera BladeFrame: BF400S2
Host Name: control-blade-A Event Status: ✗
Agent Type: BladeFrame Up Time: 6 days, 22:10:22

✗ Control Blades Status

Events	Name	cBlade	Master	Power	Active
✗	BF400S2/c1	1	true	on	true
✗	BF400S2/c2	2	false	on	true

✓ Switch Blades Status

Events	Name	sBlade	Master	Power	Active
✓	BF400S2/s1	1	false	on	true
✓	BF400S2/s2	2	false	on	true

✓ Processing Blades Status

Events	Name	pBlade	pServer Name	Power	Active
✓	BF400S2/p1	1	n.a.	off	false
✓	BF400S2/p2	2	n.a.	off	false
✓	BF400S2/p7	7	n.a.	off	false
✓	BF400S2/p8	8	n.a.	off	false
✓	BF400S2/p9	9	QA2_KevinDennisParvilleLinux	on	true
✓	BF400S2/p10	10	n.a.	off	false
✓	BF400S2/p11	11	n.a.	off	false
✓	BF400S2/p12	12	QF1_UweDennis_2	on	true

Information / Operation

- Configuration
 - BladeFrame Status
 - pServer Status
 - vBlade Status
 - Egenera PAN Manager
- Components
 - Devices
 - Power Input Modules

図 36: BladeFrame Server View

この画面には、ブレードフレームにあるすべてのコントロールブレード、スイッチブレード、プロセッシングブレードと、その状態が表示されます。選択したブレードフレームと各ブレードの詳細情報を確認できます。

画面左側の「ステータス表示 / 設定」には、詳細情報のためのメニューが表示されます。これらのメニューの概要については、62 ページの「BladeFrame Server View ウィンドウのメニュー (BladeFrame は未サポート)」の項と 63 ページの「BladeFrame <server> Details View ウィンドウのメニュー (BladeFrame は未サポート)」の項をご覧ください。次では、各ビューについて説明します。

「表示データ」ドロップダウンリストボックスでは、ブレードフレームの現在のデータ（オンラインデータ）またはアーカイブデータ（アーカイブ:<日付時間>）のどちらにアクセスするかを選択します。サーバが利用できない場合でも、アーカイブデータにアクセスできます。アーカイブデータにより、問題の原因解明に役立つ情報を得られる場合があります。

8.1 Configuration

「Configuration」メニューには、次のメニュー項目があります。

- BladeFrame Status
- pServer Status
- vBlade Status
- Egenera PAN Manager

BladeFrame Status

「BladeFrame Status」メニューは、ブレードフレームにあるすべてのコントロールブレード（cBlade）、スイッチブレード（sBlade）、プロセッシングブレード（pBlade）と、その状態を表示します（「BladeFrame Server View [ブレードフレーム名]」画面を開いたときの状態に対応しています。詳しくは [199 ページの図 36](#) をご覧ください）。

画面上部に表示されているブレードフレーム自体の全般情報に加えて、その下にはブレードフレームにある次の主要コンポーネントの情報が表に表されています。

- コントロールブレード
- スイッチブレード
- プロセッシングブレード



ブレードフレーム **BF200** にはスイッチブレードはありません。したがって、これに対するスイッチブレードの表はありません。

ブレードタイプごとに表があります。さらに、ブレードの各タイプに対する表にはエントリがあります。

これらの表では次の情報を確認できます。

- ブレードの状態（「Health」）。画面上部の「Health Status」には、ブレードフレームの状態が表示されます。これは発生したイベントから判断されます。イベントは **PAN マネージャ** で確認できます。「Egenera PAN Manager」コマンドを使って **PAN マネージャ** を呼び出します（次をご覧ください）。
- ブレードの名前。この名前をクリックすると、「ブレードフレーム < サーバ > 詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面が表示されます。任意のブレードの詳細情報を確認できます。[204 ページの「ブレードフレーム < サーバ > 詳細画面」の項](#)をご覧ください。
- ブレードフレームにある任意のブレードの位置。この番号は物理的位置と一致しています。
- この処理サーバにある処理サーバ（pServer）の名前。このカラムは処理サーバの場合のみ存在します。
- ブレードのジョブ。コントロールブレードでは、このカラムはコントロールブレードが **PAN マスタ** として動作するかを示します。スイッチブレードでは、このカラムはスイッチブレードがマスタスイッチとして動作するかを示します。処理サーバでは、このカラムは存在しません。
- 電源状態（on または off）
- ブレードの状態（有効または無効）

pServer Status

「pServer Status」メニュー項目では定義された処理サーバ（pServer）の概要が確認できます。各処理サーバの概要では次の情報が確認できます。

- pServer の状態
- pServer の名前。この名前をクリックすると、「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面が表示されます。処理サーバの詳細情報が確認できます。[206 ページの「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面」の項](#)をご覧ください。
- pServer が現在割り当てられている pBlade の名前。
- 関連する LPAN の名前。
- BOOT 状態。

vBlade Status

「vBlade Status」メニュー項目では、このブレードフレームにあるすべての設定済み仮想ブレード (vBlade) の概要が確認できます。仮想ブレードごとに次の情報が表示されます。

- vBlades の状態。
- vBlade の名前。この名前をクリックすると、「ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面が表示されます。仮想ブレードの詳細情報が確認できます。[207 ページの「ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面」](#)の項をご覧ください。
- vBlade の番号。これは pBlade の番号と vBlade の番号をピリオドで分けたものです。
- vBlade 上の処理サーバ (pServer) の名前。この vBlade 上でどの pServer も動作中でない場合は、N/A と表示されます。
- vBlade の電源状態 (on または off)。
- vBlade が有効か無効かの情報。

Egenera PAN Manager

このメニュー項目は、該当するブレード フレームシステムについて、PAN マネージャの Web インタフェースを起動します。PAN マネージャはブレードフレームシステムを管理するために使用され、コントロールブレード (cBlade) 上で実行します。PAN マネージャについて、詳しくは、ブレードフレームシステムの関連するマニュアルをご覧ください。

8.2 Components

「Components」メニューには、「Devices」メニュー項目と「電源入力モジュール」メニュー項目（PIMのあるブレードフレームのみ）があります。

Devices

「Devices」メニュー項目では、ブレードフレームにある次のハードウェアコンポーネントの状態を 3 つの表で表します。

- 冗長イーサネットモジュール
- CD-ROM
- ハードディスク

Ethernet の表では、Processing Area Network (PAN) 内の冗長イーサネットモジュールに関する情報が確認できます。冗長イーサネットモジュールは一对の Ethernet Network Interface Card (NIC) で、それぞれのコントロールブレードに 1 つずつ付いています。これらのモジュールの設定および外部接続は同一です。

詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

電源入力モジュール

PIM が搭載されたブレードフレームの場合、「Components」メニューには「電源入力モジュール」メニュー項目があります。電源モジュールの情報を確認できます。

8.3 ブレードフレーム <サーバ> 詳細画面

「BladeFrame Server View [ブレードフレーム名]」画面の表エントリ内でブレード名をクリックすると、任意のブレード（コントロールブレード、スイッチブレード、プロセッシングブレード）の詳細データを別のウィンドウで開きます。

The screenshot displays the 'BladeFrame Server View' interface for cabinet 'BF200_BF1'. The left sidebar shows a navigation menu with 'Configuration' and 'Blade Details' (selected). The main content area is divided into several sections:

- Cabinet Details:** Shows 'BladeFrame: BF200_BF1', 'BladeFrame Type: BladeFrame ES', 'Name: c1', 'Event Status: [Green Checkmark]', and 'Up Time: 6 days, 07:17:54'.
- Blade Details:** Shows 'Serial Number: CS1CL2000497', 'Part Number: 950-000032', 'Power Supply: A', 'Enabled Status: true', and 'Switch Power Status: on'.
- HW Monitor Table:** A table listing hardware monitors with columns 'Id', 'Name', 'Type', and 'CurrentVal'.

Id	Name	Type	CurrentVal
1	+1.25 DDR Mem Monitor	voltage	1.26 V
2	+1.5 CPU core Monitor	voltage	1.5 V
3	+1.5 IMB Term Monitor	voltage	1.5 V
4	+12 Monitor	voltage	12.2 V
5	+2.5 Monitor	voltage	2.51 V
6	+3.3 Main Monitor	voltage	3.39 V
7	+3.3 RIO Card Monitor	voltage	3.33 V
8	+3.3 Standby Monitor	voltage	3.27 V
9	+3.3 Switch Monitor	voltage	3.27 V
10	+5 Monitor	voltage	5.12 V
11	+5 Standby Monitor	voltage	5.15 V
12	Ambient Temp Monitor	temperature	23 C
13	CPU0 Temp Monitor	temperature	39 C
14	CPU1 Temp Monitor	temperature	56 C
15	Chassis fan 1 Monitor	fanspeed	4200 rpm
16	Chassis fan 2 Monitor	fanspeed	4140 rpm
17	Chassis fan 3 Monitor	fanspeed	4110 rpm

図 37: ブレードフレーム制御サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名]

このビューでは、ブレードフレームと選択されたブレードに関する全般的な情報を確認できます。

画面の左側にある「ステータス表示 / 設定」には、確認したい情報のメニューが表示されます。

「Configuration」メニューには、次の項目があります。

- Blade Details
- vBlades
- pServer Page

「Blade Details」では任意のブレードの詳細データが確認できます。

選択したブレードがプロセッシングブレードの場合、さらに次のメニュー項目が利用できます。

- 「vBlades」で、この pBlade にあるすべての設定済み仮想ブレードの概要が確認できます。ブレードフレームシステム全体にあるすべての vBlades を表示したい場合は、「Configuration」メニューの「vBlade Status」を選択してください。



「vBlades」メニュー項目は、pBlade に対して vBlades が設定されている場合のみ有効です。

- 「pServer Page」メニュー項目では、「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面内に任意の pServer の詳細が確認できます。[206 ページの「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面」](#)の項をご覧ください。



「pServer Page」メニュー項目は、pBlade で pServer が動作中の場合のみ有効です。

選択したブレードがコントロールブレード (cBlade) の場合、「Components」では次のメニュー項目が利用できます。

- 「CPU Statistics」- 任意のコントロールブレードにある各 CPU の CPU 統計情報
- 「Disk Information」- 任意のコントロールブレードにあるハードディスクについての情報
- 「Partitions」- 任意のコントロールブレードのパーティションについての情報

詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。



スイッチブレードまたはプロセッシングブレードでは、「Components」内のコマンドは無効です。

8.4 ブレードフレーム処理サーバ詳細画面

pBlade で pServer が動作中の場合、「BladeFrame Server View [ブレードフレーム名]」画面では、「Configuration」の「pServer Status」メニュー項目からさらに別のウィンドウが開きます。

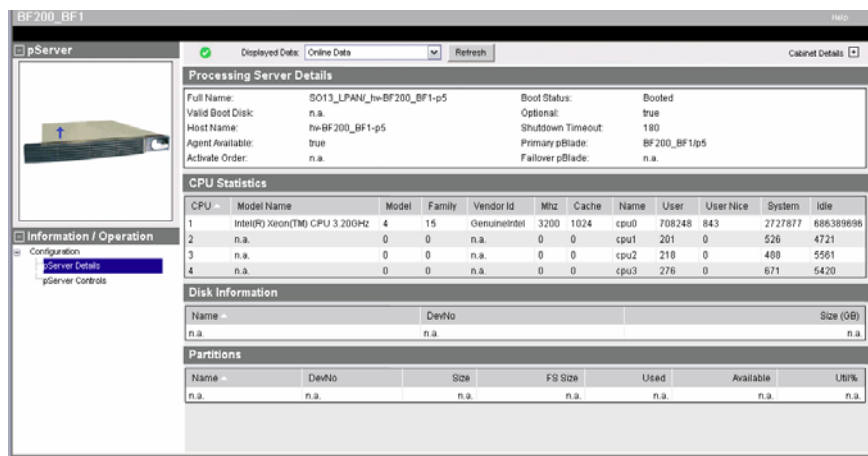


図 38: ブレードフレーム処理サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名]

「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面には、任意の pServer の詳細情報が表示されています。

「Configuration」メニューには、次の項目があります。

- pServerDetails
- pServerControls

「pServerDetails」では、任意の pServer の詳細情報が表示されます。

「pServerControls」を使って、pServer の BOOT 状態を変更できます。状態に応じて、次のアクションを選択できます。

- 起動
- シャットダウン
- 強制シャットダウン
- リセット
- 強制リセット

8.5 ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面

「BladeFrame Server View [ブレードフレーム名]」画面の表エントリにある vBlade の名前を「Configuration の下の vBlade Status」からクリックすると、別のウィンドウが開きます。

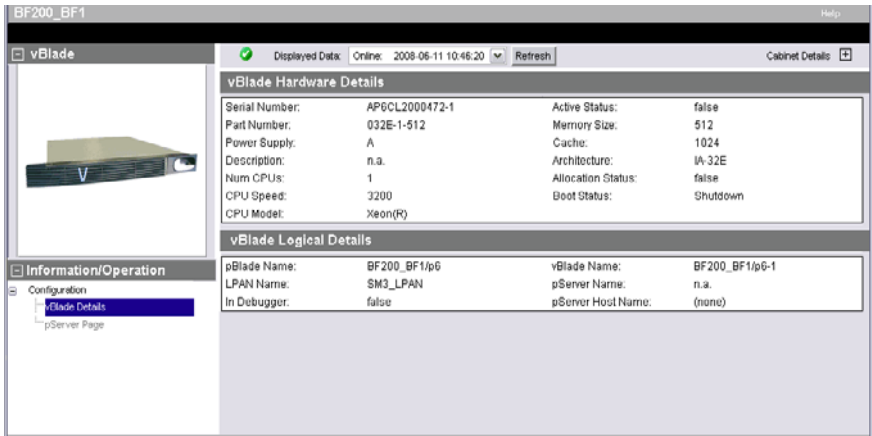


図 39: ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面 [ブレードフレーム名]

この「ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面では、任意の vBlade の詳細情報が確認できます。

「Configuration」メニューには、次の項目があります。

- vBlade Details
- pServer Page

「vBlade Details」では任意の vBlade の詳細が表示されます。

「pServer Page」は「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名]」画面を開きます。この画面では任意の pServer の詳細が確認できます。206 ページの「ブレードフレーム処理サーバ詳細画面」の項をご覧ください。



「pServer Page」メニュー項目は、vBlade で pServer が実行中の場合のみ有効です。

9 ストレージのデータの詳細確認

ServerView Operations Manager では、ストレージサブシステムの詳細を確認できます。機種に応じて、ServerView Operations Manager から直接、またはストレージサブシステムの Web インタフェースを起動し、ストレージサブシステムの詳細情報を確認できます。



ETERNUS DX60/DX80/DX90 のストレージサブシステム以外は未サポートです。ご使用になれません。

次のストレージサブシステムの詳細は、ServerView Operations Manager の「SV - Storage」画面で確認します。

- FibreCAT SX60/80/88/100
- FibreCAT SX80 iSCSI
- All FibreCAT CX モデル
- ETERNUS DX60/DX80/DX90
- ETERNUS DX400/DX8000 ファミリー

この章では、確認できる情報とその方法について説明します。

次のストレージサブシステムの詳細は、ストレージサブシステムの Web インタフェースで確認します。

- FibreCAT TX
- ETERNUS 400/8000
- CentricStor FS
- NetApp

サーバリスト内で該当ストレージをクリックすると、Web インタフェースが起動します。

ServerView Operations Manager で情報を確認する

FibreCAT SX60/80/88/100、FibreCAT SX80 iSCSI、FibreCAT CX モデルおよび ETERNUS DX60/80/DX90/DX400/DX8000 タイプのストレージシステムの詳細は、直接 ServerView Operations Manager で確認します。「サーバリスト」画面のサーバリストで関連ストレージサブシステムをクリックして表示します。

関連ストレージサブシステムの「SV - Storage」画面が表示されます。

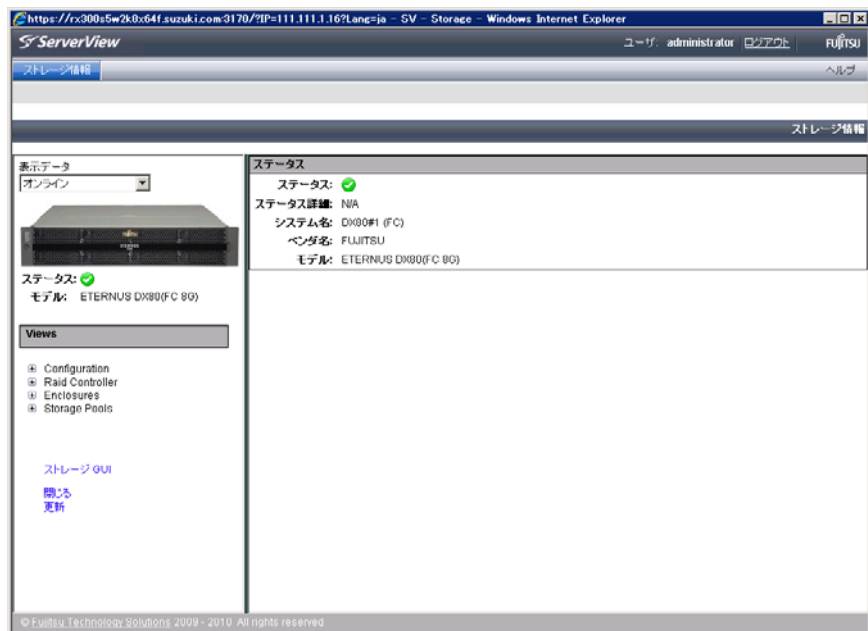


図 40: SV - Storage

「SV - Storage」画面は、ServerView Operations Manager がストレージをストレージとして認識できる場合のみ開きます。これには次の条件が必要です

- ServerView Storage Manager (StorMan) サービスの「StorMan Service」(Windows の場合) または「StorMan」(Linux の場合) を起動する必要があります。
- SMI-S (Storage Management Initiative Specification) プロバイダがインストールされている必要があります。

FibreCAT SX60/80/88/100、および ETERNUS DX60/DX80/DX90 には、SMI-S プロバイダが付属しています。この場合、特にインストールは必要ありません。

FibreCAT CX の機種には SMI-S プロバイダが付属していません。これらの機種では、CIM サーバまたは SMI-S プロバイダ V4.1 をインストールする必要があります。ServerView Storage Manager (StorMan) には EMC SMI-S プロバイダは付属していません。

ソフトウェア要件については、StorMan のマニュアルをご覧ください。



バージョン 4.0.1 時点の EMC CIMServer/SMI-S プロバイダでは、ストレージサブシステムを設定する際にユーザ名が必要です（次をご覧ください）。

- ストレージサブシステムを正しく設定する必要があります。

FibreCAT SX60/80/88/100、および ETERNUS DX60/DX80/DX90 では、オブジェクトがサーバリストに加えられると自動的に設定が行われます（[112 ページの「オブジェクトの定義と追加」の項](#)をご覧ください）。



ETERNUS DX60/DX80/DX90 SMI-S 機能には、有効なユーザ / パスワードの組み合わせが必要です。ETERNUS DX60/DX80 ストレージサブシステムを **ServerView** サーバリストに追加する前に、この組み合わせをユーザ / パスワード一覧に格納する必要があります（[「15 ユーザ / パスワード一覧の作成」の章（243 ページ）](#)）をご覧ください）。

設定に問題がある場合は、次の **ServerView Storage Manager (StorMan)** 設定コマンドを実行してください。

```
storcfg cimom -add -ip <IP address of the storage system> -cimuser <user> -  
cimpwd <password>
```

ユーザ / パスワードを変更した場合、次の **StorMan** 設定コマンドを実行してください。

```
storcfg cimom -mod -ip <ip-address of the storage system> -newuser <user> -  
newpwd <password>
```

FibreCAT CX の機種では、SMI-S プロバイダをインストールした後、手動で設定を行う必要があります。次の **ServerView Storage Manager (StorMan)** 設定コマンドが必要です。

```
storcfg cimom -add -ip <IP アドレス>
```

「IP アドレス」を、SMI-S プロバイダがインストールされているサーバの IP アドレスに置き換えます。

バージョン 4.0.1 時点の EMC CIMServer/SMI-S プロバイダでは、ストレージサブシステムを設定する際に指定するユーザ名が必要です。

```
storcfg cimom -add -ip <IP address of the server with the installed SMI-S provider>  
-cimuser <user> -cimpwd <password>
```

ユーザ / パスワードを変更した場合、次の **StorMan** 設定コマンドを実行してください。

storcfg cimom -mod -ip <IP address of the server with the installed SMI-S provider> -newuser <user> -newpwd <password>



ソフトウェア要件

V1.4 は FibreCAT CX3-10 Combo、CX3-20 Combo および CX3-40 Combo の機種ストレージサブシステムをサポートします。

StorMan V2.0 は、FibreCAT SX80 iSCSI および FibreCAT SX 100 の機種ストレージサブシステムをサポートします。

StorMan V2.1 は、ETERNUS DX60/DX80 の機種ストレージサブシステムをサポートします。



追加ドキュメント

FibreCAT ストレージについては、入門ガイド「Monitoring FibreCAT CX systems with ServerView Operations Manager」および「Monitoring FibreCAT SX systems with ServerView Operations Manager」をご覧ください。

ETERNUS DX60/DX80 ストレージサブシステムについては、クイックスタートガイドもご覧ください。

StorMan について詳しくは、ServerView Storage Manager のマニュアル、または提供されている Readme ファイルをご覧ください。

画面左側の「ビュー」には、詳細情報を表示できるメニューがあります。メニューの概要については、[64 ページの「SV Storage ウィンドウのメニュー」の項](#)をご覧ください。以下では、各ビューについて説明します。



- 各種ビューには、空白になるフィールドもあります。その場合、ServerView Storage Manager (StorMan) CLI によって設定できる情報が欠落しています。設定について、詳しくは、ServerView Storage Manager (StorMan) のマニュアルをご覧ください。
- FibreCAT SX システムでは、お客様が設定できる情報（ロケーション、連絡先など）に特殊文字（例 :<、> など）を含めることはできません。含んでいる場合、ストレージ情報を認識できない場合があります。

画面右側の「ポートタイプ」カラムには、ストレージ接続の種類が表示されます。以下が表示されます。

- Fibre Channel (FibreCAT SX60/80/88/100 / CLARiiON CX / FibreCAT CX の場合)
- iSCSI (FibreCAT SX 80 iSCSI の場合)
- Fibre Channel または iSCSI (FibreCAT CX-C の場合。ホスト上で Fibre Channel や iSCSI 接続を介して接続可能)

ストレージでは、システムの現在のデータ (表示データのオンライン) にのみアクセスできます。

9.1 コンフィグレーション

「コンフィグレーション」メニューには、「ステータス」メニューと「システム情報」メニューが提供されています。

- 「ステータス」: ストレージの情報 (例: システム名、製造元、機種) とそのステータス (ステータスアイコン、詳しいステータス情報)
- 「システム情報」: ストレージの情報 (例: 機種、製品、バージョン、連絡先、ロケーション)

9.2 RAID コントローラ



ServerView Operations Manager に FibreCAT CX システムの情報を表示する場合、ベンダ固有の用語は使用されないことに留意ください。用語は EMC 社の用語に準拠しているとは限りません。例えば、「RAID コントローラ」の代わりに、「ストレージプロセッサ」という用語が使用されていることがあります。

「RAID コントローラ」メニューでは、各 RAID コントローラに対して「概要」メニューと「ポート一覧」メニューが提供されています。RAID コントローラの名前は、ServerView Storage Manager (StorMan) が提供する名前で表示されます。これらは、ServerView Storage Manager (StorMan) から送られる情報と同じ順序で表示されます。

- 「概要」: 該当する RAID コントローラの全般的な情報
- 「ポート一覧」: 該当する RAID コントローラのポートに関する情報

9.3 エンクロージャ

「エンクロージャ」メニューでは、各ストレージに対して「概要」メニューと「物理ディスク」メニューと「環境」メニューが提供されています。ストレージの名前は、**ServerView Storage Manager (StorMan)** が提供する名前で表示されます。これらは、**ServerView Storage Manager (StorMan)** から送られる情報と同じ順序で表示されます。

識別しやすいように、**ServerView Storage Manager (StorMan) CLI** を使用して、サーバに、より説明的なシステム名を付けることをお勧めします。サーバ名の設定について、詳しくは、**ServerView Storage Manager (StorMan)** のマニュアルをご覧ください。

- － 「概要」：選択されたストレージの全般的な情報
- － 「物理ディスク」：物理ハードディスクの情報
- － 「環境」：電源、ファンなどに関する情報

9.4 ストレージプール

「ストレージプール」メニューでは、各ストレージに対して「概要」メニュー、「ストレージボリューム」メニュー、「ホストマッピング」メニューが提供されています。

- － 「概要」：ストレージプールの情報。
- － 「ストレージボリューム」：ストレージボリュームを表示します。
- － 「ホストマッピング」：監視対象サーバのストレージボリュームへの割り当て。識別しやすいように、**ServerView Storage Manager (StorMan) CLI** を使用して、サーバに、より説明的なシステム名を付けることをお勧めします。サーバ名の設定について、詳しくは、**ServerView Storage Manager (StorMan)** のマニュアルをご覧ください。

9.5 ストレージ GUI

「ストレージ GUI」リンクは、該当するストレージの Web インタフェースを起動します。

10 BMC/iRMC データの詳細確認

リモートマネジメント画面では、BMC/iRMC の現在のデータが表示されます。表示されている BMC/iRMC をクリックすると、「ServerView [IP アドレス]」画面が表示されます。

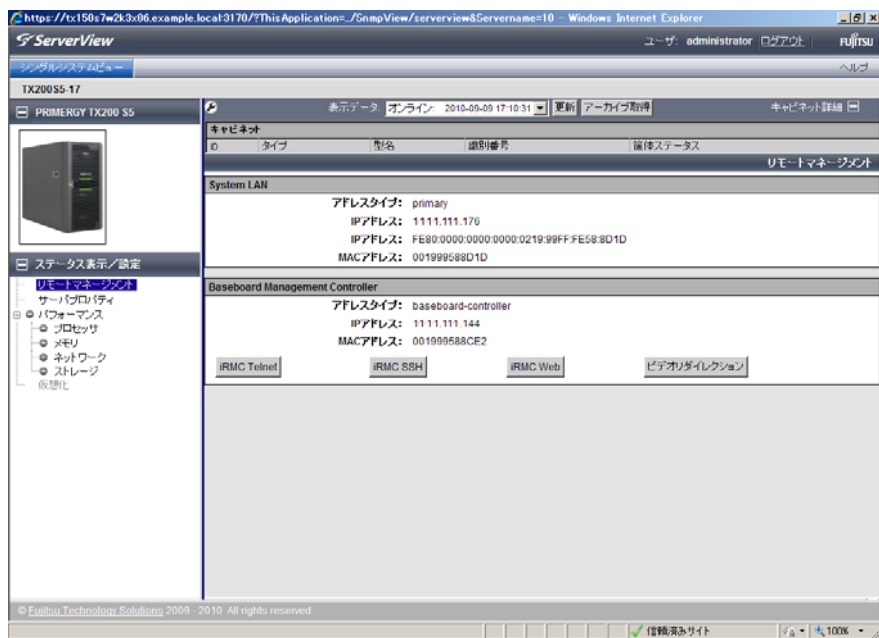


図 41: リモートマネジメントビュー

この画面では、「リモートマネジメント」ビューに、BMC/iRMC の現在のデータが表示されます。

詳しくは、[171 ページ](#)の「リモートマネジメント」の項をご覧ください。

11 パワーモニタ

個々または複数の監視対象サーバに対して消費電力の測定データを管理および表示することができます。**Operations Manager** のパワーモニタコンポーネントを使用します。測定データは監視対象サーバ上の **ServerView** エージェントによって記録されます。測定データを記録するには、監視対象サーバで次の条件が必要です。

- **Windows** または **Linux** 用の **ServerView** エージェント **V4.52.06** 以降のバージョンがインストールされていること。
- **ServerView** エージェントが適切に設定されていて、電力監視が許可されていること。エージェントは **ServerView Configuration Manager** を使って設定ができます。設定画面は **ServerView** の「管理者設定」→「サーバの設定」から直接呼び出すことができます（[「13 サーバのリモート設定」の章 \(237 ページ\)](#) をご覧ください）。

一連の測定を評価するために、画面上には表やグラフで表示します。各パラメータを使い、必要に応じて表やグラフの出力を調節します。

例：

- 1 つまたは複数のサーバに対して一定期間の消費電力を表示します。
例：1 時間、1 週間、1 年
- 複数の曲線状グラフを使って 1 台のサーバのさまざまな消費値（例：現在や平均）を表示します。
- 複数の曲線状グラフを使って複数のサーバの消費値を表示します。

測定データは監視対象サーバに保存され、最長 1 年間利用できます。そしてその後は上書きされます。つまり、最大で過去 12 ヶ月分の測定データを確認できます。



電力監視は現在、サーバとサーバブレードに利用できます。

11.1 パワーモニタの起動

Operations Manager の起動画面またはメニューバーから「サーバ監視」→「パワーモニタ」を選択して、パワーモニタ画面を起動します。

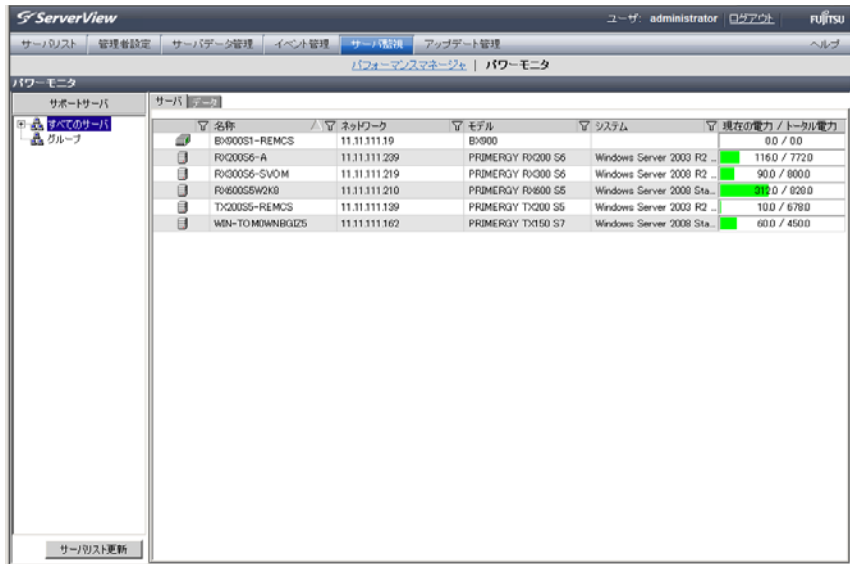








図 42: パワーモニタの起動画面

i パワーモニタを起動した直後は、「現在の電力 / トータル電力」列の値は 0.0/0.0 に設定されています。まず現在の電源測定値を取得します。取得中は別のウィンドウで取得処理の進行状況が確認できます。いったんデータが取得されると、「現在の電力 / トータル電力」列の値が更新されます。

画面左側のファイルツリーには、ServerView サーバ一覧に従って、電力監視のできるサーバやサーバグループがすべて表示されます。このツリーを使用して、測定データを表示したい管理サーバとサーバブレードを選択します。

ブレードサーバやグループも選択できます。グループを選択する場合、サブグループを含むことはできません。サブグループを含んで選択した場合、エラーメッセージが表示されます。

ファイルツリー内のアイコンは、サーバ機種と状態を示します。

	サーバは電力監視をサポートします。
	サーバブレードは電力監視をサポートします。
	ブレードサーバは電力監視をサポートします。
	ESX サーバは電力監視をサポートします。
	Hyper-V サーバは電力監視をサポートします。
	Xen / Citrix Xen サーバは電力監視をサポートします。

スタートページの画面右側にあるタブは次の 2 つです。

– 「サーバ」タブ

「サーバ」タブでは、ファイルツリーで選択したサーバやサーバブレードの全般的な情報が確認できます。

– 「データ」タブ

「データ」タブでは、1 つまたは複数のサーバ / サーバブレードに対する測定値の概要が、表やグラフで確認できます。

パワーモニタには次のボタンがあります。

– 「サーバリスト更新」ボタン

「サーバリスト更新」ボタンは、画面左側のファイルツリーを更新します。

– 「データ更新」ボタン

「データ更新」ボタンは、画面右側の表示（「データ」タブ上のみ）を更新します。

11.2 サーバタブ

「サーバ」タブでは、ファイルツリーで選択したサーバやサーバブレードの一般的な情報が確認できます。

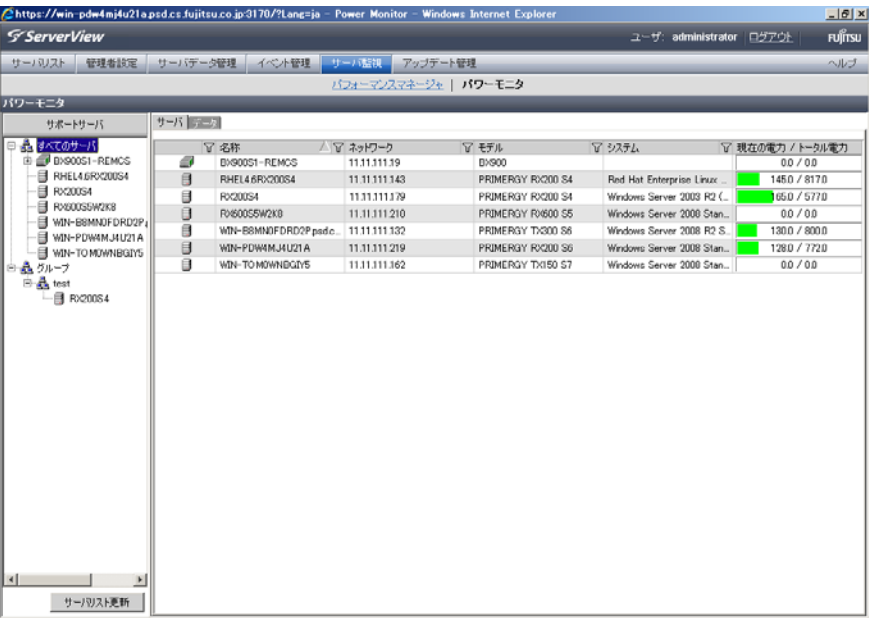


図 43: パワーモニタ - サーバタブ

選択したサーバやサーバブレードについて、次の情報が確認できます。

- 名称
 - サーバ名
- ネットワーク
 - IP アドレス
- モデル
 - サーバの機種（この情報がある場合）
- システム
 - OS（この情報がある場合）






現在の電力 / トータル電力

現在および最大の消費電力（W）（この情報がある場合）。それぞれの値は棒グラフ上に表示されます。棒グラフは最大消費値に対して現在の値が占める割合を表しています。

各エントリの先頭には次のアイコンが付いています。

最初の列内のアイコン

サーバ機種と状態を表します。

	サーバは電力監視を許可します。
	サーバブレードは電力監視を許可します。
	ESX サーバは電力監視を許可します。
	Hyper-V サーバは電力監視を許可します。
	Xen / Citrix Xen サーバは電力監視を許可します。

各列（「現在の電力 / トータル電力」以外）では、アイコンを使ってサーバタブのフィルタ処理ができます。



フィルタアイコン

フィルタが有効な場合、青色のフィルタアイコンで示されます。

フィルタの適用

フィルタを適用したい列にあるフィルタアイコンをクリックすると、ダイアログボックスが開きます。

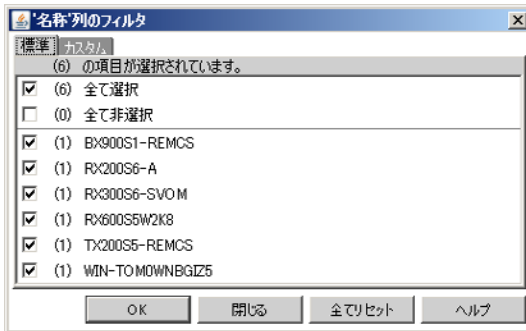


図 44: 例：「システム」列のフィルタリング

標準フィルタ選択オプションが表示されます。

標準フィルタでは、チェックボックスを使って選択エレメントをすべて選択します。カスタマイズフィルタでは、直接入力（例：Windows Server 2000）、またはワイルドカードとしてアスタリスクや疑問符を使用して選択します。

ワイルドカード：

- * 位置が特定できない任意の文字列。例：Win*
- ? 位置が特定できている任意の 1 文字。例：Windows Server 200?

選択してから、「OK」で確定します。選択に従って、フィルタ処理されたサーバやサーバブレードのみが「サーバ」タブに表示されます。フィルタリングはファイルツリー内のサーバ選択には影響を与えません。

2 つ以上の列をフィルタ処理できます。

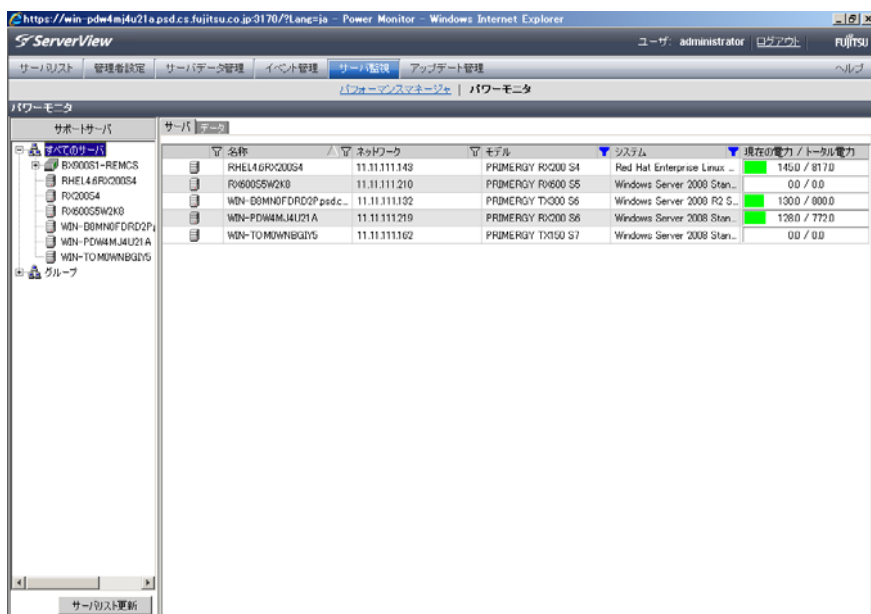


図 45: パワーモニタ - 複数のフィルタを適用した例

図 45 では、「モデル」列と「システム」列がフィルタ処理されています。

一度にすべてのフィルタをリセットしたい場合は、任意の列のフィルタアイコンをクリックします。開いたダイアログボックス内で、「全てリセット」をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

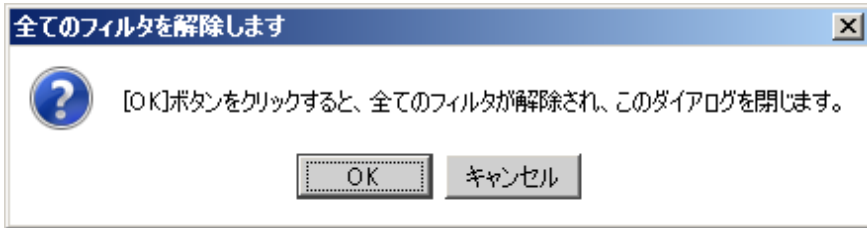


図 46: パワーモニタ - フィルタのリセットに関する警告

「OK」でフィルタのリセットを確定します。

11.3 データタブ

「データ」タブでは、「サーバ」タブに一覧で表示されたサーバやサーバブレードの消費電力の概要を確認できます。

その後、サーバやサーバブレードを追加選択することもできます。追加選択するには、**[CTRL]** キーを押したまま、ファイルツリー内で表示したいサーバをクリックします。

i グラフで **9** つ以上のサーバを表示するとわかりにくくなり、役に立ちません。**9** つ以上のサーバを選択した場合、「設定」下に警告メッセージが表示されます。選択したサーバが **8** つに減ると警告メッセージは消えます。

表とグラフの両方で消費電力を確認できます。

一連の測定を評価、表示するために、「データ」タブでは各パラメータを提供しています。これらのパラメータを使って表示を制御できます。



図 47: パワーモニタ - データタブ

上記の例は、「RX200S4」サーバの消費電力をグラフと表で表しています。

「データ」タブは3つのセクションに分かれます。

- 「設定」バーを使って、タブの下部セクション内の出力を必要に応じて設定できます。

電力消費グラフ

電力消費表

デフォルト値：両方を表示

「電力消費グラフ」と「電力消費表」を使用することで、消費電力の測定データの表示をグラフと表、またはその両方の選択ができます。

利用できる測定データがないサーバを選択した場合は、エラーメッセージが設定の下に表示されます。「メッセージ」を使って、これらのメッセージを非表示 (-) または表示 (+) できます。



測定データがない原因は次の場合が考えられます。

- **V4.52.06** 以降のバージョンの **ServerView** エージェントが、監視対象サーバにインストールされていない場合。
- 電力監視が監視対象サーバで有効になっていない場合 (**ServerView Configuration Manager** で設定できます)。
- **ServerView** エージェントが監視対象サーバに再インストールされ、既存の測定が削除されてしまった場合。更新インストールではこれらの値は上書きされません。

3つのプルダウンメニューを使って測定データの出力を制御できます。

左のプルダウンメニューで、グラフに消費電力を表示する時間の間隔を指定します。時間の間隔は次の中から選択できます。

1 時間

デフォルト値

直近の 1 時間の測定値 (60 個の値)。測定は毎分行われるため、1 時間前からの測定がすべて表示されることを意味します。

12 時間

直近の 12 時間の測定値。5 分ごとに 1 つの値を表示します (5 個ごとの値、合計で 144 個の値)。

24 時間

直近の 24 時間の測定値。10 分ごとに 1 つの値を表示します (10 個ごとの値、合計で 144 個の値)。

1 週間

直近の 1 週間の測定値。1 時間ごとに 1 つの値を表示します (60 個ごとの値、合計で 168 個の値)。

1 か月

直近の 1 か月の測定値。約 4 時間ごとに 1 つの値を表示します (240 個ごとの値、合計で 180 個の値)。

6 か月

直近の 6 か月の測定値。1 日ごとに約 1 つの値を表示します (1440 個ごとの値、合計で 180 個の値)。

12 か月

直近の 12 か月の測定値。2 日ごとに 1 つの値を表示します (2880 個ごとの値、合計で 180 個の値)。

中央のプルダウンメニューを使ってグラフに表示したい値を選択します。値の種類は次の中から選択できます。

現在値

デフォルト値

現在の電力消費値を、選択された間隔で表示する。

最小値

最小電力消費値を、選択された間隔で表示する。

最大値

最大電力消費値を、選択された間隔で表示する。

平均値

平均電力消費値を、選択された間隔で表示する。

全て

上記すべての値を、選択された間隔で表示します。

右のプルダウンメニューでは、電力の単位を指定します。電力の単位は次の中から選択できます。

ワット

デフォルト値

電力の単位。

BTU/h

British Thermal Unit/hour

電力の単位。1000 BTU/h = 293 W

● 測定値のグラフ表示

「設定」バーの設定に応じて、測定値は画面上にグラフで表示されます。

2 つ以上のサーバを選択した場合、それぞれのサーバの消費電力がグラフに表示されます。

2 つ以上の曲線がある場合はそれぞれ別の色で区別され、図の右には色についての対応表が表示されます。

i 多くのサーバを表示するとグラフがわかりにくくなり、あまり役に立ちません。

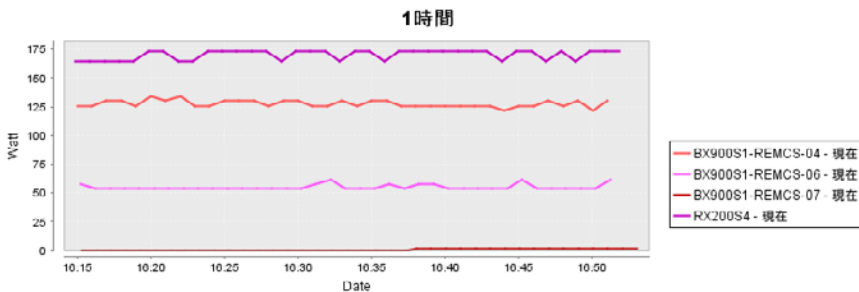


図 48: パワーモニタ - グラフ内のツールチップ

i グラフ上にマウスポインタを移動するとツールチップが表示され、サーバ名、日付、値 (W または BTU/h) が確認できます。

グラフの表示サイズが変更できます。グラフをクリックし、次に左のマウスボタンを押したまま、マウスを右や左に移動させます。これでグラフの描画セクションが拡大、縮小します。特に引き伸ばされた曲線や圧縮された曲線などで役立ちます。その後、右マウスボタンをクリックすると、図は元のビューに戻ります。変更されたセクションは灰色の長方形で表示されます。

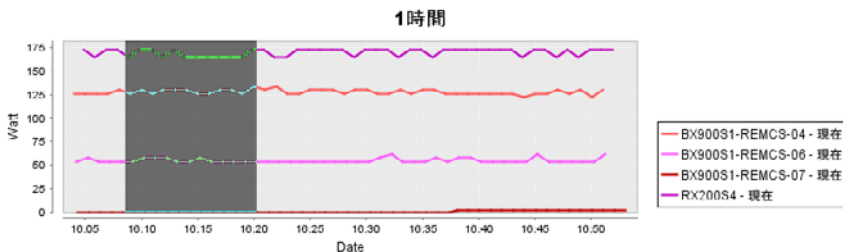


図 49: パワーモニタ - グラフ内の変更セクション

- 表内を使った測定値の表示

画面の下部では、選択した間隔で測定された値が表に表示されます。サーバを 1 つまたは、複数選択するかによって、表の表示が変わります。1 つだけ選択した場合は、選択した間隔のすべての測定値が一覧で表示されます。2 つ以上のサーバを選択した場合、サーバごとに 1 エントリとして表示されます。それぞれのエントリは最新の測定値で表示されています。詳しくは、[230 ページの「データタブの単一のサーバまたはサーバブレード」の項](#)と [231 ページの「データタブの複数のサーバ」の項](#)をご覧ください。

表の先頭の「状態 (PCS)」カラム (PCS - Power Control Status) は、サーバの電源モードを表します。このカラムには次のエントリが表示されます。

disabled

BMC (Baseboard Management Controller)/iRMC (integrated Remote Management Controller)/iRMC S2 では消費電力に対する制御は行いません。

best-performance

BMC/iRMC/iRMC S2 が最高のパフォーマンスを保つようにサーバを制御します。この場合、消費電力が増加する可能性があります。

minimum-power

BMC/iRMC/iRMC S2 ができるだけ電力を消費しないようにサーバを制御します。この場合、性能は必ずしも理想的であるとは限りません。

scheduled

BMC/iRMC/iRMC S2 が、ユーザ定義のタイミングに従って (ServerView Configuration Manager によって) 消費電力を制御します。

unknown

不明の PCS。

次の情報も表示されます。

- 測定が記録された日付と時間
- 現在の値 (W)
- 最小値 (W)
- 最大値 (W)
- 平均値 (W)
- 現在の値 (BTU/h)
- 現在の値 / 最大可能値 (W)

11.3.1 データタブの単一のサーバまたはサーバブレード

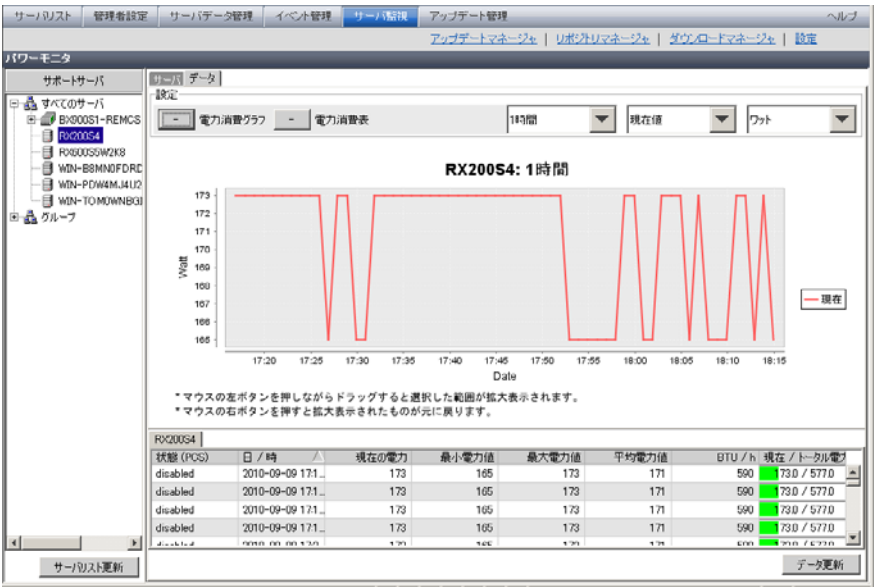


図 50: パワーモニタ - データタブ (単一のサーバ)

サーバまたはサーバブレードを 1 つだけ選択した場合、そのサーバまたはサーバブレードに対して選択した間隔で測定された値がすべて表で表されます。

11.3.2 データタブの複数のサーバ

「データ」タブ上に消費電力の測定値を表示したいサーバまたはサーバブレードを、複数選択できます。

この表示は、個々のサーバの表示とは異なります。

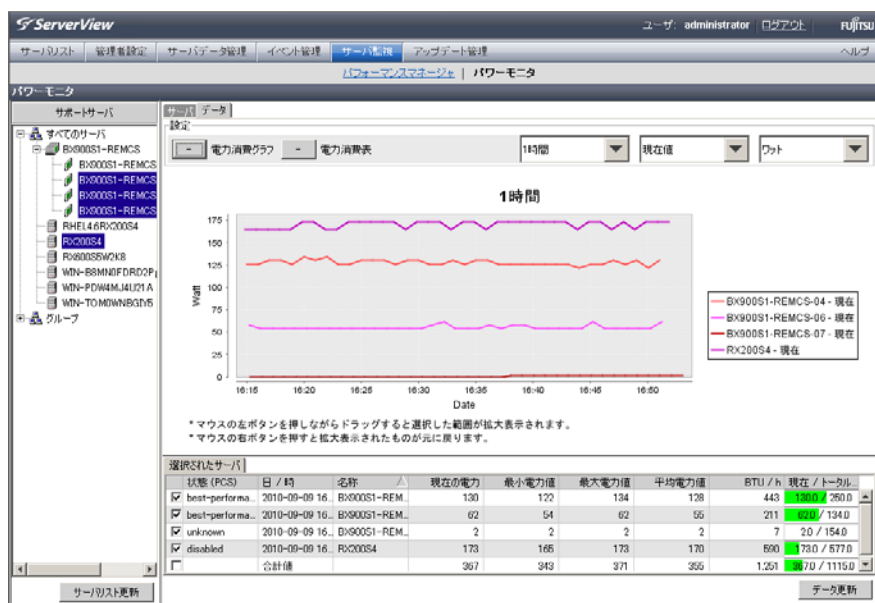


図 51: パワーモニター - データタブ (複数のサーバ)

表では各サーバの最新の測定値が確認できます。この表には「合計値」行も表示されます。この行は、すべての選択されたサーバに対する最新の消費電力値を合計したものです。全期間中の値はグラフで表示されます。

サーバまたは値 (現在の値、平均値、最大値など) を多く選択しすぎると、グラフの表示がわかりにくくなる可能性があります。次の方法で表示を最適化できます。

- サーバリストから少数のサーバまたはサーバブレードだけを選択します。
- 一連の測定 (現在、最小、最大、平均) を 1 つだけ選択します。
- 表から少数のサーバだけを選択します。選択するには、表の先頭の行で、表示したいサーバのチェックボックスをクリックします。

グラフ上にある全サーバの現在の消費電力

表内の「合計値」行をクリックすると、すべての選択されたサーバの現在の消費電力が確認できます。

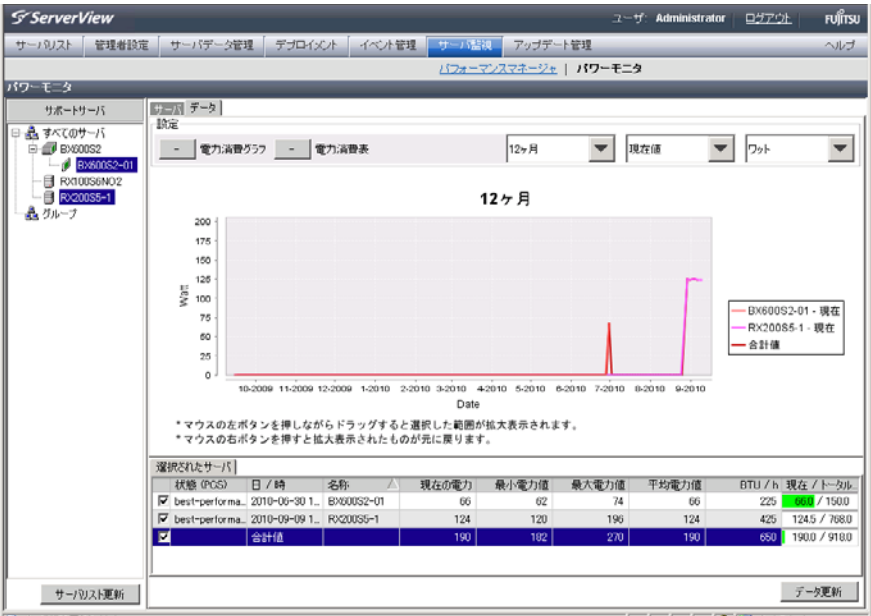


図 52: グラフ内の現在値の合計

利用可能な一連の測定のタイムスタンプは四捨五入されます。

例：

- 1 時間の間隔には、60 個の測定値があります。測定値のタイムスタンプは次の 1 分に切り上げられ、同じ分の値が合計されます。
- 1 週間の間隔には、168 個以上の測定値があります。測定値のタイムスタンプは次の 1 時間に切り上げられ、同じ時間の値は合計されます。

i サーバを 1 つだけ選択した場合、グラフには選択したサーバの消費電力のみが表示されます。

12 電源制御


ServerView Operations Manager ではリモート電源制御の機能を持っています。集中管理コンソールから、各サーバやサーバグループの電源をオン／オフできます。

以下の **PRIMERGY** でリモート電源制御を行うことができます。

- Baseboard Management Controller (BMC) が搭載された **PRIMERGY**
- サーバブレード
- VMware サーバ
- Xen / Citrix Xen サーバ
- Hyper-V サーバ

サーバリストでサーバを選択し、右クリックメニューで、電源制御を起動します。これは、**ServerView Operations Manager** がユーザ / パスワードの一覧内で有効なユーザ / パスワードの組み合わせを見つけた場合に可能です（「[15 ユーザ / パスワード一覧の作成](#)」の章（243 ページ）をご覧ください）。

遠隔電源制御機能は、選択したサーバまたはグループに対して起動できます。

 選択したグループ内のすべてのサーバに対して電源制御が可能です、サブグループに対しては行えません。

- ▶ サーバまたはサーバグループを選択します。
- ▶ 右クリックメニューの「電源制御」をクリックすると、選択されたサーバに対する電源制御を起動します。

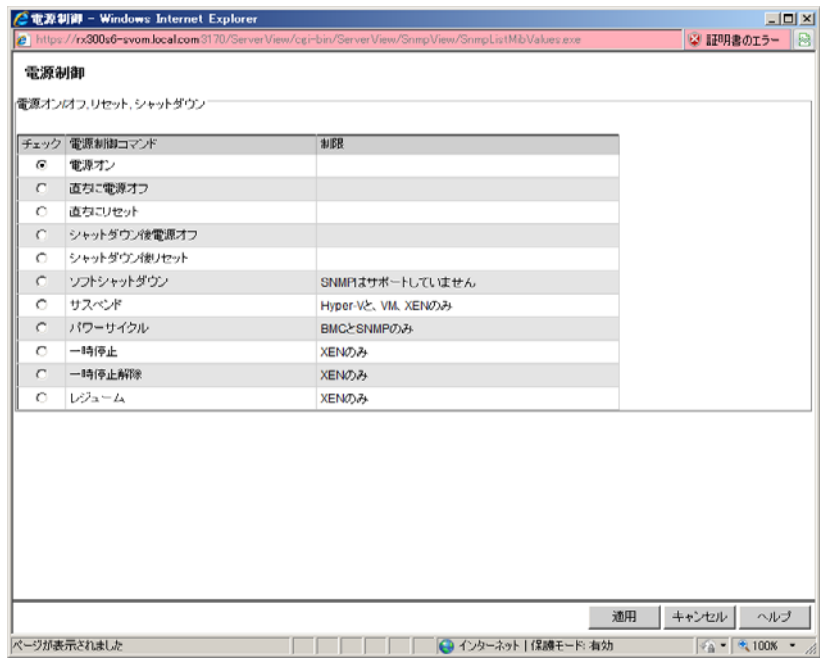


図 53: 電源制御画面

電源制御では、次のコマンドが利用できます。

電源オン

サーバの電源をオンにします。

直ちに電源オフ

OS のステータスに関係なく、サーバの電源をオフにします。

直ちにリセット

OS のステータスに関係なく、サーバを完全に再起動します（コールドスタート）。

シャットダウン後電源オフ

グレースフルシャットダウンと電源切断。
管理対象のサーバ上の ServerView エージェントが、OS にサーバを正しくシャットダウンするよう指示してから、電源をオフにします。

シャットダウン後リセット

グレースフルシャットダウンとリセット。

管理対象のサーバ上の ServerView エージェントが、OS にサーバを正しくシャットダウンするよう指示してから、再起動します。

ソフトシャットダウン

グレースフルシャットダウン。

管理対象のサーバ上の ServerView エージェントが、OS にサーバを正しくシャットダウンするよう指示します。

サスペンド

スタンバイモード。「電源オン」のみが可能。

Xen / Citrix Xen サーバと VMware サーバのみ。

パワーサイクル

サーバの電源を完全にオフにします。サーバで定義された間隔後に再びオンにします。

BMC が搭載されたサーバのみ。

一時停止

サーバを一時停止します。

Xen / Citrix Xen サーバのみ。

一時停止解除

サーバが一時停止モードの場合、一時停止が解除されサーバが動作を再開します。

Xen / Citrix Xen サーバのみ。

レジューム

サーバがスタンバイモード（「S サスペンド」）の場合、スタンバイモードが解除されます。

Xen / Citrix Xen サーバのみ。

- ▶ 必要なコマンドをクリックし、「適用」で確定します。確認画面が表示されます。

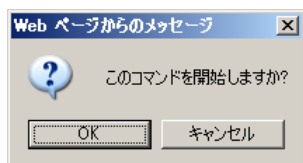


図 54: 電源制御確認画面

- ▶ 「OK」をクリックすると、コマンドが実行されます。画面には、コマンドが該当のサーバに正しく転送されたかどうかが表示されます。

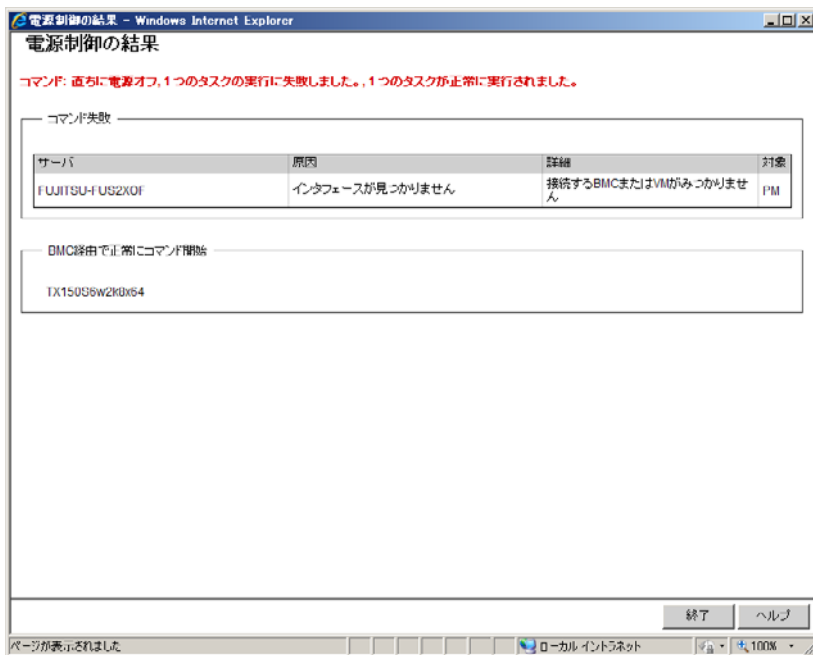


図 55: 電源制御の結果画面

処理の結果に従って情報が表示されます。

エラーイベント時には、「コマンド失敗」という見出しの下に、エラーが発生したサーバの名前、エラーメッセージ、エラーの簡単な説明、エラーメッセージを返したアプリケーションが表示されます。

- ▶ 次に電源制御アクションの結果がサーバリスト内に表示されます。

13 サーバのリモート設定

ServerView Configuration Manager により、管理対象のサーバを離れた所から設定できます。これは ServerView Operations Manager に統合され、「管理者設定」→「サーバの設定」で起動できます。

- ▶ Operations Manager スタートページから、次のエントリを選択します。
「管理者設定 - サーバの設定」

これにより、次の画面が表示されます。

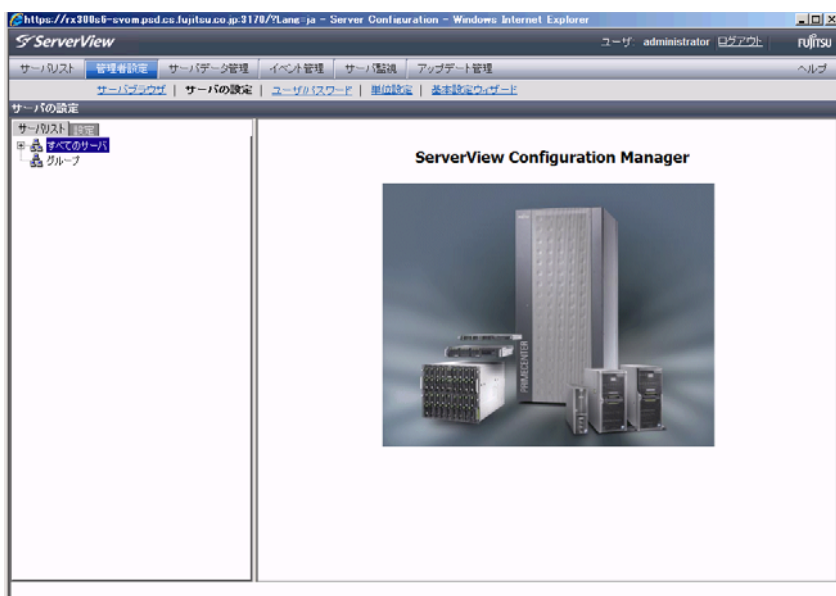
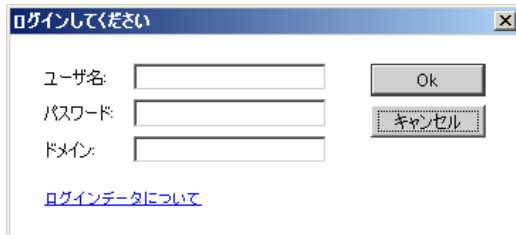


図 56: サーバの設定画面 - サーバリスト (1) タブ

13 サーバのリモート設定

- ▶ 「サーバリスト」タブの階層ツリーで、設定するサーバを選択します。
ユーザ名 / パスワードによる認証成功後のみ、**SET** 操作を許可するように設定されている場合は、次の画面が表示されます。



A login dialog box titled "ログインしてください" (Please Log In). It contains three input fields: "ユーザ名:" (Username), "パスワード:" (Password), and "ドメイン:" (Domain). To the right of the "パスワード:" field are two buttons: "Ok" and "キャンセル" (Cancel). Below the input fields is a blue hyperlink that says "ログインデータについて" (About Login Data).

- ▶ ユーザ認証を入力し、「OK」をクリックします。
次の画面が表示されます。

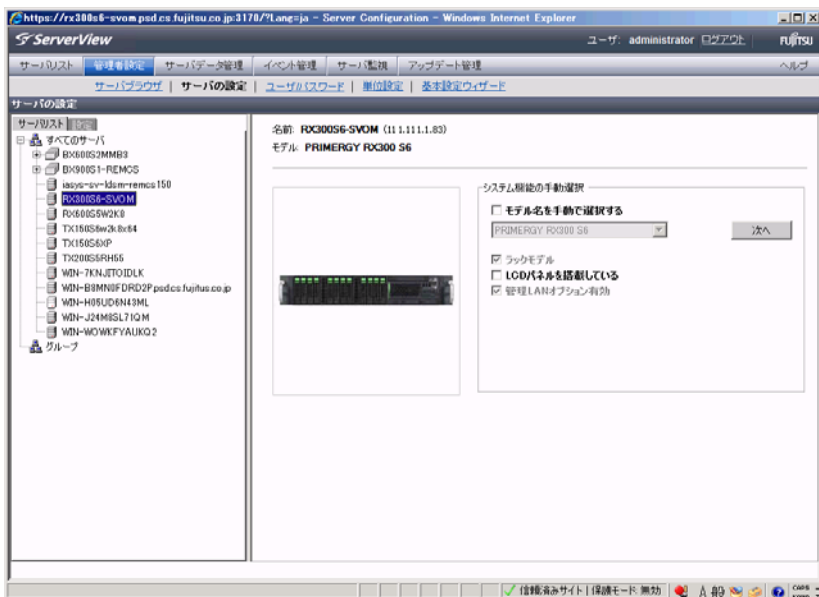


図 57: サーバの設定画面 - サーバリスト (2) タブ

- ▶ 画面右側で、選択したサーバの詳細を指定し、「次へ」をクリックします。
次の画面が表示され、「設定」タブが有効になります。

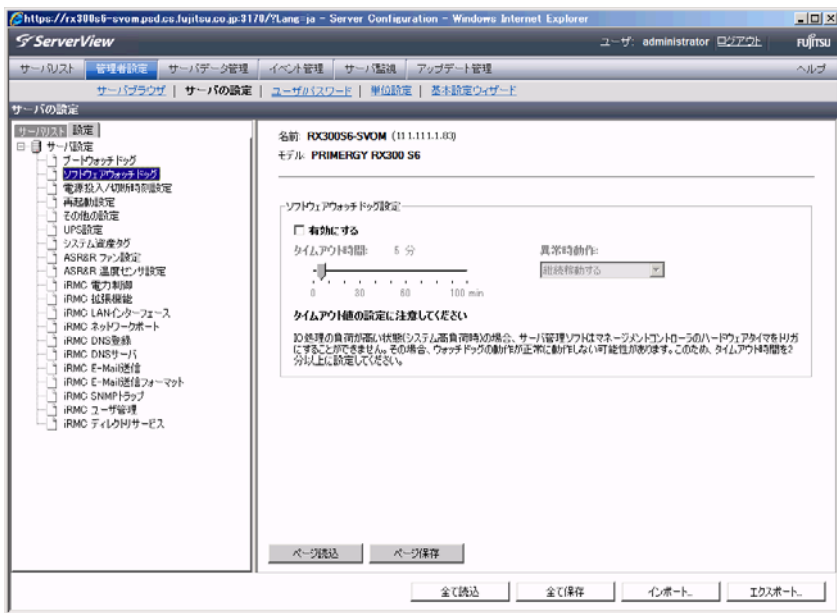


図 58: サーバの設定画面 - 設定タブ

- ▶ 「設定」タブのナビゲーションエリアで、必要な機能をクリックすると、画面右側に関連設定オプションが表示されます。
- ▶ 必要な設定を行い、「ページ保存」または「全て保存」で保存します。

i 機能ごとやサーバごとに構成した設定を個別に有効にする場合は「ページ保存」、すべての設定を完了して有効にする場合は「全て保存」にします。

i 1 台のサーバの設定が終了したら、「サーバリスト」タブで別のサーバを選択して設定できます。

提供される機能の概要

提供される機能については **ServerView Suite** の次のマニュアルをご覧ください。

- **ServerView Operations Manager** インストールガイド：一般的な機能
- 「iRMC - integrated Remote Management Controller」 マニュアル /
「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」：iRMC 機能

14 Advanced Video Redirection の起動

サーバリストで、サーバの Advanced Video Redirection (AVR) を直接起動できます。この機能は、iRMC が AVR とシングルサインオンをサポートするサーバで使用できます。

AVR を次のように起動します。

- ▶ サーバリストから任意のサーバを選択します。
- ▶ 右クリックメニューから「ビデオリダイレクションの開始」を選択します。AVR が起動し、AVR 画面が開きます。
- ▶ AVR が起動すると、読み取り専用モードになります。サーバの全制御を取得するには、表示されたメッセージに対して「OK」をクリックします。

Java アプレットで、iRMC に対する AVR も起動できます。その場合、AVR を起動する前に「Java Web-Start」オプションを選択しておく必要があります。

- ▶ メニューバーで、「サーバリスト」→「設定」を選択します。「設定」画面が表示されます。
- ▶ 「AVR 設定」の「Java Web スタート」オプションを選択します。



選択したオプションは現在のセッションに対してのみ有効です。「サーバリスト」画面を閉じると、選択したオプションはリセットされます。

AVR の条件

Advanced Video Redirection を使用するための条件は次のとおりです。

- iRMC が AVR をサポートしていること。
- iRMC がシングルサインオンをサポートしていること。
- AVR を使用するための有効なライセンスキーと有効な証明書があること。
- 有効なユーザ ID があること。

詳細情報

AVR の詳細は iRMC S2 のマニュアルをご覧ください。

15 ユーザ / パスワード一覧の作成

ServerView Operations Manager が管理対象のサーバで情報を取得したり、またはアクションを実行するときに、認証のためにユーザ ID が必要な場合があります。例えば、次の場合にユーザ ID が必要です。

- 仮想サーバ (VMware サーバ、Xen / Citrix XenServer サーバ、Hyper-V サーバ) をサーバリストに追加する場合。
ServerView Operations Manager が有効なユーザ ID であると認証できる場合のみ、サーバブラウザは仮想システムを認識します。
- VMware ESX サーバ、Xen / Citrix XenServer サーバ、Hyper-V サーバへの接続をテストする場合 (「接続テスト」)。
- BMC をサーバリストに追加する場合。
ServerView Operations Manager が有効なユーザ ID であると認証できる場合のみ、サーバブラウザは BMC を認識します。
- 電源管理タスクを次のサーバで実行する場合。
 - VMware サーバ
 - Xen / Citrix XenServer サーバ
 - Hyper-V サーバ
 - BMC が搭載されたサーバ
- パフォーマンスのしきい値を設定する場合 (「スレッショールドマネージャ」)。

上記のような場合、認証のために ServerView Operations Manager はユーザ / パスワードリストにユーザ ID と暗号化したパスワードを保存します。認証が必要な場合、リストに保存された有効なユーザ ID を検索します。

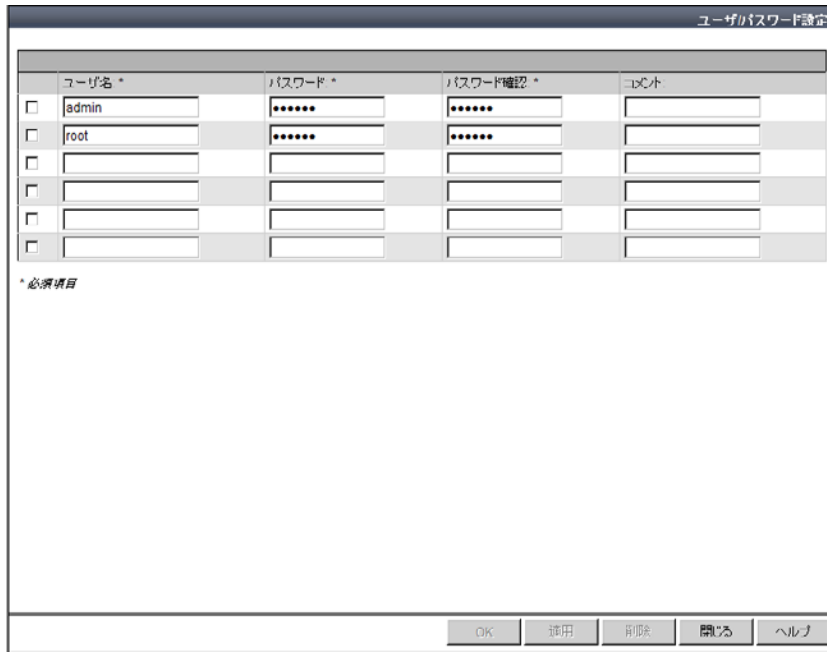


ServerView Operations Manager はリスト順に検索します。そのため、リストには必要なエントリが含まれている必要があります。

ユーザ / パスワード一覧は、「管理者設定」内の「ユーザ / パスワード」で作成します。

15 ユーザ / パスワード一覧の作成

- ▶ 管理者設定メニューで、「ユーザ / パスワード」を選択します。
「ユーザ / パスワード設定」画面が表示されます。



	ユーザ名 *	パスワード *	パスワード確認 *	コメント
<input type="checkbox"/>	admin	*****	*****	
<input type="checkbox"/>	root	*****	*****	
<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>				

* 必須項目

OK 適用 削除 閉じる ヘルプ

図 59: ユーザ / パスワード一覧の作成

「ユーザ名」と「パスワード」にそれぞれを入力し、「パスワード確認」にパスワードを再度入力します。

- i** 電源管理アクションを実行するには、ユーザに管理者権限が必要です。
- Hyper-V サーバには、ユーザは常に管理者権限が必要です。

「コメント」では、コメントを入力します。入力したコメントは保存されます。

- ▶ 入力を確定する場合は「適用」をクリックし、「OK」をクリックして画面を閉じます。

「閉じる」ボタンをクリックすると、変更を保存せずに画面が閉じます。

ユーザ ID を削除するには、チェックボックスを選択しマークを付けてから、「削除」をクリックします。

16 通信経路

ServerView Suite のコンポーネントは異なる経路でお互いに通信しています。使用される通信経路、プロトコルや標準ポートについて、詳しくは、「Secure PRIMERGY Server Management」ホワイトペーパー内に記載されています。

ホワイトペーパーは ServerView Suite DVD 2 の「ServerView Suite」→「Security」にあります。

17 WMI

Windows® Management Instrumentation (WMI) は Microsoft® による WBEM 業界イニシアチブの実装です。WBEM (Web Based Enterprise Management) とその下層データモデル CIM (Common Information Model) は、DMTF (Distributed Management Taskforce) の指導の元、厳しい標準化プロセスに掛けられています。

WBEM は管理リソース（管理オブジェクト）の記述方法と使用方法を標準化し、企業ネットワーク内でのこれらのリソースへのアクセス、設定、管理、監視に対し幅広いツールを提供します。

ServerView の WMI 標準規格サポートにより、PRIMERGY に対する WMI ベースの管理と監視が可能になります。

本章では、以下について説明します。

- WMI の背景となるコンセプトの概要
- ServerView での WMI サポート（ServerView で提供されるクラスの説明含む）
- WMI スクリプトの概要
- WMI CIM Studio での例

本章の対象読者は次のとおりです。

- ServerView 環境での WMI の概要を知りたい管理者
- 管理 WMI スクリプトを使用して PRIMERGY を管理したい管理者

後者についてはスクリプト言語（VBScript または JScript）の専門知識と、WMI と CIM モデルについて（この章の前半の紹介文を超える範囲の）深い知識が必要です。

17.1 WMI アーキテクチャ

WMI アーキテクチャは 3 つの基本的な部分で構成されています。

- WMI ユーザ
- WMI インフラストラクチャ
- マネージ オブジェクト

図 60 は、下記に示す WMI の個々のコンポーネントがどのように相互に作用するかを表します。

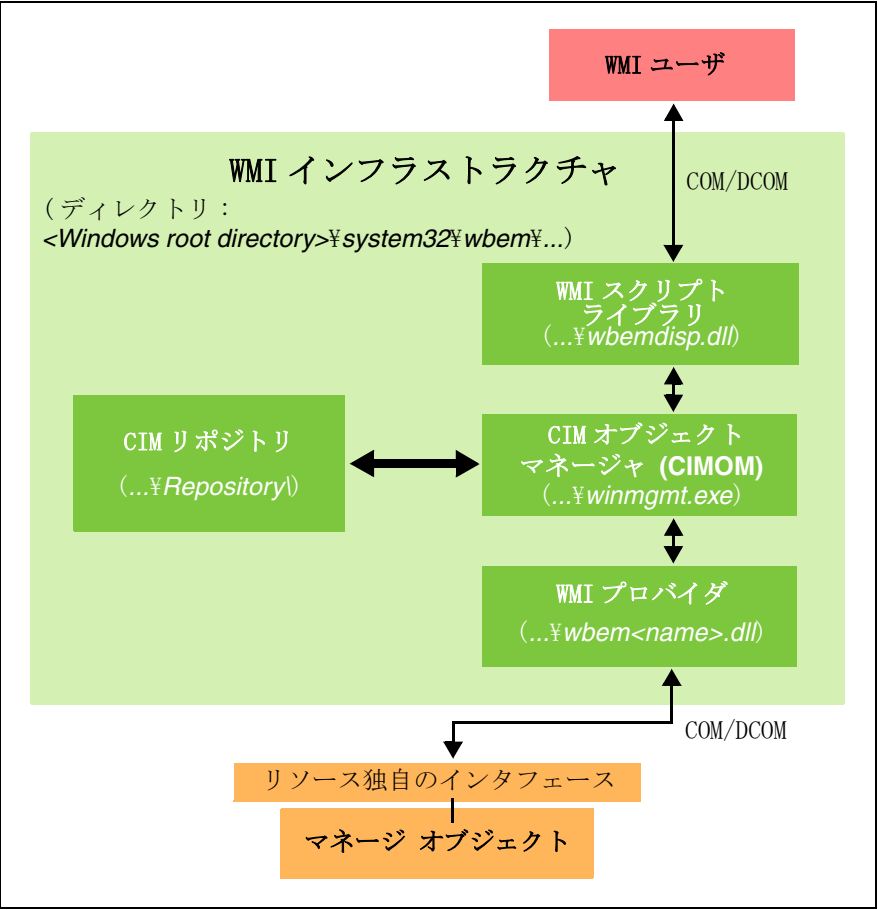


図 60: WMI アーキテクチャ

17.1.1 WMI ユーザ

WMI ユーザとはスクリプトや管理アプリケーションなどを指し、WMI インフラストラクチャが提供する管理情報の処理や表示などを行います。

17.1.2 WMI インフラストラクチャ

WMI インフラストラクチャは WMI ユーザとマネージ オブジェクトの間のリンクを形成し、次のコンポーネントで構成されています。

- WMI スクリプトライブラリ
- CIM オブジェクト マネージャ (CIMOM)、名前空間、WMI リポジトリ
- WMI プロバイダ

WMI スクリプトライブラリ

WMI スクリプト ライブラリには、一貫性のある統一されたスクリプトモデルを提供するオートメーションオブジェクトのセットが用意されています。

Visual Basic Script などのようなスクリプト言語はこのオートメーションオブジェクトを使用し、WMI スクリプトライブラリにアクセスします (283 ページの「WMI スクリプト」の項をご覧ください)。

CIM オブジェクト マネージャ (CIMOM) と WMI リポジトリ

Common Information Model (CIM) はサーバ管理のマネージリソースを統一的に表現するためのオブジェクト指向データモデル標準であり、マネージリソースをクラスまたはクラスインスタンス (オブジェクト) の形で提供することによって、実現されています。クラスには属性やプロパティ、メソッドがあります。属性とプロパティはマネージ オブジェクトのステータスや設定に関する情報を提供し、メソッドでマネージ オブジェクトにアクションを適用することが可能になります。

CIM オブジェクト マネージャ (CIMOM) は WMI ユーザが発行するオブジェクトクエリを統合し、これを管理します。利用できるクラスの概要を提供するために、CIMOM は WMI リポジトリ内にクラス定義と対応する WMI プロバイダを格納します。クラス定義は Managed Object Format (MOF) に格納されます。

WMI 名前空間

WMI はクラスやオブジェクトを「名前空間」としてグループ化しています。「CIMv2」、「Default Directory」、「Security」、「WMI」という名称の名前空間は「root」名前空間の下に位置し、さらに下位の名前空間を含むものもあります。**ServerView** を使用したサーバ管理という目的には、「root\cimv2」という名前空間が特に重要です。これは **ServerView** が管理するリソースに該当するクラスを含んでいるためです。

WMI ユーザはオブジェクトを含む名前空間を使用することでのみ、このオブジェクトにアクセスできるようになります。また名前空間は **WMI** セキュリティに使用する粒度レベルも表します。**WMI** 権限は名前空間のレベルで認められています。

WMI プロバイダ

WMI プロバイダはマネージ オブジェクトとそのリソースに指定された適切なインタフェースで通信します。**WMI** と通信するために、**WMI** プロバイダは **COM/DCOM** ((Distributed) Component Object Model) **API** を使用します。**ServerView** エージェントは、**ServerView** にて **WMI** サポートを提供するために **WMI** プロバイダとしての役割を果たします。

17.1.3 マネージ オブジェクト

マネージ オブジェクトは、**ServerView** を使用して **WMI** で管理可能な任意のハードウェアまたはソフトウェアです。これは **PRIMERGY** サーバ全体の場合がありますし、またファンやファイルシステムなど、単一のコンポーネントのみを指す場合もあります。

17.1.4 WMI セキュリティ

WMI が管理アプリケーションに **CIM** データやメソッドへのアクセスを許可する前に、管理アプリケーションは自分自身を認証しなければなりません。アクセス権限は **DCOM** セキュリティ (Distributed Component Object Model) と **CIMOM** が確認します。

WMI セキュリティは名前空間のレベルで実装されます。名前空間へのアクセスが許可された管理アプリケーションには、その名前空間内のすべてのオブジェクトへのフルアクセス権があります。

17.2 ServerView での WMI サポート

ServerView は WMI 標準をサポートしています。これは、PRIMERGY サーバ上の幅広いさまざまな情報を CIMOM に渡し、WMI ユーザへと転送することが可能であることを意味します。

しかし、ServerView OperationsManager の GUI で使用されている SNMP をベースとして提供されるデータは、現在すべて CIMOM に渡されているわけではありません。

17.2.1 システム要件

CIMOM は MicrosoftOS の現在のバージョンすべてに含まれています。バージョン 4.91 以降の ServerView エージェントをインストールして、CIMOM への統合を許可する必要があります。これが適切に設定されると、エージェントは CIMOM がサーバデータを利用できるようになります。WMI サポートを提供するための ServerView エージェントの設定に関する情報は、「ServerView Operations Manager インストールガイド」をご覧ください。

17.2.2 WMI プロバイダとしての ServerView エージェント

ServerView エージェントは、サーバデータを CIMOM の「CIMv2」名前空間に格納します。Microsoft の通信方式 COM/DCOM 経由で、サーバデータを「CIMv2」名前空間から要求し、そのデータを図で出力するように処理できます。

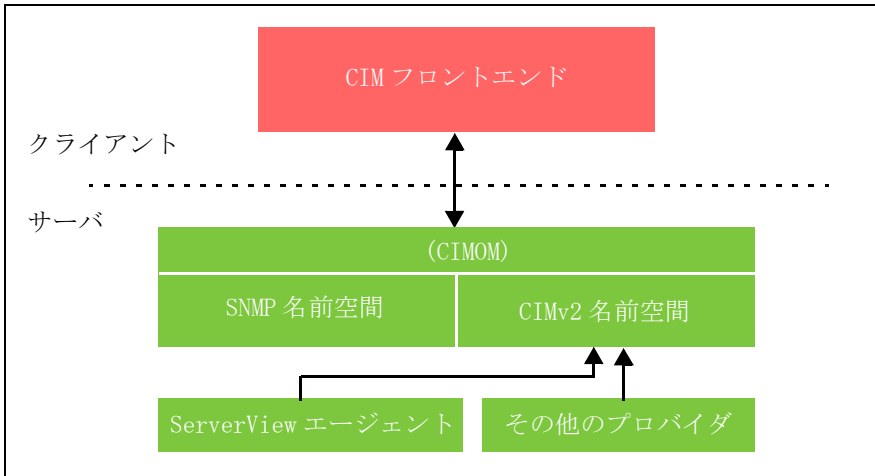


図 61: WMI プロバイダとしての ServerView エージェント

17.2.3 ServerView クラス

ServerView が提供するクラスは「CIMv2」名前空間にあり、「FSCSV_」という名前の接頭辞で示されます。ServerView がサポートするすべてのクラスの型は「dynamic」です。つまり、WMI ユーザや WMI インフラストラクチャから要求を受け取るたびに、WMI プロバイダはマネージ オブジェクトの現在の値を判断します。

個々のクラス、クラスの継承階層、クラスインスタンスに対する詳しい情報を、WMI テストプログラム (*wbemtest.exe*)、WMI Object Browser、WMI CIM Studio のような WMI ツールを使用して取得できます。[285 ページの「WMI CIM Studio \(例\)」の項](#)には、WMI Studio の例が記載されています。

WMI CIM Studio と WMI テストプログラムは、さらにインスタンスの作成と既存のインスタンスの修正または削除の機能を提供しています。

WMI テストプログラムは、Windows の標準インストールに含まれます。WMI Object Browser と WMI CIM Studio は、WMI-SDK と共に提供されます。

システムプロパティ

すべての **ServerView** クラスには多くのシステムプロパティが含まれています。これらのプロパティは、*.mof* ファイル内のクラス定義に記載されていなくても、各クラスやクラスインスタンスに自動的に含まれます。これらのプロパティには定数が含まれており、クラスの名前空間や、名前空間のクラス階層内における位置などの情報を提供します。表 55 で、システムプロパティとその説明を一覧表示します。

プロパティ名	説明
__CLASS	クラスの名前
__DERIVATION	継承階層
__DYNASTY	継承階層の最上位のクラス
__GENUS	最上位のクラス数
__NAMESPACE	クラスが属する名前空間
__PATH	サーバでのクラスのパス
__PROPERTY_COUNT	クラスのプロパティ数
__RELPATH	サーバでのクラスの相対パス
__SERVER	クラスが位置するサーバ
__SUPERCLASS	直接の親クラス

表 55: **ServerView** クラスのシステムプロパティ

クラスの説明

後述の **ServerView** クラスの説明では、それぞれのクラスについて次の情報も記述しています。

- **ServerView** クラスの親クラスと、継承階層におけるその **ServerView** クラスの位置についての概要。基本クラスの名前は、常に**太字**で示されます。**CIM Studio** のナビゲーションエリア ([285 ページ参照](#)) では、基本クラスや継承階層を通して、適切な **ServerView** クラスを検索できます。
- クラス内で定義されたプロパティと、キーを形成するプロパティ。
- クラスで定義されたメソッド。
- 他のクラスへの関連付け。

ServerView クラスの説明は、**Windows** プラットフォーム用のものです。他のプラットフォームでは個々のクラスやプロパティがサポートされていない場合があります。

ServerView クラスは **CIM** や **win32** クラスから派生しています。**CIM** や **win32** のクラスの全般的な説明は、次の **Web** ページをご覧ください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa394554\(en-us,VS.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa394554(en-us,VS.85).aspx)

17.2.3.1 FSCSV_ASR

FSCSV_ASR クラスは、PRIMERGY のための ASR&R 設定を定義します。

親クラス



プロパティ

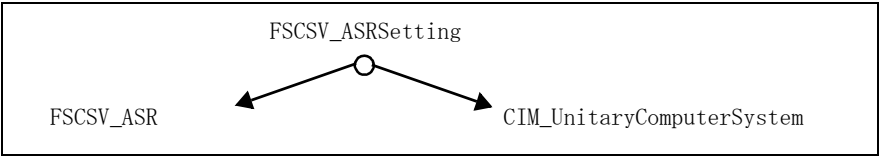
名称	型	説明
SettingID	string	キー（継承）。FSCSV_ASR のインスタンスを識別します。
ActionAfterAcFail	uint8	電源供給異常からの復帰後に実行するアクション： 3: 以前の状態に戻します。 4: サーバをオフのままにします。 5: サーバの電源をオンにします。
ActionAfterRestartFail	uint8	再起動リトライカウンタに設定されたリトライ回数（「RestartRetriesLeft」プロパティを参照）を超過したときに実行するアクション： 2: サーバの電源をオフにします。 3: 診断システムを起動します。 4: 診断システムがありません。 5: リモートイメージディスクを起動します。
ErrorOffRestartDelay	uint16	エラーが原因でサーバの電源がオフになった後、再びオンにするまでの遅延時間（実時間）
PostErrorHalt	uint8	POST エラーが発生した場合に実行するアクション： 2: エラーで停止します。 3: 停止しません。
RestartRetriesDefault	uint8	電源断でのサーバシャットダウンからの復帰後にサーバのリブート / 再起動をリトライする回数のデフォルト値。この値は、カウンタが 0 になった後に「RestartRetriesLeft」プロパティをデフォルト値にリセットするために使用されます。
RestartRetriesLeft	uint8	電源断でのサーバシャットダウンからの復帰後にサーバのリブート / 再起動をリトライする最大回数。リトライが成功せずに許可された最大回数を超過してしまった場合、「ActionAfterRestartFail」プロパティで指定されたアクションが実行されます。

メソッド

FSCSV_ASR クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

関連付け

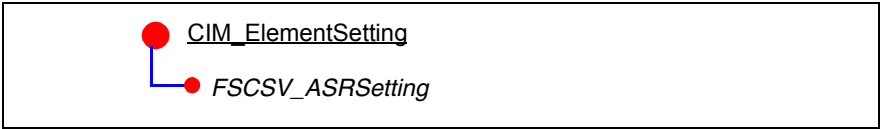
FSCSV_ASR クラスは、*FSCSV_ASRSetting* 関連付けクラスによって *CIM_UnitaryComputerSystem* クラスに関連付けられます。



17.2.3.2 FSCSV_ASRSetting (関連付けクラス)

FSCSV_ASRSetting 関連付けクラスは、CIM_UnitaryComputerSystem クラスと FSCSV_ASR クラスを関連付けます。

親クラス



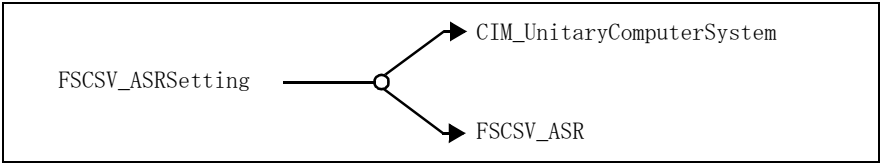
プロパティ

名称	型	説明
Element	Ref: CIM_UnitaryComputerSystem	キー (継承)。ASR&R 設定が使用されるサーバを参照します。
Setting	Ref: FSCSV_ASR	キー (継承)。FSCSV_ASR インスタンスを参照します。この FSCSV_ASR インスタンスの設定は、Element が参照するサーバに適用されています。

メソッド

FSCSV_ASRSetting クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

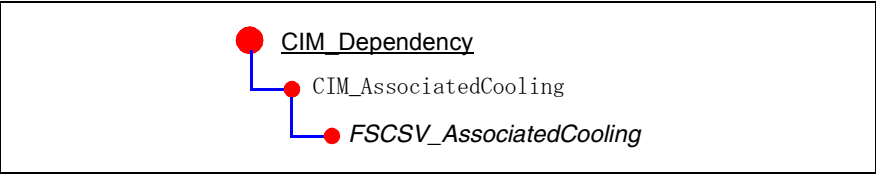
関連付け



17.2.3.3 FSCSV_AssociatedCooling (関連付けクラス)

FSCSV_AssociatedCooling 関連付けクラスは、CIM_CoolingDevice クラスと CIM_LogicalDevice クラスを関連付けます。これはファンと冷却するコンポーネントの関係を表します。

親クラス



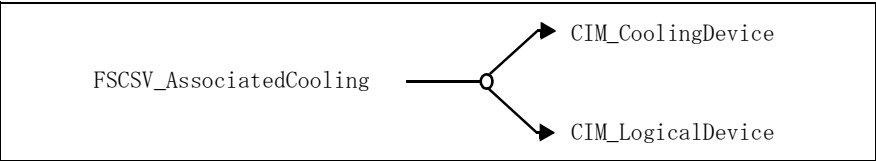
プロパティ

名称	型	説明
Antecedent	Ref: CIM_CoolingDevice	キー（継承）。ファンを参照します。
Dependent	Ref: CIM_LogicalDevice	キー（継承）。冷却対象のコンポーネントを参照します。

メソッド

FSCSV_AssociatedCooling クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

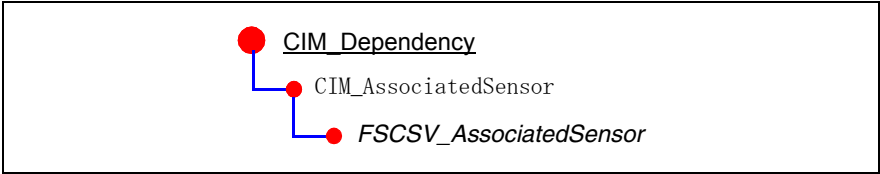
関連付け



17.2.3.4 FSCSV_AssociatedSensor (関連付けクラス)

FSCSV_AssociatedSensor 関連付けクラスは、*CIM_Sensor* クラスと *CIM_LogicalDevice* クラスを関連付けます。これはセンサと監視するコンポーネントの関係を表します。

親クラス



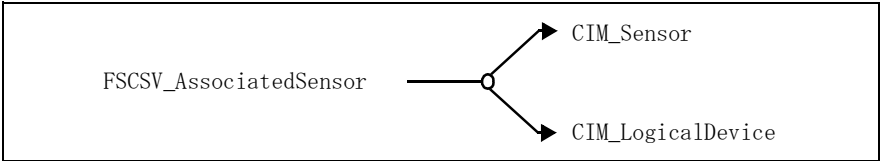
プロパティ

名称	型	説明
Antecedent	Ref: CIM_Sensor	キー（継承）。センサを参照します。
Dependent	Ref: CIM_LogicalDevice	キー（継承）。監視対象のコンポーネントを参照します。

メソッド

FSCSV_AssociatedSensor クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

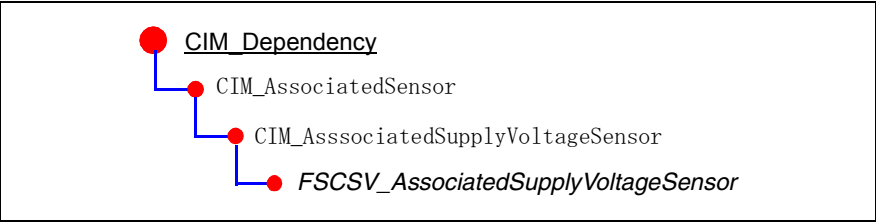
関連付け



17.2.3.5 FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor (関連付けクラス)

FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor 関連付けクラスは、*FSCSV_VoltageSensor* クラスと *FSCSV_PowerSupply* クラスを関連付けます。電圧センサとそのセンサに割り当てられる電源との関係を表します。

親クラス



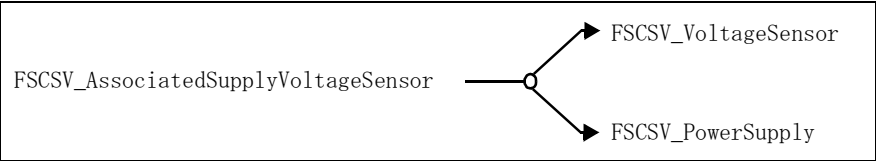
プロパティ

名称	型	説明
Antecedent	Ref: FSCSV_VoltageSensor	キー（継承）。センサを参照します。
Dependent	Ref: FSCSV_PowerSupply	キー（継承）。監視対象の電源を参照します。

メソッド

FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

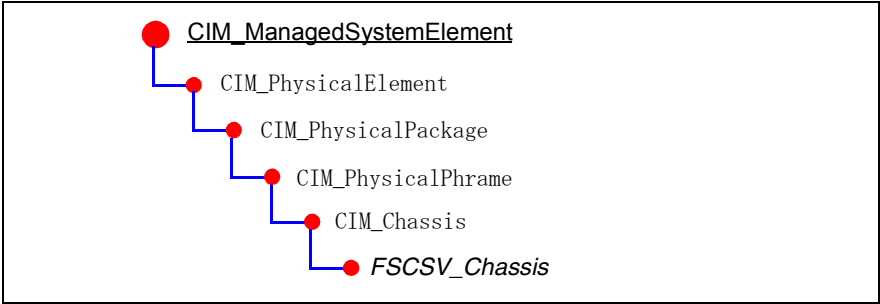
関連付け



17.2.3.6 FSCSV_Chassis

FSCSV_Chassis クラスはストレージ拡張ユニットの筐体を表します。

親クラス



プロパティ

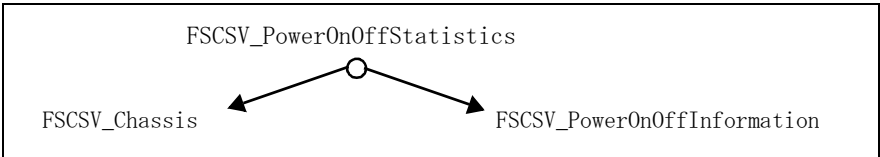
名称	型	説明
Day	string	キー（継承）。1つのストレージ拡張ユニットの筐体（ <i>FSCSV_Chassis</i> のインスタンス）を識別します。
CreationClassName	string	キー（継承）。インスタンスを作成するのに使用するクラスまたはサブクラスの名前を指定します。
GroupNumber	uint8	ストレージ拡張ユニットコミュニケーションバスのグループ番号。
PowerSupplySlots	uint8	筐体内の電源ユニットのスロットの数（搭載可能な最大電源ユニット数）。

メソッド

FSCSV_Chassis クラスはメソッドを定義しません。

関連付け

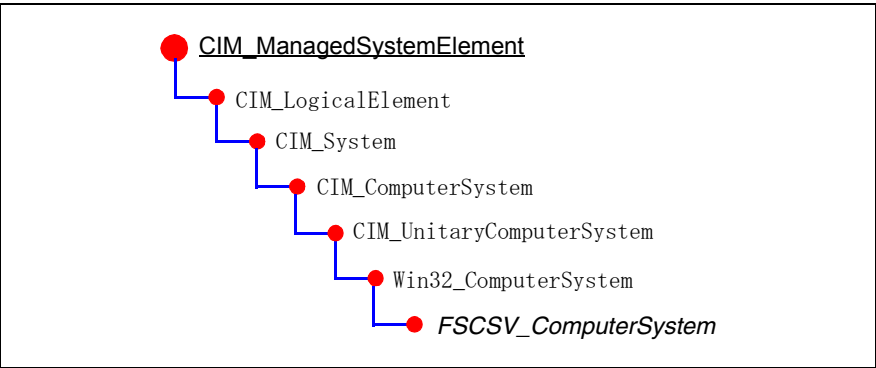
FSCSV_Chassis クラスは、*FSCSV_PowerOnOffStatistics* 関連付けクラスによって *FSCSV_PowerOnOffInformation* クラスに関連付けられます。



17.2.3.7 FSCSV_ComputerSystem

FSCSV_ComputerSystem クラスは、コンピュータシステムに関する情報を提供します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
Name	string	キー（継承）。FSCSV_ComputerSystem のインスタンスを識別します。
Status	string	システムのステータス。次の値が考えられます。 OK、Error、Degraded、Pred Fail
CabinetsConfigured	uint16	設定できる筐体の数（サーバとストレージ拡張ユニット）。値は最小でも 1（サーバのための値）である必要があります。
PostStatus	string	OK：最新 / 現在の POST フェーズは成功しました。 Error：最新 / 現在の POST フェーズは失敗しました。

メソッド

FSCSV_ComputerSystem クラスはメソッドを定義しません。

関連付け

FSCSV_ComputerSystem クラスには、FSCSV_... 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

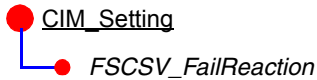
17.2.3.8 FSCSV_FailReaction

FSCSV_FailReaction クラスは、エラー状況が検出された場合に実行するアクションを指定します。

[264 ページ](#)に記述されているプロパティの値によって、アクションの順番は次のように定義されます。

1. エラー状況が起こった後、**WaitTime** 秒の間は何のアクションも実行されない。
2. エラー状況が続く場合、「**ScriptParameters**」パラメータでスクリプトが呼ばれる。
3. **ScriptTime** 秒が経過すると、「**WarningMessage**」内で明記された警告がテキストで出力される。
4. さらに **WarningTime** 秒が経過すると、「**Reaction**」で指定されたアクションが実行される。

親クラス



プロパティ

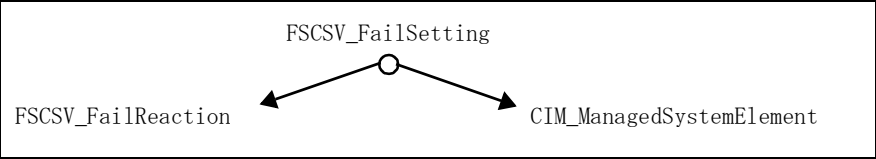
名称	型	説明
SettingID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_FailReaction</i> のインスタンスを識別します。
WaitTime	uint32	スクリプトを呼ぶまでの待機時間。
ScriptTime	uint32	警告が発行されるまでの、スクリプト実行の保留時間。
WarningTime	uint32	警告の作成から「 Reaction 」で指定されたアクションが実行されるまでの時間。
Reaction	uint16	エラー状況が検出された後に実行するアクション： 2: 処理を続行します。 3: シャットダウンして電源をオフにします。
Script:	string	エラー状況が検出された後に起動する実行プログラムまたはスクリプトのパス名。
ScriptParameters	string	スクリプトのパラメータ。
WarningMessage	string	出力するメッセージテキスト。メッセージ出力機構は OS 間で異なります。メッセージはまったく発行されないこともあります。

メソッド

FSCSV_FailSetting クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

関連付け

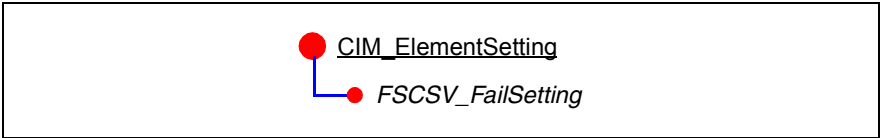
FSCSV_FailReaction クラスは、*FSCSV_FailSetting* 関連付けクラスによって *CIM_ManagedSystemElement* クラスに関連付けられます。



17.2.3.9 FSCSV_FailSetting (関連付けクラス)

FSCSV_FailSetting 関連付けクラスは、*CIM_ManagedSystemElement* クラスと *FSCSV_FailReaction* クラスを関連付けます。

親クラス



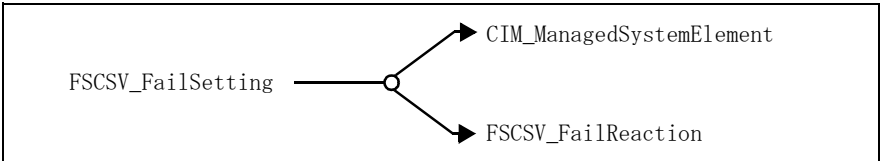
プロパティ

名称	型	説明
Element	Ref: CIM_ManagedSystemElement	キー（継承）。 <i>FSCSV_FailReaction</i> 設定が使用される、監視対象のシステムコンポーネントを参照します。
Setting	Ref: FSCSV_FailReaction	キー（継承）。 <i>FSCSV_FailReaction</i> インスタンスを参照します。この <i>FSCSV_FailReaction</i> インスタンスの設定は、監視対象のシステムコンポーネントに適用されています。

メソッド

FSCSV_FailSetting クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

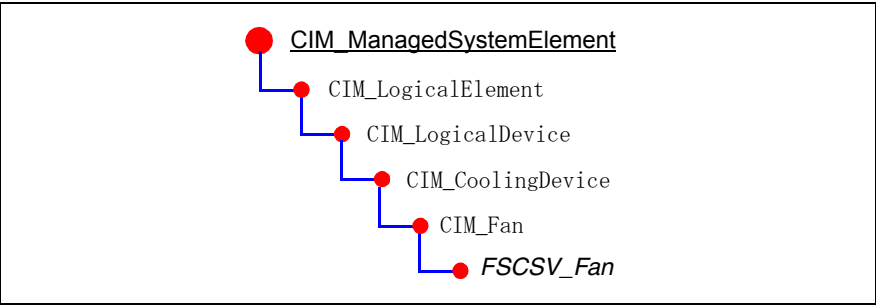
関連付け



17.2.3.10 FSCSV_Fan

FSCSV_Fan クラスは、PRIMERGY 上のファンのプロパティを表します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_Fan</i> のインスタンスを識別します。

メソッド

FSCSV_Fan クラスはメソッドを定義しません。

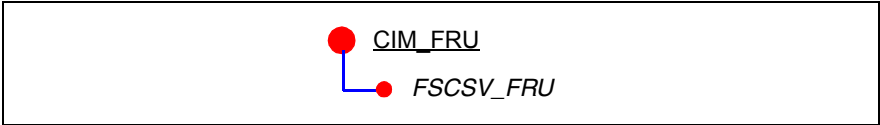
関連付け

FSCSV_Fan クラスには、*FSCSV_...* 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

17.2.3.11 FSCSV_FRU

FSCSV_FRU クラスは、FRU (Field Replaceable Unit) に関連して製品と物理エレメントのベンダ定義コレクションを表します。FRU は交換、またはシステムからの取り外しが可能なシステムコンポーネントです。

親クラス



プロパティ

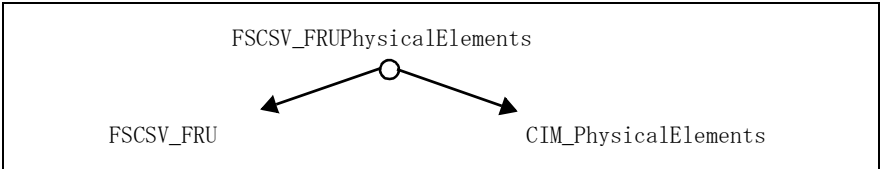
名称	型	説明
FRUNumber	string	キー (継承)。FRU の注文に関する情報。
IdentifyingNumber	string	キー (継承)。FRU ID。例：ソフトウェアのシリアルナンバー、またはハードウェアチップ上の番号。
Vendor	string	キー (継承)。FRU 販売業者の名前。
FirmwareVersion	string	コンポーネントのファームウェアのバージョン。
ManufacturingDateTime	string	コンポーネントがインストールされた日付と時間。

メソッド

FSCSV_FRU クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

関連付け

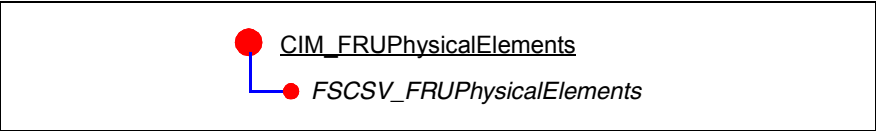
FSCSV_FRU クラスは、*FSCSV_FRUPhysicalElements* 関連付けクラスによって *CIM_PhysicalElements* クラスに関連付けられます。



17.2.3.12 FSCSV_FRUPhysicalElements（関連付けクラス）

FSCSV_FRUPhysicalElements 関連付けクラスは、*CIM_PhysicalElements* クラスと *FSCSV_FRU* クラスを関連付けます。FRU (Field Replaceable Unit) の物理コンポーネントを指定します。

親クラス



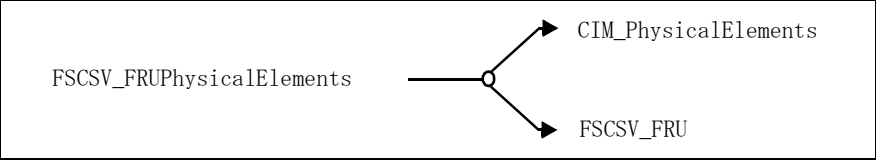
プロパティ

名称	型	説明
Component	Ref: CIM_PhysicalElements	キー（継承）。物理コンポーネントを参照します。
FRU	Ref: FSCSV_FRU	キー（継承）。FRU を参照します。

メソッド

FSCSV_FRUPhysicalElements クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

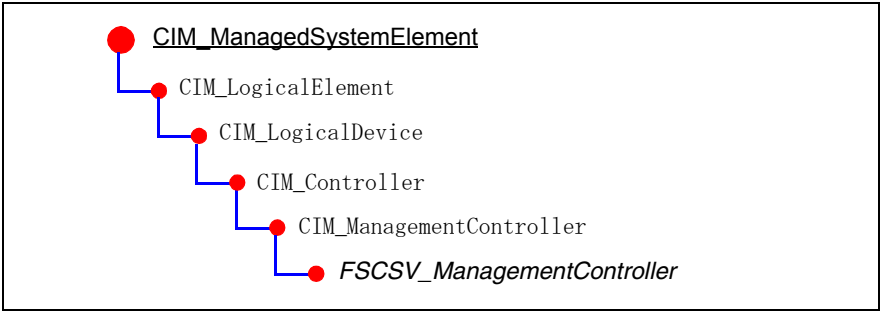
関連付け



17.2.3.13 FSCSV_ManagementController

FSCSV_ManagementController クラスは管理コントローラを表します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。管理コントローラを指定します。
FirmwareVersion	string	管理コントローラのファームウェアのバージョン。

メソッド

FSCSV_ManagementController クラスはメソッドを定義しません。

関連付け

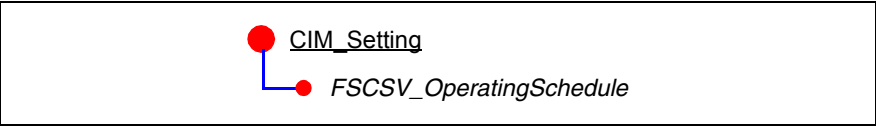
FSCSV_ManagementController クラスには、*FSCSV_...* 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

17.2.3.14 FSCSV_OperatingSchedule

FSCSV_OperatingSchedule クラスは、「自動電源投入 / シャットダウン」設定を表します。

- － 「Power on」 は、リアルタイムクロックで制御されます。
- － 「shutdown」 での「Power off」 は、OS が行います。

親クラス



プロパティ

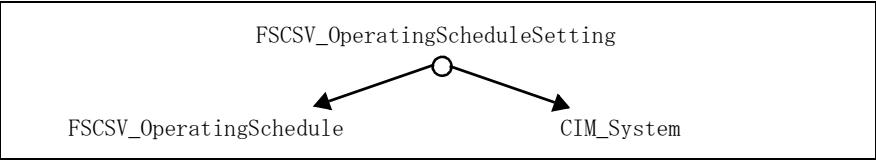
名称	型	説明
SettingID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_OperatingSchedule</i> のインスタンスを識別します。
When	uint16	操作を実行する時間（単位：午前 0 時以降の時間（分））。

メソッド

FSCSV_OperatingSchedule クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

関連付け

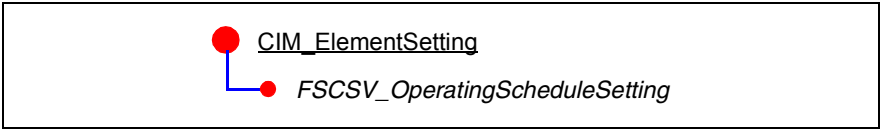
FSCSV_OperatingSchedule クラスは、*FSCSV_OperatingScheduleSetting* 関連付けクラスによって *CIM_System* クラスに関連付けられます。



17.2.3.15 FSCSV_OperatingScheduleSetting（関連付けクラス）

FSCSV_OperatingScheduleSetting 関連付けクラスは *CIM_System* クラスと *FSCSV_OperatingSchedule* クラスを関連付けます。

親クラス



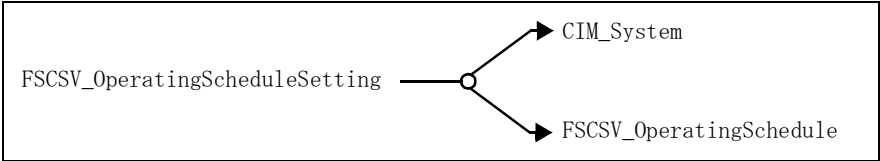
プロパティ

名称	型	説明
Element	Ref: CIM_System	キー（継承）。 <i>FSCSV_OperatingSchedule</i> 設定対象のシステムを参照します。
Setting	Ref: FSCSV_OperatingSchedule	キー（継承）。 <i>FSCSV_OperatingSchedule</i> のインスタンスを参照します。この <i>FSCSV_OperatingSchedule</i> のインスタンスの値は、設定対象のシステムに適用されています。

メソッド

FSCSV_OperatingScheduleSetting クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

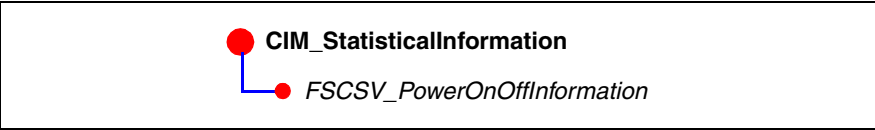
関連付け



17.2.3.16 FSCSV_PowerOnOffInformation

FSCSV_PowerOnOffInformation クラスは、操作時間と電源オン / オフ操作の統計情報を提供します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
Name	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_PowerOnOffInformation</i> のインスタンスを識別します。
LastPowerOffSource	uint16	筐体の最新の電源オフの理由： 2: ソフトウェアによる切断 3: 電源スイッチ 4: AC 電源異常 5: クロックまたはタイマ 6: ファンの異常 7: 危険温度 8: 損壊温度 9: 電源異常 10: ウォッチドッグタイムアウト 11: リモートオフ 14: CPU エラー 16: システム電源オフ 29: キーボードボタン 31: リモートマネージャ 243: 筐体が開いた

名称	型	説明
LastPowerOnSource	uint16	<p>筐体の最新の電源オンまたはリセットの理由：</p> <p>2: ソフトウェアによるオン</p> <p>3: 電源スイッチ</p> <p>4: AC 電源異常</p> <p>5: クロックまたはタイマ</p> <p>6: ファンの異常</p> <p>7: 危険温度</p> <p>8: 損壊温度</p> <p>9: 電源異常</p> <p>10: ウォッチドッグタイムアウト</p> <p>11: リモートオン</p> <p>12: ハードウェアの異常</p> <p>13: 周辺機器用バスのエラー</p> <p>14: CPU エラー</p> <p>20: NMI</p> <p>23: ハードウェアのリセット</p> <p>24: ウォームスタート</p> <p>25: リセットボタン</p> <p>26: AC 電源異常</p> <p>27: 管理プロセッサ異常</p> <p>31: リモートマネージャ</p> <p>32: リモートマネージャによるリセット</p> <p>242: ファームウェア再起動</p> <p>243: 筐体を閉じた</p>
PowerOnCounts	uint32	使用開始より筐体の電源をオンにした回数を表示します。
PowerOnDuration	uint32	使用開始より筐体の電源をオンにした時間（時間単位）を表示します。
PowerOffDuration	uint32	使用開始より筐体の電源をオフにした時間（時間単位）を表示します。
SystemBootResult	uint8	<p>サーバの最新ブート試行のステータス：</p> <p>2: OS は正常にブートした。</p> <p>3: 診断システムは正常にブートした。</p> <p>4: ブート CPU がない。</p> <p>5: ブート可能なメディアがない。</p> <p>6: OS のロードが失敗した。</p> <p>7: 診断システムのブートが失敗した。</p> <p>8: ハードウェアの異常。</p>

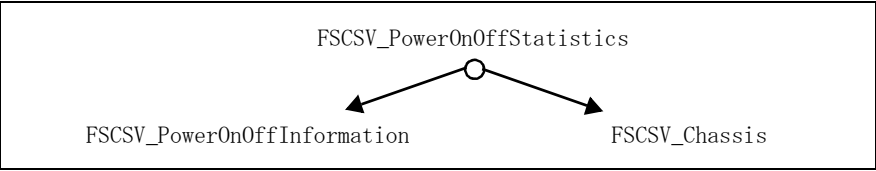
名称	型	説明
SystemBootStatus	uint8	現在のサーバステータス： 2: サーバの電源はオフになった。 3: ブート CPU がない。 4: システムは POST フェーズ中。 5: セットアップが起動した。 6: OS がブートした。 7: 診断システムのブート中。 8: OS が実行中。 9: 診断システムが実行中。 10: OS がシャットダウン中。 11: 診断システムとシャットダウン中。 12: システムをリセット中。
WarmStart	boolean	true : システムは最新のブート試行の前にウォームスタート (リセット) を行った。 false : システムは最新のブート試行の前にコールドスタート (電源オン) を行った。

メソッド

FSCSV_PowerOnOffInformation クラスはメソッドの継承も定義も行いません。

関連付け

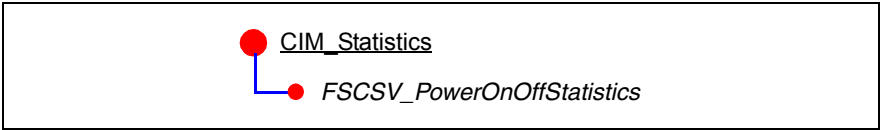
FSCSV_PowerOnOffInformation クラスは、*FSCSV_PowerOnOffStatistics* 関連付けクラスによって *FSCSV_Chassis* クラスに関連付けられます。



17.2.3.17 FSCSV_PowerOnOffStatistics（関連付けクラス）

FSCSV_PowerOnOffStatistics 関連付けクラスは、*FSCSV_Chassis* クラスと *FSCSV_PowerOnOffInformation* クラスを関連付けます。

親クラス



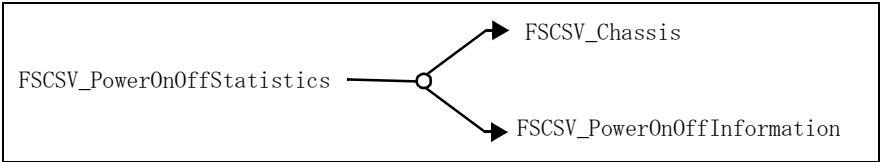
プロパティ

名称	型	説明
Element	Ref: FSCSV_Chassis	キー（継承）。 <i>FSCSV_PowerOnOffInformation</i> インスタンス内の統計データが記録された筐体を参照します。
Stats	Ref: FSCSV_PowerOnOffInformation	キー（継承）。 <i>FSCSV_PowerOnOffInformation</i> のインスタンスを参照します。

メソッド

FSCSV_PowerOnOffStatistic クラスは、メソッドの継承も定義も行いません。

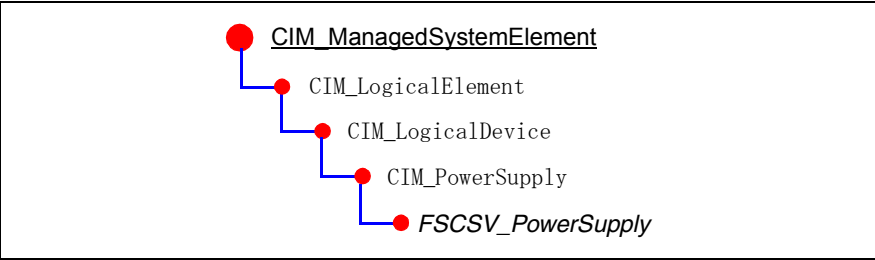
関連付け



17.2.3.18 FSCSV_PowerSupply

FSCSV_PowerSupply クラスは、PRIMERGY 上の電源ユニットのプロパティと管理を表します。

親クラス



プロパティ

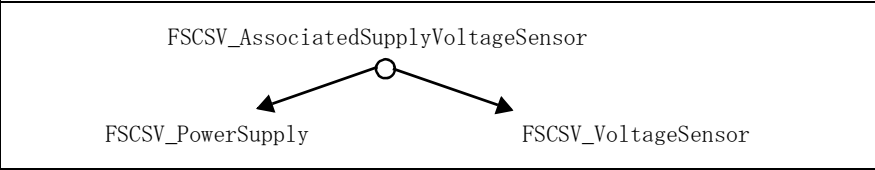
名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_PowerSupply</i> のインスタンスを識別します。

メソッド

FSCSV_PowerSupply クラスはメソッドを定義しません。

関連付け

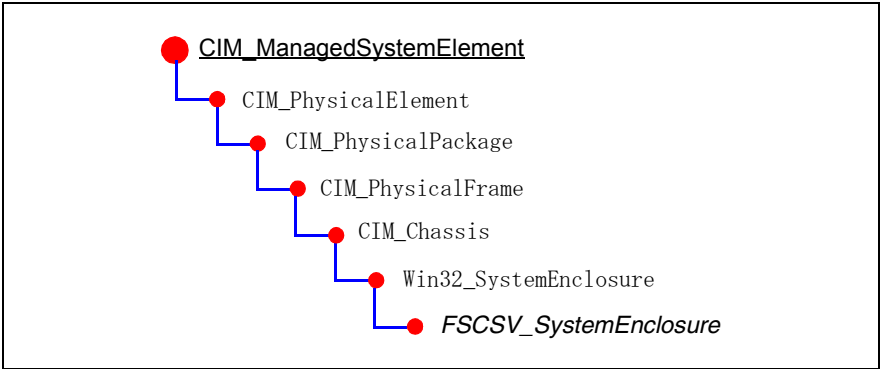
FSCSV_PowerSupply クラスは、*FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor* 関連付けクラスによって *FSCSV_VoltageSensor* クラスに関連付けられます。



17.2.3.19 FSCSV_SystemEnclosure

FSCSV_SystemEnclosure クラスはサーバの筐体に関する情報を提供します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
Tag	string	キー（継承）。サーバの筐体を識別します。
GroupNumber	uint8	ストレージ拡張ユニット用の CAN バスのグループ番号。
PowerSupplySlots	uint8	筐体内の電源ユニットスロットの数（搭載可能な最大電源ユニット数）。

i *Win32_SystemEnclosure* クラスから継承した次のプロパティの値は、*FSCSV_SystemEnclosure* で上書きされます。

- string CreationClassName
- string Caption
- string Description
- string Manufacturer
- Model
- Name
- PoweredOn
- SerialNumber

メソッド

FSCSV_SystemEnclosure クラスはメソッドを定義しません。

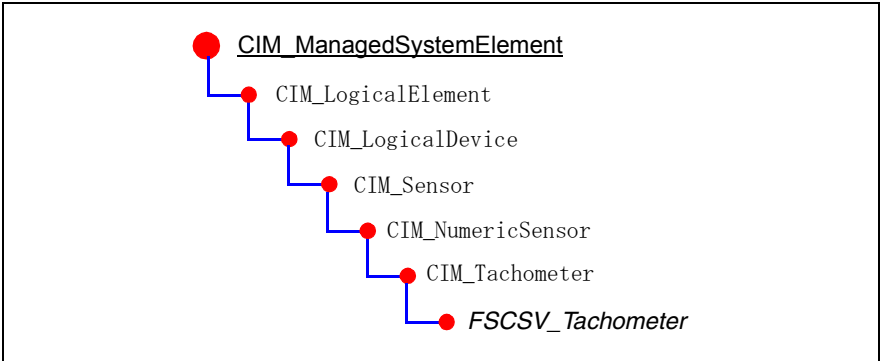
関連付け

FSCSV_SystemEnclosure クラスには、*FSCSV_...* 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

17.2.3.20 FSCSV_Tachometer

FSCSV_Tachometer クラスは、デフォルトのタコメータを拡張します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_Tachometer</i> のインスタンスを識別します。
CurrentMaximum	sint32	タコメータが現在表示できる最大速度（単位：rpm）。
DailyTestTime	uint16	ファンテストが起動しピーク速度が測定される時間（単位：午前 0 時以降の時間（分））。

メソッド

シグネチャー	説明
uint32 StartTest()	ピーク速度データをいつでも収集できるようにします。

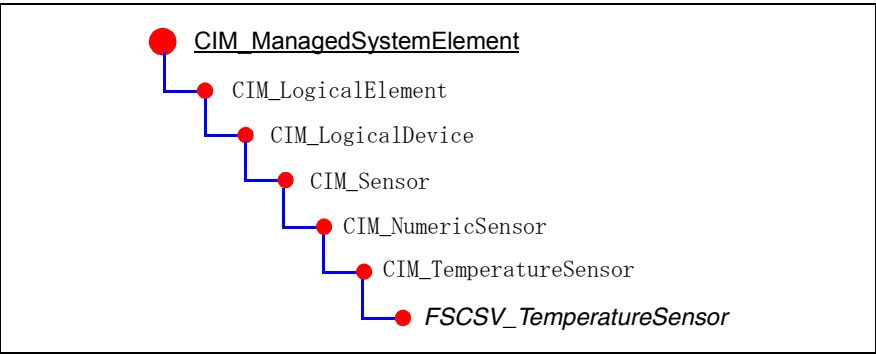
関連付け

FSCSV_Tachometer クラスには、*FSCSV_...* 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

17.2.3.21 FSCSV_TemperatureSensor

FSCSV_TemperatureSensor クラスは、PRIMERGY 上の温度センサのプロパティを表します。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_TemperatureSensor</i> のインスタンスを識別します。

メソッド

FSCSV_TemperatureSensor クラスはメソッドを定義しません。

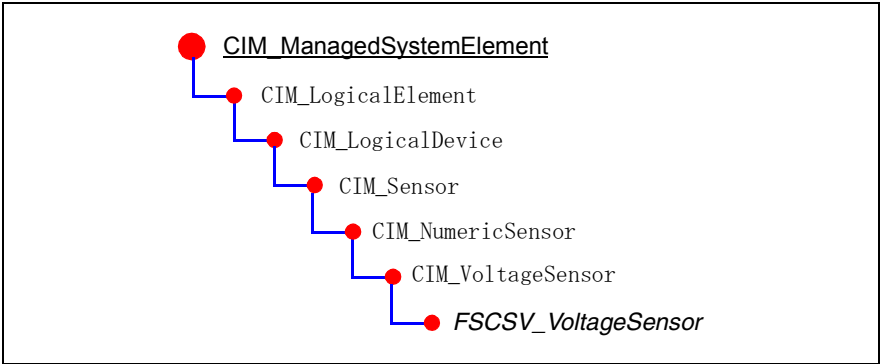
関連付け

FSCSV_TemperatureSensor クラスには、*FSCSV_...* 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

17.2.3.22 FSCSV_VoltageSensor

FSCSV_VoltageSensor クラスは標準電圧センサを拡張します。

親クラス



プロパティ

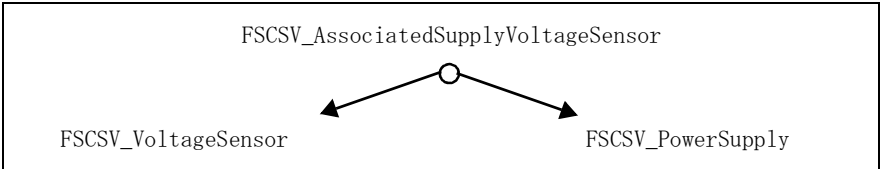
名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。FSCSV_VoltageSensor のインスタンスを識別します。
OutputLoad	uint8	電圧センサでの現在の出力電圧（%）。

メソッド

FSCSV_VoltageSensor クラスはメソッドを定義しません。

関連付け

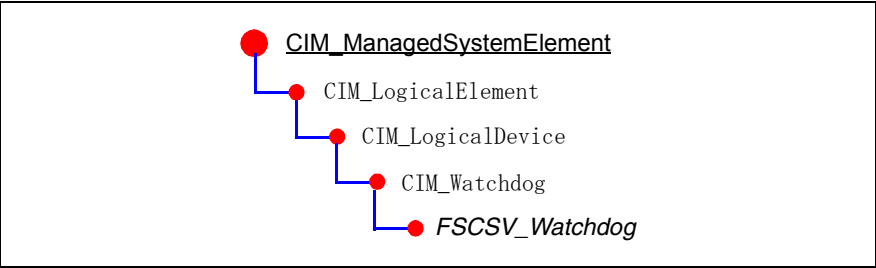
FSCSV_VoltageSensor クラスは、FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor 関連付けクラスによって FSCSV_PowerSupply クラスに関連付けられます。



17.2.3.23 FSCSV_Watchdog

FSCSV_Watchdog クラスはシステムハードウェアに実装されたタイマを表します。これで、PRIMERGY の OS、BIOS、他のソフトウェアコンポーネントを監視できます。

親クラス



プロパティ

名称	型	説明
DeviceID	string	キー（継承）。 <i>FSCSV_Watchdog</i> のインスタンスを識別します。

メソッド

FSCSV_Watchdog クラスはメソッドを定義しません。

関連付け

FSCSV_Watchdog クラスには、*FSCSV_...* 関連付けクラスによって関連付けられたクラスはありません。

17.3 WMI スクリプト

WMI スクリプトライブラリにはオートメーションオブジェクトが数多く含まれています。これにより、VBScript や JScript などのスクリプト言語を使用して、WMI インフラストラクチャ内の CIM クラスやインスタンスにアクセスできます。この方法により、PRIMERGY の管理や監視のためにスクリプトを幅広く作成できます。

WMI スクリプトライブラリは次のコンポーネントに実装されています。

<Windows ルートディレクトリ>\¥Wbem directory\wbemdisp.dll

17.3.1 WMI スクリプトの構造

WMI スクリプトの主な利点の 1 つとして、その構造がおおむね統一されていることがあげられます。つまりこれは、ほんの少し手を加えるだけで各管理タスクを実行できるということを意味しています。

すべての WMI スクリプトは次の手順で構成されています。

1. 監視対象サーバ上で WMI サービスへの接続を確立する。
2. 特定のクラスのインスタンス（マネージ オブジェクト）を呼び出す。
3. マネージ オブジェクトのプロパティを表示する。

次の節では、Microsoft Visual Basic Scripting Edition (VBScript) スクリプト言語で作成されたサンプルスクリプトを基にして、これらの手順を説明します。

WMI スクリプトについて、詳しくは、次の Web ページなどをご覧ください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa393262\(en-us,VS.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa393262(en-us,VS.85).aspx)

17.3.2 WMI スクリプトによる例

次のスクリプトはローカルサーバのファンのデバイス ID を出力します。

```
adminServer = "."
Set wbemServices = GetObject("winmgmts:\\." & adminServer) (1)
Set wbemObjectSet = wbemServices.InstanceOf("FSCSV_Fan") (2)
For each wbemObjectSet In wbemObjectSet
    WScript.echo "Device ID of the fan " &
        wbemObject.DeviceID (3)
```

監視対象のサーバで WMI サービスへの接続を確立する (1)

監視対象のサーバへの接続を確立するために、スクリプトは VBScript 関数 *GetObject()* への引数として WMI スクリプトライブラリのモニカ名を渡します。モニカ名は「winmgmts」という文字列と監視対象サーバの名前で構成されています。*GetObject()* は WMI スクリプトライブラリの *SWbemServices* オブジェクトを返します。このオブジェクトは *wbemObjectSet* 変数が参照します。これは、*SWbemServices* メソッドである *InstanceOf()* が利用できることを意味します。このメソッドは特定の型（この場合、ファンつまり *FSCSV_Fan* クラス）のマネージ オブジェクト（インスタンス）をすべて返します。

特定のクラスのインスタンス（マネージ オブジェクト）を呼び出す (2)

InstanceOf() メソッドは *FSCSV_Fan* クラスのすべてのインスタンスを、*SWbemObjectSet* 一覧として返します。この一覧は *wbemObjectSet* 変数が参照します。*SWbemObjectSet* は WMI スクリプトライブラリのオブジェクトです。

マネージ オブジェクトのプロパティを表示する (3)

SWbemObjectSet 一覧のエレメント、すなわち *FSCSV_FAN* インスタンスは、*SWbemObject* 型のオブジェクトです。これは要求されたクラス（本例では *FSCSV_Fan*）の個々のインスタンスを表し、各インスタンスに対して *FSCSV_Fan* で定義されたプロパティ値が利用できるようになります。本例では *DeviceID* を評価します。*SWbemObject* は WMI スクリプトライブラリのオブジェクトです。

17.4 WMI CIM Studio (例)

図 62 は、*FSCSV_ManagementController* クラスがどのように WMI CIM Studio 内で表されるかを示したものです。画面のナビゲーションエリアは、*CIMv2* 名前空間のクラス階層におけるそのクラスの位置を示します。画面右側には、*FSCSV_ManagementController* のプロパティに関する情報が表示されます。*Derivation* の左のアイコンをクリックすると子ウィンドウが開き、*FSCSV_ManagementController* の親クラスが一覧表示されます。

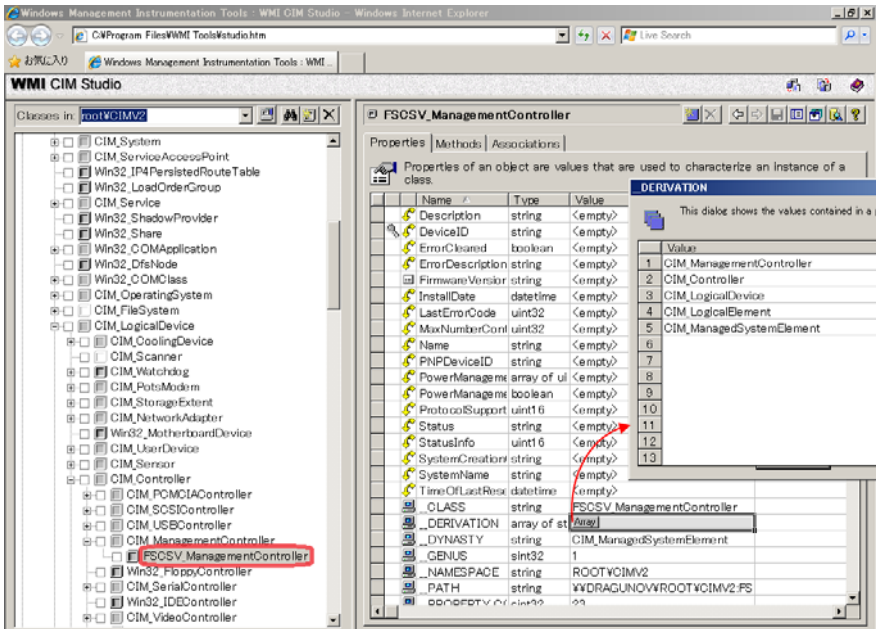


図 62: WMI CIM Studio における *FSCSV_ManagementController* クラスの表示

そのクラスのメソッド、関連付け、インスタンス、プロパティも表示できます。

18 トラブルシューティング

SVOM が正常に起動しない

- Windows Server 2003 において、LAN 接続しない状態で、SVOM をインストールした場合は、SVOM が起動できない場合があります。次の手順を行ってください。
 1. サーバの LAN を接続します。
 2. サーバの IP アドレスを設定します。
 3. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」から「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択し、「変更」をクリックします。
 4. 「アプリケーションメンテナンス」画面で「修正」を選択して各画面の表示内容に従って次へ進みます。
 5. 「コンピュータの詳細」画面で設定された IP アドレスが表示されていることを確認して次へ進み、インストールを開始します。
 6. サーバを再起動します。
- Linux において、LAN 接続しない状態で SVOM をインストールした場合、画面上に html のリンクアドレスがそのまま表示される場合があります。LAN 接続後に SVOM を再インストールしてください。

現象の要因を回避したはずなのに正常に表示されない

Java のキャッシュが有効になっている場合、一度読み込みに失敗した Java のスクリプトをキャッシュから再度利用しようとするため、画面を開き直しても現象が回避されないことがあります。

または、画面に赤い×印が表示され、回避できない場合もあります。

Java のキャッシュ、Web ブラウザのキャッシュをクリアしてください。

サーバが管理不可能と表示される

サーバが管理不可能と表示された場合は、次の項目を確認してください。

ネットワーク環境の確認項目

- LAN ケーブルが正しく接続されていますか？
LAN ケーブルを正しく接続してください。
- ネットワーク機器（ルータ、HUB など）は正常に動作していますか？
ネットワーク機器を確認してください。
- 「監視対象サーバ」 ↔ 「SVOM をインストールしたサーバ」 間のネットワーク機器において、SNMP プロトコルの通信ポート（udp161 番および udp 162 番）が遮断されていませんか？
遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。

SVOM（Windows / Linux）をインストールしたサーバの確認項目 < Windows / Linux 共通 >

- 監視対象サーバに対して、ping が通りますか？
ping が通らない場合、ネットワーク周りの設定を確認してください。
- 監視対象サーバの IP アドレスは正しいですか？
監視対象サーバの IP アドレスを確認し、正しい IP アドレスを設定してください。
- 監視対象サーバで設定されている SNMP コミュニティが、「サーバのプロパティ」 → 「ネットワーク / SNMP」 タブ → 「コミュニティ名」 に設定されていますか？
コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。
また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、「管理不可能」アイコンが表示される場合があります。この場合は、次の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更し、負荷の低下、タイムアウト値の延長を行うことができます。
 1. 「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」 → 「ネットワーク / SNMP」 タブの順にクリックします。

2. 環境に合わせて設定値を変更します。

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとに、システムの情報をサーバに要求します（デフォルト 60 秒 ）。
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です（デフォルト 5 秒 ）。
更新間隔	表示内容を更新する間隔です（デフォルト 60 秒 ）。

- i**
- これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。
 - タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまいます。大きすぎる値（**12 秒以上**）は設定しないようにしてください。

監視対象サーバ（Windows）の確認項目

- ファイアウォールにより、**ICMP（PING）** または **SNMP** ポート（**udp 161 番**）が遮断されていませんか？
遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- **ServerView Windows** エージェントがインストールされていますか？
インストールされていない場合は、インストールしてください。
- **SVOM** で、「サーバのプロパティ」に設定した **SNMP** コミュニティ名が、「**SNMP Service**」のプロパティに設定されていますか？
コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。
また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- **ServerView Windows** エージェント（**SNMP Service**、**ServerView Server Control**）が起動していますか？
起動していない場合、起動してください。
- **ServerView Windows** エージェント（**SNMP Service**、**ServerView Server Control**）が正常動作していない可能性があります。
ServerView Windows エージェントを再起動してください。
再起動しても、解決しない場合は、**ServerView Windows** エージェントを再インストールしてください。

- **SNMP** を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。
他製品の **SNMP** を無効化してください。

監視対象サーバ (Linux) の確認項目

- ファイアウォールにより、**ICMP (PING)** または **SNMP** ポート (**udp 161** 番) が遮断されていませんか？
遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。
ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。なお、OS 標準のファイアウォール (パケットフィルタ) としては、**iptables**、**tcpwrapper** (**/etc/hosts.deny**、**/etc/hosts.allow**) などがあります。
- **ServerView Linux** エージェントがインストールされていますか？
インストールされていない場合は、インストールしてください。
- **SVOM** で、「サーバのプロパティ」に設定した **SNMP** コミュニティ名が、「**SNMP Service**」のプロパティに設定されていますか？
コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。
- **ServerView Linux** エージェント (**snmpd**、**eeed_mods_src**、**eeed**、**srvmagt**、**srvmagt_scs**) が起動していますか？
- **ServerView Linux** エージェント (**snmpd**、**eeed_mods_src**、**eeed**、**srvmagt**、**srvmagt_scs**) が正常動作していない可能性があります。
ServerView Linux エージェントを再起動してください。再起動手順は次のとおりです。

```
#/usr/sbin/srvmagt stop  
#/etc/init.d/snmpd stop  
#/etc/init.d/snmpd start  
#/usr/sbin/srvmagt start
```

再起動しても、解決しない場合は、**ServerView Linux** エージェントを再インストールしてください。

- **snmpd.conf** の中に「**com2sec svSec localhost <SNMP コミュニティ>**」行がない可能性があります。
この行がない場合は追加してください。
追加後、次の手順で、**ServerView Linux** エージェントを再起動してください。

```
#/usr/sbin/srvmagt stop  
#/etc/init.d/snmpd stop  
#/etc/init.d/snmpd start  
#/usr/sbin/srvmagt start
```

-
- RHEL-AS3(x86) / RHEL-AS3(IPF) / RHEL-ES3(x86) を除く Linux において、*snmpd.conf* の中に次の行がない可能性があります。
この行がない場合は追加してください。

- ServerView Linux エージェント V4.52 以降の場合

master agentx

- ServerView Linux エージェント V4.50 以前の場合

master agentx

agentxsocket /var/agentx/master

追加後、次の手順で、ServerView Linux エージェントを再起動してください。

```
# /usr/sbin/srvmagt stop
```

```
# /etc/init.d/snmpd stop
```

```
# /etc/init.d/snmpd start
```

```
# /usr/sbin/srvmagt start
```

監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される

SVOM 画面において、監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される場合があります。その際は、しばらく時間をおいてから SVOM 画面の「更新」をクリックしてください。上記の操作を行っても「Unknown」と表示される場合は、次の手順で ServerView エージェントを再起動するか、OS の再起動を行ってください。

ServerView エージェントの再起動を行っても復旧しない場合は、ハードウェア異常の可能性があります。担当保守員に連絡してください。

電圧／環境グループのステータスアイコンが正常にも関わらず、個々の電圧センサや温度センサのステータスが異常（電圧：下限を超えています／上限を超えています、温度：黄／赤）を示すことがある。

電圧／温度センサ値が、異常値から正常値（しきい値内）に復帰した場合でも、ある一定値以内に返るまでセンサのステータスはそのまま異常状態を表示し続けます。これは、しきい値付近で電圧／温度値が遷移した場合に、頻繁に電圧／温度異常イベントや、電圧／温度正常イベントが頻発するのを防ぐための処置です（一般的にこの一定値をヒステリシスと呼びます）。

一方、電圧／環境グループのアイコンは、電圧／温度センサ値がしきい値内であれば、ヒステリシスに関係なく正常アイコンを表示するため、このような現象が発生します。

本現象が起きても、電圧／温度値は正常のため特に問題ありません。

システム起動時、または **SVOM** 起動時にエラーメッセージが表示される。

システム起動時、または **SVOM** 起動時に **ServerListService** が起動できない旨の次のメッセージが表示された場合は、次の対処を行ってください。

ServerView サービスが正常に動作していません

データベース サーバとの接続が失われました

データベースサーバとサービスの現在の状態を確認してください

必要なら、データベースサーバとサービスを再起動してください

そのあと、再接続するために **ServerView** サービスを再起動してください。

Windows の場合

Active Directory（ドメインコントローラ）や **DNS** サーバが構築されている環境において、システム起動時に上記メッセージが表示される場合があります。サーバ起動時のサービスの起動にかかる時間のタイミングにより、ドメインコントローラが立ち上がる前に **SVOM** が **SQL Server** に接続を試みることがあります。この際、認証が失敗し上記のメッセージが表示されることがあります。

次の各サービスの起動を遅延させることで、この現象を抑止できます。

- **MSSQL\$SQLSERVERVIEW**

- **ServerView Services**

Linux の場合

postgres が停止しているときや、**/etc/hosts** に **localhost**（**127.0.0.1**）の定義が行われていないときに表示される場合があります。**postgres** が正常に起動しているか、または **/etc/hosts** に定義もれがないかを確認してください。

接続テストが正常とならない

すべての接続テスト結果が正常ではない場合

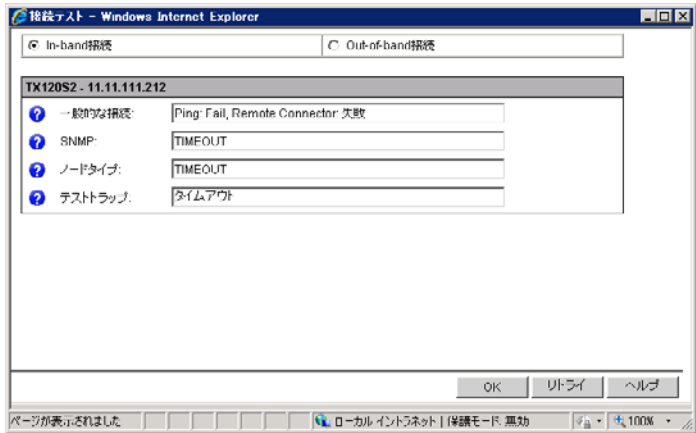


図 63: すべての接続テスト結果が正常ではない場合の画面例

状況	原因	対処
PING の通信ができていません。	LAN が接続されていない、または LAN の接続経路が確立されていない場合があります。	<ul style="list-style-type: none">– PING が通りますか？ PING を有効にしてください。– PING の応答がない場合、接続テストは実行されません。– PING が通るように LAN 環境を見直してください。
	対象のサーバがファイアウォールで通信遮断されている場合があります。	

SNMP チェックが正常ではない場合

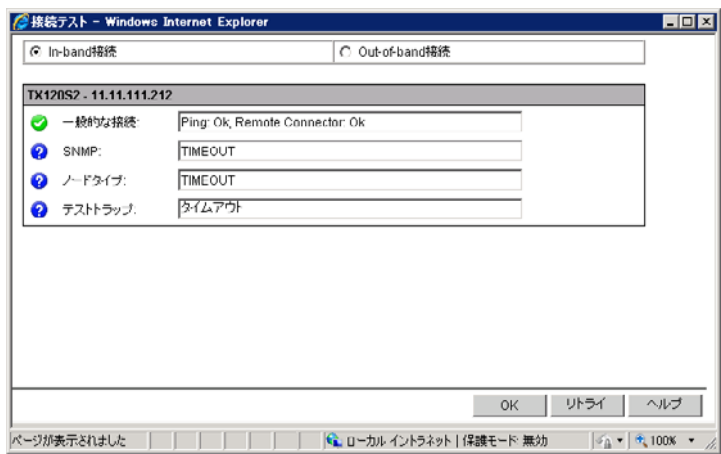


図 64: SNMP チェックが正常ではない場合の画面例

状況	原因	対処
SNMP サービスから応答がありません。	ファイアウォールなどで SNMP (Port 161/162) 通信が遮断されていませんか？	ファイアウォールの設定を確認してください。
	SNMP サービスは起動していますか？	SNMP サービスを起動してください。
	SNMP の設定で管理サーバの IP からの書き込みが抑止されていませんか？	SNMP の設定 (SNMP Service のプロパティ <code>lsnmpd.conf</code>) を確認してください。

ノードタイプが正常ではない場合

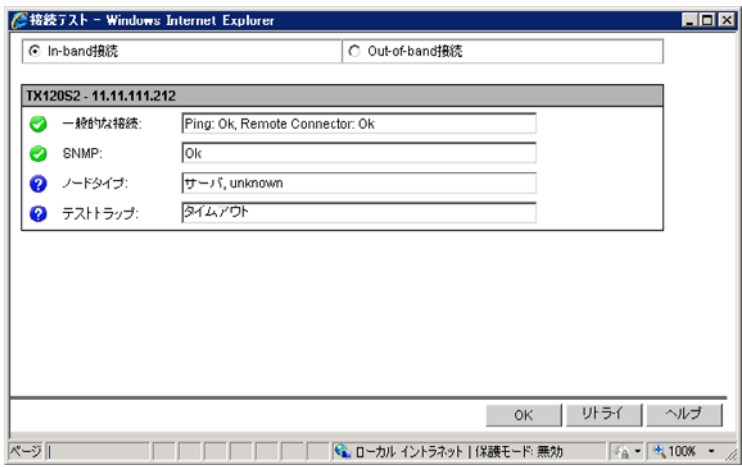


図 65: ノードタイプが正常ではない場合の画面例

状況	原因	対処
ServerView エージェントから応答がありません。	ServerView エージェントは起動していますか？	ServerView エージェントを起動（再起動）してください。
	ServerView エージェント起動後にサーバの設定などを変更していませんか？	ServerView エージェント、SNMP サービスを再起動してください。

テストトラップが正常ではない場合

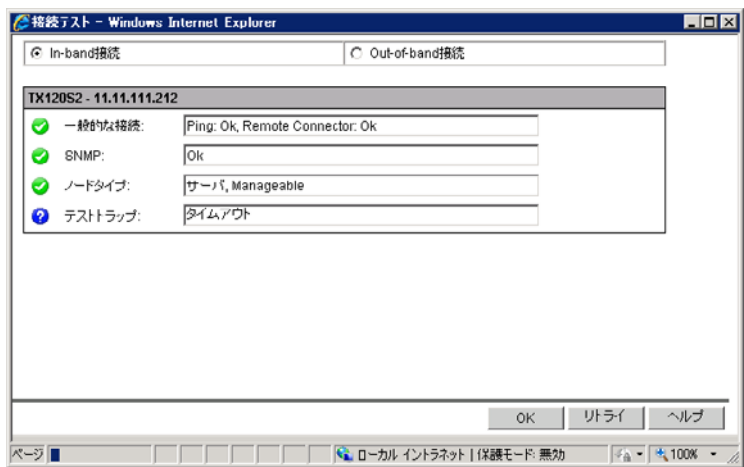


図 66: テストトラップが正常ではない場合の画面例

テストトラップを受けていないのか、受けているが正常にならないのか確認をしてください。

状況	原因	対処
トラップを受けていません。	管理サーバからトラップを受け付ける設定になっていますか？	SNMP Trap サービスが起動しているか確認してください。 SNMP の設定 (SNMP Service のプロパティ <i>lsnmpd.conf</i>) を確認してください。
	対象サーバの Trap 送信先はありますか？	SNMP の設定 (SNMP Service のプロパティ <i>lsnmpd.conf</i>) で送信先を確認してください。
	対象サーバの ServerView エージェントが V4.00 より前のバージョンではありませんか？	ServerView エージェント V4.00 より前のバージョンのテストトラップは SVOM では認識しません。

SVOM の留意事項

「サーバの設定」画面での操作について

「ファン」設定において、任意の「ファン」を選択し、「シャットダウン」→「電源断」を指定する場合、すべての有効なファンについて設定を行ってください。

SVOM のステータスアイコン表示について

次の条件をすべて満たすとき、ステータスアイコンが故障状態になる場合があります。

- 監視対象サーバにおいて
- OS の起動時
- ServerView 監視プログラムがすべて起動するまでの間

監視対象サーバが正常な場合、ServerView 監視プログラムがすべて起動されると、アイコンは正常に表示されます。

日本語入力可能な箇所において、以下の文字は使用できません。

「一」「ソ」「IX」「噂」「涇」「欺」「圭」「構」「蚕」「十」
「申」「曾」「箎」「貼」「能」「表」「暴」「予」「禄」「兔」
「喀」「媾」「彌」「拿」「朽」「畝」「濬」「畚」「秉」「綵」
「臀」「藹」「觸」「體」「鐔」「饅」「鷓」「椿」「砒」「續」
「狢」

19 富士通テクノロジー・ソリューションズ エンドユーザーソフトウェア使用 許諾契約書

1. 本契約書の主題

1.1 本契約書においては“本ソフトウェア”は、富士通テクノロジー・ソリューションズのソフトウェア製品データシートにオブジェクトコード、バージョン、仕様が記載されているソフトウェアを意味します。

本ソフトウェアは、機械可読命令、印刷された文書類、使用を許諾された関連マテリアルからなります。

1.2 本ソフトウェアを御使用になる前にこの契約書を注意してお読みください。本契約書のライセンス条件に同意されない場合、ユーザーは本ソフトウェアの使用を許可されませんので、必ず本ソフトウェアのすべてのコピーとすべての付属品目を購入証明書とともに直ちにライセンサー/サブライセンサー（富士通テクノロジー・ソリューションズかまたはユーザーに本ソフトウェアを提供した再販業者）に返送してください。代金を全額返却いたします。

1.3 本ソフトウェアの使用には、該当するライセンス料の適正な支払いを必要とします。本ソフトウェアを使用することで、ユーザーは本契約書の条件に拘束されることに同意したことになります。

1.4 富士通テクノロジー・ソリューションズは、ソフトウェア海賊行為への対策として、将来いつでも、追加のソフトウェアライセンスキーやライセンス証明書を付加する権利を保有します。

1.5 サードパーティーソフトウェアサプライヤーからのソフトウェアコンポーネントで納品品目に含まれているものは、別個のライセンス契約の対象となります。そのライセンス契約書は本ソフトウェアに付属しているか、お求めがあれば富士通テクノロジー・ソリューションズが伝送します。

2. エンドユーザーライセンス

2.1 富士通テクノロジー・ソリューションズは、ユーザーに対し、購入されたライセンス口数に相当するワークステーションで本ソフトウェアを使用する非独占的かつ譲渡不能のライセンスを付与します。追加のライセンスを購入

されない限り、最大ライセンス口数を超えるワークステーションで、または指定のタイプを超えるハードウェアで、本ソフトウェアを操作することを許されません。

アーカイビング目的で本ソフトウェアのバックアップコピーを作成することは許されます。ただし、本ソフトウェアのコピーまたは部分コピーに著作権表示その他の所有権情報を正しく表示することが必要です。

2.2 本ソフトウェアをコピー、修正、または頒布してはいけません。さらに、本ソフトウェアのリコンパイル、リエンジニアリング、変換、改訂、コンパイル、修正を行ってはいけません。ユーザーは本ソフトウェアを対応するハードウェアを売ることなくサブライセンスしてはならず、また本ソフトウェアを譲渡、賃貸、リース、あるいは移転してはなりません。ただし本契約書により明示的に許可されている場合、または強制的法規による場合を除きます。

2.3 本ソフトウェアをプログラム・アップグレードとして取得された場合は、旧ソフトウェアバージョン使用のライセンスは、本ソフトウェアのアップグレードバージョンのインストールとともに自動的に終了します。旧ソフトウェアバージョンの一部分をアップグレードバージョンに置き換えた場合は、旧ソフトウェアバージョンの残余部分も置き換えられるかまたは他の形で非活動化、またはシャットダウンされるまで、旧ソフトウェアバージョンのライセンスは引き続き有効です。

2.4 富士通テクノロジー・ソリューションズの対応するソフトウェアデータシートで特に指定されている場合を除き、あるソフトウェアバージョンまたはリリースに対するライセンスは、本ソフトウェアの新たなリリース（アップデート）、新たなバージョン（アップグレード）またはテクニカルサポートサービスに対する権利を付与しません。補足サポート契約およびメンテナンスサービスは、新たなリリース、新たなバージョン、追加のテクニカルサポートサービスを含めるかまたは含めずに、直接に富士通テクノロジー・ソリューションズから、または認可ソフトウェア再販業者から、別途購入することができます。

3. ダウンロード

富士通テクノロジー・ソリューションズよりネットワークまたは類似の頒布経路を通じて提供されたソフトウェアについては、次の追加条件が適用されます。

富士通テクノロジー・ソリューションズよりダウンロードのために提供された製品はすべて選定され、利用可能にされ、また — サードパーティーより供給された場合は — 修正なしに提供されています。ただし最新バージョンを確認することと、ダウンロードするマテリアルのユーザー自身の目的に対する

使用性と御使用のシステム上での使用性を確認することは、ユーザーの全面的責任です。本ソフトウェアはユーザー自身のリスクでダウンロードしてください。富士通テクノロジー・ソリューションズは責任を負わず、特に伝送エラーやダウンロードプロセスの間に発生する問題（回線故障、接続遮断、サーバ故障、データ破損など）については一切責任を負いません。

富士通テクノロジー・ソリューションズのウェブサイトは、富士通テクノロジー・ソリューションズが1か所以上のオフィスを置いている国のためにのみ運用、管理されています。本ソフトウェアや文書類が上記の国々以外の場所でも富士通テクノロジー・ソリューションズのウェブサイトからダウンロードできること、またはその可能性があることについて、富士通テクノロジー・ソリューションズは責任を負いません。ユーザーが国外から富士通テクノロジー・ソリューションズのウェブサイトアクセスされる場合は、ユーザーには現地の法規を順守する全面的責任があります。富士通テクノロジー・ソリューションズは、本ソフトウェアや文書類を富士通テクノロジー・ソリューションズのウェブサイトからダウンロードすることが違法と見なされている国において、そのようなダウンロードを行うことを明示的に禁じます。

4. 著作権

本ソフトウェア（本ソフトウェアの一部を含む）にかかわるすべての権利とライセンス（本使用許諾契約において明示的にユーザーに譲与されたものを除く）、ならびにすべての所有権と使用权は、全面的に富士通テクノロジー・ソリューションズかサードパーティーライセンサー、またはその両者の所有にとどまります。

本使用許諾契約はユーザーに対し、富士通テクノロジー・ソリューションズまたはサードパーティーライセンサーのブランド、ロゴ、または商標を使用する許可を与えるものではなく、ユーザーは富士通テクノロジー・ソリューションズのブランド、ロゴ、または商標に紛らわしく類似した他のブランドを使用することも許されません。本ソフトウェアまたは富士通テクノロジー・ソリューションズに関してブランド、ロゴ、または商標を使用するには、そのつど富士通テクノロジー・ソリューションズの明示的同意を必要とします。

5. 本ソフトウェアが再販業者により販売・納入された場合の、ライセンサーの保証および責任の否認

ユーザーが本ソフトウェアを直接、認定再販業者（以下“再販業者”という）から購入された場合は、本ソフトウェアをインストールし使用する権利は、ライセンサーとしてのユーザーとそれぞれの再販業者との間で合意する追加のソフトウェアライセンス条件に従うことがあります。

認定ソフトウェア再販売の場合はすべて、ソフトウェアは再販業者より直接ライセンシーにサブライセンスされ、利用可能にされます。その場合、富士通テクノロジー・ソリューションズは、ソフトウェアライセンスの取得に関する限り、ライセンシーであるユーザーと再販業者との間のソフトウェアライセンス契約の契約当事者ではありません。したがって、ソフトウェアライセンスをめぐる法的請求は、再販業者との契約を基礎としてのみ主張することができます。ただしいかなる場合も、ライセンシーに認められる使用許諾の範囲は、本契約書の第 1、2、3、および 4 条に明記された使用許諾契約の範囲を超えないものとします。

強制的法規、特に賠償責任と保証を律する強制的法規で、エンドユーザー使用許諾契約に関する規則に関連して、またライセンシーの再販業者に対する請求権に関して免責され得ない法規に従うことを条件として、富士通テクノロジー・ソリューションズは本契約書において本ソフトウェアに関する一切の保証を否認します。同じ理由により、富士通テクノロジー・ソリューションズは、サードパーティーの権利の侵害についての一切の賠償責任/請求、またソフトウェアの市販性や特定目的への適合性に関する黙示的保証も否認します。この責任の否認は富士通テクノロジー・ソリューションズの故意または悪意ある行動に対しては適用されません。

本エンドユーザー使用許諾契約において、富士通テクノロジー・ソリューションズは明示的・黙示的を問わずいかなる種類の保証も一切与えていません。

6. シェアウェア、フリーウェア、オープンソースソフトウェア・コンポーネントに関する責任の否認

6.1 本ソフトウェアは、富士通テクノロジー・ソリューションズがサードパーティーから受け取ったフリーウェアまたはシェアウェアを含むことがあります。富士通テクノロジー・ソリューションズはそうしたフリーウェアまたはシェアウェアの使用に対しライセンス料を支払っていません。したがって、ライセンシーは当該フリーウェアまたはシェアウェアの使用に対しライセンス料を請求されません。ユーザーは、富士通テクノロジー・ソリューションズがそれゆえこうしたフリーウェアまたはシェアウェア・コンポーネントに関して保証を与えず、またそれぞれのフリーウェアまたはシェアウェアの所有、頒布、使用に関連するいかなる賠償責任も引き受けないことを認め、受け入れます。

6.2 本ソフトウェアは、「オープンソースモデル」にしたがい開発され、多くの場合 **GPL (General Public License: <http://www.gnu.org/copyleft/gpl.html>)** 条件、または配布時にそれぞれのオープンソースコンポーネントに適用される他の標準オープンソース使用許諾条件に基づき頒布されるオープンソースソフトウェアコンポーネントを含むことがあります。ユーザーは、こうしたオープンソースソフトウェアコンポーネントの使用許諾が多くの場合上記の

GPL 条件かまたは他の形でオープンソースソフトウェアコンポーネントに付属している条件に準拠することを認め、受け入れます。富士通テクノロジー・ソリューションズは、提供したオープンソースソフトウェアコンポーネントについてライセンス料もその他の報酬も受け取っていません。富士通テクノロジー・ソリューションズまたはサードパーティーがオープンソースソフトウェアコンポーネントに関連して何らかの報酬を受け取ると限るとき、それは多くの場合追加のデリバリーアイテムやサービスの対価として受け取るものです。

オープンソースソフトウェアコンポーネントの開発及び頒布の特殊性にかんがみ、富士通テクノロジー・ソリューションズはその種のコンポーネントについて明示的・黙示的を問わず一切責任を負わず、またそのようなオープンソースソフトウェアコンポーネントについて、特に仕様不足、機能の欠如、プログラミングエラー、その他の誤作動に関して、いかなる保証も免責されるものとします。

7. 賠償責任の一般的限定

7.1 富士通テクノロジー・ソリューションズも同社のサプライヤーも、業務中断、利益や売上の逸失、データ損失、または資本コストに由来または関連する損害を含め、いかなる派生的・間接的損害についても賠償責任を負いかねます。富士通テクノロジー・ソリューションズと同社のサプライヤーは、本ソフトウェアの保持、販売、使用または使用不能に由来する追加の付随的・派生的費用、または他のいかなる種類の損失、費用、経費についても、賠償責任を負いかねます。この場合、当該請求が保証を受ける権利、契約、不法行為責任、または他の法的理論により主張されているかどうかはかわりありません。

7.2 富士通テクノロジー・ソリューションズ側の、免責されていないか、強制的法律のために完全には免責され得ない契約違反やその他の行為、または失効の結果直接的損害が生じた場合、当該損害に対する富士通テクノロジー・ソリューションズの賠償責任は **250,000.00** に限定されます。直接的損害に対する他の一切の賠償責任は免責されるものとします。富士通テクノロジー・ソリューションズの軽微な過失の結果生じた損害は、適用法規の許容する範囲まで免責されるものとします。

7.3 本契約書による賠償責任の限定および免責は、富士通テクノロジー・ソリューションズが適用法規にしたがい義務的賠償責任を負い、かつ当該賠償責任が最大額まで制限できない損害 (例えば、身体的損害、製造物責任や悪意ある虚偽報告による損害) には適用されません。

8. 輸出管理

そのコンポーネント、あるいはコンポーネントの性質または目的のために、本ソフトウェアや付属する文書類の輸出は監督官庁による承認が必要となる場合があります。本ソフトウェアの輸出を意図している場合は、ユーザーは関連する輸出管理法規を順守するために必要なすべての承認および許可を取得しなければなりません。

本ソフトウェアが核、化学、または生物兵器に関連して、またはミサイル技術のために用いられると推定される理由がある場合には、本ソフトウェアを輸出してはなりません。さらにユーザーは、米国の適用輸出規制 (特に、**Table of Denial Orders/U.S. 輸出否認命令表**、**Denied Persons Lists 輸出否認者リスト (DPL)**)、**E.U. の輸出規制 (特に EU Terrorist List テロリストリスト)**、またはドイツの輸出当局や他のいずれかの国の管轄当局より公布される該当する警告に記載されている企業または人物に対し、本ソフトウェアを引き渡してはならず、間接的に引き渡させてもなりません。

ドイツ連邦共和国、欧州連合、アメリカ合衆国、または他の国々の適用輸出規制への違反となる場合は、いかなる状況でも富士通テクノロジー・ソリューションズはソフトウェア、パッチ、アップデート、またはアップグレードを提供する義務も、ダウンロードその他の契約上の約定を遂行するためのソフトウェアを提供する義務も負いません。

本ソフトウェアまたはそのコピーを輸出または再輸出する場合、それは適用輸出法規への違反、かつ本契約書の条件への重大な違反となる可能性があります。

9. その他

9.1 本契約書のいずれかの条件または本契約書の条件に従う他の契約のいずれかの条件が (一部または全部) 無効もしくは強行不能と判明した場合、それ以外のすべての条件の有効性は影響を受けません。ただし、法律の隙間を埋めるべく適用可能な法律規則を適用しても、残余の契約条件を順守することがいずれかの契約当事者にとって不当な困難となるであろう場合は、その限りではありません。

9.2 ユーザー / ライセンシーが支払期限の来たライセンス料を支払わないか、ライセンシーが本使用許諾契約の必須条件を順守しない場合は、富士通テクノロジー・ソリューションズは、本使用許諾契約を解除する権利を有します。かかる契約解除の場合には、保有する本ソフトウェアのあらゆるコピーを直ちに返却し、[ソフトウェアコピーの] 完全な返却または当該コピーの破棄を文書で確認しなければなりません。

9.3 いずれかの当事者に義務の不順守があっても、その不順守がその当事者の統御を超えた不可抗力による場合は、ユーザーも富士通テクノロジー・ソリューションズも当該不順守について責任または賠償責任を問われないものとします。

9.4 これらの使用許諾条件のあらゆる変更や修正は、文書に作成される場合にのみ有効とします。

10. 準拠法

10.1 これらの使用許諾条件はドイツ連邦共和国の法律に準拠します。

10.2 万一第 **10.1** 条の規定が強行不能とされた場合には、これらの使用許諾条件はユーザーが本ソフトウェアを取得した国の法律に準拠するものとします。ただし次の国々は別とします。**1)** オーストラリアでは、本使用許諾契約の条件は、事業契約が締結されている州または主権領土の法律に準拠します。**2)** アルバニア、アルメニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、チェコ共和国、グルジア、ハンガリー、カザフスタン、キルギス、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国 (**FYROM**)、モルダビア、ポーランド、ルーマニア、ロシア、スロバキア、スロベニア、ウクライナ、およびユーゴスラビア連邦共和国では、本使用許諾契約の条件はドイツ連邦共和国の法律に準拠します。**3)** 英国では、これらの使用許諾条件に関するすべての紛争は英国法に準拠し、英国の裁判所が専属管轄権を有します。**4)** カナダでは、本使用許諾契約の条件はオンタリオ州法に準拠します。**5)** アメリカ合衆国とプエルトリコ、ならびに中華人民共和国では、本使用許諾契約の条件は米国、ニューヨーク州の法律に準拠します。



図 1:	役割ベースのユーザ権限の割り当て例	16
図 2:	仮想サーバ (例 : RX600 S4)	21
図 3:	Central Authentication Service のログインウィンドウ	33
図 4:	スタートページ	34
図 5:	ServerView Operations Manager のメインウィンドウ	37
図 6:	サーバリスト	85
図 7:	管理不可能サーバの確認画面	86
図 8:	管理不可能サーバの確認画面	87
図 9:	ブレードサーバがあるサーバリスト	88
図 10:	サーバリストの BladeFrame	89
図 11:	サーバリストの VMware ESX Server V3.0	92
図 12:	サーバリストの Xen/Citrix XenServer サーバ	94
図 13:	IP アドレスがない仮想サーバ	96
図 14:	サーバリストの Hyper-V サーバ	97
図 15:	レジストリエディタ regedit	100
図 16:	セキュリティの詳細設定 - 現在の所有者 TrustedInstaller	101
図 17:	セキュリティの詳細設定 - 現在の所有者 Administrators	101
図 18:	アクセス許可ウィンドウ	102
図 19:	サーバリストの PRIMEPOWER システム	103
図 20:	サーバリストのストレージサブシステム	104
図 21:	サーバリストの BMC	108
図 22:	サーバブラウザの例	112
図 23:	ServerView [サーバ名] 画面	134
図 24:	ファンビュー	138

図 25:	外部記憶装置ビュー	141
図 26:	電源ビュー	144
図 27:	パフォーマンス	151
図 28:	パフォーマンス - プロセッサビュー	158
図 29:	LAN チーミングビュー	163
図 30:	CSS ビュー	175
図 31:	VMware vSphere PowerCLI	180
図 32:	ServerView [サーバ名] 画面のリモートマネジメントビュー 184	
図 33:	確認画面 - iRMC の場合	186
図 34:	ServerView [ブレードサーバ名]	187
図 35:	電源ビュー	195
図 36:	BladeFrame Server View	199
図 37:	ブレードフレーム制御サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名] 204	
図 38:	ブレードフレーム処理サーバ詳細画面 [ブレードフレーム名] 206	
図 39:	ブレードフレーム仮想ブレード詳細画面 [ブレードフレーム名] 207	
図 40:	SV - Storage	210
図 41:	リモートマネジメントビュー	215
図 42:	パワーモニタの起動画面	218
図 43:	パワーモニタ - サーバタブ	220
図 44:	例: 「システム」列のフィルタリング	222
図 45:	パワーモニタ - 複数のフィルタを適用した例	223
図 46:	パワーモニタ - フィルタのリセットに関する警告	224
図 47:	パワーモニタ - データタブ	225

図 48:	パワーモニタ - グラフ内のツールチップ	228
図 49:	パワーモニタ - グラフ内の変更セクション	228
図 50:	パワーモニタ - データタブ (単一のサーバ)	230
図 51:	パワーモニタ - データタブ (複数のサーバ)	231
図 52:	グラフ内の現在値の合計	232
図 53:	電源制御画面	234
図 54:	電源制御確認画面	235
図 55:	電源制御の結果画面	236
図 56:	サーバの設定画面 - サーバリスト (1) タブ	237
図 57:	サーバの設定画面 - サーバリスト (2) タブ	238
図 58:	サーバの設定画面 - 設定タブ	239
図 59:	ユーザ / パスワード一覧の作成	244
図 60:	WMI アーキテクチャ	248
図 61:	WMI プロバイダとしての ServerView エージェント	252
図 62:	WMI CIM Studio における FSCSV_ManagementController クラスの表示	285
図 63:	すべての接続テスト結果が正常ではない場合の画面例	293
図 64:	SNMP チェックが正常ではない場合の画面例	294
図 65:	ノードタイプが正常ではない場合の画面例	295
図 66:	テストトラップが正常ではない場合の画面例	296

表

表 1:	本書の表記	13
表 2:	プロパティウィンドウとタブ	45
表 3:	サーバリストメニューのメニュー項目	51
表 4:	管理者メニューのメニュー項目	51
表 5:	サーバデータ管理メニューのメニュー項目	52
表 6:	デプロイメントメニューのメニュー項目	53
表 7:	イベント管理メニューのメニュー項目	53
表 8:	サーバ監視メニューのメニュー項目	54
表 9:	アップデート管理メニューのメニュー項目	55
表 10:	ヘルプメニューのメニュー項目	56
表 11:	サーバリストウィンドウのコンテキストメニューのメニュー項目 57	
表 12:	システムステータス メニューまたは ブレードサーバステータス メ ニュー	59
表 13:	システムメニューのメニュー項目	59
表 14:	メンテナンスメニューのメニュー項目	60
表 15:	Virtualization メニューのメニュー項目	61
表 16:	Configuration メニューのメニュー項目	62
表 17:	Components メニューのメニュー項目	62
表 18:	Configuration メニューのメニュー項目	63
表 19:	Components メニューのメニュー項目	63
表 20:	Configuration メニューのメニュー項目	64
表 21:	Configuration メニューのメニュー項目	64
表 22:	RAID Controller メニューのメニュー項目	64
表 23:	Enclosure メニューのメニュー項目	65

表 24:	Storage Pools メニューのメニュー項目	65
表 25:	サーバリストウィンドウのアイコン	66
表 26:	サーバリストウィンドウのブレードサーバアイコン	67
表 27:	サーバリストウィンドウの BladeFrame アイコン	67
表 28:	サーバリストウィンドウのクラスタアイコン	68
表 29:	サーバリストウィンドウの VMware ESX サーバアイコン	68
表 30:	サーバリストウィンドウの Xen / Citrix XenServer サーバアイコン 69	
表 31:	サーバリストウィンドウの Hyper-V サーバアイコン	69
表 32:	サーバリストウィンドウの BMC/iRMC アイコン	70
表 33:	サーバリストウィンドウのストレージサブシステムアイコン	70
表 34:	サーバリストのステータスバーのアイコン	71
表 35:	サーバリストヘッダのアイコン	72
表 36:	ServerView [サーバ名] ウィンドウのアイコン	73
表 37:	デバイスビューウィンドウのアイコン	74
表 38:	バスとアダプタのアイコン	74
表 39:	アラームモニタウィンドウのアイコン	75
表 40:	クラスタオブジェクト	76
表 41:	クラスタサーバノードのステータスアイコン	77
表 42:	クラスタグループのステータスアイコン	77
表 43:	クラスタリソースのステータスアイコン	78
表 44:	クラスタネットワークのステータスアイコン	78
表 45:	クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコン	79
表 46:	その他のアイコン	80
表 47:	ソフトウェア要件	107
表 48:	ストレージサブシステムのサーバ機種	114

表 49:	ストレージサブシステムのサーバ機種	118
表 50:	識別灯 LED 表示	136
表 51:	重大なイベント	182
表 52:	識別灯 LED 表示	189
表 53:	ブレードタイプ	191
表 54:	サーバブレードまたはスイッチブレードの識別灯表示 . . .	192
表 55:	ServerView クラスのシステムプロパティ	253

索引

A

- Administrator
 - ロール 16
- Advanced Video Redirection 241
 - 起動 57
- APC 148
 - PowerNetMgr 148
- APC UPS
 - Web インタフェース 147, 149
 - Web カード 147
 - Web カードがある 148
 - 監視 148
- APC 製 UPS
 - ネットワークカード 149
- ASR&R 18, 255, 257
 - プロパティ 169
 - メニュー項目 60
- AVR 241
 - 起動 57

B

- Baseboard Management Controller 108
- BIOS セルフテスト 150
 - 結果の表示 150
- Blade Details
 - メニュー項目 63
- Blade Server View
 - メニュー項目 61
- BladeFrame
 - 設定 90
- BladeFrame Details View ウィンドウ
 - メニュー 63
- BladeFrame Server View
 - 画面 199
- BladeFrame Status
 - メニュー項目 200
- BladeFrame Virtual Blade Details
 - View ウィンドウ
 - メニュー 64
- BladeFrame サーバ

サーバリスト 89

- BMC 108
 - 電源制御 233
- BMC データ 215

C

- CAS 17
 - cBlade 199
 - Central Authentication Service 17, 32
 - CentricStor FS 105
 - ストレージサブシステム 209
 - CIMOM, CIM オブジェクトマネージャを参照
 - CIMON
 - 設定 106, 211
 - CIMv2 名前空間 252
 - CIM オブジェクトマネージャ 249, 252
 - Citrix XenServer 94
 - CMOS バッテリー
 - カウンタのリセット 165
 - Components
 - メニュー 62, 63
 - COM ポートとモデルの設定 183
 - Configuration
 - メニュー 62, 63, 64, 200, 213
 - CPU 149
 - 表示 158
 - CPU Statistics
 - メニュー項目 63
 - CSS 175
 - csv ファイルのインポート
 - オブジェクトの定義 122
 - Customer Self Service
 - メニュー項目 61
- ## D
- DB からリフレッシュ
 - メニュー項目 58
 - Deployment Manager

起動 53
統合 28
Devices
 メニュー項目 62
Disk Information
 メニュー項目 63

E
Egenera PAN Manager
 メニュー項目 62
Enclosure
 メニュー 65, 214
Environmental
 メニュー項目 65
ETERNUS 400/8000 105
ETERNUS
 DX60/80/DX90/DX400/DX8000
 ストレージサブシステム 209
ETERNUS DX60/DX80 104
ETERNUS DX60/DX80/DX90
 ユーザ/パスワード 106, 211

F
FibreCAT
 ストレージサブシステム 209
FibreCAT CX 104
FibreCAT SX 104
FibreCAT TX 105
Frame Status
 メニュー項目 62
FSCSV_ASR 255
FSCSV_ASRSetting 257
FSCSV_AssociatedCooling 258
FSCSV_AssociatedSensor 259
FSCSV_AssociatedSupplyVoltageSensor 260
FSCSV_Chassis 261
FSCSV_ComputerSystem 262
FSCSV_FailReaction 263
FSCSV_FailSetting 265
FSCSV_Fan 266
FSCSV_FRU 267
FSCSV_FRUPhysicalElements 268
FSCSV_ManagementController 26

9
FSCSV_OperatingSchedule 270
FSCSV_OperatingScheduleSetting 271
FSCSV_PowerOnOffInformation 272
FSCSV_PowerOnOffStatistics 275
FSCSV_PowerSupply 276
FSCSV_SystemEnclosure 277
FSCSV_Tachometer 279
FSCSV_TemperatureSensor 280
FSCSV_VoltageSensor 281
FSCSV_Watchdog 282

H
Host Mapping
 メニュー項目 65
Host Properties
 メニュー項目 61
Hyper-V 96

I
Installation Manager
 integration 27
 起動 53
 メニュー項目 53
integration
 Installation Manager 27
iRMC 215

L
LAN チーミング 162
LED アイコン 189
Linux システム
 Xen サーバ 94
Linux ベースの管理用サーバ 32

M
MIB インテグレータ 54
 起動 54
 メニュー項目 54
.mof ファイル 253
Monitor
 ロール 16

N

NetApp 105

ストレージサブシステム 209

O

Online Diagnostics

メニュー項目 60

Operations Manager 29

Operations Manager (Linux)

起動 32

Operator

ロール 16

Overview

メニュー 65

メニュー項目 64, 65

P

PAN Manager 90

Partitions

メニュー項目 63

pBlade 199

PCI Extension Box 138

PCS 229

PDA 18

Performance

メニュー項目 59

Physical Disk

メニュー項目 65

Port List

メニュー項目 64

Power Control Status 229

Power Input Modules

メニュー項目 62

PowerNetMgr

APC アプリケーション 148

Prefailure Detection and Analysis 18

PRIMEPOWER システム

PRIMEPOWER ServerView Suite

の起動 103

サーバリスト 103

pServer

メニュー項目 62, 63

pServer Page

メニュー項目 64

pServer Status

メニュー項目 201

R

RAID Controller

メニュー 64

RAID 構成

リンク 143

RAID コントローラ

メニュー 213

S

S.M.A.R.T. 142

S.M.A.R.T. 対応 19

sBlade 199

Self Monitoring and Reporting

Technology は、S.M.A.R.T. を参照

ServerView Configuration Manager

システム依存の機能 240

ServerView Installation Manager

integration 27

ServerView Operations Manager 29

特徴 15

ログイン 15

ServerView Operations Manager
(Windows)

起動 29, 32, 33

ServerView Storage Manager 105

ServerView Operations Manager

終了 40

32

ServerView Operations Manager
(Linux)

起動 32

ServerView ウィンドウ

メニュー 62

ServerView エージェント

(WMI) 252

ServerView クラス (WMI) 252

FSCSV_ASR 255

FSCSV_ASRSetting 257

FSCSV_AssociatedCooling 258

FSCSV_AssociatedSensor 259

FSCSV_AssociatedSupplyVoltage
Sensor 260

FSCSV_Chassis 261

FSCSV_ComputerSystem 262

FSCSV_FailReaction 263

FSCSV_FailSetting 265

FSCSV_Fan 266

FSCSV_FRU 267

FSCSV_FRUPhysicalElements
268

FSCSV_ManagementController
269

FSCSV_OperatingSchedule 270

FSCSV_OperatingScheduleSettin
g 271

FSCSV_PowerOffInformation 27
2

FSCSV_PowerOnOffStatistics 2
75

FSCSV_PowerSupply 276

FSCSV_SystemEnclosure 277

FSCSV_Tachometer 279

FSCSV_TemperatureSensor 28
0

FSCSV_VoltageSensor 281

FSCSV_Watchdog 282

説明 254

ServerView[ブレードサーバ名
] 187

SMI-S プロバイダ 210

SNMP エージェント、ステータ
ス 59

SSL 11

SSO 15, 17

Status Overview
メニュー項目 64

status(PCS) 229

Storage Volumes
メニュー項目 65

StorMan 105

SV - Storage
画面 209

SV Storage ウィンドウ
メニュー 64

System Information
メニュー項目 64

System Status メニュー 59

T

T850 138

TPM 150

Trusted Platform Module 150
情報の表示 150

U

UPS マネージャ
ボタン 147

V

vBlade 207
仮想ブレード 202
メニュー項目 62, 63

vBlade Details
メニュー項目 64

vBlade Status
メニュー項目 202

virtual machine
情報 61

Virtual Machines
メニュー項目 61

Virtual-IO Manager
統合 29
メニュー項目 51

Virtualization
仮想マシン 177

VMware 21, 92
電源制御 233

W

wbemtest.exe 252

Web インタフェース
APC UPS 149

Web カード 149
APC UPS 147

Windows Management
Instrumentation, WMI を参照

Windows ベースの管理用サーバ／パ
ソコン 32

- WMI 247
 - CIMv2 名前空間 252
 - CIM オブジェクトマネージャ (CIMOM) 249, 252
 - ServerView エージェント 252
 - ServerView クラス 252
 - ServerView クラスの説明 254
 - ServerView でのサポート 251
 - アーキテクチャ 248
 - インフラストラクチャ 249
 - システム要件 251
 - スクリプティング 283
 - セキュリティ 250
 - テストプログラム
 - wbem.exe 252
 - 名前空間 250
 - プロバイダ 250, 252
 - マネージオブジェクト 250
 - リポジトリ 249
- WMI CIM Studio 252
 - 例 285
- WMI スクリプト
 - 構造 283
 - 例 284
- WMI テストプログラム 252
- X
- XEN 94
- Xen サーバ
 - Linux システム 94
- あ
- アーカイブ出力 135, 189
- アーカイブ取得 135, 189
- アーカイブデータ 135, 188
- アーカイブの削除
 - メニュー項目 58
- アーカイブファイル
 - エクスポート 135, 189
 - 作成 135, 189
- アーカイブマネージャ
 - 起動 52
- アーカイブをインポート
 - メニュー項目 51
- アーキテクチャ
 - WMI 248
- アイコン
 - 概要 66
 - マネージメントコントローラ 111
- 新しいオブジェクトの追加 112
- 新しいオブジェクトの定義 112
 - csv ファイルのインポート 122
 - Server Browser での定義 112
 - アーカイブデータのインポート 121
- 新しいグループ
 - メニュー項目 57
- 新しいサーバ
 - メニュー項目 57
- アップデート管理
 - メニュー項目 55
- アプリケーション
 - 定義 (TCP/IP デバイス) 120
- アラーム設定
 - 起動 53
- アラームモニタ
 - 起動 53
- アラームを受領
 - メニュー項目 58
- アラーム規則
 - アラームの割り当て 182
 - 送信先の割り当て 183
- アラームの割り当て 182
- い
- 一連の測定
 - グラフ 225
 - 表 225
 - 表示 224
- イベント管理
 - メニュー 53
- イベント管理コンポーネント 53
- 今すぐアーカイブを取得
 - メニュー項目 58
- インフラストラクチャ
 - WMI 249
- インベントリマネージャ

-
- 起動 52
 - う
 - ウォッチドッグ設定
 - タブ 170
 - え
 - エージェント情報 164
 - メニュー項目 59
 - エクスポート
 - アーカイブファイル 135, 189
 - エラーカウンタ (メモリモジュール)
 - リセット 149, 150
 - お
 - オペレーティングシステム 164
 - メニュー項目 59
 - オペレータ
 - ユーザ名 16, 33, 50
 - 温度
 - サーバ温度の表示 138
 - 温度センサ
 - タブ 169
 - オンライン診断 174
 - オンラインデータ 135, 188
 - か
 - 開始
 - 検索処理 116
 - 外部記憶装置 141
 - メニュー項目 59, 141
 - カウンタのリセット
 - CMOS バッテリ 165
 - 仮想サーバ 21
 - 仮想ブレード
 - vBlade 202
 - 仮想ホスト
 - 情報 61
 - 仮想マシン 177
 - 仮想マシンメニュー 61
 - 画面
 - BladeFrame Server View 199
 - ServerView[ブレードサーバ名] 187
 - SV - Storage 209
 - サーバブラウザ 112
 - 環境 138
 - メニュー項目 59, 138
 - 監視 20
 - 監視機能 20
 - 監視者
 - ユーザ名 16, 33, 50
 - 管理コンソール 29
 - 管理者 34
 - ユーザ名 16, 33, 50, 33
 - 管理者設定
 - メニュー 51
 - 管理用サーバ/パソコン
 - Windows ベース 32
 - 管理用サーバ
 - Linux ベース 32
 - 管理用サーバ/パソコン
 - Windows ベース 32
- き
- 起動
- Operations Manager (Linux) 32
 - Advanced Video Redirection 57
 - AVR 57
 - Deployment Manager 53
 - Installation Manager 53
 - MIB インテグレータ 54
 - Operations Manager (Windows) 32, 33
 - PRIMEPOWER ServerView Suite 103
 - アーカイブマネージャ 52
 - アラーム設定 53
 - アラームモニタ 53
 - インベントリマネージャ 52
 - スレッシュホールドマネージャ 53
 - パワーモニタ 218
 - 起動オプション 171
 - メニュー項目 60
 - キャビネット詳細 136, 190
-

- く
 - クラス, ServerView クラスを参照 252
 - クラスタ
 - サーバリストでの表示 126
 - 制約 126
 - 設定の定義 126
 - 設定の表示 126
 - グラフ
 - 一連の測定 225
 - グループ
 - 定義 124
 - グループへ移動
 - メニュー項目 57
 - グループへコピー
 - メニュー項目 57
- け
 - 権限 16, 34
 - 現在のデータ 135, 188
 - 検索処理
 - 開始 116
- こ
 - 合計値
 - パワーモニタ 232
 - 更新 135, 188
 - この画面のヘルプ
 - メニュー項目 56
 - コントローラビュー 142
 - コントロールブレード 199
- さ
 - サーバ
 - 新しいサーバの定義 41, 112
 - 仮想 21
 - タブ 219, 220
 - 追加 120
 - プロパティウィンドウ 42
 - サーバが応答しない 110
 - サーバ画面を開く
 - メニュー項目 57
 - サーバ監視
 - メニュー 54
 - サーバグループ
 - 定義 124
 - サーバデータ管理
 - メニュー 52
 - サーバの再検出
 - メニュー項目 57
 - サーバの設定
 - メニュー項目 51
 - サーバのプロパティ
 - メニュー項目 57
 - サーバブラウザ 112
 - 新しいオブジェクトの定義 112
 - エラー原因 118
 - ドメインの削除 124
 - ネットワークの削除 124
 - 開く 112
 - プロパティウィンドウ 41
 - メニュー項目 51
 - サーバブレードが応答しない 110
 - サーバプロパティ 166
 - メニュー項目 60
 - サーバリスト 38, 85
 - BladeFrame サーバ 89
 - Hyper-V サーバ 96
 - PRIMEPOWER ServerView Suite の起動 103
 - PRIMEPOWER システム 103
 - VMware ESX サーバ 92, 94, 108
 - エクスポート 131
 - 拡張 120
 - 仮想サーバ 94, 96, 108
 - クラスタの表示 126
 - ストレージサブシステム 104
 - チェック 127
 - ブレードサーバ 88, 92
 - メニュー 51
 - サーバリスト更新 219
 - サーバをインポート
 - メニュー項目 51
 - サーバをエクスポート
 - メニュー項目 51
 - 再起動設定
 - タブ 169
 - 再設定

ファン 139
削除
 メニュー項目 57
削除する
 オブジェクト 124
 サーバリストのオブジェクト 124
 サブネット 124
 ドメイン 124
 ネットワーク 124
作成
 アーカイブファイル 135, 189
サブネット
 削除 124

し
時間間隔、測定データを指定する 226
識別灯 136, 190
識別灯 LED アイコン 136
識別灯機能 136, 189
システム
 エージェント情報 164
 オペレーティングシステム 164
 システム情報 164
 パーティション 164
 ファイルシステム 164
 プロセス 164
 リソース 164
システムイベントログ 165
 メニュー項目 60
システム情報 164
 メニュー項目 59
システムステータス
 環境 138
 電源 144
 ネットワークインターフェース 162
 パフォーマンス 151
 ベースボード 149
システムメニュー 59
システム要件
 WMI 251
集中管理コンソール 29

修復機能 18
終了
 Operations Manager 40
消費電力 217
 概要 224
 グラフ 224
 すべてのサーバ 232
 単一のサーバ 230
 表 224
 表示 217
 複数のサーバ 231
シングルサインオン 15, 17
診断情報収集 (PrimeCollect) 174
 メニュー項目 60

す
スイッチブレード 199
スクリプティング
 WMI 283
スタートページ 34
ストレージ 161
 データへの問い合わせ 209
ストレージ GUI
 メニュー 214
ストレージサブシステム
 CentricStor FS 105, 209
 ETERNUS 400/8000 105
 ETERNUS
 DX60/80/DX90/DX400/DX800
 0 209
 ETERNUS
 DX60/DX80/DX90 104
 FibreCAT 209
 FibreCAT CX 104
 FibreCAT SX 104
 FibreCAT TX 105
 NetApp 105, 209
 サーバリスト 104
ストレージデバイス
 特定のサーバのストレージデバイスに関する情報 141
ストレージプール
 メニュー 214
すべてアップデート, メニュー項

目 57
すべてのアラームを受領
メニュー項目 58
すべてのサーバの再検出
メニュー項目 58
スレッシュホールドマネージャ
起動 53
メニュー項目 53

せ

セキュリティ
WMI 250
セキュリティコンセプト 15
接続テスト
メニュー項目 57
設定
BladeFrame 90
CIMON 106, 211
ファン 139
メニュー項目 51, 55
設定バー 225
説明
ServerView クラス 254
選択ボックス
キャビネット詳細 136, 190

そ

送信先の割り当て 183
測定データ
記録 217
要件 217

た

対象者 10
ダウンロードマネージャ
メニュー項目 55
タブ 41, 45
BMC 46, 168
TCP アプリケーション 49
ウォッチドッグ設定 170
温度センサ 169
サーバ 219, 220
サーバのアドレス 48, 49
再起動設定 169

データ 219, 224
電源 ON/OFF 169
ネットワーク /SNMP 47
ファン 169
編集 45
ローカルノート 46
ログイン 46
単位設定
メニュー項目 52

ち

中央認証 17

つ

通信経路 245
通信方法 245

て

定義する
サーバグループ 124
データ
タブ 219, 224
データ更新 219
データベース管理システム
PostgreSQL 84
データへの問い合わせ
ストレージ 209
ブレードフレーム 199
テキストメッセージ, 使用 183
デプロイメント
メニュー 53
電圧 150
電源 144
「UPS」もご覧ください。
情報の表示 144
ボタン 144
電源 ON/OFF
タブ 169
電源制御 233
メニュー項目 57, 59
電源入力モジュール
メニュー項目 203
電源モード 229

と

問い合わせ

BMC データ 215

iRMC データ 215

統合

Deployment Manager 28

Virtual-IO Manager 29

ドメイン

削除 124

な

名前空間

WMI 250

に

認証 15, 34

中央 17

認証メカニズム 15

ね

ネットワーク 161

削除 124

ネットワークインターフェイス

メニュー項目 59

ネットワークインタフェース 162

ネットワークカード 149

の

～のヘルプ

メニュー項目 56

は

バー

設定 225

バージョン情報

メニュー項目 56

パーティション 164

メニュー項目 59

ハードディスク

特定のコントローラのハードディスクに関する情報 141

バスシステム

情報の表示 150

バスとアダプタ 150

パスワード 33

バッテリー情報 165

メニュー項目 60

メンテナンス 165

パフォーマンス 151

パフォーマンスマネージャ

メニュー項目 54

パワーモニタ 217

起動 218

メニュー項目 54

ひ

ビデオリダイレクションの開始

メニュー項目 57

表

一連の測定 225

表示データ 135, 188

ブレードフレーム 200

ふ

ファイルシステム 164

メニュー項目 59

ファン

冗長ファンの表示 139

ステータスの表示 138

設定 139

タブ 169

物理マシン情報 177

ブレードサーバ

サーバリスト 88

ブレードフレーム

アーカイブデータの表示 200

データへの問い合わせ 199

表示データ 200

ブレードリストメニュー 58

プロセス 164

メニュー項目 59

プロセッサ 158

表示 158

プロセッシングブレード 199

プロバイダ (WMI), WMI プロバイダを参照

プロパティ

システム 253

へ

- ベースボード 149
 - メニュー項目 59
- ヘルプ
 - メニュー 56

ほ

- ポケットベル, 設定の定飲 183
- ボタン
 - OK 44
 - アーカイブ出力 135, 189
 - アーカイブ取得 135, 189
 - 更新 135, 188
 - サーバリスト更新 219
 - 識別灯 136, 190
 - すべて選択 44
 - データ更新 219
 - 適用 44
 - 閉じる 44
 - ヘルプ 44
 - リセット 44
- 本書の表記 13

ま

- マニュアル構成 10
- マネージオブジェクト (WMI) 250
- マネージオブジェクト, マネージオブジェクトを参照
- マネージメントコントローラアイコン 111
- マネージメントブレード設定
 - メニュー項目 61

み

- ミュートモード無効
 - メニュー項目 58
- ミュートモード有効
 - メニュー項目 58

め

- メニュー
 - BladeFrame Details View ウィンドウ 63

BladeFrame Virtual Blade Details

- View ウィンドウ 64
 - Components 62, 63
 - Configuration 62, 63, 64, 200, 213
 - Enclosure 65, 214
 - Overview 65
 - RAID Controller 64
 - RAID コントローラ 213
 - ServerView ウィンドウ 62
 - SV Storage ウィンドウ 64
 - System Status 59
 - イベント管理 53
 - 仮想マシン 61, 177
 - 管理者設定 51
 - サーバ監視 54
 - サーバデータ管理 52
 - サーバリスト 51
 - システム 59, 164
 - システムステータス 137
 - ストレージ GUI 214
 - ストレージプール 214
 - デプロイメント 53
 - ブレードリスト 58
 - ヘルプ 56
 - メンテナンス 60, 165
- メニュー構成 50
- メニュー項目
- ASR&R 60
 - Blade Details 63
 - Blade Server View 61
 - BladeFrame Status 200
 - CPU Statistics 63
 - Customer Self Service 61
 - DB からリフレッシュ 58
 - Devices 62
 - Disk Information 63
 - Egenera PAN Manager 62
 - Environmental 65
 - Frame Status 62
 - Host Mapping 65
 - Host Properties 61
 - Installation Manager 53
 - MIB インテグレータ 54

Online Diagnostics	60	システムイベントログ	60
Overview	64, 65	システム情報	59
Partitions	63	診断情報収集 (PrimeCollect)	60
Performance	59	すべてのアラームを受領	58
Physical Disk	65	すべてのサーバの再検出	58
Port List	64	スレッシュホールドマネージャ	53
Power Input Modules	62	接続テスト	57
pServer	62, 63	設定	51, 55
pServer Page	64	ダウンロードマネージャ	55
pServer Status	201	単位設定	52
Status Overview	64	電源制御	57, 59
Storage Volumes	65	電源入力モジュール	203
System Information	64	ネットワークインターフェース	59
vBlade	62	～のヘルプ	56
vBlade Details	64	バージョン情報	56
vBlade Status	202	パーティション	59
vBlades	63	バッテリー情報	60
Virtual Machines	61	パフォーマンスマネージャ	54
Virtual-IO Manager	51	パワーモニタ	54
アーカイブの削除	58	ビデオリダイレクションの開始	57
アーカイブをインポート	51	ファイルシステム	59
新しいグループ	57	プロセス	59
新しいサーバ	57	ベースボード	59
アップデート管理	55	マネジメントブレード設定	61
アラームを受領	58	ミュートモード無効	58
今すぐアーカイブを取得	58	ミュートモード有効	58
エージェント情報	59	目次	56
オペレーティングシステム	59	ユーザ / パスワード	52
外部記憶装置	59	リソース	59
環境	59	リネーム	57
起動オプション	60	リポジトリマネージャ	55
基本設定ウィザード	52	リモートマネジメント	60
グループへ移動	57	リンク	56
グループへコピー	57	すべてアップデート	57
この画面のヘルプ	56	メモリ	160
サーバ画面を開く	57	メモリモジュール	149
サーバの再検出	57	エラーカウンタのリセット	149, 150
サーバの設定	51	表示	149
サーバのプロパティ	57	メンテナンス	
サーバブラウザ	51	CSS	175
サーバプロパティ	60		
サーバをインポート	51		
サーバをエクスポート	51		
削除	57		

オンライン診断 174
起動オプション 171
サーバプロパティ 166
システムイベントログ 165
診断情報収集 (PrimeCollect) 174
リモートマネジメント 171
メンテナンスメニュー 60

も

目次

メニュー項目 56

ゆ

ユーザ / パスワード

ETERNUS

DX60/DX80/DX90 106, 211

メニュー項目 52

ユーザ ID 15

ユーザ管理

ロールベース 16

ユーザコンセプト 15

ユーザ名 33

オペレータ 16, 33, 50

監視者 16, 33, 50

管理者 16, 33, 50

ユーザロール 16

ユーザ名

管理者 50

り

リセット

エラーカウンタ 149, 150

リソース 164

メニュー項目 59

リネーム

メニュー項目 57

リポジトリ

WMI 249

リポジトリマネージャ

メニュー項目 55

リモートマネジメント 171

メニュー項目 60

50

リンク

ログアウト 38, 40

ログイン 38

メニュー項目 56

ろ

ServerView Operations Manager

終了ログアウト 40

ログアウト 38

ログイン 38

ServerView Operations
Manager 15

ログインウィンドウ 32

ロール 16, 34

Administrator 16

Monitor 16

Operator 16

ロールベースのユーザ管理 16

旧版からの変更点 11

